

**市民の生活状況に関する調査
(ひきこもりに関する実態調査)
報告書**

**令和4年3月
立川市**

目次

I	調査の概要	1
1.	調査目的	1
2.	調査項目	1
3.	調査対象	1
4.	調査時期	2
5.	調査方法	2
6.	調査実施機関	2
7.	標本抽出方法	2
8.	回収結果	2
9.	本報告書を読む際の留意点	3
10.	対象者の属性	4
II	定義	7
1.	広義のひきこもり群	7
2.	過去に広義のひきこもり群であったと思われる人の群	10
3.	回答者の家族における広義のひきこもり群	11
III	調査の結果	13
1	性別	13
2	年齢	14
3	同居者	15
4	同居人数	17
5	主生計者	18
6	暮らし向き	19
7	通院・入院経験のある病気やけが	20
8	通学状況	22
9	卒業・在学中の学校	23
10	これまでの経験	24
11	現在の就労・就学等の状況	26
12	働いた経験	28
13	就職または進学希望	30
14	就職活動	31
15	ふだん自宅でよくしていること	32

16	通信手段でふだん利用しているもの	34
17	ふだんの外出頻度	36
18	ひきこもりの状態になってからの期間	38
19	初めてひきこもりの状態になった年齢	40
20	ひきこもりの状態になったきっかけ	42
21	家族以外との会話の状況	44
22	ひきこもりの状態について関係機関に相談したいか	45
23	ひきこもりの状態をどのような機関なら相談したいか	46
24	相談したくない理由	48
25	関係機関に相談した経験	50
26	相談した機関	51
27	相談した結果	52
28	過去の外出頻度	53
29	過去にひきこもりの状態だった期間	54
30	過去に初めてひきこもりの状態になった年齢	56
31	過去にひきこもりの状態になったきっかけ	58
32	ひきこもりの状態ではなくなったきっかけや役立ったこと	60
33	自身にあてはまること	63
34	家族の状況	75
35	悩みを誰かに相談したいか	76
36	悩みを相談する相手	77
37	支援のあり方についての意見	79
38	現在や将来の不安	102
39	家族のふだんの外出頻度	123
40	家族の続柄	124
41	家族の性別	124
42	家族の年齢	125
43	家族がひきこもりの状態になってからの期間	126
44	家族が初めてひきこもりの状態になった年齢	127
45	家族がひきこもりの状態になったきっかけ	128
46	家族の通院・入院経験のある病気やけが	129
47	家族の通学状況	130
48	家族の卒業・在学中の学校	130
49	家族のこれまでの経験	131
50	家族がふだん自宅をよくしていること	132

51	家族のひきこもりの状態について関係機関に相談したいか	133
52	家族のひきこもりの状態をどのような機関なら相談したいか	134
53	家族について関係機関に相談した経験	135
54	家族について相談した機関	135
55	家族について相談した結果	136
IV	調査票	137

I 調査の概要

1. 調査目的

立川市におけるひきこもり支援は、その属性等により子ども、生活困窮、障害、高齢・介護など、それぞれの行政分野において対応を進めており、全体としての実態把握は行われていなかった。ひきこもりの長期化や高齢化に留まらず、それが家族関係にも影響をあたえるなど複雑化、複合化する課題に対応するため、本調査では、就職氷河期世代を含む市内在住の満15歳から64歳までの方を対象に暮らしぶり、就労状況、ふだんの活動、外出の頻度等について調査し、生活状況やひきこもりの状況について把握することで、生きづらさを抱える様々な方に社会参加や就労などの必要な支援が届くための施策を検討するための基礎データを得ることを目的に実施した。

2. 調査項目

- (1) 基本的属性について (Q1～Q7)
- (2) 学校生活に関すること (Q8～Q9)
- (3) これまでの経験 (Q10)
- (4) 就労・就学等に関すること (Q11～Q14)
- (5) ふだんの活動に関すること (Q15～Q16)
- (6) ひきこもりの状態に関すること (Q17～Q21)
- (7) 相談機関に関すること (Q22～Q27)
- (8) ひきこもりの状態からの立ち直りに関すること (Q28～Q32)
- (9) 自分についてあてはまること (Q33～Q34)
- (10) 悩み事の相談に関すること (Q35～36)
- (11) 支援のあり方についての意見 (Q37)
- (12) 現在や将来の不安 (Q38)
- (13) 家族の外出状況に関すること (Q39)
- (14) 家族の基本的属性について (Q40～Q42)
- (15) 家族のひきこもりの状態に関すること (Q43～Q46)
- (16) 家族の学校生活に関すること (Q47～Q48)
- (17) 家族のこれまでの経験 (Q49)
- (18) 家族のふだんの活動に関すること (Q50)
- (19) 家族について相談する機関に関すること (Q51～Q52)

3. 調査対象

- (1) 調査対象者：満15歳から64歳の立川市民
- (2) 標本数：3,000人
(内訳) 満15歳から39歳：1,500人
満40歳から64歳：1,500人

I 調査の概要

4. 調査時期

令和3年12月3日～12月15日

5. 調査方法

郵送送付、郵送方式とインターネット方式の併用回収

※調査期間中に1回、対象者全員に礼状兼協力依頼のはがきを送付した。

6. 調査実施機関

株式会社CCNグループ

7. 標本抽出方法

立川市住民基本台帳より無作為抽出

8. 回収結果

(1) 有効回収数(率) 1,261人 (42.0%)

(内訳) 郵送回答 : 781人 (有効回収数中61.9%)

インターネット回答 : 480人 (38.1%)

(2) 性年代別回収数(率)

男性				女性				その他		性別無回答	
年齢	標本数	回収数	回収率	年齢	標本数	回収数	回収率	年齢	回収数	年齢	回収数
15～19	116	41	35.3%	15～19	104	30	28.8%	15～19	1	15～19	1
20～29	304	68	22.4%	20～29	313	94	30.0%	20～29	1	20～29	3
30～39	359	119	33.1%	30～39	304	152	50.0%	30～39	1	30～39	0
40～49	349	120	34.4%	40～49	326	172	52.8%	40～49	3	40～49	5
50～59	320	140	43.8%	50～59	324	192	59.3%	50～59	3	50～59	0
60～64	93	41	44.1%	60～64	87	60	69.0%	60～64	1	60～64	3
不明	-	0	-	不明	-	1	-	不明	2	不明	7
計	1,541	529	34.3%	計	1,458	701	48.1%	計	12	計	19

9. 本報告書を読む際の留意点

- (1) 図表中の「n」は各設問の回答者数であり、100%が何人の回答に相当するかを示す、比率算出の基数である。
- (2) 標本誤差は回答者数（n）と得られた結果の比率によって異なるが、単純無作為抽出を仮定した場合の誤差（95%は信頼できる誤差の範囲）は下表のとおりである。

各回答の 比率 回答者数 (n)	10%または 90%程度	20%または 80%程度	30%または 70%程度	40%または 60%程度	50%程度
1,500	± 1.5%	± 2.0%	± 2.3%	± 2.5%	± 2.5%
1,000	± 1.9%	± 2.5%	± 2.8%	± 3.0%	± 3.1%
500	± 2.6%	± 3.5%	± 4.0%	± 4.3%	± 4.4%
100	± 5.9%	± 7.8%	± 9.0%	± 9.6%	± 9.8%
30	±10.7%	±14.3%	±16.4%	±17.5%	±17.9%

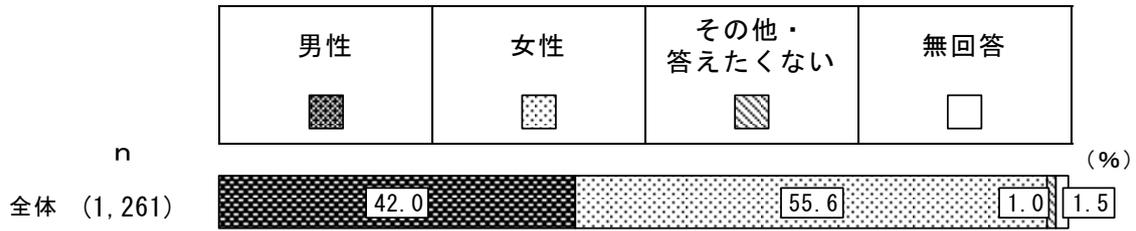
なお、誤差には回答者の誤解などによる計算不能な非標本誤差もある。

- (3) 調査結果の比率（%）は、小数点第2位を四捨五入して算出した。したがって、すべての比率を合計しても100.0%にならないことがある。
- (4) 統計表等に用いた符号は次のとおりである。
- 0.0 : 回答者がいないもの
 - : 内閣府調査（後述）との比較において、本調査または内閣府調査では選択肢が存在しない項目
 - M.T. : Multiple total（複数合計）の略で、複数回答設問における回答数の合計を回答者数（n）で割った比率であり、その値は100.0%を超えることがある。
- (5) 設問によっては、選択肢ごとに点数（かっこ書きの数字で表記）をつけ、平均点を算出しているものがある。
- (6) 設問によっては、複数の選択肢をまとめて割合を算出しているものがある。その際、各選択肢を答えた人数の合計を回答者数（n）で割った上で小数点第2位を四捨五入して算出した。したがって、図表に表示されている各選択肢の比率（%）の合計とは一致していない場合がある。
- (7) 項目の選択肢の文章が長い場合、図表上では文言の一部を省略している場合がある。
- (8) Q1～Q36においては、平成30年度に内閣府が実施した「生活状況に関する調査」（以下、「内閣府調査」）の回答結果との比較を行っている。内閣府調査の対象は40～64歳であるため、比較に当たっては立川市の回答者のうち40～64歳に限定して算出した比率（%）を用いている。

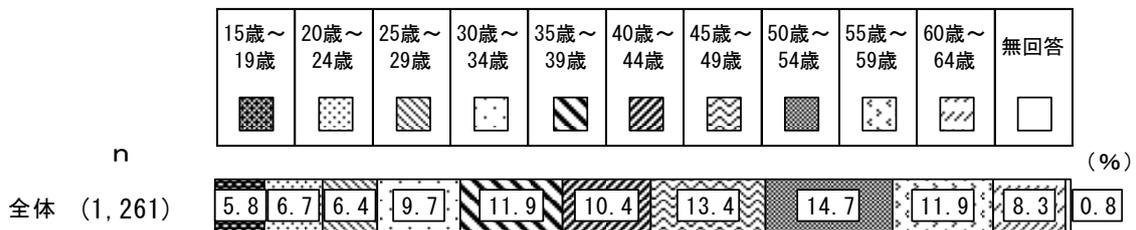
I 調査の概要

10. 対象者の属性

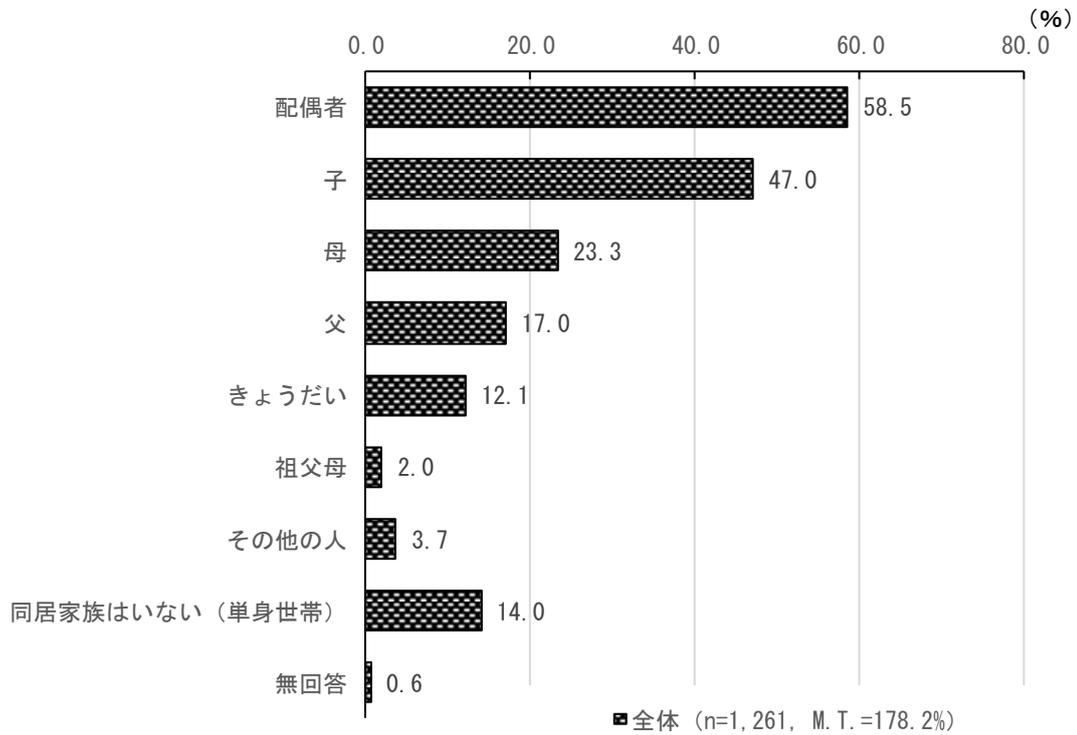
(1) 性別



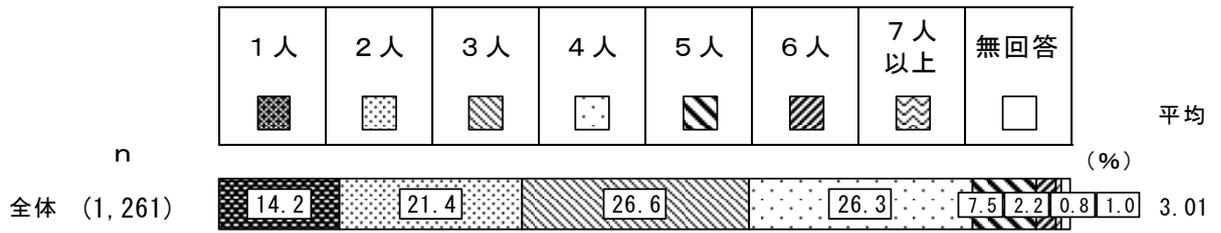
(2) 年齢



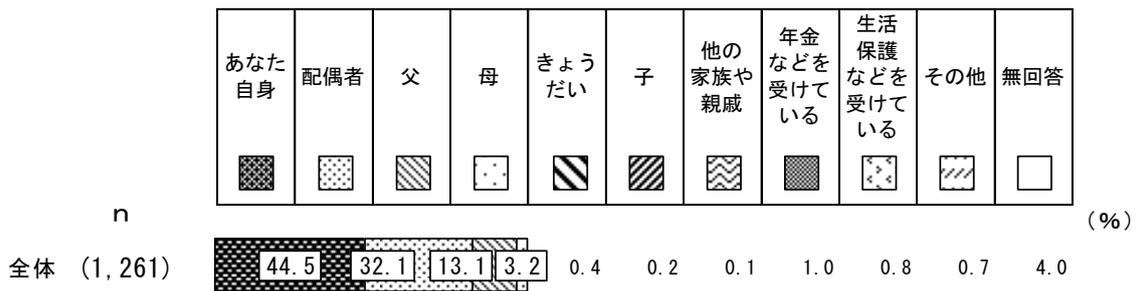
(3) 同居者



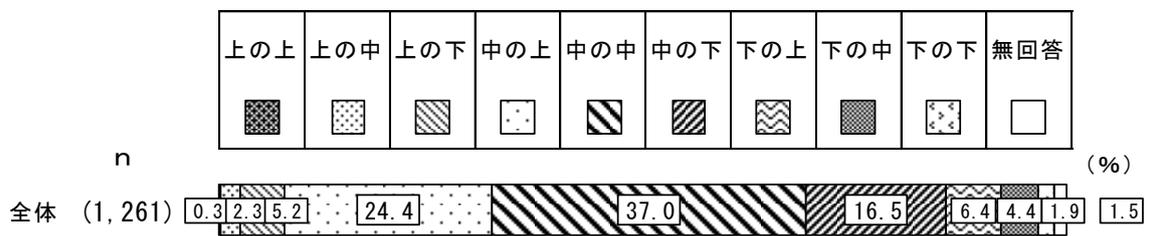
(4) 同居人数



(5) 主生計者

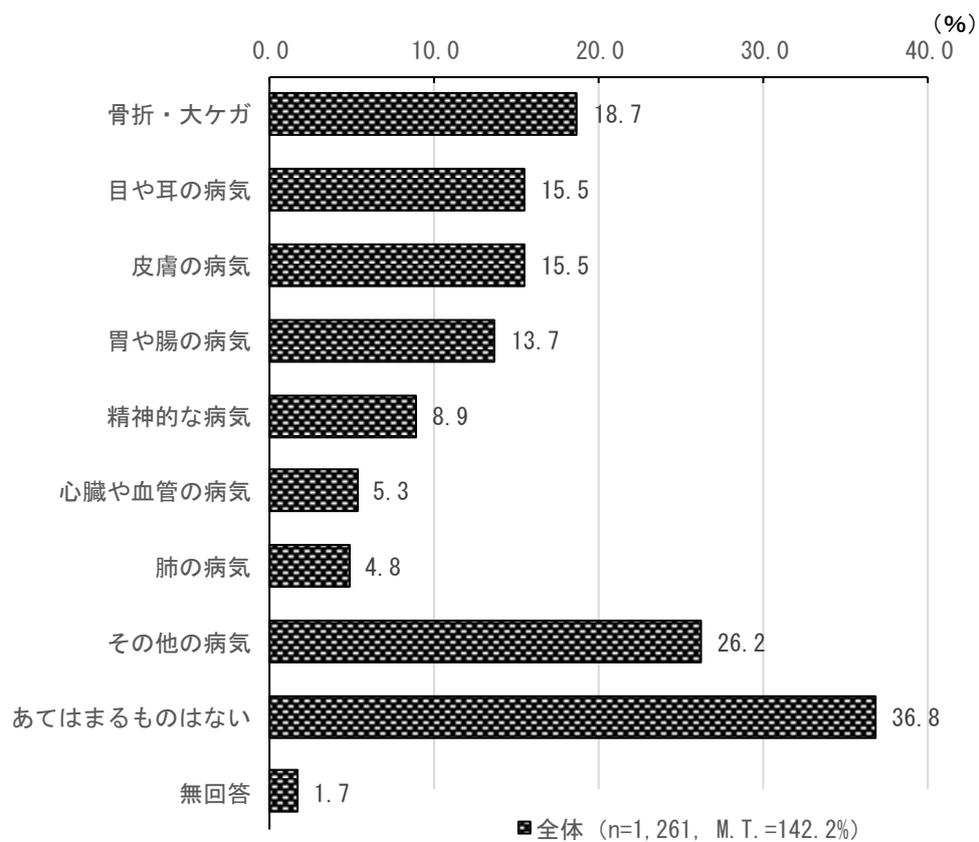


(6) 暮らし向き



I 調査の概要

(7) 通院・入院経験のある病気やけが



II 定義

1. 広義のひきこもり群

平成30年度に内閣府が実施した「生活状況に関する調査」の定義を基に、今回の調査では、以下のよう

- 「Q17 あなたは、ふだんのくらい外出しますか。」について、下記の5～8に当てはまる者
- 5 ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事するときだけ外出する
 - 6 ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
 - 7 自室からは出るが、家からは出ない
 - 8 自室からほとんど出ない

かつ、

「Q18 現在の状態となってどのくらい経ちますか。」について、6か月以上と回答した者

であって、次の3類型のいずれにも該当しない者。

類型①：身体的病気を有する

「Q20 あなたが現在の状態になったきっかけは何ですか。」で、「9 病気（病名：）」を選択し、身体的病気の病名を記入した者（※注1）

類型②：妊娠・出産・育児、または家事・介護・看護をしており、家族以外の人とも会話している

- A 「Q20 あなたが現在の状態になったきっかけは何ですか。」で、
- ① 「10 妊娠したこと」を選択した者
 - ② 「12 介護・看護を担うことになったこと」を選択した者
 - ③ 「15 その他（具体的に：）」を選択し、カッコ内に出産・育児をしている旨を記入した者
- B 「Q11 あなたの現在の就労・就学等の状況についてお答えください。」で、
- 「6 専業主婦・主夫」または「7 家事手伝い」と回答した者
- C 「Q15 あなたがふだんご自宅にいるときに、よくしていることすべてに○をつけてください。」で、
- 「9 家事をする」、「10 育児をする」または「11 介護・看護をする」と回答した者

上記ABCのいずれかに該当し、かつ、

「Q21 最近6か月間に家族以外の人と会話しましたか。」で、

「1 よく会話した」または「2 ときどき会話した」を選択した者

II 定義

類型③：仕事をしている

「Q20 あなたが現在の状態になったきっかけは何ですか。」で、 「15 その他（具体的に：）」を選択し、カッコ内に自宅で仕事をしている旨を記入した者 (※注2)
「Q11 あなたの現在の就労・就学等の状況についてお答えください。」で、 「1 勤めている（正社員）」「2 勤めている（契約社員、派遣社員又はパート・アルバイト）」 または「3 自営業・自由業」と回答した者
または
「Q15 あなたがふだんご自宅にいるときに、よくしていることすべてに○をつけて ください。」で、「8 仕事をする」と回答した者

(※注3)

該当者数は19人であった（有効回収数に占める割合：1.51%）。

このうち、「Q17 あなたは、ふだんどのくらい外出しますか。」で「6 ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「7 自室からは出るが、家からは出ない」または「8 自室からほとんど出ない」に該当する者を「狭義のひきこもり」、Q17で「5 ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」に該当する者を「準ひきこもり」とし、「狭義のひきこもり」と「準ひきこもり」の合計を「広義のひきこもり」とする。

なお、家族以外の人との会話の状況等を考慮し、ひきこもりに該当するかどうかを判断することとした「Q11 あなたの現在の就労・就学等の状況についてお答えください。」「Q15 あなたがふだんご自宅にいるときに、よくしていることすべてに○をつけてください。」「Q20 あなたが現在の状態になったきっかけは何ですか。」で、「専業主婦・主夫」「家事手伝い」、「家事をする」「育児をする」等を記入した者での広義のひきこもり群該当者は、19人中8人であった。

(※注1)「Q20 あなたが現在の状態になったきっかけは何ですか。」で、「15 その他（具体的に：）」を選択し、外出が困難となる身体的理由を記入した者等についても、「9 病気（病名：）」を選択し、身体的病気の病名を記入した者と同様に判断した。

(※注2) 新型コロナウイルス感染症（コロナ禍）により在宅勤務になった旨を記入した者を含む。

(※注3) 広義のひきこもり群の者の中には、上記類型③の該当者も含まれているが、回答状況や自由記述等の内容をふまえて判断した。

立川市住民基本台帳人口（令和3年12月1日現在）によれば、立川市の15～64歳人口は117,586人であるため、広義のひきこもりの推計数は以下の計算より約1,776人となる。

有効回収数に占める割合（該当人数19人／有効回収数1,261人）×117,586人＝推計数（人）

	該当人数 (人)	有効回収数に 占める割合 (%)	推計数 (人)	
ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する	6	0.48	564	準ひきこもり 564人
ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	10	0.79	929	狭義のひきこもり 1,211人
自室からは出るが、家からは出ない	1	0.08	94	
自室からほとんど出ない	2	0.16	188	
総計	19	1.51	1,776	広義のひきこもり 1,776人

（※注4）

（※注4） 該当人数以外の表の数値については四捨五入している。そのため、「準ひきこもり」と「狭義のひきこもり」の推計数の合計と「広義のひきこもり」の推計数とは一致しない。また、広義のひきこもりの出現率の標本誤差は±0.67%（信頼度95%）であった。

II 定義

2. 過去に広義のひきこもり群であったと思われる人の群

今回の調査では、以下のように定義する。

「Q28 あなたは、過去に6か月以上連続して、以下のような状態になったことはありますか。」について、下記の1～4に当てはまる者

- 1 ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する
- 2 ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
- 3 自室からは出るが、家からは出ない
- 4 自室からほとんど出ない

であって、

「Q31 あなたがその状態になったきっかけは何でしたか。」で、「9 病気（病名：）」を選択してカッコ内に身体的病気の病名を記入した者及び「15 その他（具体的に：）」を選択してカッコ内に自宅で仕事をしている旨を記入した者（※注5）

を除いた者。

該当者数は81人であった。（※注6）

（※注5）「Q31 あなたがその状態になったきっかけは何でしたか。」で、「15 その他（具体的に：）」を選択し、外出が困難となる身体的理由を記入した者等についても、「9 病気（病名：）」を選択して身体的病気の病名を記入した者と同様に判断した。また、新型コロナウイルス感染症（コロナ禍）により在宅勤務になった旨を記入した者も含む。

（※注6）平成30年度に内閣府が実施した「生活状況に関する調査」では、「あなたは今までに6か月以上連続して、以下のような状態になったことはありますか。」に「趣味の用事の時だけ外出する」と回答し、かつ、対象者の同居者に尋ねた「調査対象者の方は今までに6か月以上連続して、以下のような状態になったことはありますか。」という質問に、「1～4のような状態（※注7）に6か月以上連続してなったことはない」と回答したものを除いて過去に広義のひきこもり群であったと思われる人の群を定義している。本調査においては同居者票がないため該当者の人数の見方については注意が必要である。

（※注7）「1～4のような状態」とは以下のとおり。

1. 趣味の用事の時だけ外出する
2. 近所のコンビニなどには出かける
3. 自室からは出るが、家からは出ない
4. 自室からほとんど出ない

3. 回答者の家族における広義のひきこもり群

今回の調査では、以下のように定義する。

「Q39 同居するご家族等についてお聞きします。その方は、ふだんどのくらい外出しますか。」について、下記の5～8に当てはまる者

- 5 ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する
- 6 ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
- 7 自室からは出るが、家からは出ない
- 8 自室からほとんど出ない

かつ、

「Q43 その方が現在の状態となってどのくらい経ちますか。」について、6か月以上と回答した者

であって、次の3種類のいずれにも該当しない者。

類型①：身体的病気を有する

「Q45 その方が現在の状態になったきっかけは何ですか。」で、「9 病気（病名：）」を選択し、身体的病気の病名を記入した者（※注8）

類型②：妊娠・出産・育児、または家事・介護・看護をしている

「Q45 その方が現在の状態になったきっかけは何ですか。」で、

- ① 「10 妊娠したこと」を選択した者
- ② 「12 介護・看護を担うことになったこと」を選択した者
- ③ 「15 その他（具体的に：）」を選択し、カッコ内に出産・育児をしている旨を記入した者

または

「Q50 その方がふだんご自宅にいるときに、よくしていることすべてに○をつけてください。」で、「9 家事をする」、「10 育児をする」または「11 介護・看護をする」と回答した者

II 定義

類型③：仕事をしている

「Q45 その方が現在の状態になったきっかけは何ですか。」で、 「15 その他（具体的に：）」を選択し、カッコ内に自宅で仕事をしている旨を記入した者 (※注9)
または
「Q50 その方がふだんご自宅にいるときに、よくしていることすべてに○をつけて ください。」で、「8 仕事をする」と回答した者

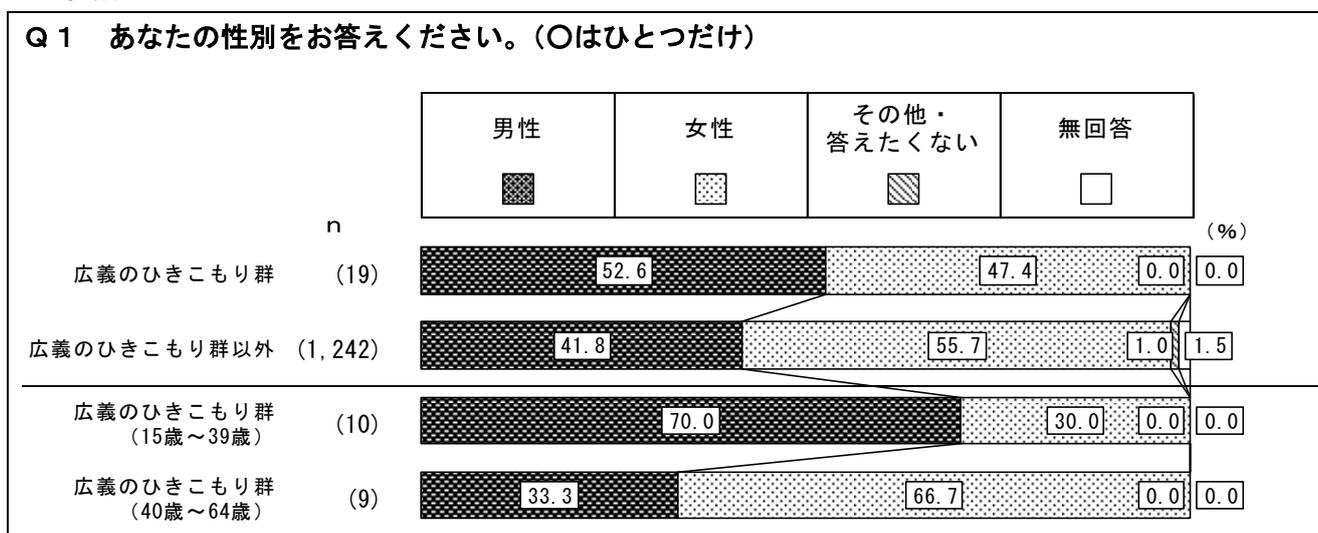
該当者の人数は21人であった。

(※注8)「Q45 その方が現在の状態になったきっかけは何ですか。」で、「15 その他（具体的に：）」を選択し、外出が困難となる身体的理由を記入した者等についても、「9 病気（病名：）」を選択し、身体的病気の病名を記入した者と同様に判断した。

(※注9) 新型コロナウイルス感染症（コロナ禍）により在宅勤務になった旨を記入した者を含む。

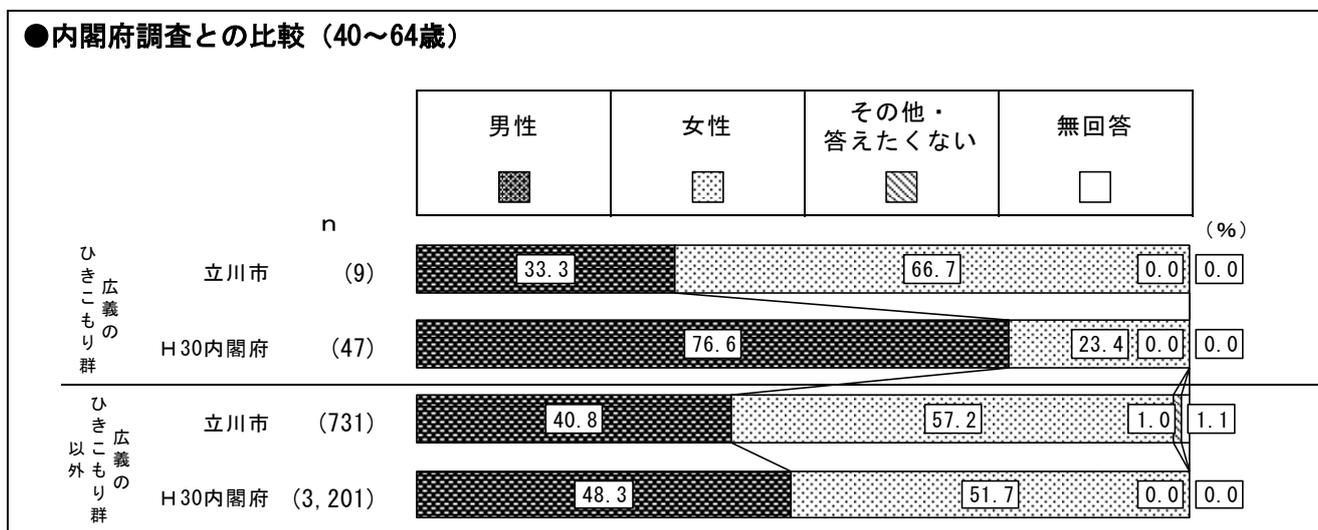
Ⅲ 調査の結果

1 性別



性別について、広義のひきこもり群では「男性」が52.6%で「女性」が47.4%と男性の方が高くなっているのに対して、広義のひきこもり群以外では「男性」が41.8%で「女性」が55.7%と女性の方が高くなっている。

また、広義のひきこもり群について年齢区分別にみると、「15歳～39歳」では「男性」が70.0%と女性よりも高くなっているのに対して、「40歳～64歳」では「女性」が66.7%と男性よりも高くなっている。

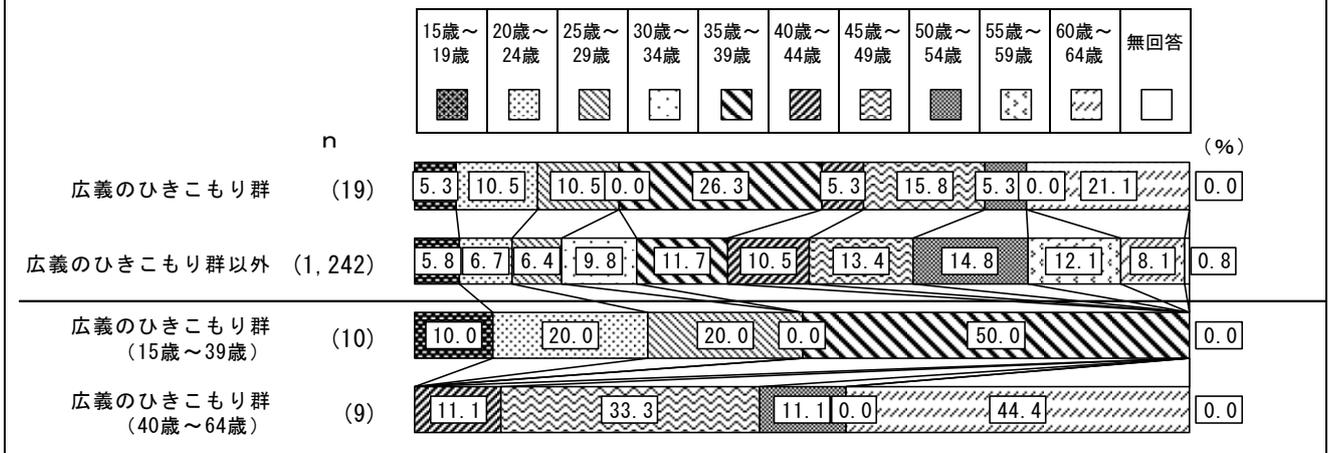


内閣府調査と比較すると、広義のひきこもり群において、内閣府調査では男性の方が女性よりも顕著に高い割合となっているのに対して、立川市では女性の方が高い割合となっている。

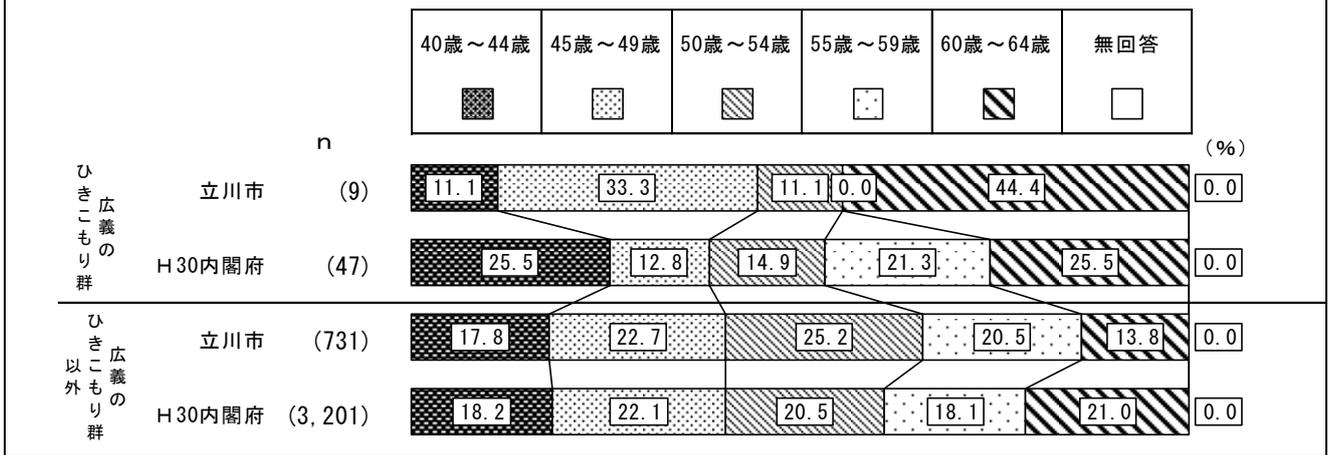
Ⅲ 調査の結果

2 年齢

Q2 あなたの年齢をお答えください。(〇はひとつだけ)

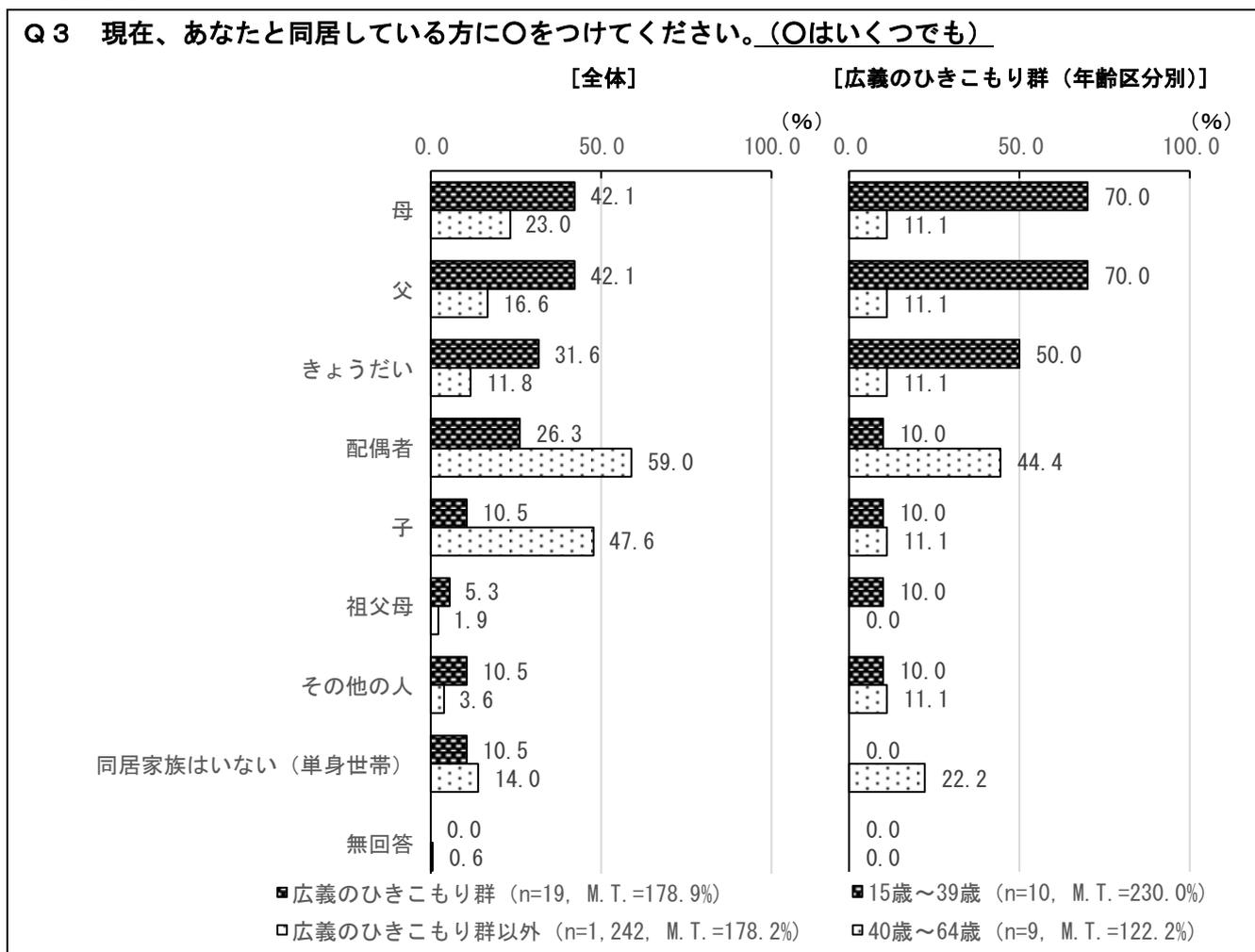


●内閣府調査との比較 (40～64歳)



内閣府調査と比較すると、広義のひきこもり群において、立川市では「45～49歳」「60～64歳」が内閣府調査よりも高い割合となっている。

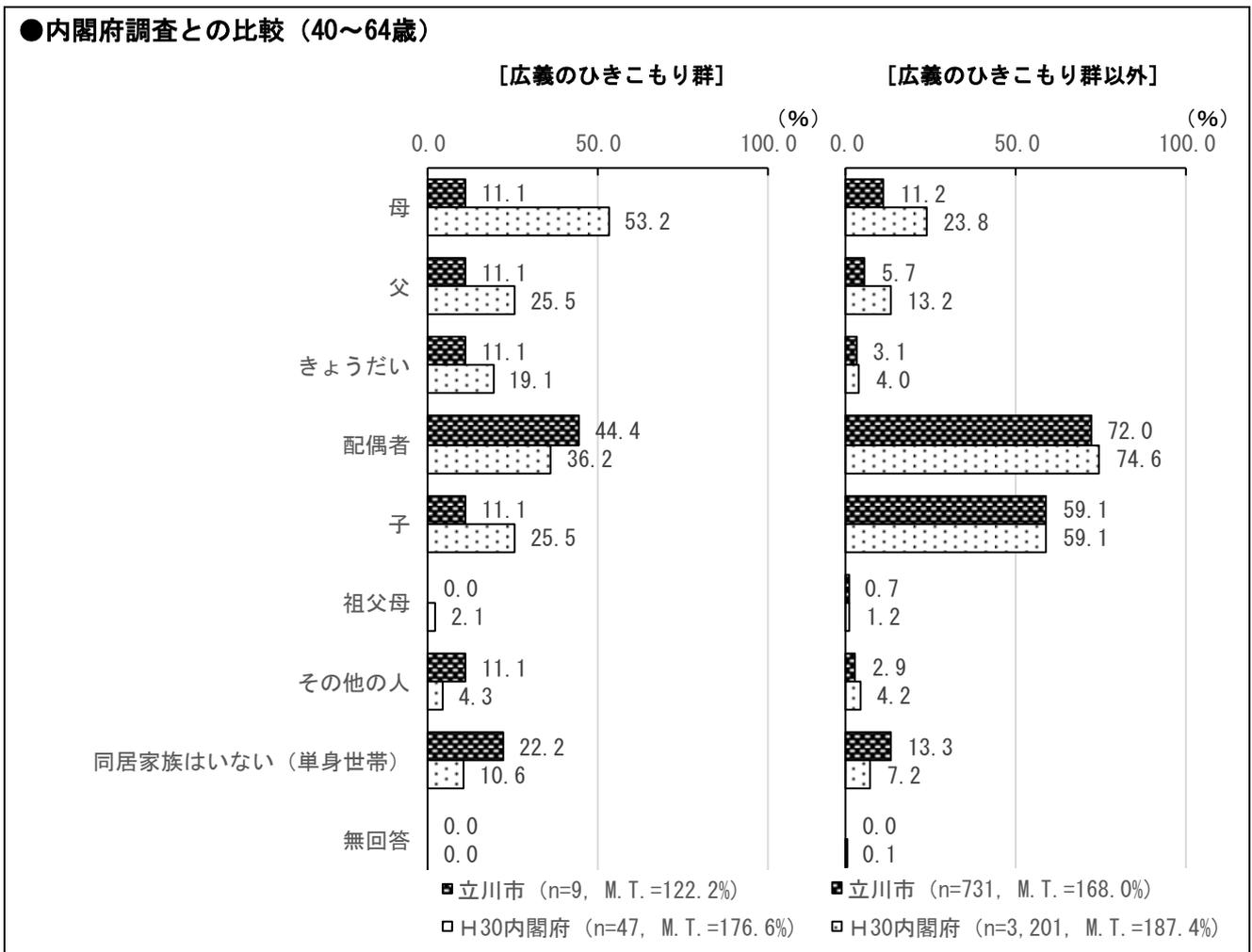
3 同居者



同居者について、広義のひきこもり群では「母」「父」（ともに42.1%）、「きょうだい」（31.6%）、「配偶者」（26.3%）の順になっているのに対して、広義のひきこもり群以外では「配偶者」（59.0%）、「子」（47.6%）、「母」（23.0%）、「父」（16.6%）の順になっている。

また、広義のひきこもり群について年齢区別にみると、「15歳~39歳」では「母」「父」（ともに70.0%）、「きょうだい」（50.0%）の順になっているのに対して、「40歳~64歳」では「配偶者」（44.4%）、「同居家族はいない（単身世帯）」（22.2%）の順になっている。

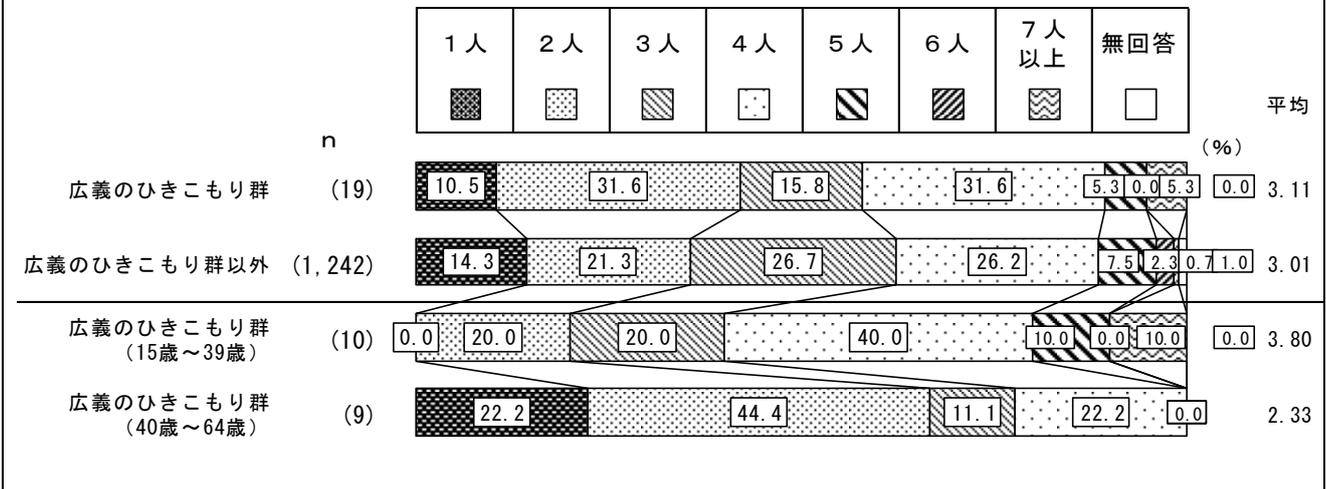
Ⅲ 調査の結果



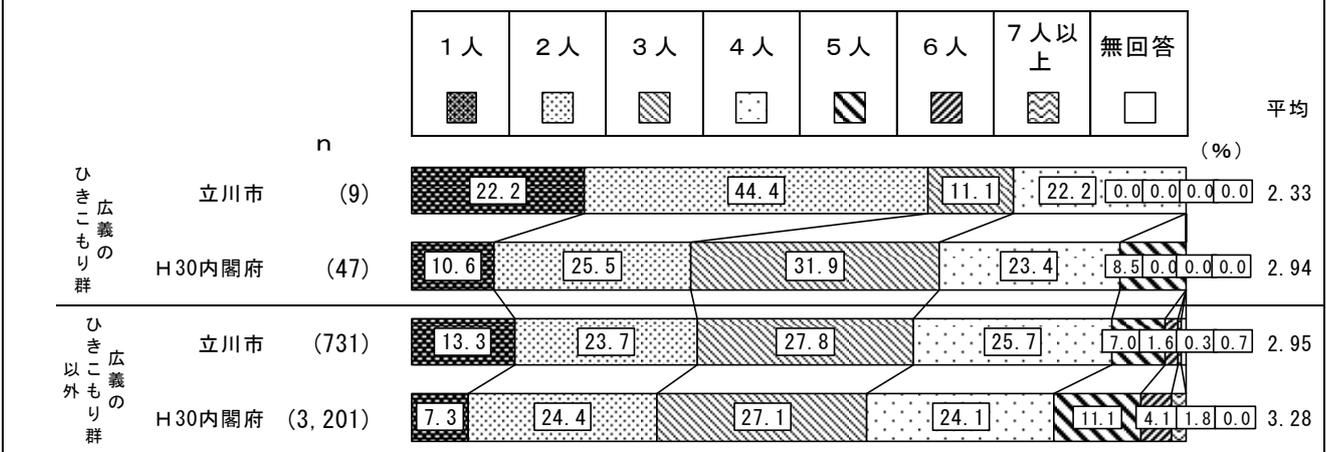
内閣府調査と比較すると、広義のひきこもり群において、立川市では「配偶者」「その他の人」「同居家族はいない（単身世帯）」が内閣府調査よりも高く、「母」「父」「きょうだい」「子」「祖父母」が内閣府調査よりも低い割合となっている。

4 同居人数

Q4 現在、同居している人は合計で何人ですか。あなたも含めた人数を記入してください。
 (数字で具体的に、Q3で「8 同居家族はない(単身世帯)」と回答した場合は「1人」と記入してください。)



●内閣府調査との比較 (40~64歳)

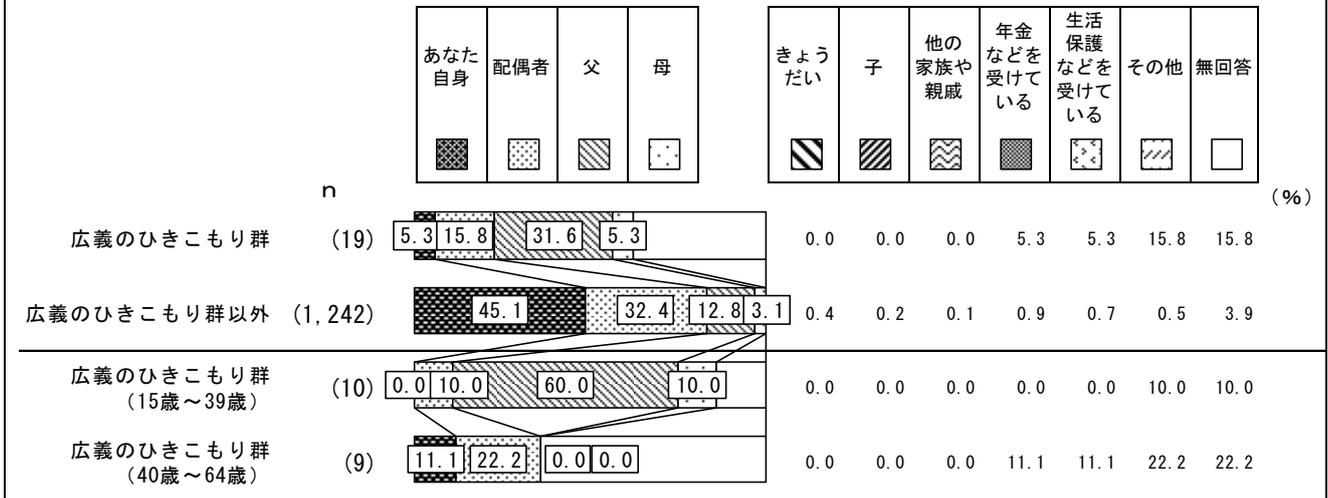


内閣府調査と比較すると、平均同居人数について、広義のひきこもり群と広義のひきこもり群以外のどちらの群においても、内閣府調査の方が多くなっている。

Ⅲ 調査の結果

5 主生計者

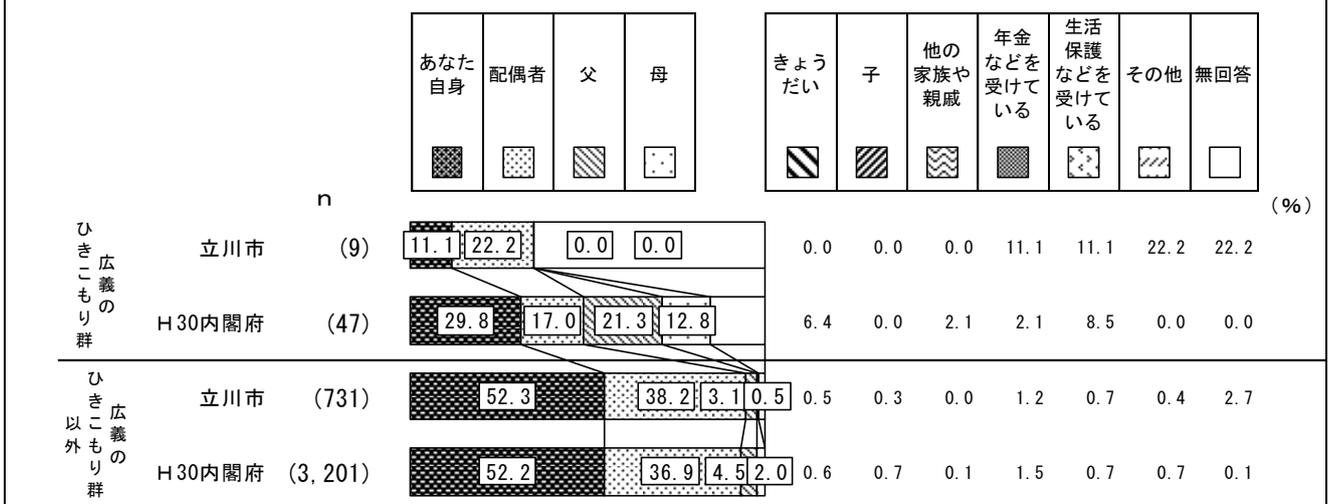
Q5 あなたの家の生計を立てているのは、主にどなたですか。生計を立てている方が複数いる場合は、もっとも多く家計を負担している人をお答えください。また、主に仕送りで生計を立てている方は、その仕送りを主にしてくれている人をお答えください。(〇はひとつだけ)



主生計者について、「その他」と無回答を除くと、広義のひきこもり群では「父」(31.6%)、「配偶者」(15.8%)、「あなた自身」「母」「年金などを受けている」「生活保護などを受けている」(すべて5.3%)の順になっているのに対して、広義のひきこもり群以外では「あなた自身」(45.1%)、「配偶者」(32.4%)、「父」(12.8%)の順になっている。

また、広義のひきこもり群について年齢区分別にみると、「15歳～39歳」では「父」(60.0%)、「母」「配偶者」(ともに10.0%)の順になっているのに対して、「40歳～64歳」では「配偶者」(22.2%)、「あなた自身」「年金などを受けている」「生活保護などを受けている」(すべて11.1%)の順になっている。

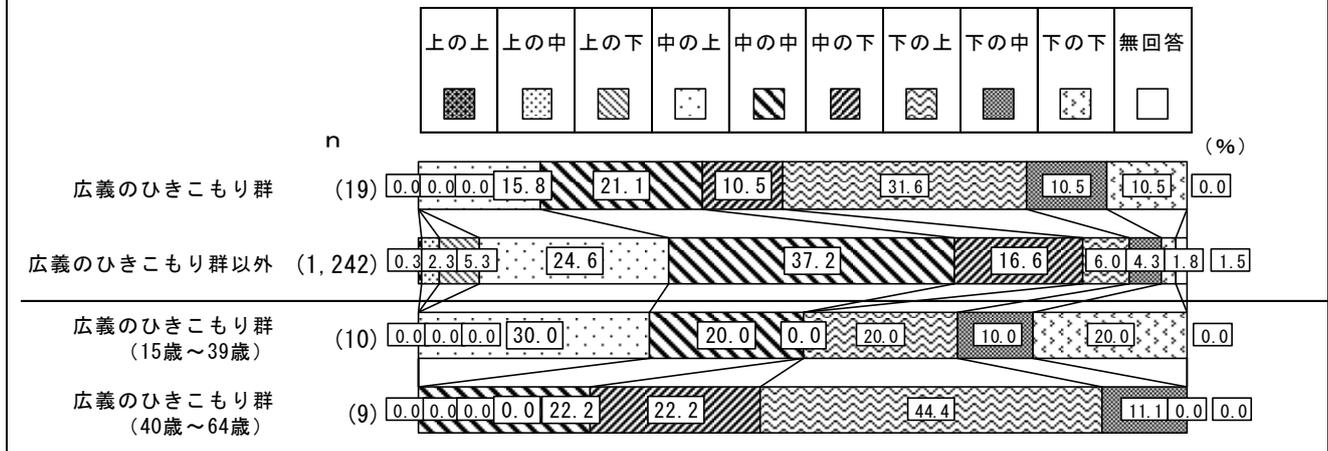
●内閣府調査との比較 (40～64歳)



内閣府調査と比較すると、広義のひきこもり群において、「あなた自身」「父」「母」「きょうだい」「他の家族や親戚」は内閣府調査の方が、「配偶者」「年金などを受けている」「生活保護などを受けている」は立川市の方が、それぞれ高い割合となっている。

6 暮らし向き

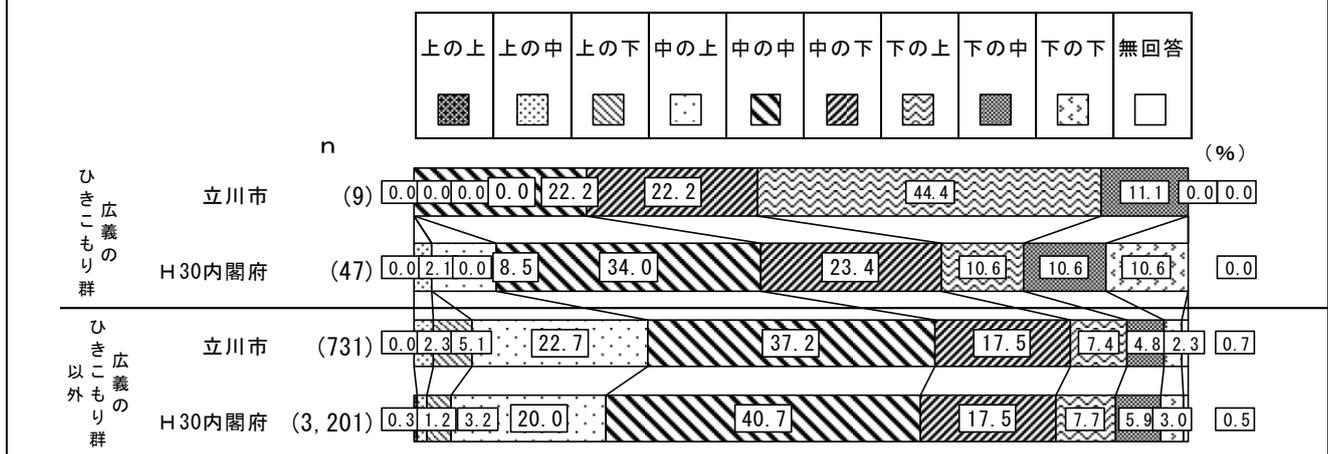
Q6 あなたの家の暮らし向き（衣・食・住・レジャーなどの物質的な生活水準）は、世間一般と比べてみて、上の上から下の下までのどれにあたると思われますか。あなたの実感でお答えください。
 （○はひとつだけ）



暮らし向きについて、『中』（「中の上」＋「中の中」＋「中の下」）は広義のひきこもり群が47.4%で広義のひきこもり群以外が78.3%と30.9ポイントの差があり、『下』（「下の上」＋「下の中」＋「下の下」）は広義のひきこもり群が52.6%で広義のひきこもり群以外が12.2%と40.4ポイントの差がある。

また、広義のひきこもり群について年齢区別にみると、「15歳～39歳」では『中』『下』がともに50.0%であるのに対して、「40歳～64歳」では『中』が44.4%で『下』が55.6%となっている。

●内閣府調査との比較（40～64歳）

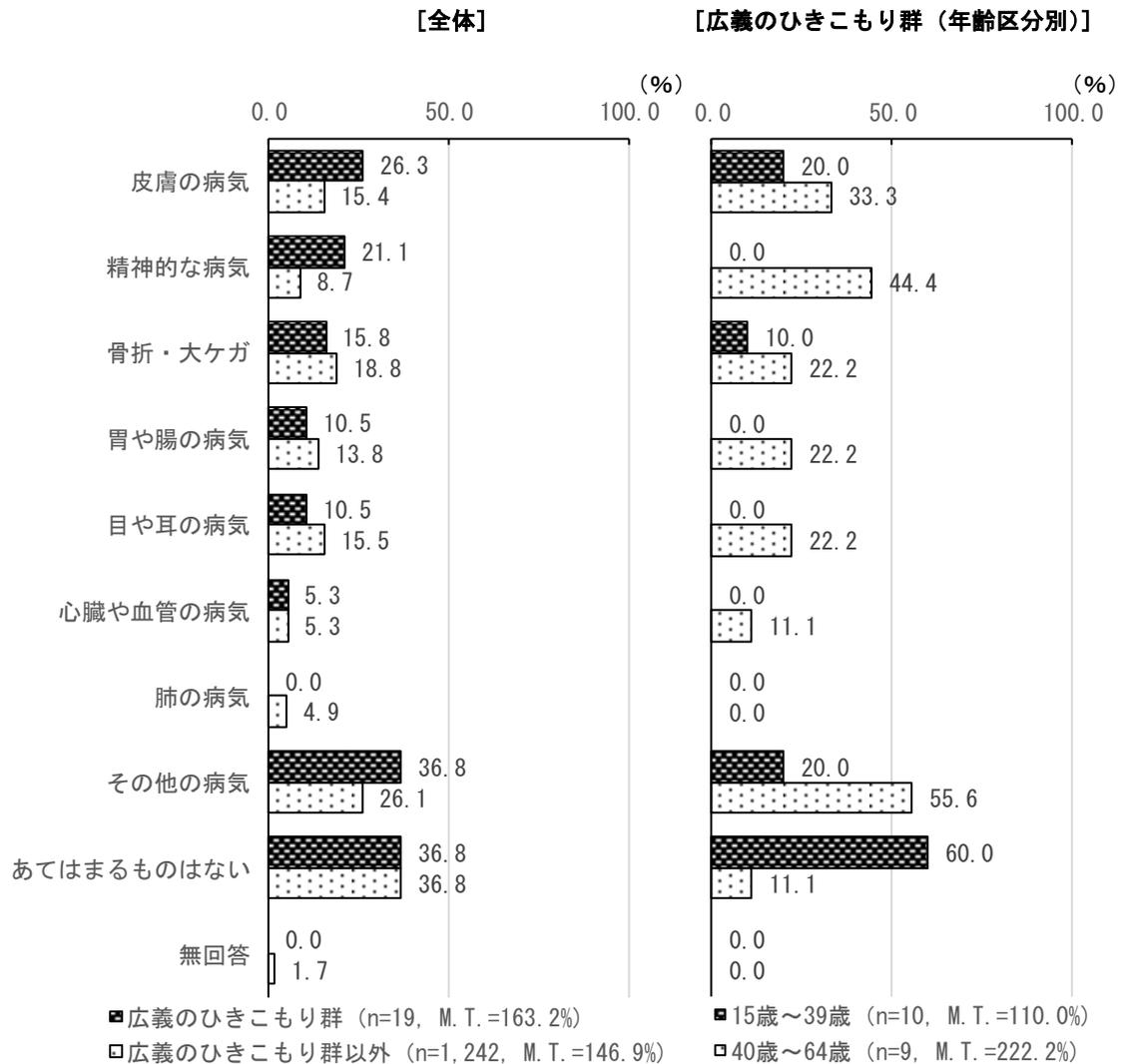


内閣府調査と比較すると、広義のひきこもり群において、『下』（「下の上」＋「下の中」＋「下の下」）が立川市では55.6%、内閣府調査では31.9%と、立川市の方が23.7ポイント高くなっている。

Ⅲ 調査の結果

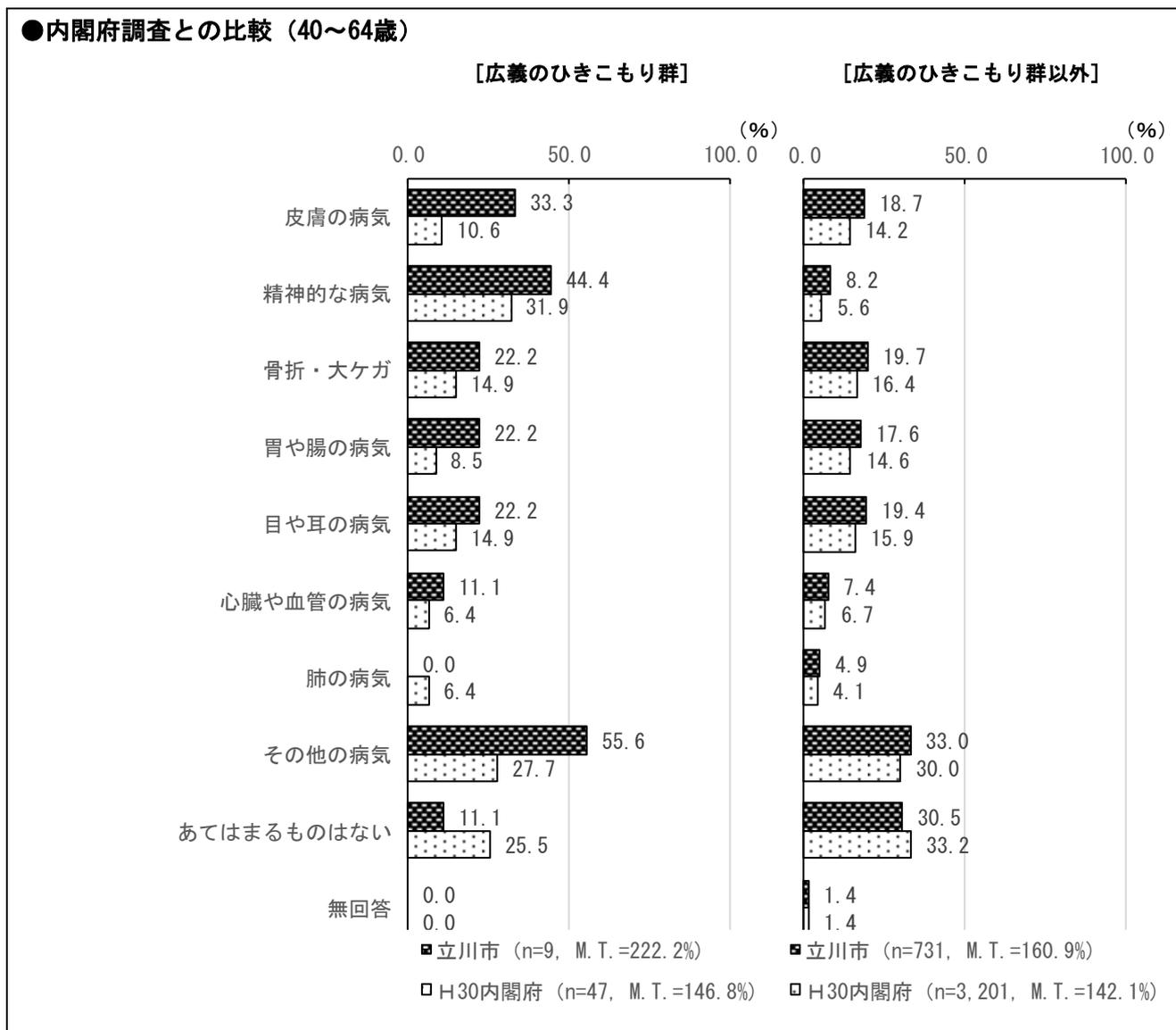
7 通院・入院経験のある病気やけが

Q7 あなたはこれまでに、以下の病気やけがで通院や入院をしたことはありますか。通院・入院したことのある病気に○をつけてください。(○はいくつでも)



通院・入院経験のある病気やけがについて、「その他の病気」「あてはまるものはない」を除くと、広義のひきこもり群では「皮膚の病気」(26.3%)、「精神的な病気」(21.1%)、「骨折・大ケガ」(15.8%)の順になっているのに対して、広義のひきこもり群以外では「骨折・大ケガ」(18.8%)、「目や耳の病気」(15.5%)、「皮膚の病気」(15.4%)の順になっている。

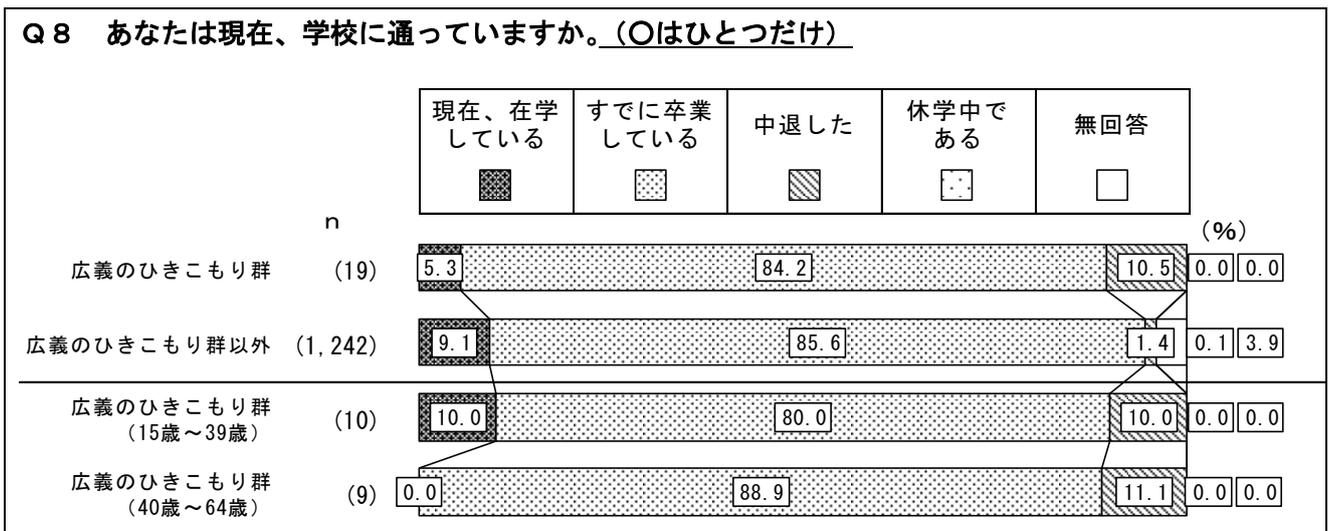
また、広義のひきこもり群について年齢区別にみると、「15歳～39歳」では「皮膚の病気」(20.0%)、「骨折・大ケガ」(10.0%)の順になっており、「精神的な病気」と回答した人はいなかったのに対して、「40歳～64歳」では「精神的な病気」(44.4%)、「皮膚の病気」(33.3%)、「胃や腸の病気」「目や耳の病気」「骨折・大ケガ」(すべて22.2%)の順になっている。



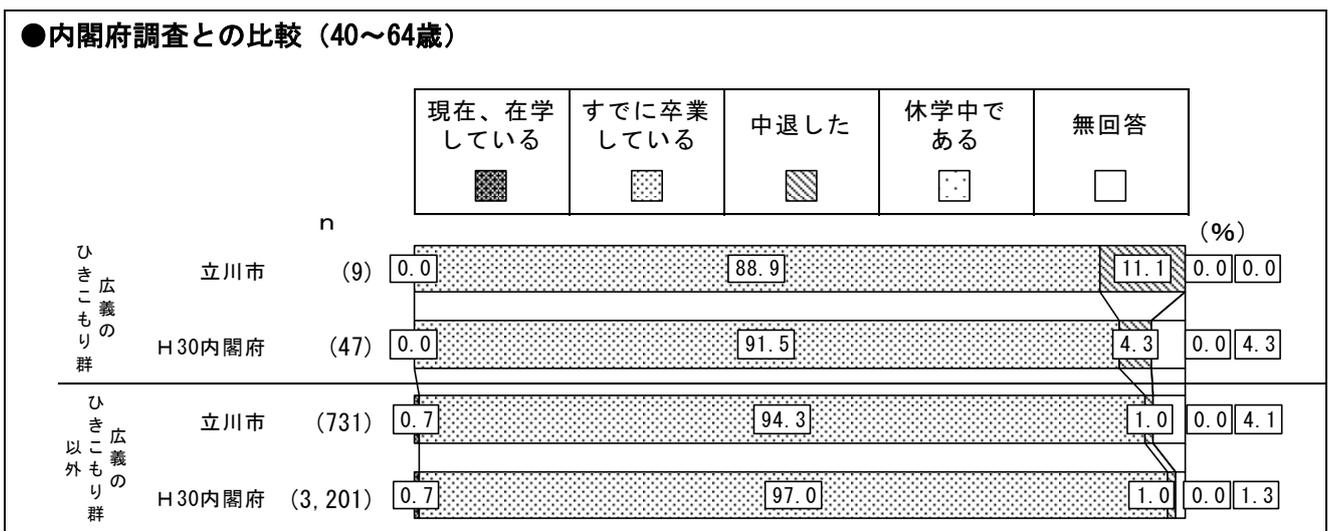
内閣府調査と比較すると、広義のひきこもり群において、「肺の病気」「あてはまるものはない」以外のすべての項目で立川市の方が内閣府調査よりも高い割合となっている。

Ⅲ 調査の結果

8 通学状況



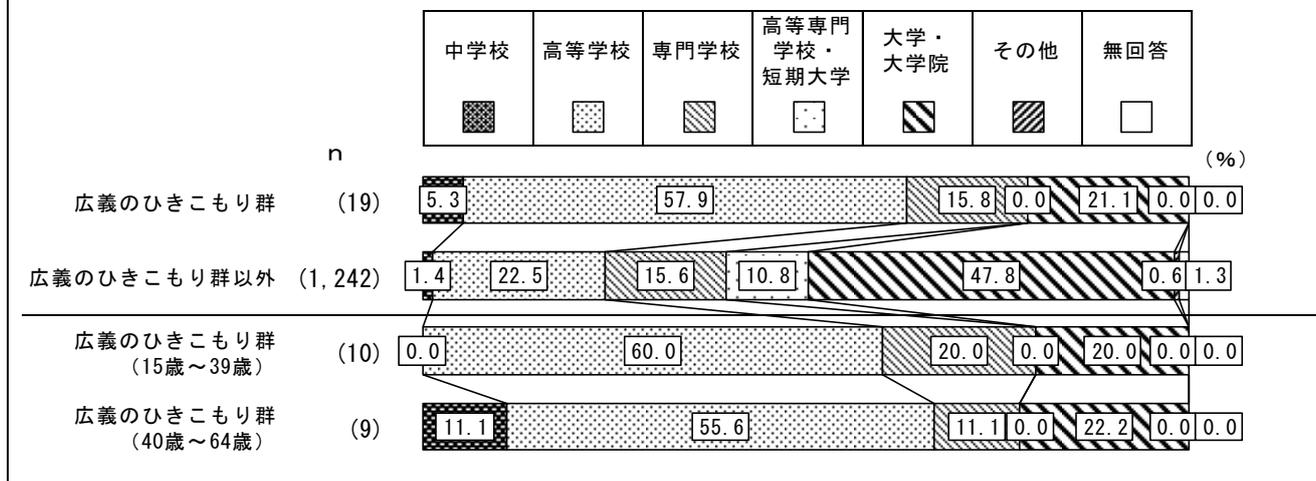
通学状況について、「中退した」が広義のひきこもり群では10.5%、広義のひきこもり群以外では1.4%と、9.1ポイントの差がある。



内閣府調査と比較すると、広義のひきこもり群において、「中退した」が立川市では11.1%、内閣府調査では4.3%と、6.8ポイントの差がある。

9 卒業・在学中の学校

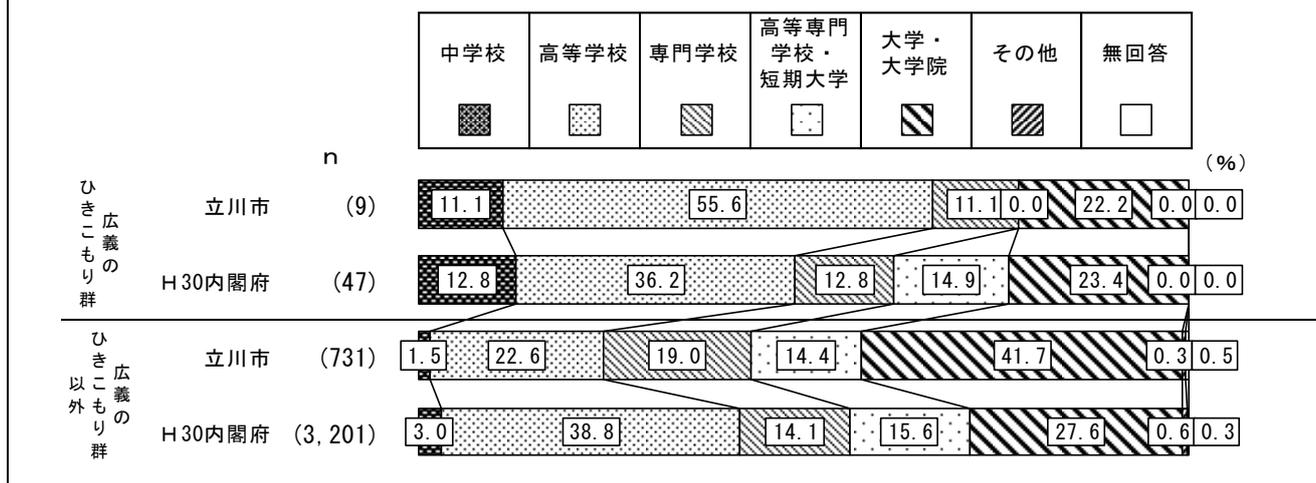
Q9 あなたが最後に卒業（中退を含む）した、または現在、在学している学校はどれですか。
 （〇はひとつだけ）



卒業・在学中の学校について、広義のひきこもり群では「高等学校」(57.9%)、「大学・大学院」(21.1%)、「専門学校」(15.8%)の順になっているのに対して、広義のひきこもり群以外では「大学・大学院」(47.8%)、「高等学校」(22.5%)、「専門学校」(15.6%)の順になっている。

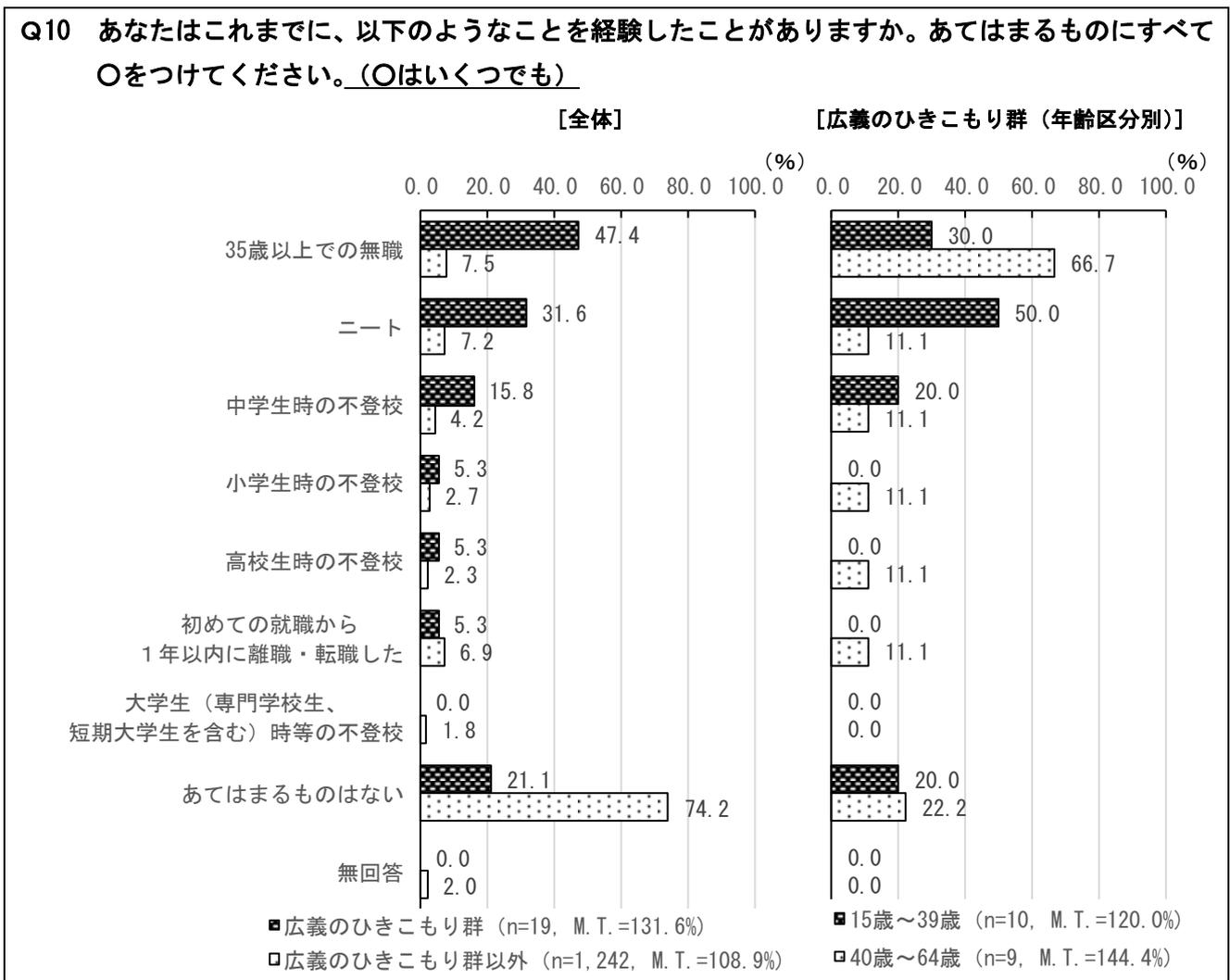
また、広義のひきこもり群について年齢区別にみると、「中学校」が「15歳～39歳」では0.0%であるのに対して、「40歳～64歳」では11.1%となっている。

●内閣府調査との比較 (40～64歳)



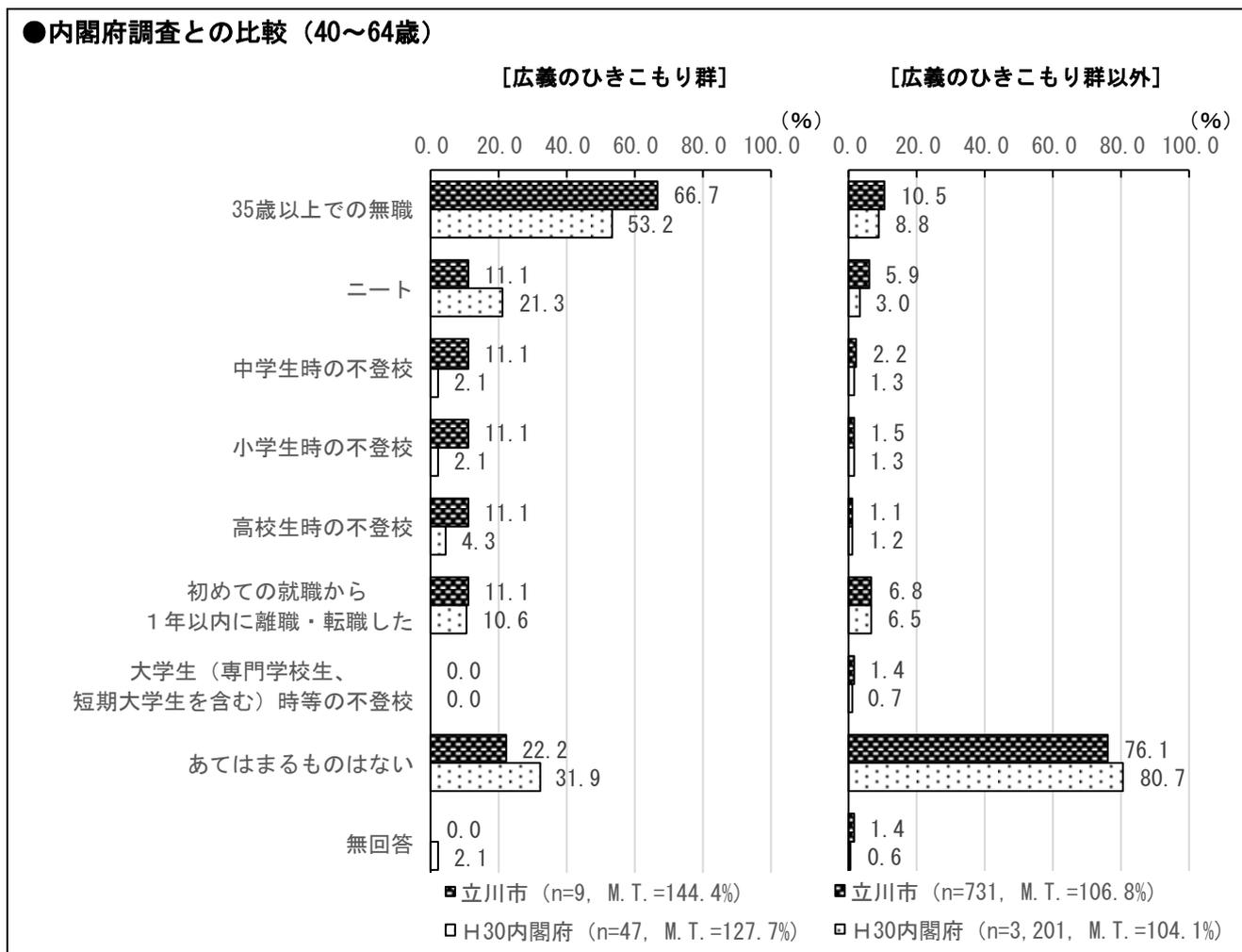
内閣府調査と比較すると、広義のひきこもり群において、「高等学校」は立川市の方が、「高等専門学校・短期大学」は内閣府調査の方が、それぞれ高い割合となっている。

10 これまでの経験



これまでの経験について、広義のひきこもり群では「35歳以上での無職」(47.4%)、「ニート」(31.6%)、「中学生時の不登校」(15.8%)の順になっているのに対して、広義のひきこもり群以外では「35歳以上での無職」(7.5%)、「ニート」(7.2%)、「初めての就職から1年以内に離職・転職した」(6.9%)の順になっている。

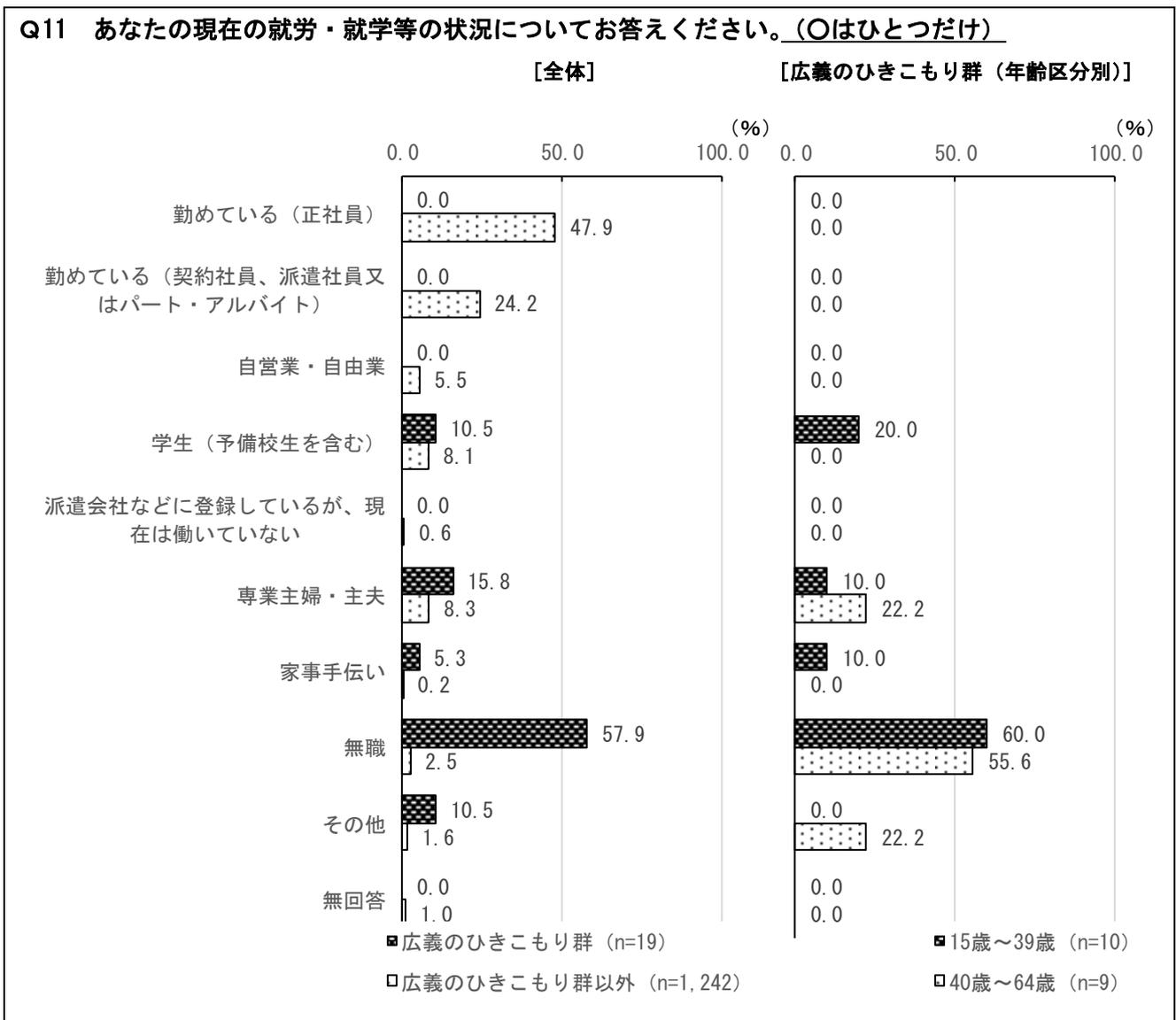
また、広義のひきこもり群について年齢区分別にみると、「15歳～39歳」では「ニート」(50.0%)が、「40歳～64歳」では「35歳以上での無職」(66.7%)が、それぞれ最も高い割合となっている。



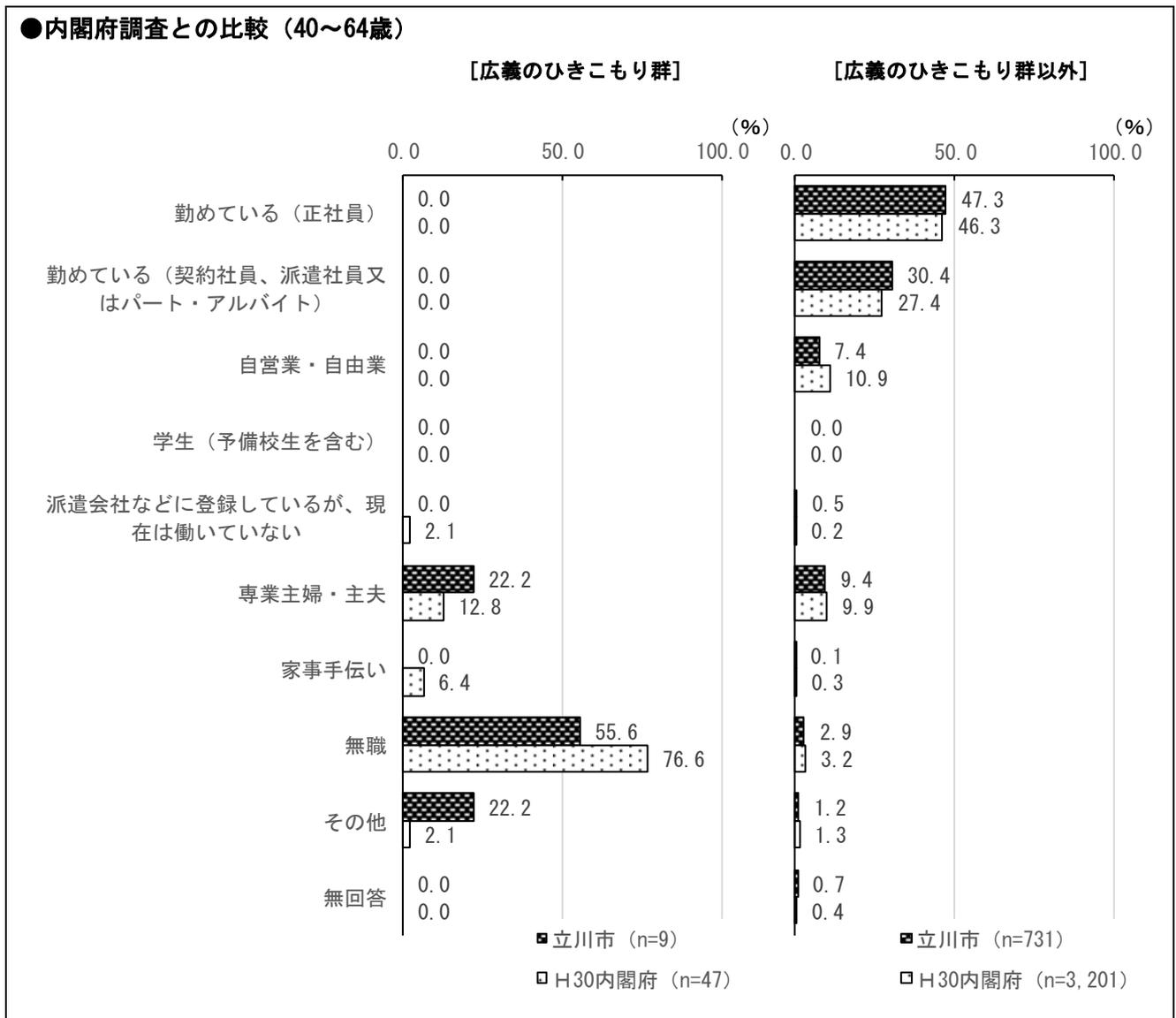
内閣府調査と比較すると、広義のひきこもり群において、「ニート」「あてはまるものはない」以外のすべての項目で立川市の方が内閣府調査よりも高い割合となっている。

Ⅲ 調査の結果

11 現在の就労・就学等の状況



現在の就労・就学等の状況について、広義のひきこもり群では「勤めている (正社員)」「勤めている (契約社員、派遣社員又はパート・アルバイト)」「自営業・自由業」と回答した人がおらず、「無職」(57.9%)、「専業主婦・主夫」(15.8%)、「学生 (予備校生を含む)」「その他」(ともに10.5%)、「家事手伝い」(5.3%)の順になっているのに対して、広義のひきこもり群以外では「勤めている (正社員)」(47.9%)、「勤めている (契約社員、派遣社員又はパート・アルバイト (学生のアバイトは除く))」(24.2%)、「専業主婦・主夫」(8.3%)、「学生 (予備校生を含む)」(8.1%)、「自営業・自由業」(5.5%)の順になっており、「無職」に関しては広義のひきこもり群の方が55.4ポイント高くなっている。



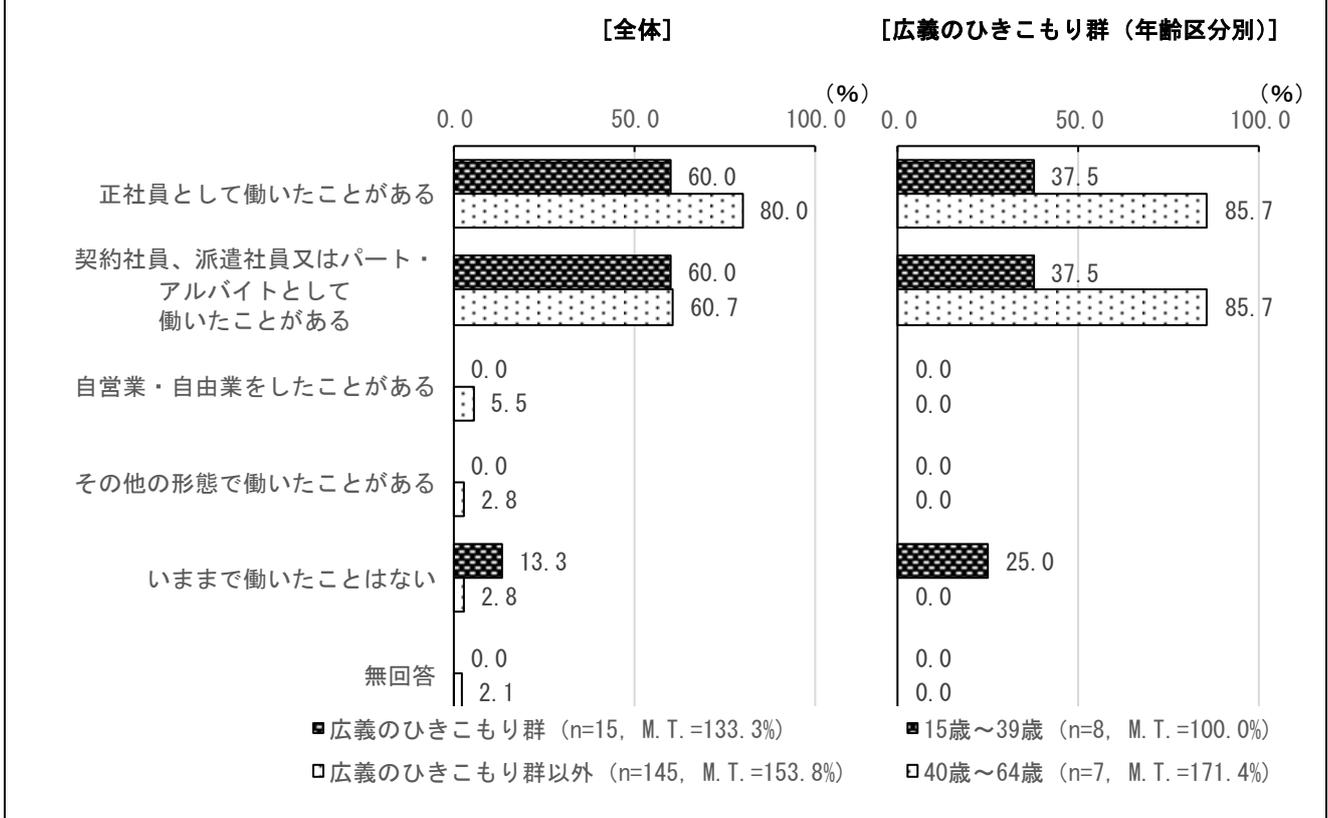
内閣府調査と比較すると、広義のひきこもり群において、「専業主婦・主夫」は立川市の方が、「無職」は内閣府調査の方が、それぞれ高い割合となっている。

Ⅲ 調査の結果

12 働いた経験

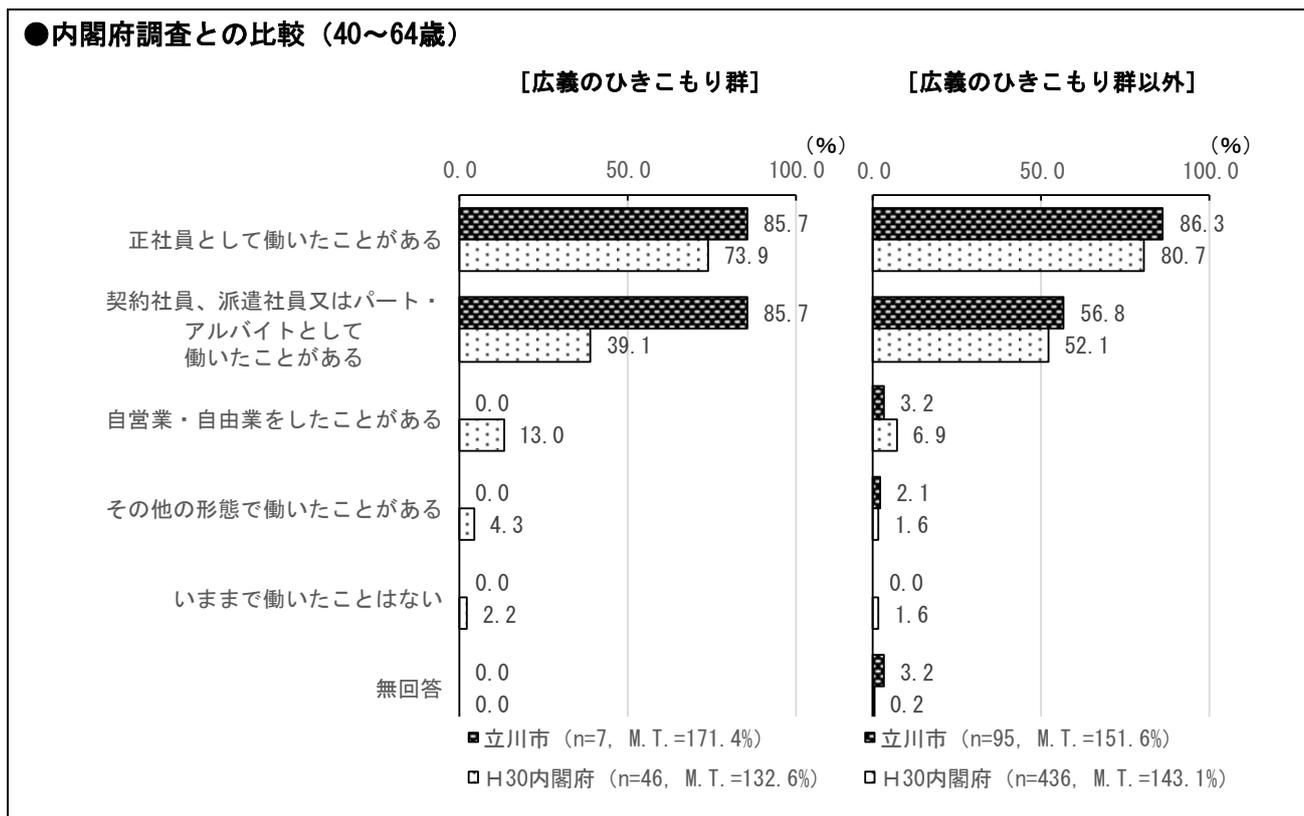
【Q11で「5～8」に○をつけた方のみ、Q12～Q14にお答えください。】

Q12 あなたはいままでに働いていたことはありますか。(○はいくつでも)



働いた経験については、「正社員として働いたことがある」「契約社員、派遣社員又はパート・アルバイトとして働いたことがある」の項目でどちらの群も60.0%以上となっており、「正社員として働いたことがある」は広義のひきこもり群が60.0%で広義のひきこもり群以外が80.0%と20.0ポイントの差となっている。「いままで働いたことはない」は広義のひきこもり群が13.3%で広義のひきこもり群以外が2.8%と10.5ポイントの差となっている。

また、広義のひきこもり群について年齢区別にみると、「15歳～39歳」では「いままで働いたことはない」が25.0%となっているのに対して、「40歳～64歳」では「いままで働いたことはない」と回答した人はいなかった。



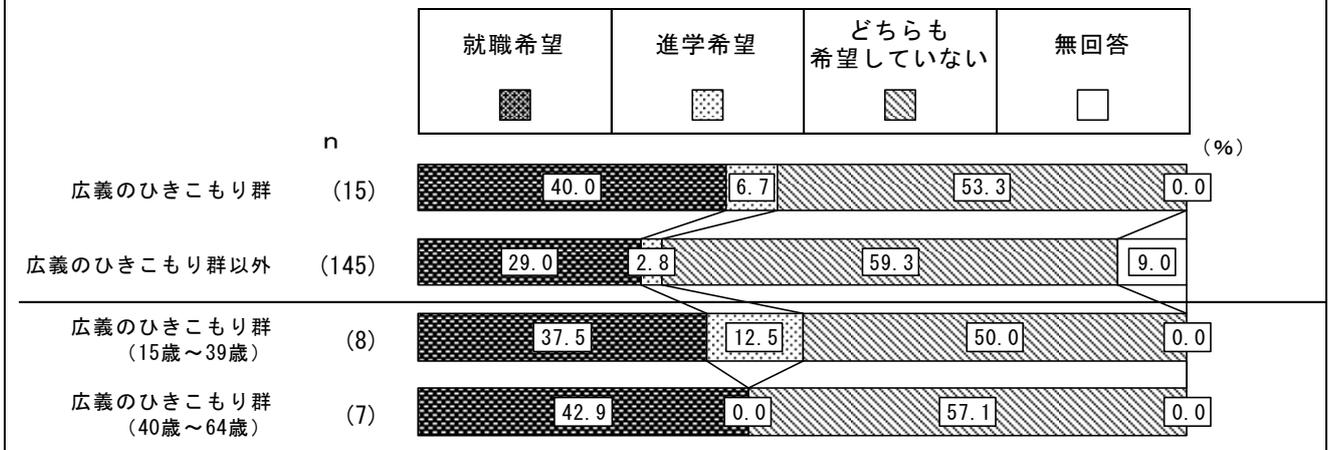
内閣府調査と比較すると、広義のひきこもり群において、立川市では「正社員として働いたことがある」「契約社員、派遣社員又はパート・アルバイトとして働いたことがある」（ともに85.7%）が内閣府調査よりも高い割合となっており、「契約社員、派遣社員又はパート・アルバイトとして働いたことがある」は内閣府調査の39.1%よりも46.6ポイント高くなっている。

Ⅲ 調査の結果

13 就職または進学希望

【Q11で「5～8」に○をつけた方のみ、Q12～Q14にお答えください。】

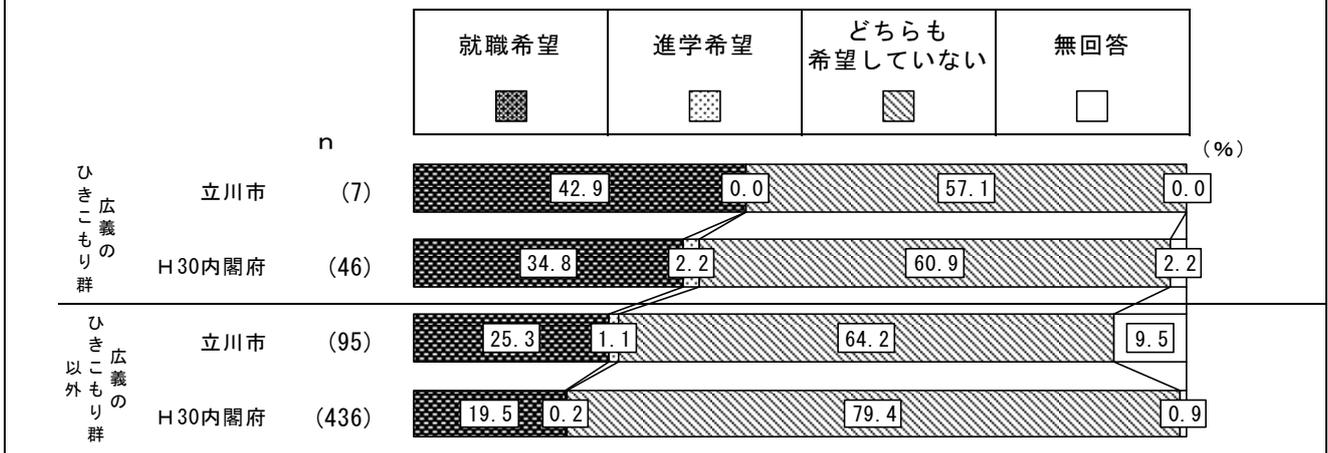
Q13 あなたは現在、就職または進学を希望していますか。(○はひとつだけ)



就職または進学希望について、「就職希望」は広義のひきこもり群で40.0%、広義のひきこもり群以外で29.0%と、広義のひきこもり群の方が11.0ポイント高くなっており、「進学希望」は広義のひきこもり群で6.7%、広義のひきこもり群以外で2.8%となっている。

また、広義のひきこもり群について年齢区分別にみると、「就職希望」は「15歳～39歳」で37.5%、「40歳～64歳」で42.9%と「40歳～64歳」の方が5.4ポイント高くなっているのに対して、「進学希望」は「15歳～39歳」で12.5%、「40歳～64歳」で回答者なしとなっている。

●内閣府調査との比較 (40～64歳)

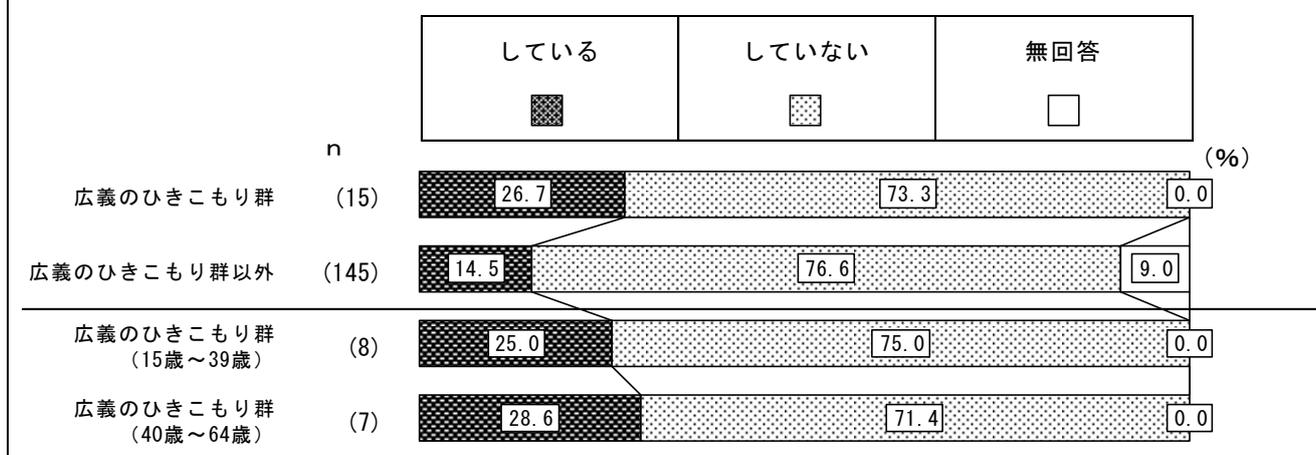


内閣府調査と比較すると、どちらの群においても、「就職希望」は立川市の方が高い割合となっている。

14 就職活動

【Q11で「5～8」に○をつけた方のみ、Q12～Q14にお答えください。】

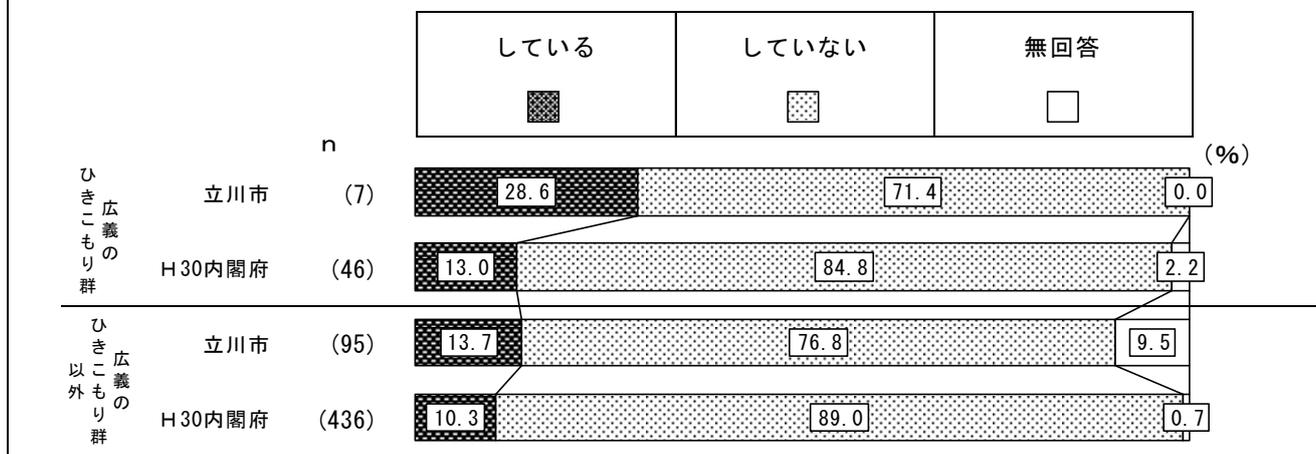
Q14 あなたは現在、就職活動をしていますか。(○はひとつだけ)



就職活動について、「している」は広義のひきこもり群で26.7%、広義のひきこもり群以外で14.5%と、広義のひきこもり群の方が12.2ポイント高くなっている。

また、広義のひきこもり群について年齢区別にみると、「している」は「15歳～39歳」で25.0%、「40歳～64歳」では28.6%となっている。

●内閣府調査との比較 (40～64歳)

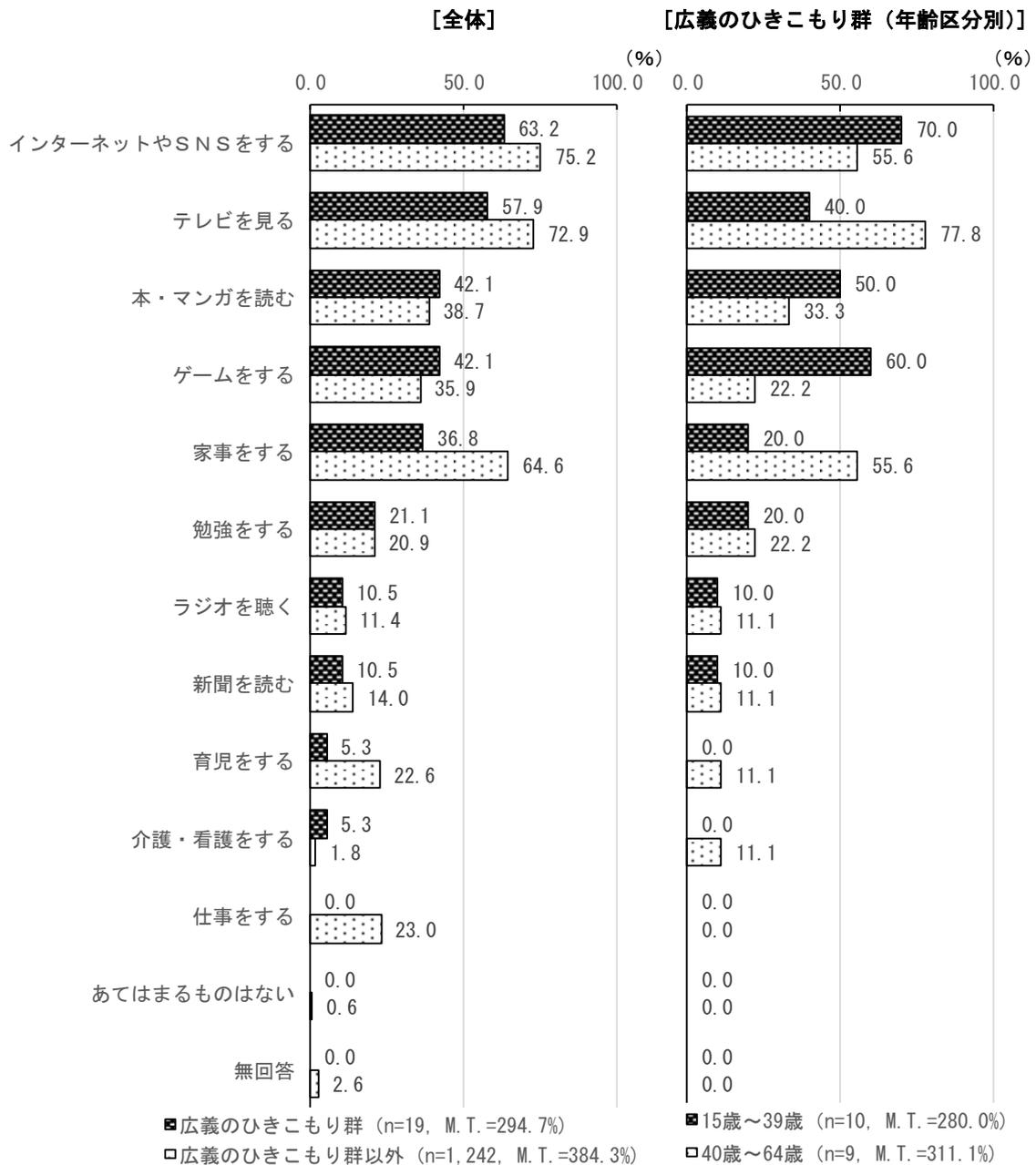


内閣府調査と比較すると、広義のひきこもり群において、「している」が立川市では28.6%、内閣府調査では13.0%と、15.6ポイントの差がある。

15 ふだん自宅をよくしていること

【Q15～Q17はすべての方がお答えください。】

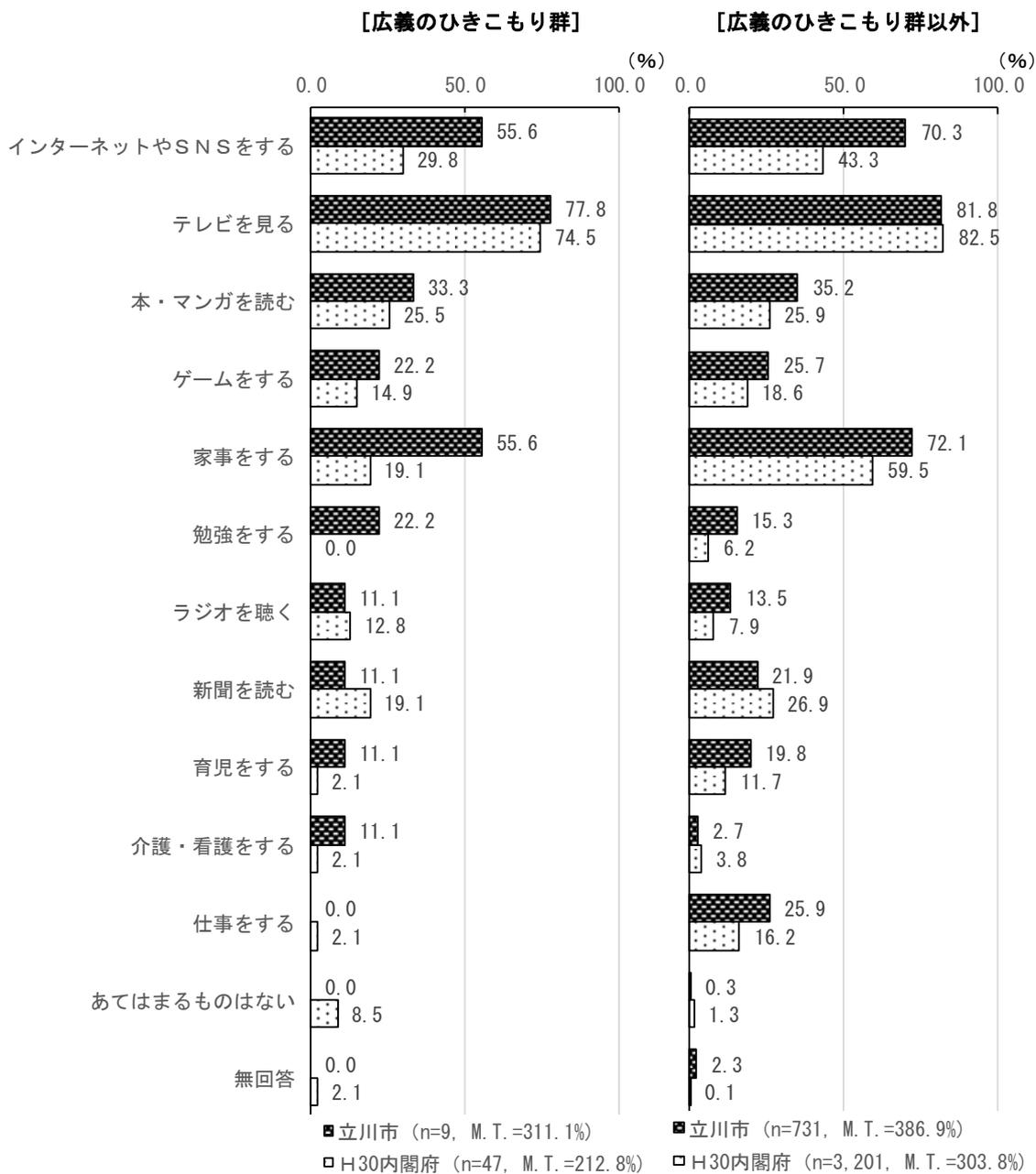
Q15 あなたがふだんご自宅にいるときに、よくしていることすべてに○をつけてください。
(○はいくつでも)



ふだん自宅をよくしていることについて、上位5項目はどちらの群でも「インターネットやSNSをする」「テレビを見る」「本・マンガを読む」「ゲームをする」「家事をする」となっているが、そのうち「インターネットやSNSをする」「テレビを見る」「家事をする」の3項目に加えて「育児をする」「仕事をする」の計5項目は広義のひきこもり群以外の方が顕著に高い割合となっている。

また、広義のひきこもり群について年齢区分別にみると、「15歳～39歳」では「インターネットやSNSをする」(70.0%)、「ゲームをする」(60.0%)、「本・マンガを読む」(50.0%)、「テレビを見る」(40.0%)、「勉強をする」「家事をする」(ともに20.0%)の順になっているのに対して、「40歳～64歳」では「テレビを見る」(77.8%)、「インターネットやSNSをする」「家事をする」(ともに55.6%)、「本・マンガを読む」(33.3%)、「ゲームをする」「勉強をする」(ともに22.2%)の順になっている。

●内閣府調査との比較（40～64歳）

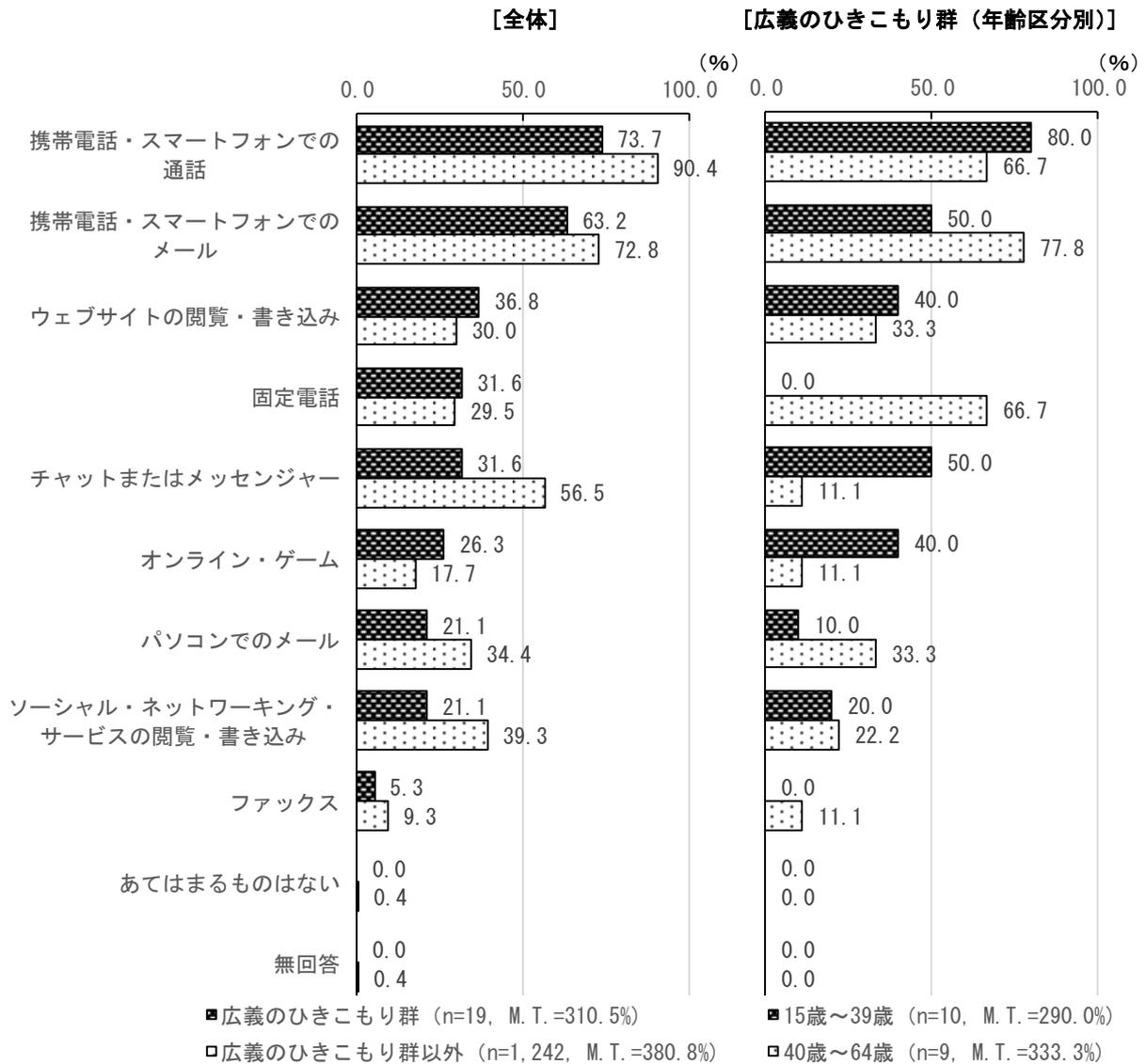


※「インターネットやSNSをする」「本・マンガを読む」の項目について、内閣府調査においてはそれぞれ「インターネットをする」「本を読む」となっている。

内閣府調査と比較すると、広義のひきこもり群において、「ラジオを聴く」「新聞を読む」「あてはまるものはない」以外の項目で立川市の方が内閣府調査よりも高く、「インターネットやSNSをする」「家事をする」が顕著に高い割合となっている。

16 通信手段でふだん利用しているもの

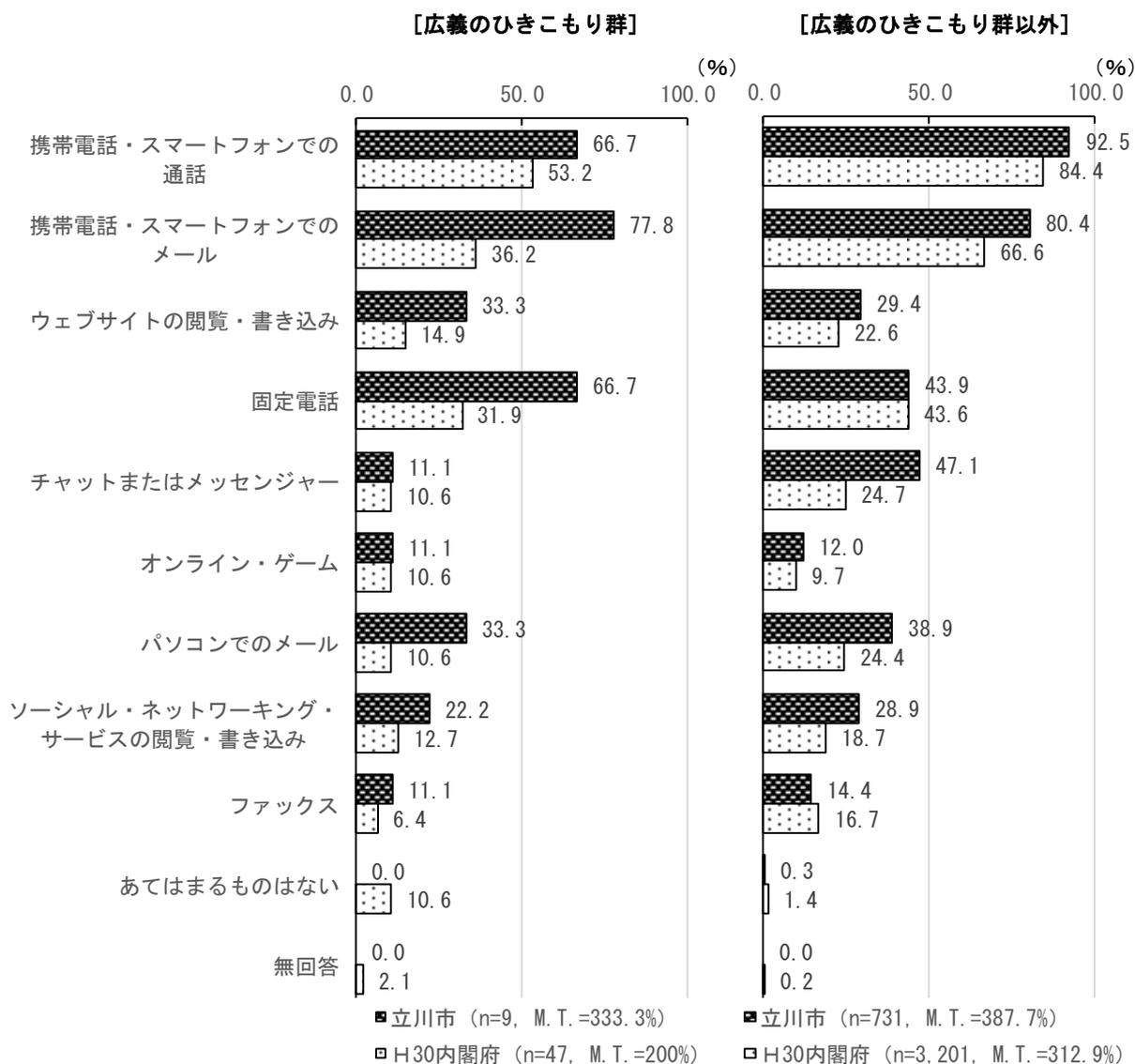
Q16 あなたが、以下にあげられた通信手段の中で、ふだん利用しているものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)



通信手段でふだん利用しているものについて、上位2項目はどちらの群でも「携帯電話・スマートフォンでの通話 (LINEなどのアプリによる通話を含む)」「携帯電話・スマートフォンでのメール」となっており、3位以下は広義のひきこもり群で「ウェブサイト (電子掲示板、ウェブログを含む) の閲覧・書き込み」(36.8%)、「固定電話」「チャット (LINEなどのアプリによるものを含む) またはメッセージ」(ともに31.6%)の順に、広義のひきこもり群以外では「チャットまたはメッセージ」(56.5%)、「ソーシャル・ネットワーキング・サービス (Facebook、Twitterなど) の閲覧・書き込み」(39.3%)、「パソコンでのメール」(34.4%)の順になっている。

また、広義のひきこもり群について年齢区別にみると、「15歳~39歳」では「携帯電話・スマートフォンでの通話」(80.0%)、「携帯電話・スマートフォンでのメール」「チャット (LINEなどのアプリによるものを含む) またはメッセージ」(ともに50.0%)、「ウェブサイト (電子掲示板、ウェブログを含む) の閲覧・書き込み」「オンライン・ゲーム」(ともに40.0%)の順になっているのに対して、「40歳~64歳」では「携帯電話・スマートフォンでのメール」(77.8%)、「固定電話」「携帯電話・スマートフォンでの通話」(ともに66.7%)、「パソコンでのメール」「ウェブサイトの閲覧・書き込み」(ともに33.3%)の順になっている。

●内閣府調査との比較（40～64歳）



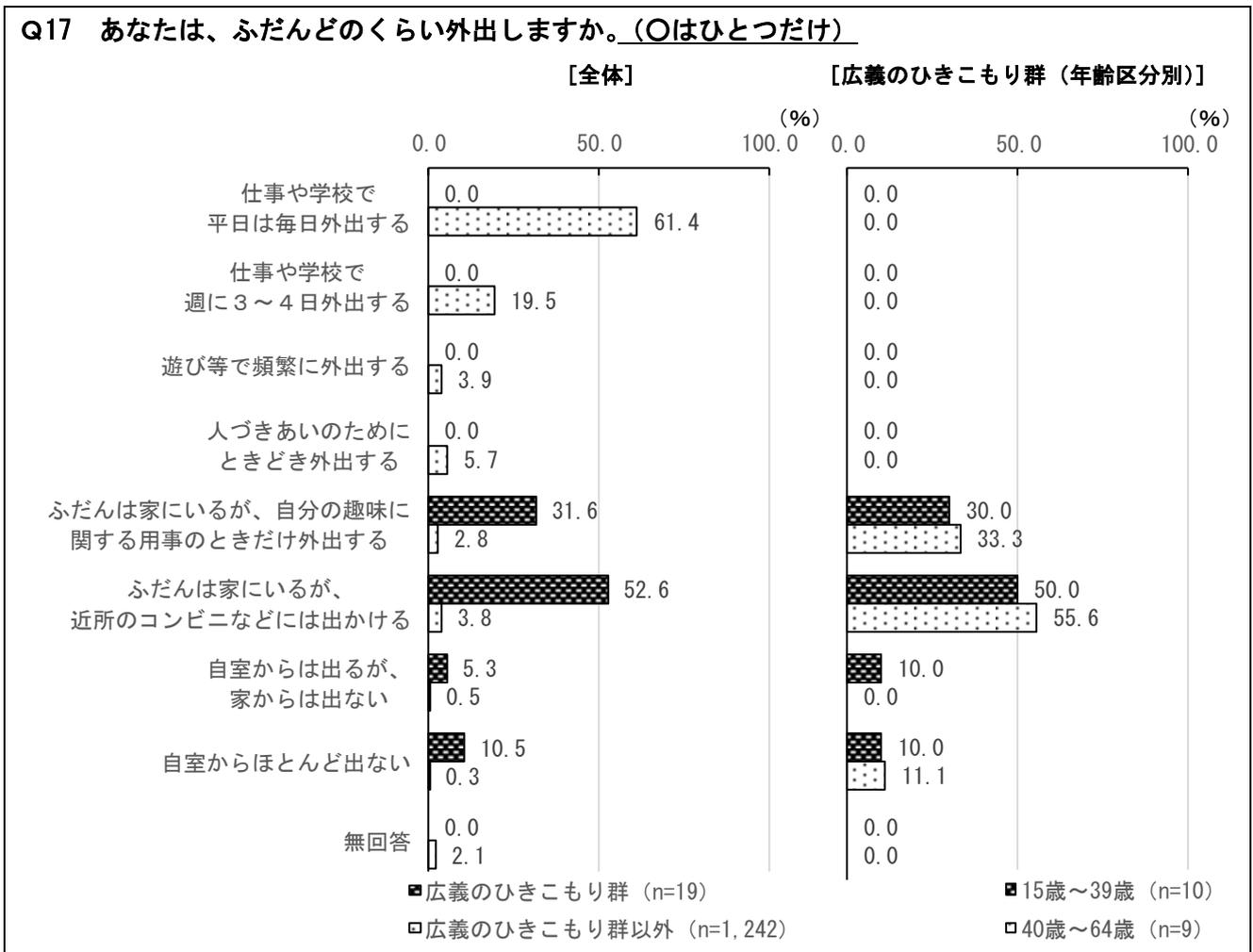
※「ソーシャル・ネットワーキング・サービス（Facebook、Twitterなど）の閲覧・書き込み」の項目について、内閣府調査においては「ソーシャル・ネットワーキング・サービス（Facebook、mixiなど）の閲覧・書き込み」（広義のひきこもり群10.6%・広義のひきこもり群以外13.2%）と「ツイッター（Twitter）」（広義のひきこもり群2.1%・広義のひきこもり群以外5.5%）という2つの項目になっているため、上記の図表では合算している。

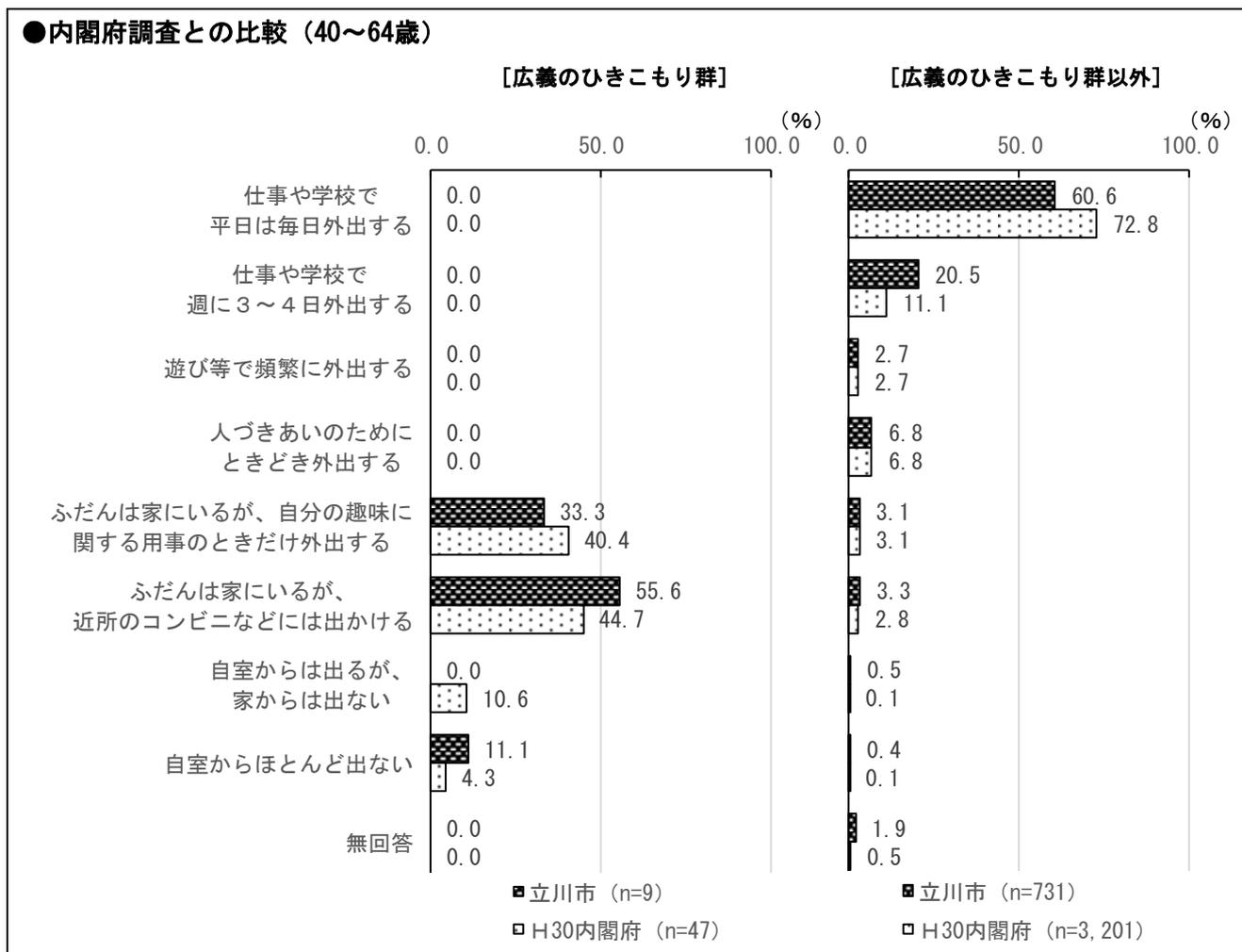
内閣府調査と比較すると、広義のひきこもり群において、「あてはまるものはない」以外のすべての項目で立川市の方が内閣府調査よりも高い割合となっている。

Ⅲ 調査の結果

※Q17の設問は、広義のひきこもり群を定義するために使用している。

17 ふだんの外出頻度





内閣府調査と比較すると、広義のひきこもり群において、「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」は立川市の方が、ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」は内閣府調査の方が、それぞれ高い割合となっている。

Ⅲ 調査の結果

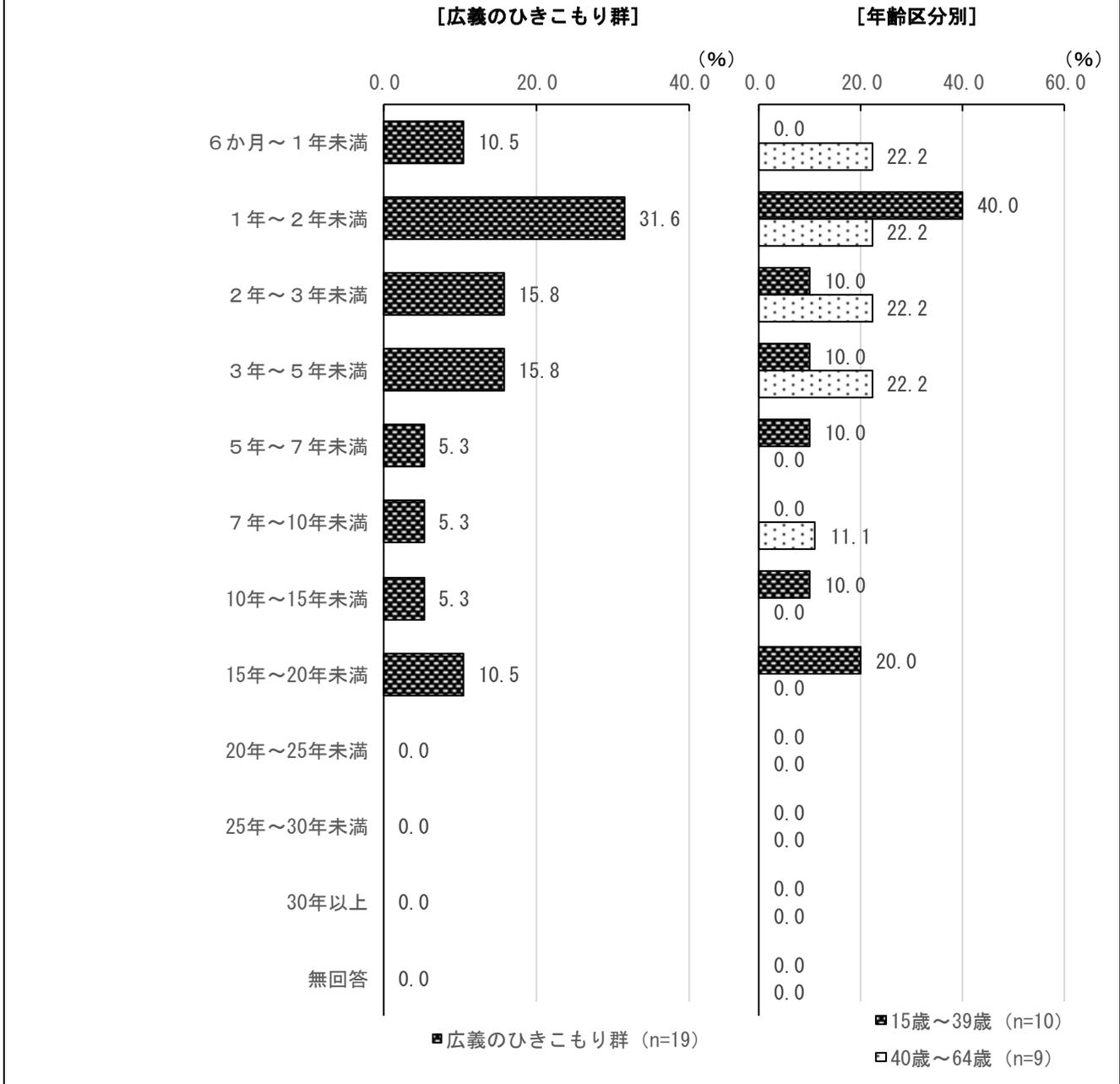
※Q18～Q27は、Q17において外出頻度が低かった人（Q19において5～8を選択した人）のみが回答する項目となっている。

本報告書では、その中でも広義のひきこもり群に該当する人の結果について記載する。

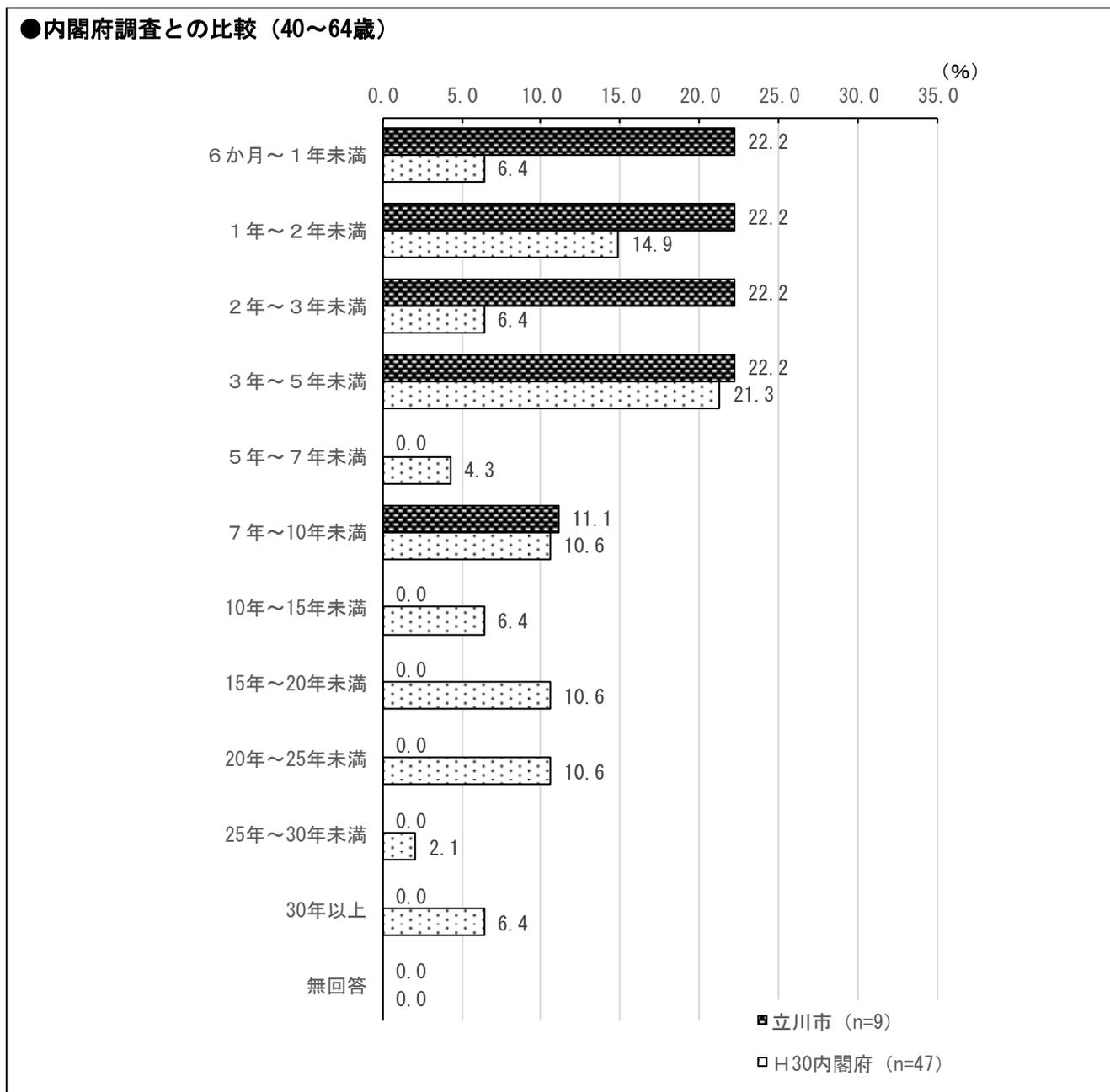
18 ひきこもりの状態になってからの期間

【Q17で「5～8」に○をつけた方のみ、Q18～Q27にお答えください。】

Q18 現在の状態となってどのくらい経ちますか。（○はひとつだけ）



ひきこもりの状態になってからの期間については、「1年～2年未満」が31.6%と最も高く、次いで「2～3年未満」「3～5年未満」がともに15.8%、「6か月～1年未満」「15～20年未満」がともに10.5%の順となっている。

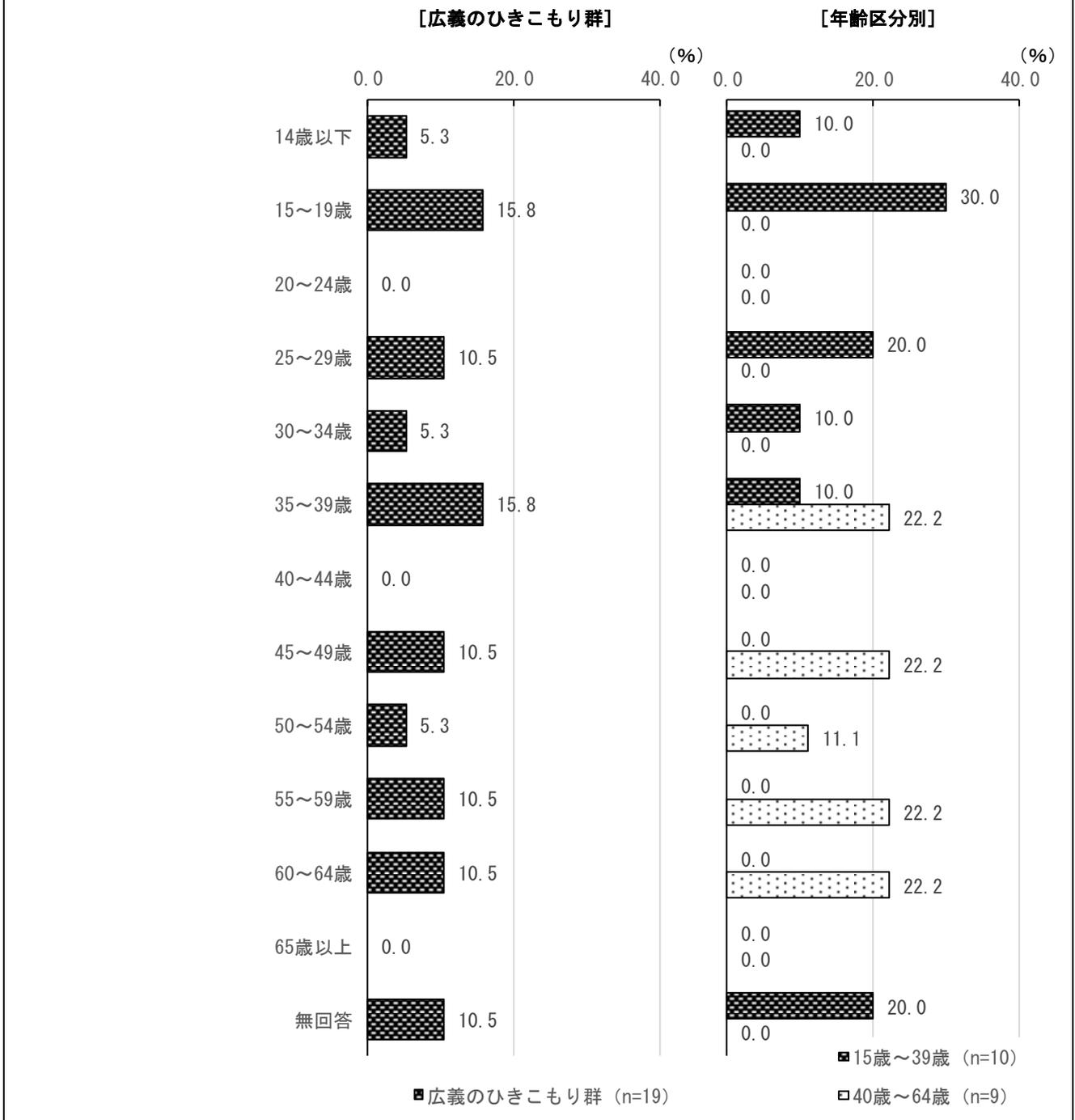


内閣府調査と比較すると、内閣府調査では10年以上が36.1%、10年未満が63.9%となっているのに対して、立川市では広義のひきこもり群の全員が10年未満となっている。

19 初めてひきこもりの状態になった年齢

【Q17で「5～8」に○をつけた方のみ、Q18～Q27にお答えください。】

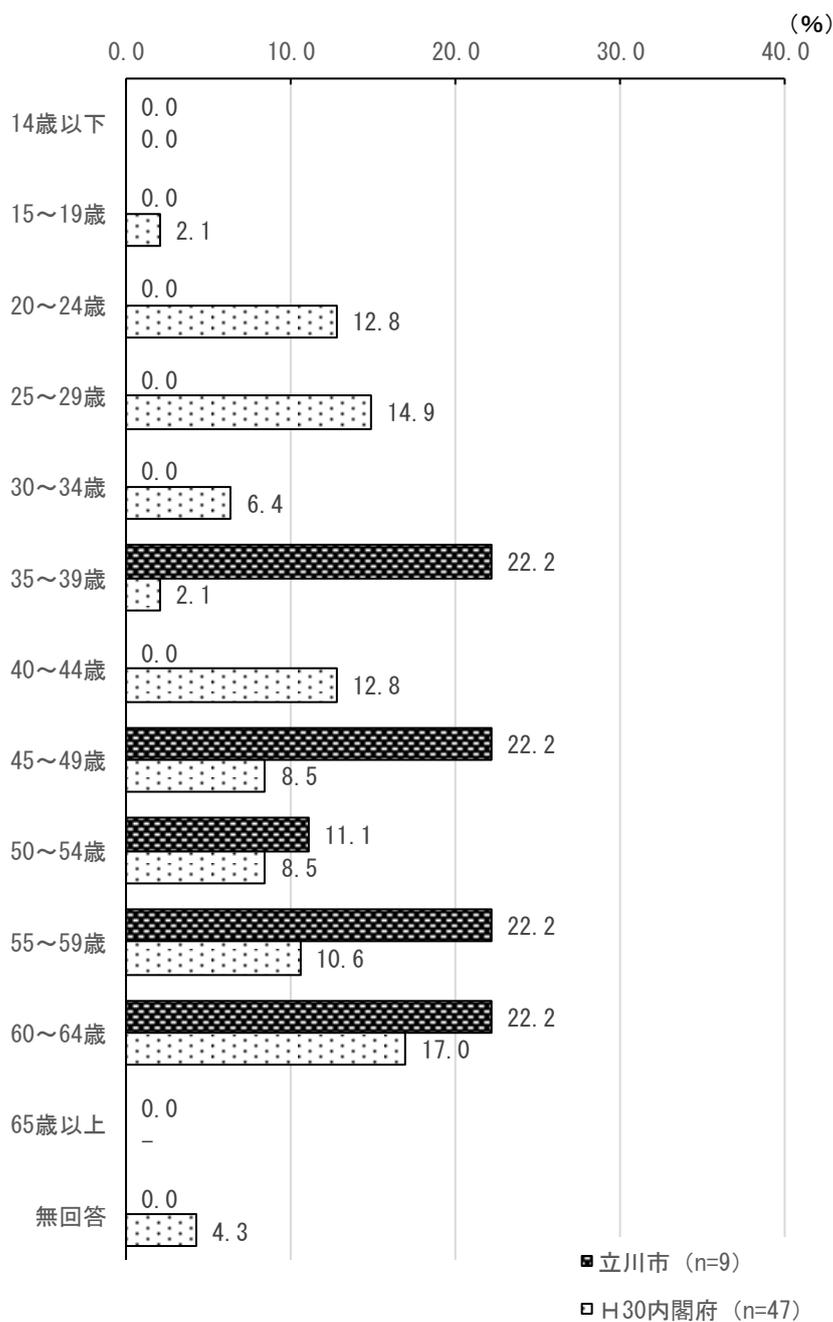
Q19 あなたが初めて現在の状態になったのは、何歳の頃ですか。(数字で具体的に)



初めてひきこもりの状態になった年齢については、「15～19歳」「35～39歳」（ともに15.8%）が最も高く、次いで「25～29歳」「45～49歳」「55～59歳」「60～64歳」（すべて10.5%）の順になっている。

また、年齢区分別にみると、「15歳～39歳」では「15～19歳」（30.0%）、「25～29歳」（20.0%）、「14歳以下」「30～34歳」「35～39歳」（すべて10.0%）の順になっているのに対して、「40歳～64歳」では「35～39歳」「45～49歳」「55～59歳」「60～64歳」（すべて22.2%）、「50～54歳」（11.1%）の順になっている。

●内閣府調査との比較（40～64歳）



※「65歳以上」は立川市のみの項目

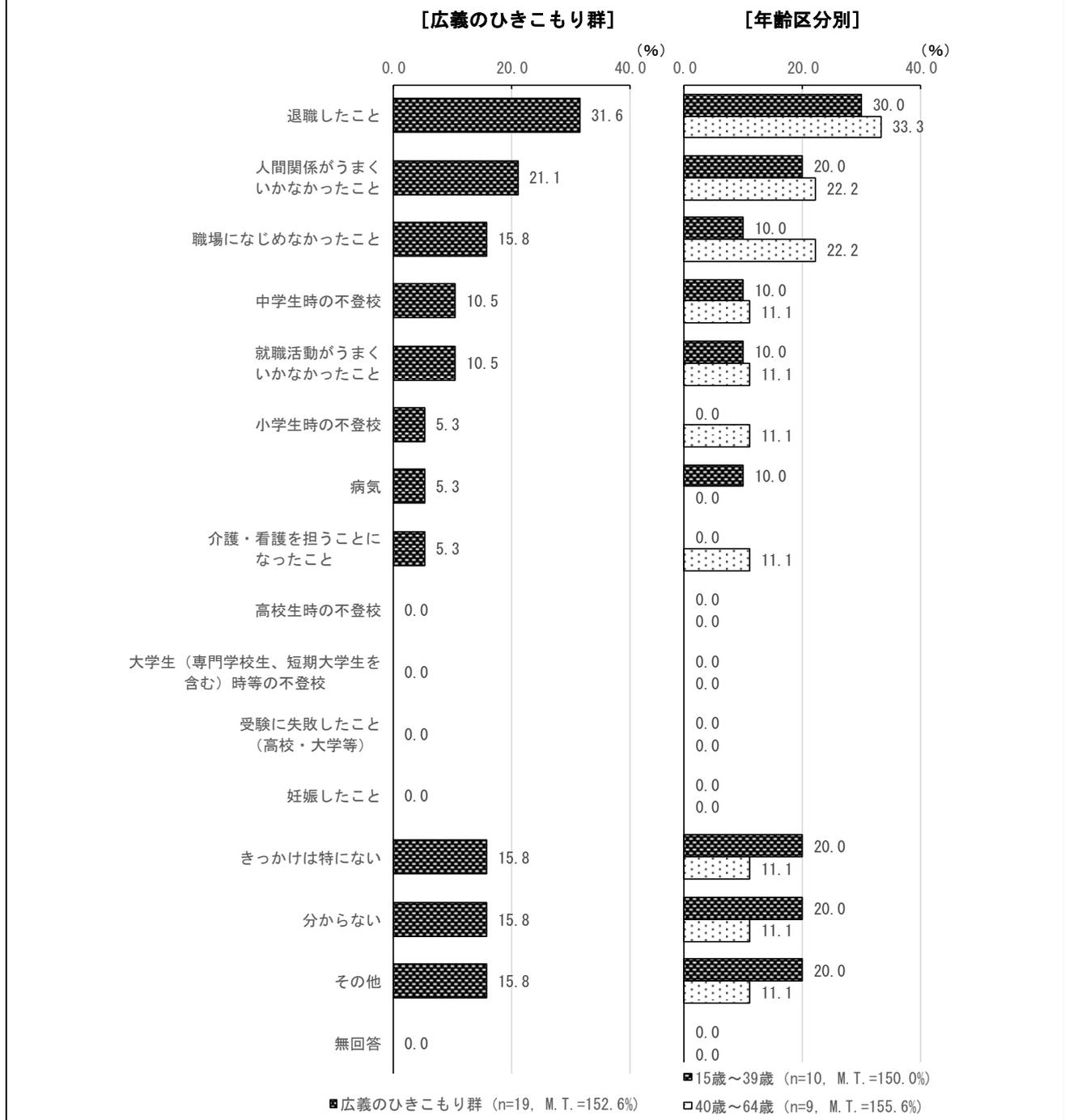
内閣府調査と比較すると、内閣府調査では15歳から64歳まで幅広い年齢層に回答が見られたのに対して、立川市では「35～39歳」及び45歳から64歳までと高い年齢層に回答が固まっている。

Ⅲ 調査の結果

20 ひきこもりの状態になったきっかけ

【Q17で「5～8」に○をつけた方のみ、Q18～Q27にお答えください。】

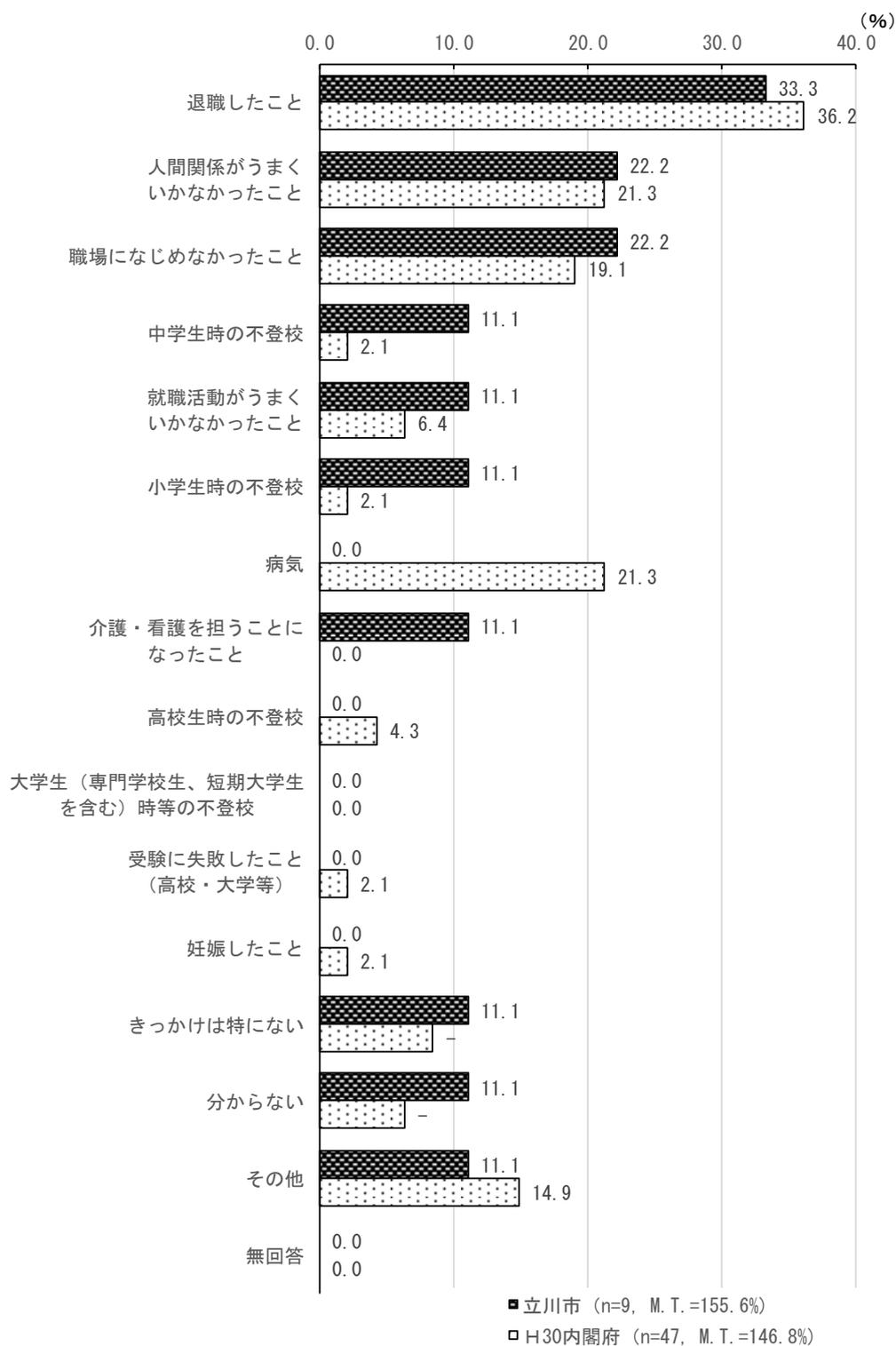
Q20 あなたが現在の状態になったきっかけは何ですか。(○はいくつでも)



ひきこもりの状態になったきっかけについては、「退職したこと」(31.6%)、「人間関係がうまくいかなかったこと」(21.1%)、「職場になじめなかったこと」「きっかけは特はない」「分からない」「その他」(すべて15.8%)の順になっている。

また、年齢区分別にみると、「15歳～39歳」では「退職したこと」(30.0%)、「人間関係がうまくいかなかったこと」「きっかけは特はない」「分からない」「その他」(すべて20.0%)の順になっているのに対して、「40歳～64歳」では「退職したこと」(33.3%)、「職場になじめなかったこと」「人間関係がうまくいかなかったこと」(ともに22.2%)、「小学生時の不登校」「中学生時の不登校」「就職活動がうまくいかなかったこと」「介護・看護を担うことになったこと」「きっかけは特はない」(すべて11.1%)の順になっている。

●内閣府調査との比較（40～64歳）



※「きっかけは特はない」の項目について、内閣府調査においては「特はない」となっている。

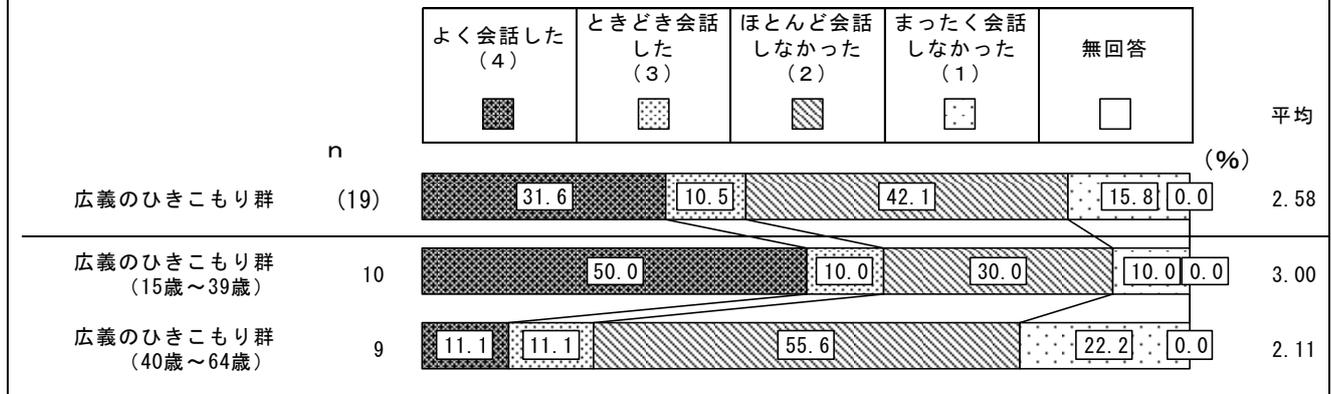
内閣府調査と比較すると、上位2項目が「退職したこと」「人間関係がうまくいかなかったこと」であることは立川市と内閣府調査とで共通しているが、内閣府調査で同率2位となっている「病気」（21.3%）と回答した人が立川市にはいない。一方で、「小学生時の不登校」「中学生時の不登校」「就職活動がうまくいかなかったこと」「介護・看護を担うことになったこと」の項目は立川市の方が高い割合となっている。

Ⅲ 調査の結果

21 家族以外との会話の状況

【Q17で「5～8」に○をつけた方のみ、Q18～Q27にお答えください。】

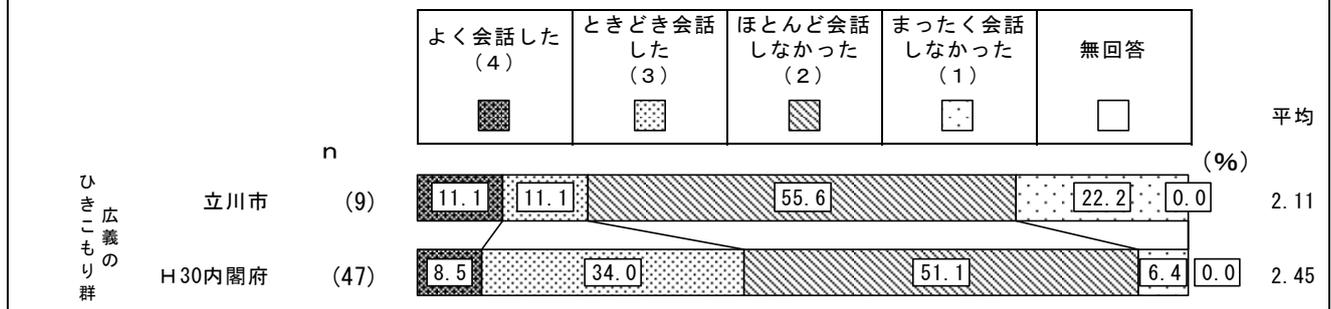
Q21 最近6か月間に家族以外の人と会話しましたか。(○はひとつだけ)



家族以外との会話の状況については、「まったく会話しなかった」が15.8%となっている一方で、「よく会話した」が31.6%となっている。

また、年齢区分別にみると、「まったく会話しなかった」は「15歳～39歳」で10.0%、「40歳～64歳」で22.2%と、「40歳～64歳」の方が12.2ポイント高くなっている。

●内閣府調査との比較 (40～64歳)

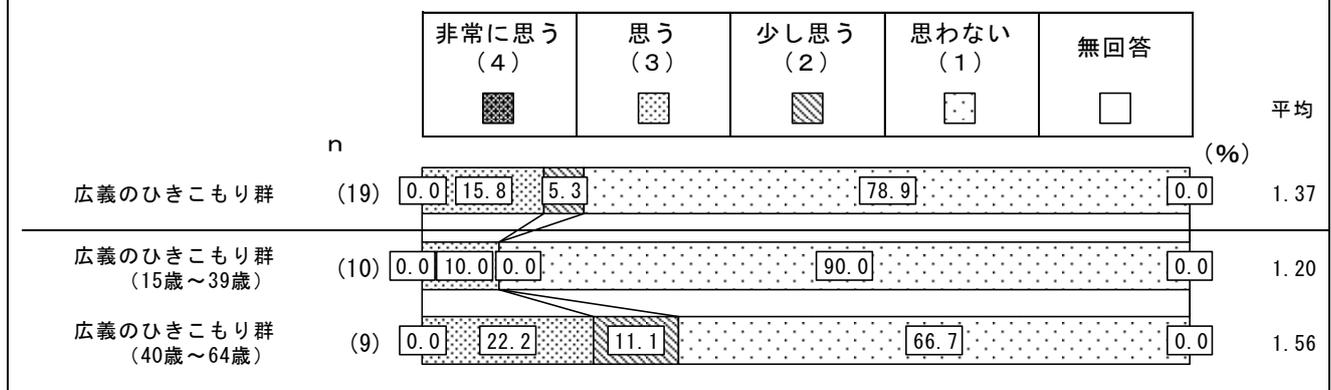


内閣府調査と比較すると、立川市では「ときどき会話した」(11.1%)の割合が低く、その代わりに「まったく会話しなかった」(22.2%)の割合が高くなっており、平均点が内閣府よりも0.34ポイント低くなっている。

22 ひきこもりの状態について関係機関に相談したいか

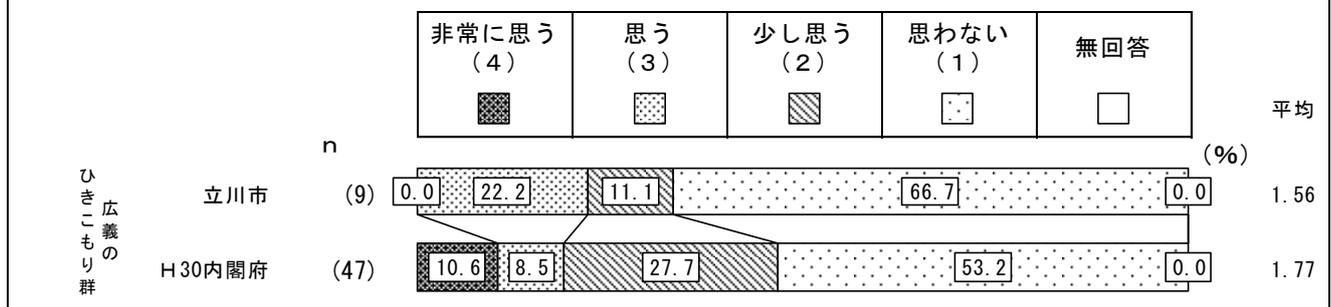
【Q17で「5～8」に○をつけた方のみ、Q18～Q27にお答えください。】

Q22 現在の状態について、関係機関（家族以外に相談できる専門家や支援機関など）に相談したいと思いますか。（○はひとつだけ）



ひきこもりの状態について関係機関に相談したいかについては、「思わない」が78.9%となっている。また、年齢区分別にみると、「思わない」は「15歳～39歳」で90.0%、「40歳～64歳」で66.7%と、「15歳～39歳」の方が23.3ポイント高くなっている。

●内閣府調査との比較（40～64歳）



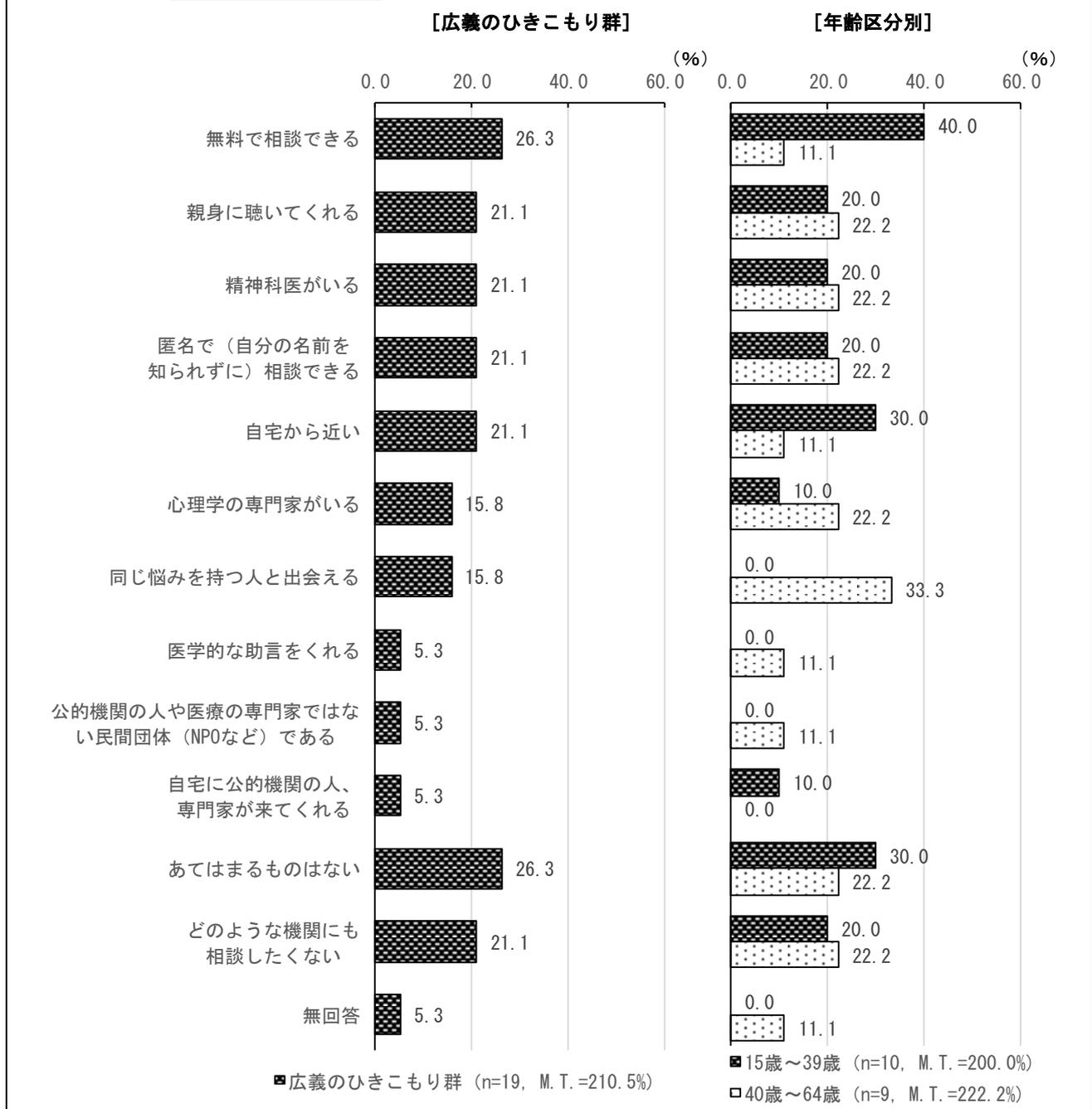
内閣府調査と比較すると、立川市では「思わない」の割合が内閣府調査よりも13.5ポイント高くなっている。

Ⅲ 調査の結果

23 ひきこもりの状態をどのような機関なら相談したいか

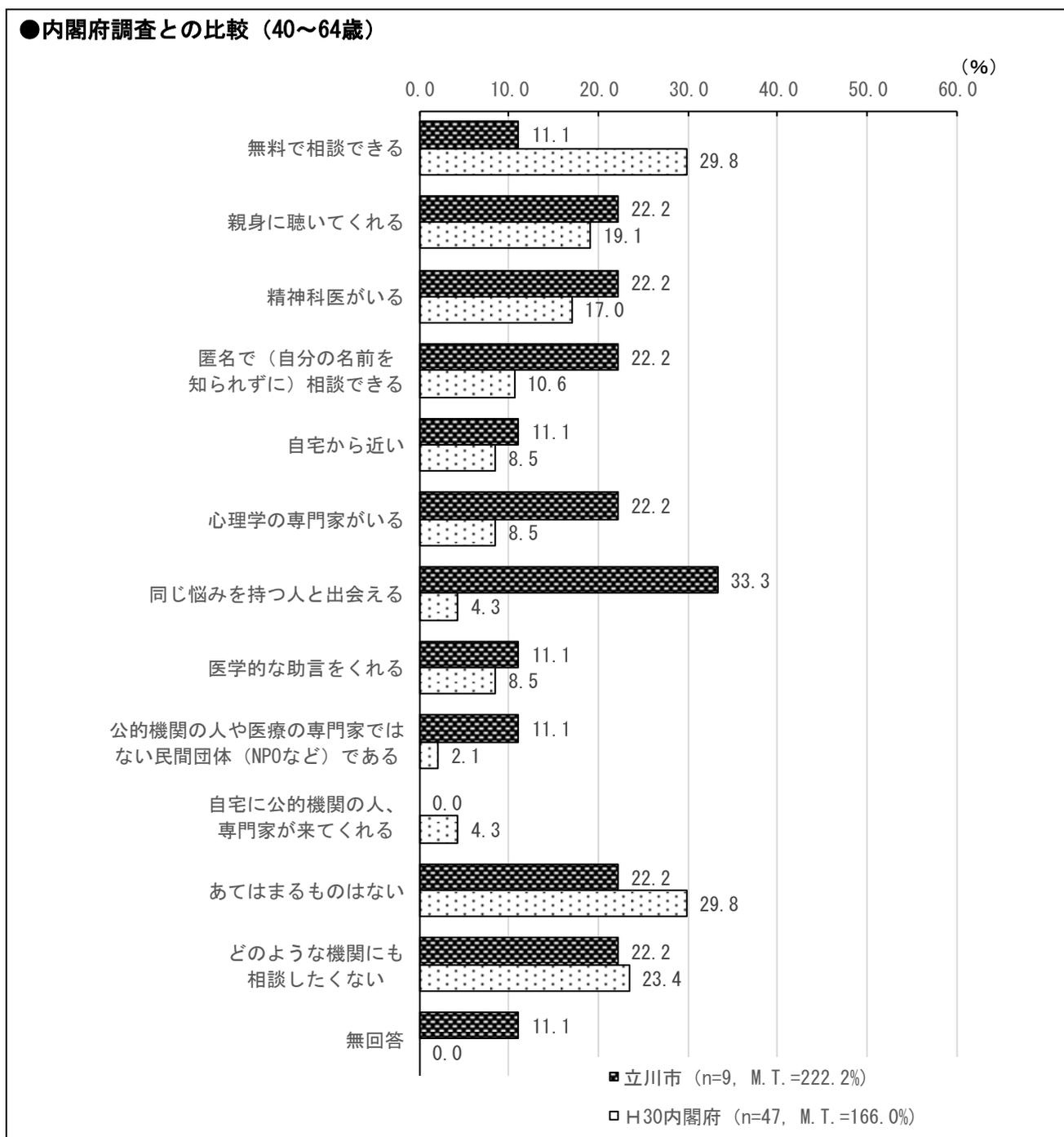
【Q17で「5～8」に○をつけた方のみ、Q18～Q27にお答えください。】

Q23 現在の状態について、関係機関に相談するとすれば、どのような機関なら、相談したいと思いますか。(○はいくつでも)



ひきこもりの状態をどのような機関なら相談したいかについては、「あてはまるものはない」(26.3%)と「どのような機関にも相談したくない」(21.1%)を除くと、「無料で相談できる」が26.3%と最も高く、次いで「親身に聴いてくれる」「精神科医がいる」「匿名で（自分の名前を知られずに）相談できる」「自宅から近い」（すべて21.1%）の順になっている。

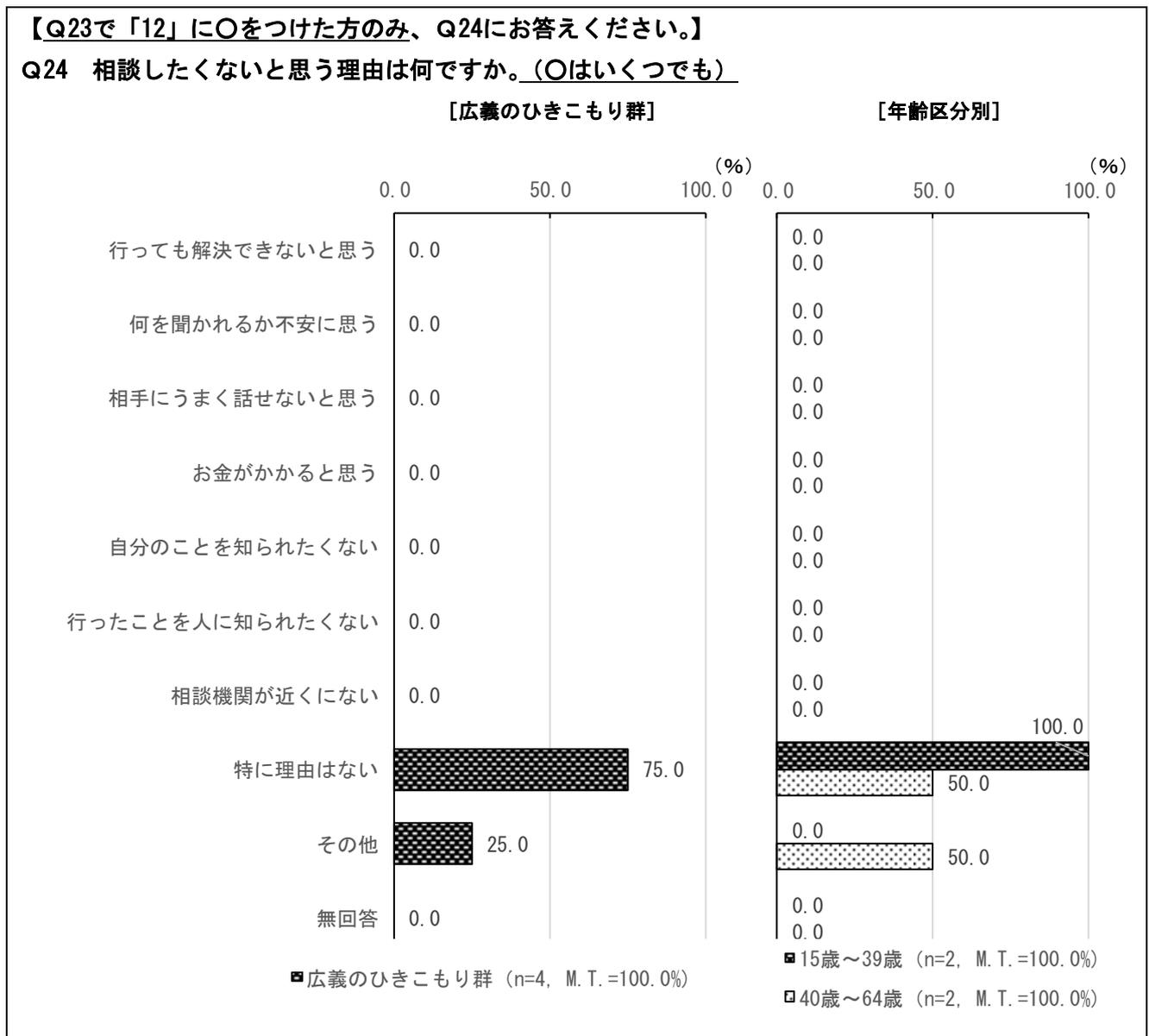
また、年齢区分別にみると、「15歳～39歳」では「無料で相談できる」(40.0%)、「自宅から近い」(30.0%)、「親身に聴いてくれる」「精神科医がいる」「匿名で相談できる」（すべて20.0%）の順になっているのに対して、「40歳～64歳」では「同じ悩みを持つ人と出会える」(33.3%)、「親身に聴いてくれる」「心理学の専門家がいる」「精神科医がいる」「匿名で相談できる」（すべて22.2%）の順になっている。



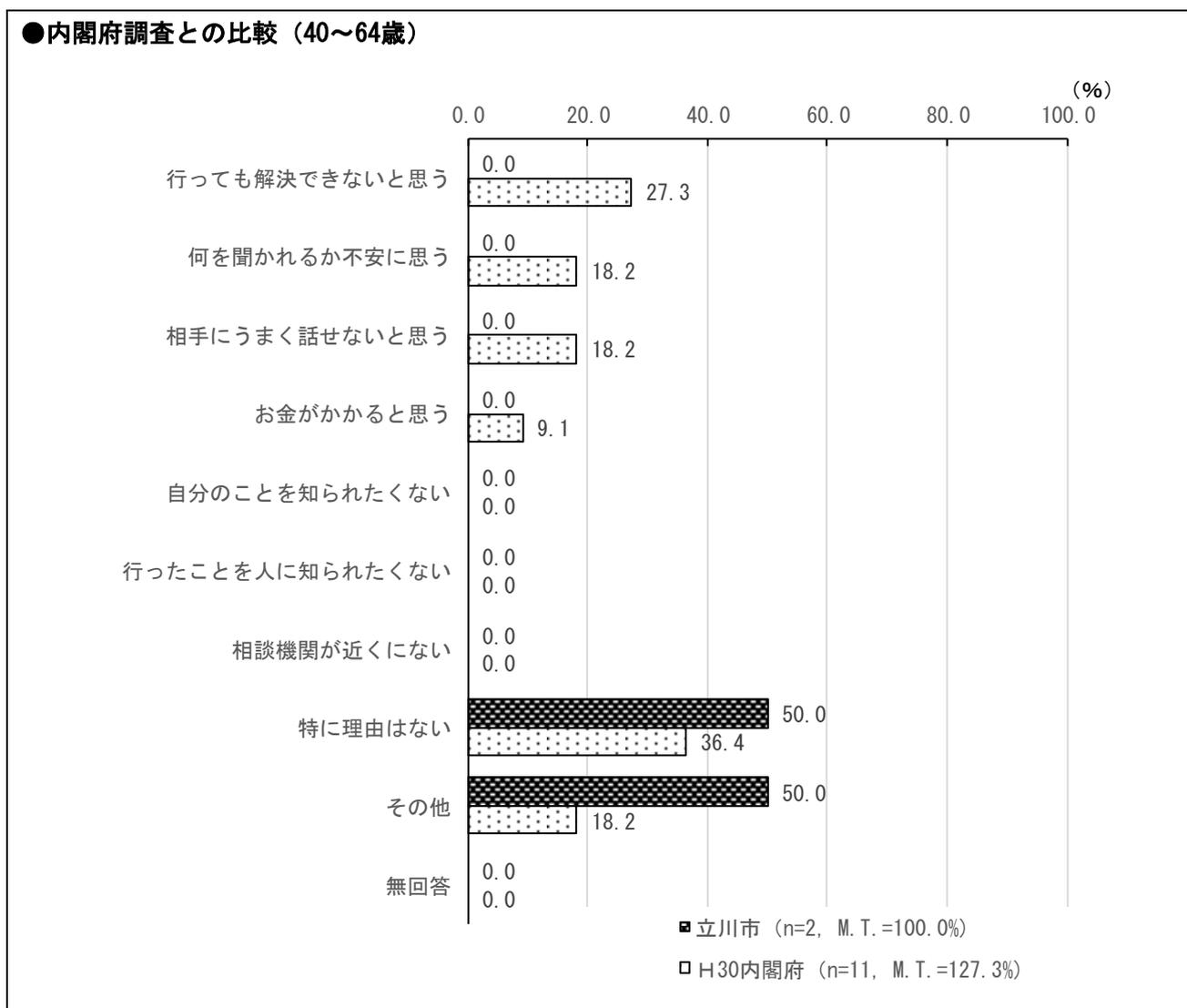
内閣府調査と比較すると、立川市では「同じ悩みを持つ人と出会える」（33.3%）、「親身に聴いてくれる」「心理学の専門家がいる」「精神科医がいる」「匿名で（自分の名前を知られずに）相談できる」「あてはまるものはない」「どのような機関にも相談したくない」（すべて22.2%）の順になっているのに対して、内閣府調査では「無料で相談できる」「あてはまるものはない」（ともに29.8%）、「どのような機関にも相談したくない」（23.4%）、「親身に聴いてくれる」（19.1%）、「精神科医がいる」（17.0%）の順になっている。

Ⅲ 調査の結果

24 相談したくない理由



相談したくない理由については、「特に理由はない」が75.0%、「その他」が25.0%となっている。
 また、年齢区分別にみると、「15歳～39歳」では「特に理由はない」が100.0%であるのに対して、「40歳～64歳」では「特に理由はない」が50.0%、「その他」が50.0%となっている。



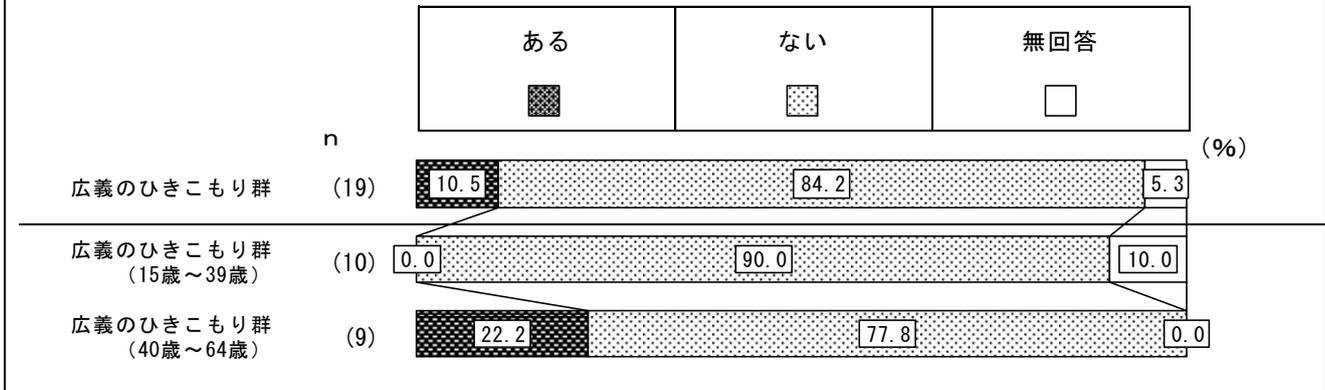
内閣府調査と比較すると、立川市では「特に理由はない」（50.0%）と「その他」（50.0%）のみの回答となっているのに対して、内閣府調査では「特に理由はない」（36.4%）、「行っても解決できないと思う」（27.3%）、「何を聞かれるか不安に思う」「相手にうまく話せないと思う」「その他」（すべて18.2%）の順になっている。

Ⅲ 調査の結果

25 関係機関に相談した経験

【Q17で「5～8」に○をつけた方のみ、Q18～Q27にお答えください。】

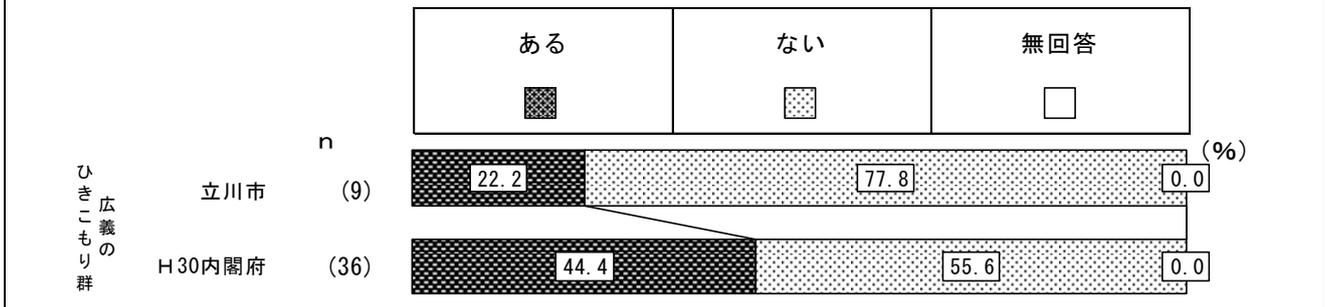
Q25 現在の状態について、関係機関に相談したことはありますか。(○はひとつだけ)



関係機関に相談した経験については、「ある」が10.5%となっている。

また、年齢区分別にみると、「15歳～39歳」では「ある」と回答した人がいなかったのに対して、「40歳～64歳」では「ある」が22.2%となっている。

●内閣府調査との比較 (40～64歳)

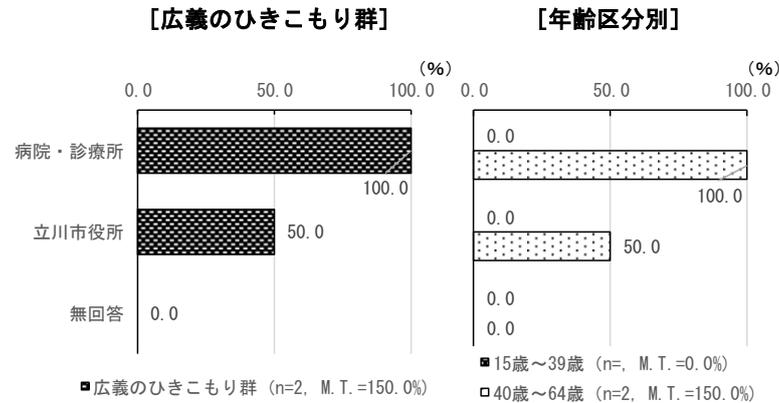


内閣府調査と比較すると、立川市では「ある」が22.2ポイント低くなっている。

26 相談した機関

【Q25で「1」に○をつけた方のみ、Q26～Q27にお答えください。】

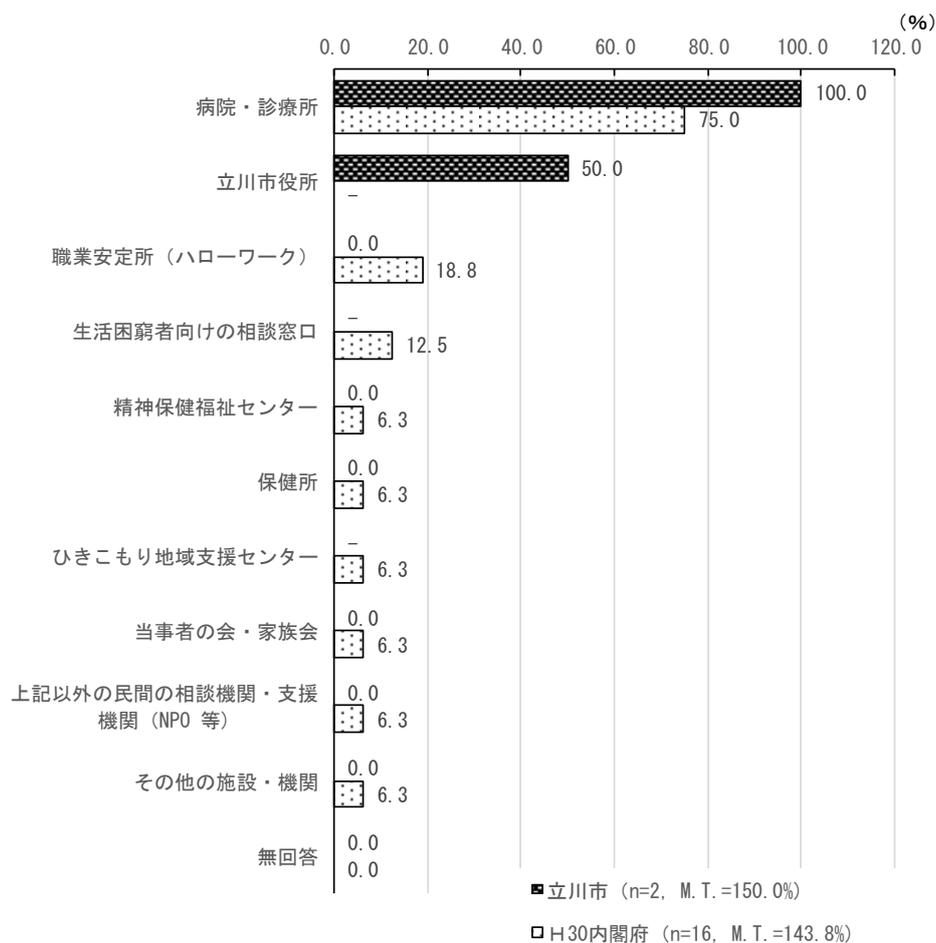
Q26 どのような相談機関等に相談しましたか。相談したことがある機関に○をつけてください。
 (○はいくつでも)



※回答者がいなかった項目については、上記の図表から除外している。

相談した機関については、「病院・診療所」が100.0%、「立川市役所」が50.0%となっている。

●内閣府調査との比較 (40～64歳)



※「立川市役所」は立川市のみ、「生活困窮者向けの相談窓口」「ひきこもり地域支援センター」内閣府調査のみの項目。

※「当事者の会・家族会」の項目について、立川市においては「立川市内の当事者の会・家族会」となっている。

内閣府調査と比較すると、「病院・診療所」が最も高い割合となっていることは共通しており、内閣府調査では続いて「職業安定所 (ハローワーク)」(18.8%)、「生活困窮者向けの相談窓口」(12.5%)の順になっている。

Ⅲ 調査の結果

27 相談した結果

【Q25で「1」に○をつけた方のみ、Q26～Q27にお答えください。】

Q27 相談機関に相談した結果について、どのようにお考えですか。ご自由にお書きください。

以下では回答の一部を抜粋した。なお、回答からは個人が特定できないよう加工している。

長年在宅介護をしているので、相談できる機関があるのはよかったです。一人で解決できることではないので。

評判の良い病院に親に連れていかれた。自分では探したりできなかった。同じくらいの年代の人が大勢いた。体調はだいぶ良くなった。しかし大金がかかった。

長期になると思うが、信頼できる機関でありこのまま通院は続けたい。

薬を飲んでから少し安定した気がする。サポートには不満、頼りがいがない。

いろいろな意見が参考になった。

有益な情報は得られなかった。

生活保護を受けられることになった。

何も解決されなかった。

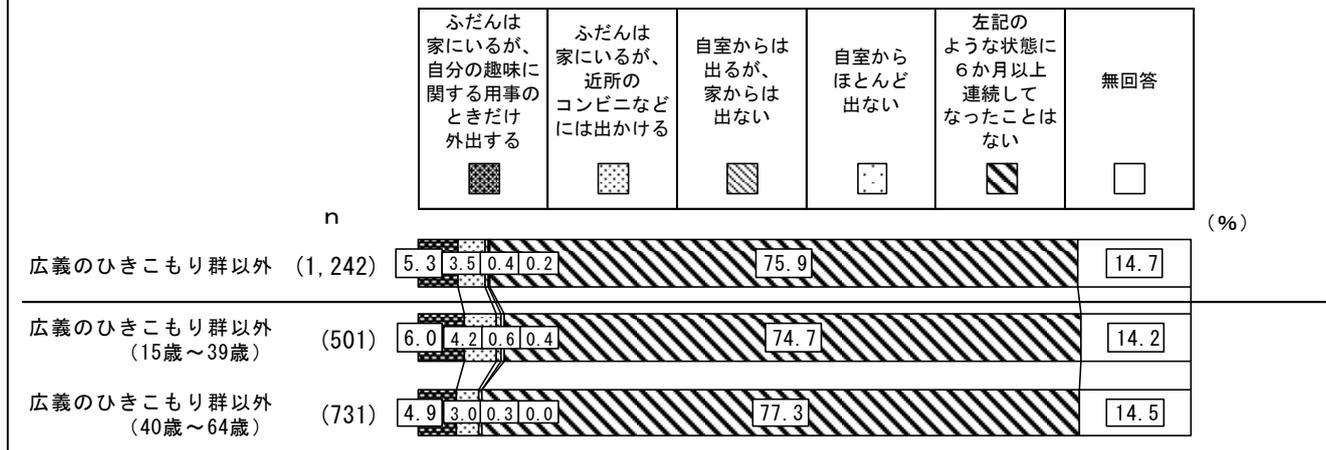
就労先について相談したが、行政機関が運営している機関はいい加減で怠慢なものばかりでやる気を踏みにじられた。

※Q28の設問は、過去に広義のひきこもり群であったと思われる人を定義するために使用した。

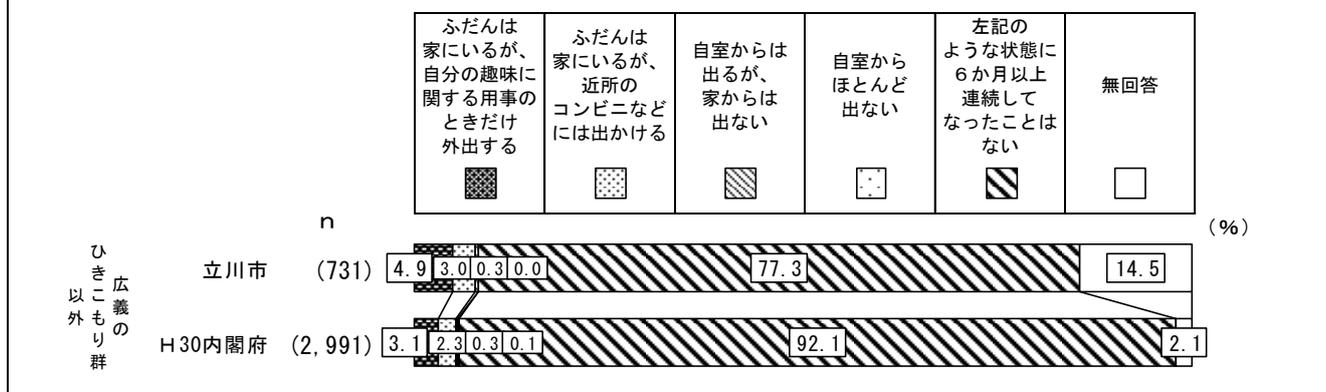
28 過去の外出頻度

【Q17で「1～4」に○をつけた方のみ、Q28にお答えください。】

Q28 あなたは、過去に6か月以上連続して、以下のような状態になったことはありますか。
(○はひとつだけ)



●内閣府調査との比較 (40～64歳)



内閣府調査と比較すると、大きな違いはみられない。

Ⅲ 調査の結果

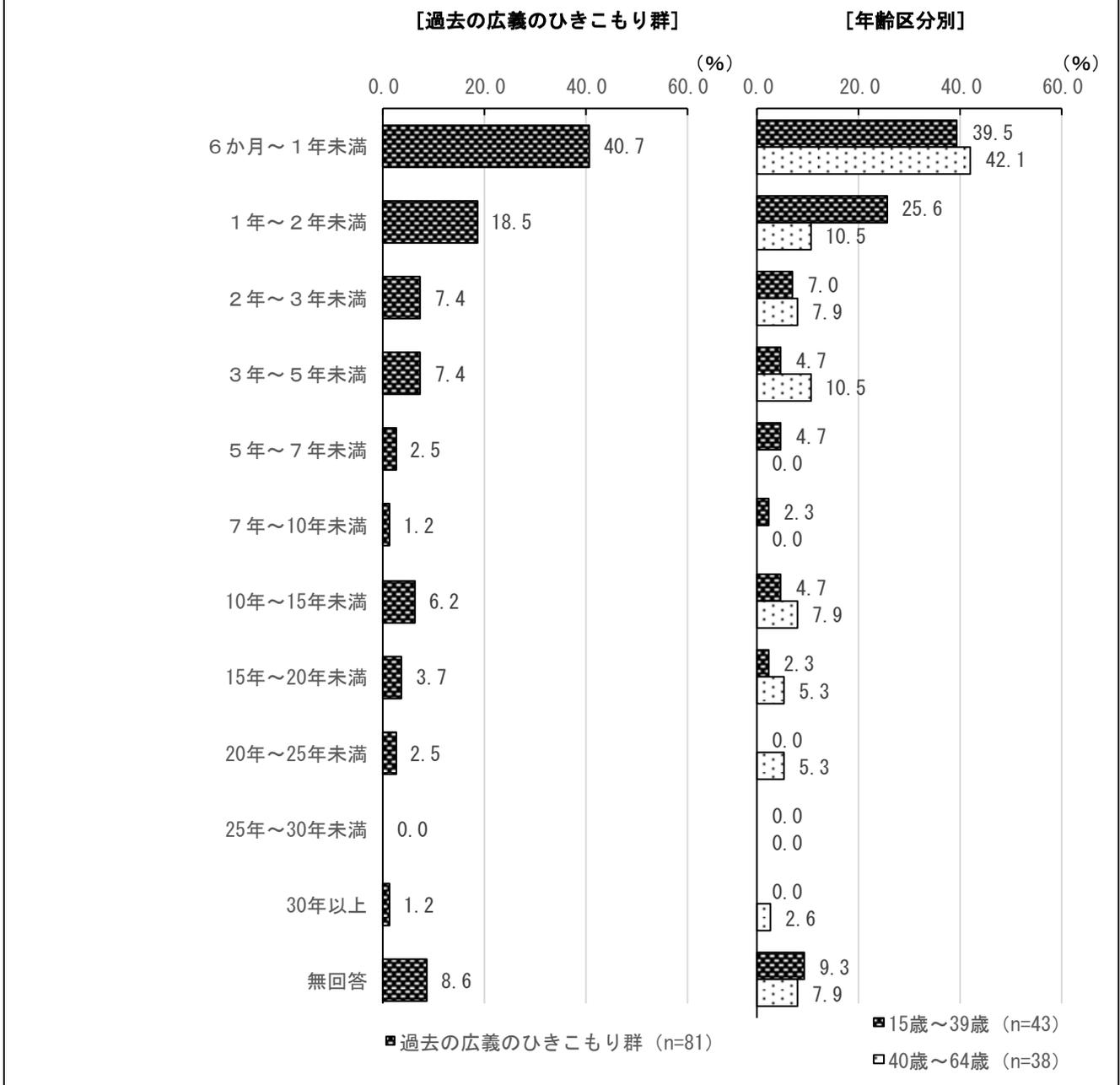
※Q29～Q32は、Q17において外出頻度が高かった人（Q17において1～4を選択した人）のみが回答する項目となっている。

本報告書では、その中でも過去に広義のひきこもり群であったと思われる人の結果について記載する。

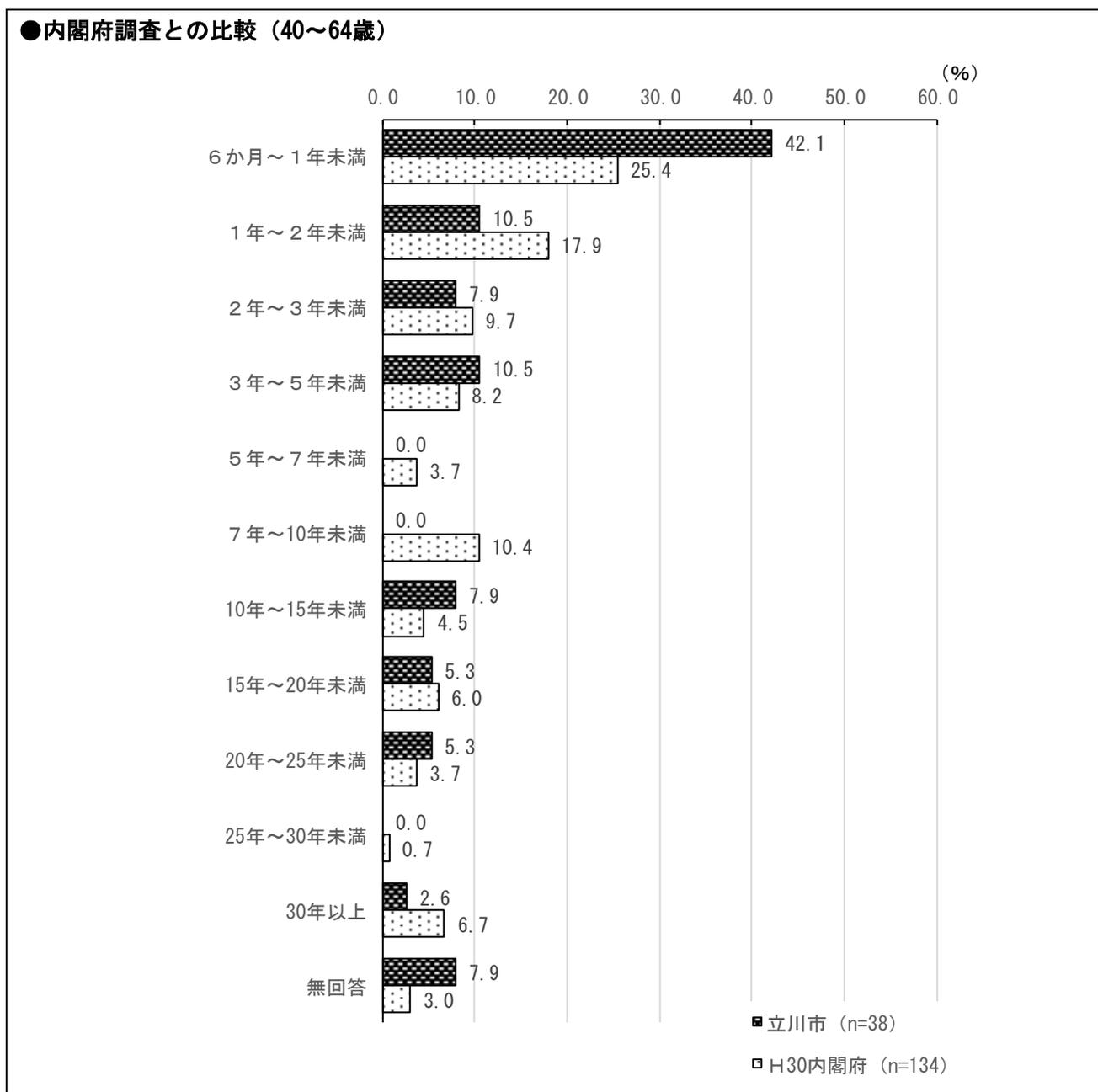
29 過去にひきこもりの状態だった期間

【Q28で「1～4」に○をつけた方のみ、Q29～Q32にお答えください。】

Q29 あなたのその状態はどれくらい続きましたか。(○はひとつだけ)



過去にひきこもりの状態だった期間については、「6か月～1年未満」の割合が40.7%と最も高く、次いで「1年～2年未満」(18.5%)、「2年～3年未満」「3年～5年未満」(ともに7.4%)の順になっている。

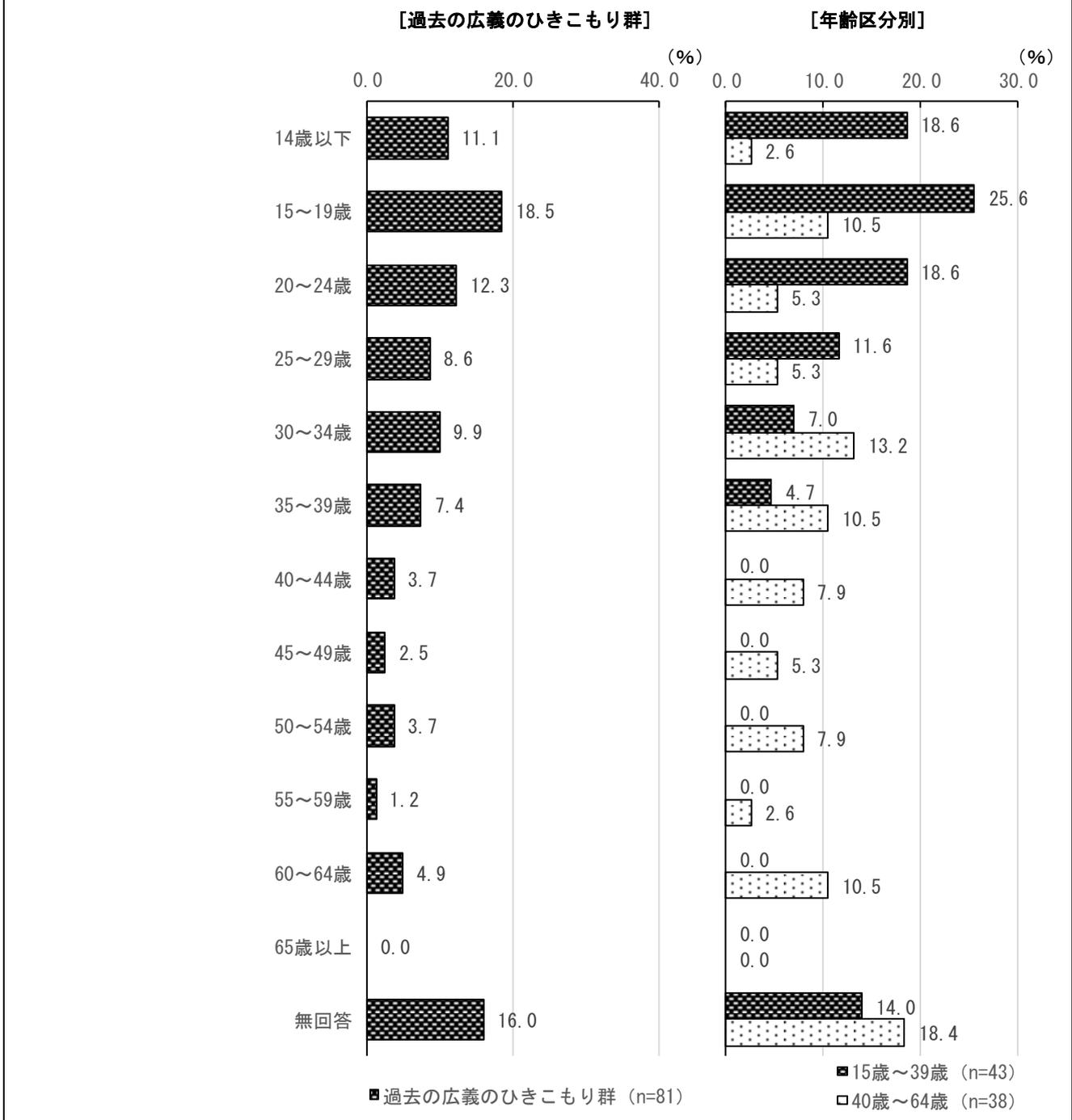


内閣府調査と比較すると、立川市では「6か月～1年未満」が内閣府調査よりも高い割合になっているのに対して、内閣府調査では「1年～2年未満」「7年～10年未満」が立川市よりも高い割合になっている。

30 過去に初めてひきこもりの状態になった年齢

【Q28で「1～4」に○をつけた方のみ、Q29～Q32にお答えください。】

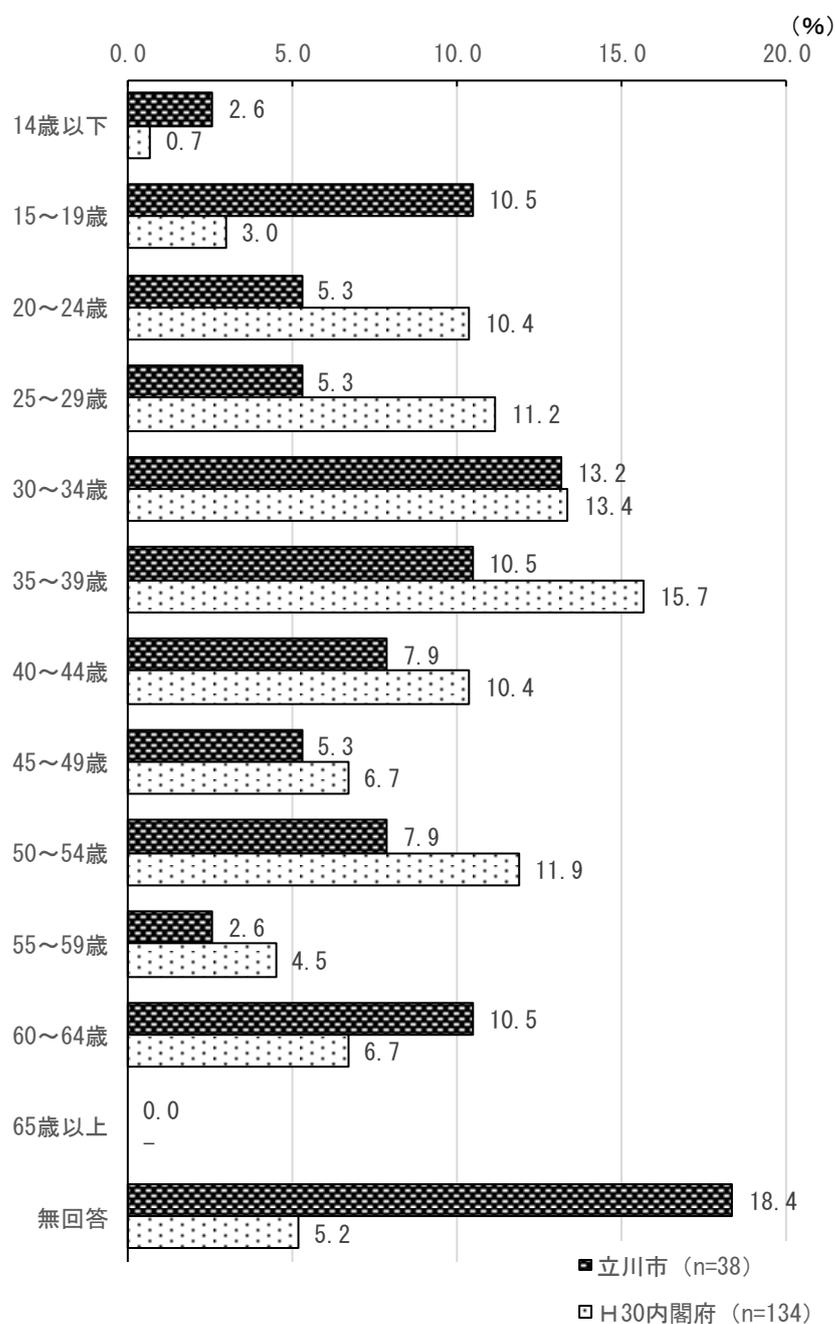
Q30 あなたが初めてその状態になったのは、何歳の頃ですか。(数字で具体的に)



過去に初めてひきこもりの状態になった年齢については、「15～19歳」が18.5%と最も高く、次いで「20～24歳」(12.3%)、「14歳以下」(11.1%)、「30～34歳」(9.9%)の順になっている。

また、年齢区分別にみると、「15歳～39歳」では「15～19歳」(25.6%)、「14歳以下」「20～24歳」(ともに18.6%)、「25～29歳」(11.6%)の順になっているのに対して、「40歳～64歳」では「30～34歳」(13.2%)、「15～19歳」「35～39歳」「60～64歳」(すべて10.5%)の順になっている。

●内閣府調査との比較 (40～64歳)



※「65歳以上」の項目は立川市のみ

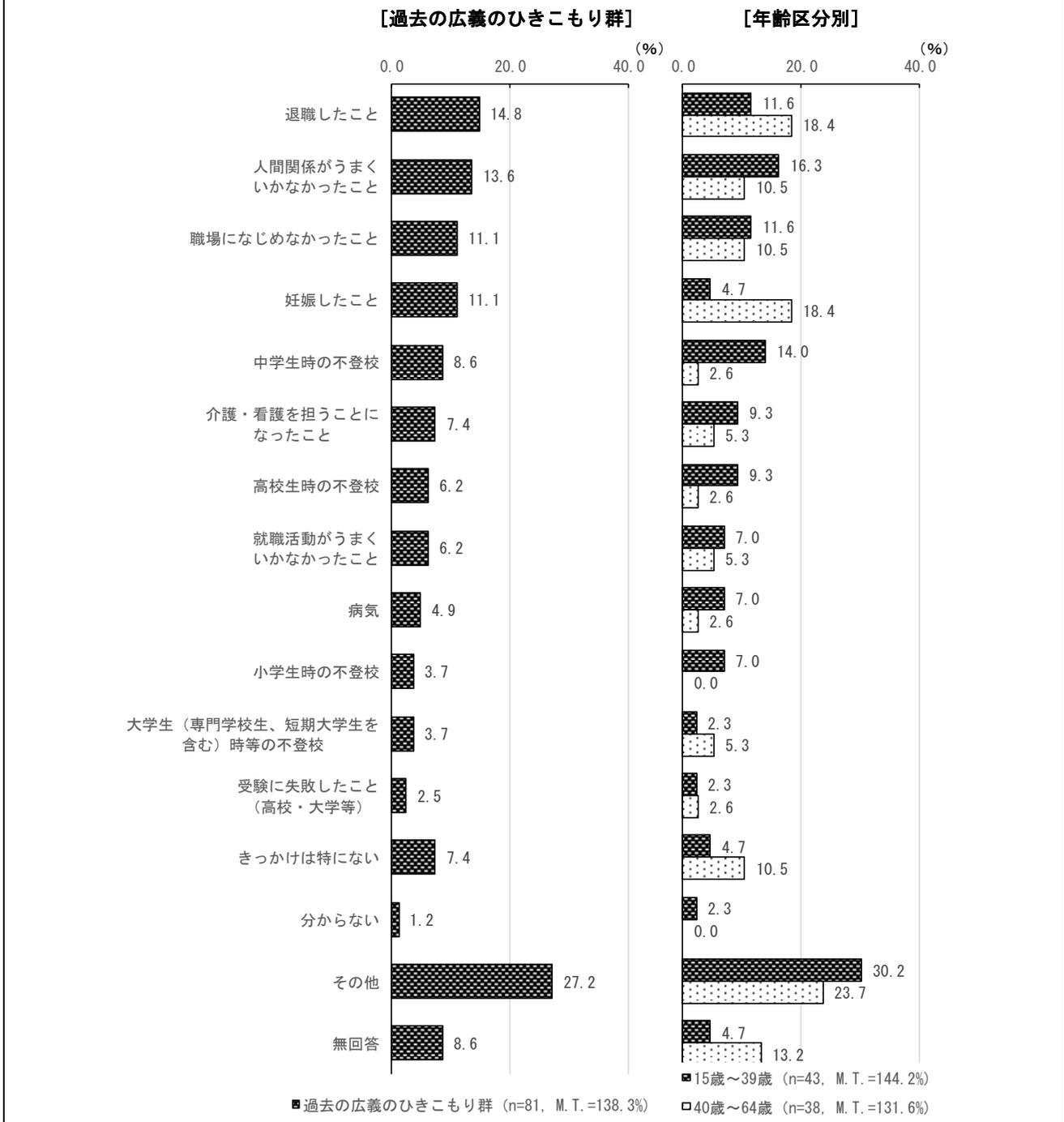
無回答を除いて内閣府調査と比較すると、19歳以下および「60～64歳」は立川市の方が、20歳から59歳までは内閣府調査の方が、それぞれ高い割合となっている。

Ⅲ 調査の結果

31 過去にひきこもりの状態になったきっかけ

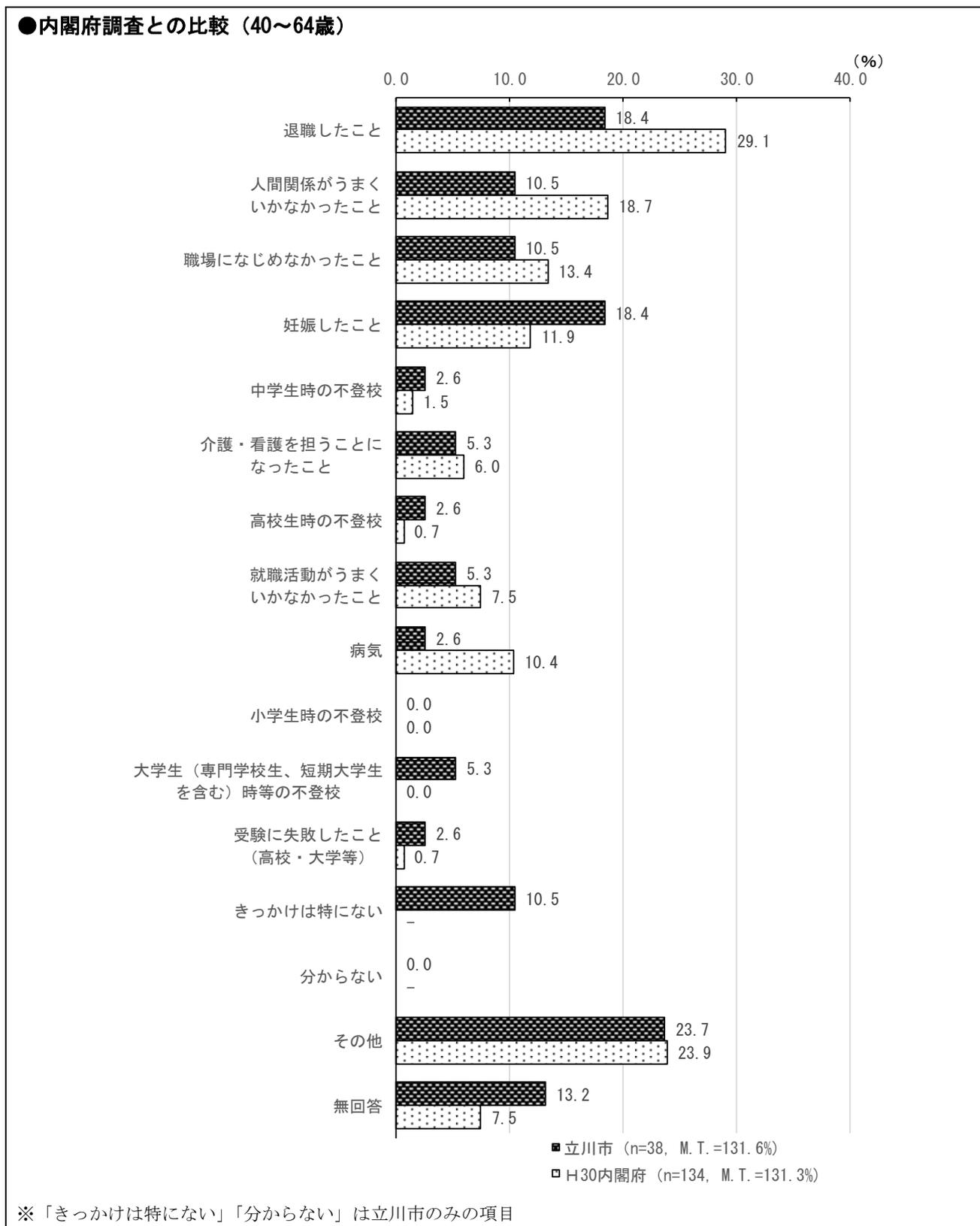
【Q28で「1～4」に○をつけた方のみ、Q29～Q32にお答えください。】

Q31 あなたがその状態になったきっかけは何でしたか。(○はいくつでも)



過去にひきこもりの状態になったきっかけについては、「その他」(27.2%)、「退職したこと」(14.8%)、「人間関係がうまくいかなかったこと」(13.6%)、「職場になじめなかったこと」「妊娠したこと」(ともに11.1%)の順になっている。

また、年齢区分別にみると、「15歳～39歳」では「その他」(30.2%)、「人間関係がうまくいかなかったこと」(16.3%)、「中学生時の不登校」(14.0%)、「職場になじめなかったこと」「退職したこと」(ともに11.6%)の順になっているのに対して、「40歳～64歳」では「その他」(23.7%)、「妊娠したこと」「退職したこと」(ともに18.4%)、「職場になじめなかったこと」「人間関係がうまくいかなかったこと」「きっかけは特にない」(すべて10.5%)の順になっている。



「その他」および無回答を除いて内閣府調査と比較すると、立川市では「妊娠したこと」「退職したこと」（ともに18.4%）、「職場になじめなかったこと」「人間関係がうまくいかなかったこと」「きっかけは特にない」（すべて10.5%）の順になっているのに対して、内閣府調査では「退職したこと」（29.1%）、「人間関係がうまくいかなかったこと」（18.7%）、「職場になじめなかったこと」（13.4%）、「妊娠したこと」（11.9%）の順になっている。

Ⅲ 調査の結果

32 ひきこもりの状態ではなくなったきっかけや役立ったこと

【Q28で「1～4」に○をつけた方のみ、Q29～Q32にお答えください。】

Q32 あなたが、その状態から、Q17で回答した現在の状態になったきっかけや役立ったことは何だと思えますか。ご自由にお書きください。

以下では回答の一部を抜粋し、ひきこもりの状態ではなくなったきっかけや役立ったこと別に分類した。なお、回答からは個人が特定できないよう加工している。

<就職・転職>

コロナ感染人数がおさまった。バイトが決まった。
コロナが流行したから、リフレッシュ休み
仕事をやめた事、パート、アルバイトを探しているが、なかなかみつからない為
1つ、やりがいのある仕事を見つけて、就職したこと。祖父母の介護→介護職へ。1つ、友人など人に会うため。1つ、自宅での学習では身が入らず、外で勉強するようになった。
コロナで仕事が減少したが最近仕事も徐々に戻りつつあるので仕事のできるありがたみを感じている
友人の助言、派遣社員への登録、就労。自信をつけることができた。
何とか公務員試験に合格でき就職できたこと。
就労支援を受けた事
とりあえず好きな事の事について
少し疲れたし、もう40年近く働いたので少しゆっくりしようと思って退職したので、特に何も困ってないし、やりたいことをやっている。
今の会社に就職した事
新しい会社に就職した。
就職が決まったから
立川若者サポートステーションに参加し相談したり、後おししてもらった事
仕事自体は好きで、ゆっくりとでも続けられたこと。
待ち続けてくれた仕事相手がいたこと。
職が見つかったこと
就職
コロナの感染減少、ハローワークやネット求人の利用

<家族・友人>

年令に合った社会活動が出来る事を希望する気持ちを失わない様努めた。又、母が常に前向きになる様にはげましてくれた事
体調がよくなったこと。家族の支えや友人が気にかけてくれたこと。新型コロナで自粛中は、友人とオンラインで話をするのが楽しみでした。
支えてくれる友人・知人・支援者との出会い。両親のサポート

外に連れ出してくれる友人が出来たこと
それまで母子家庭で母親を独り占めできていたが、再婚し、自分だけを見てくれなくなった。また、こちらが今自分はこういう状態だからとすすめた本を読んでくれなかった。体裁ばかりで自分を真に理解しようとしていたのか疑問だった。
不登校を乗り切ったのは、①親の期待を裏切ること、②親に理解してもらうことを諦めることで、③今自分がしたいことを優先すること、で何とか乗り切った。
新しい環境で新しい友達が出来たこと

<医療>

時間による病気（うつ病）の回復
手術後の治療、患者会の存在、ピアサポートの集まり
・婦人科でホルモン治療。・介護一人ではなく妹の協力あった。・ダブルワークの為もう1つ仕事があった。・自分の症状にあったサプリに出会った。
通院投与、長期休暇

<自身の変化>

ゆっくり休養できた事、経済的な心配をしなくて済んだ事。自分の得意分野の仕事の話をいただけた事です。
妊娠をして、仕事をやめた
地方からの転居
大学への進学
大学を退学し、受験しなおしたこと。
ある日、突然「このままではいけない！」と思い致って部屋を掃除し、アルバイトを探し始めましたが、きっかけはわかりません。強いて言うなら、時間が色々なものを無意識に気付かせてくれたのかも知れません。
親はいつか死ぬことに気づいたこと。経済的な甘えがなくなれば自分で立たざるを得ないから焦り。
家庭環境の変化
社会復帰できるようになるまで、しばらく心身ともに健全な状態に戻すための休養期間をつくった。
まずはとにかく休んで心を回復させる。何でも良いのでやってみたいことにトライする。習いごとなど定期的な予定をつくる。働ける自信がついてきたら、就職活動を始めてみる→入社。
高校に通学して環境が変わったから
行かないと単位貰えないので……
外でしかできないことが分かるようになった。
今の学校で役立つ事が身についた

Ⅲ 調査の結果

きっかけ：20歳になったときに、20歳ほど年上の方に、これからどうするつもりなの？と聞かれて何も答えられない自分がいて、将来のことを考えるきっかけをもらいました。考えた結果、自分には勉強が必要と判断し、大学入学に向けて勉強を始めたことが、今会社員として働くことができているきっかけです。

役立ったこと：どん底を経験しているので、多少のことでは落ち込むことはありません。結果的にメンタルはかなり強くなりました。また、最近在宅ワークが多いですが、元々家にずっといる生活を経験してるので、在宅が続く事によるストレスはありません。

離婚した時に解放された

生活の為

<趣味>

両親姉兄の支え。運動、自己啓発系の書籍、健康的な食事。お笑い、バラエティ番組

趣味以外で外に出る理由がない

<新型コロナウイルス感染症（コロナ禍）>

・コロナが落ち着いてきたこと・自身や周囲がワクチンを打ったこと

感染者数の減少

コロナが落ち着いたから

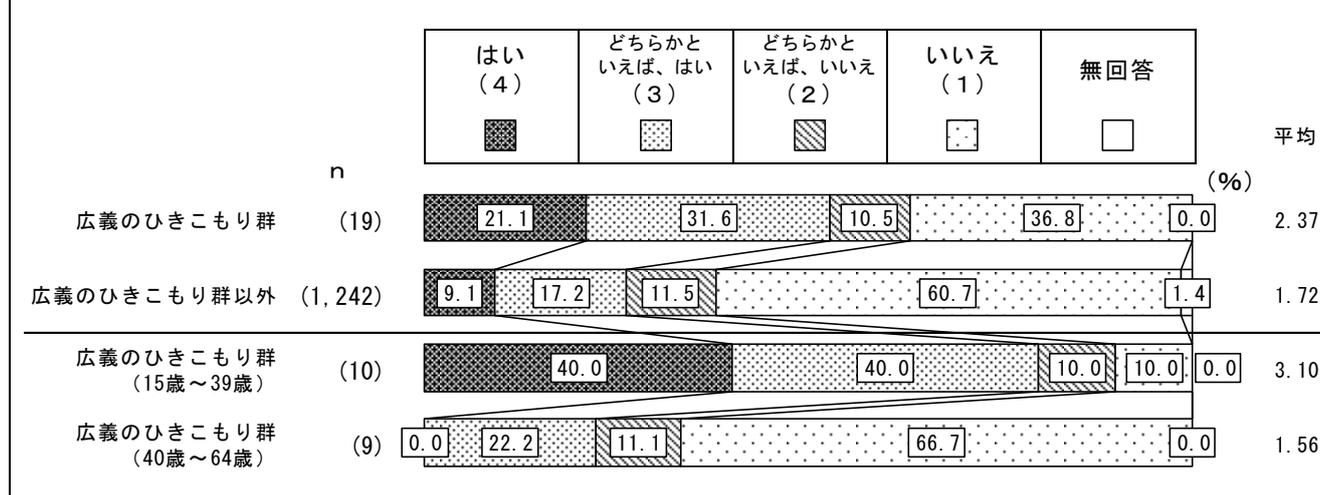
33 自身にあてはまること

【Q33～Q39はすべての方がお答えください。】

Q33 次にあげられたことについて、あなた自身にあてはまるものに○をつけてください。

(○は各項目につき、ひとつ)

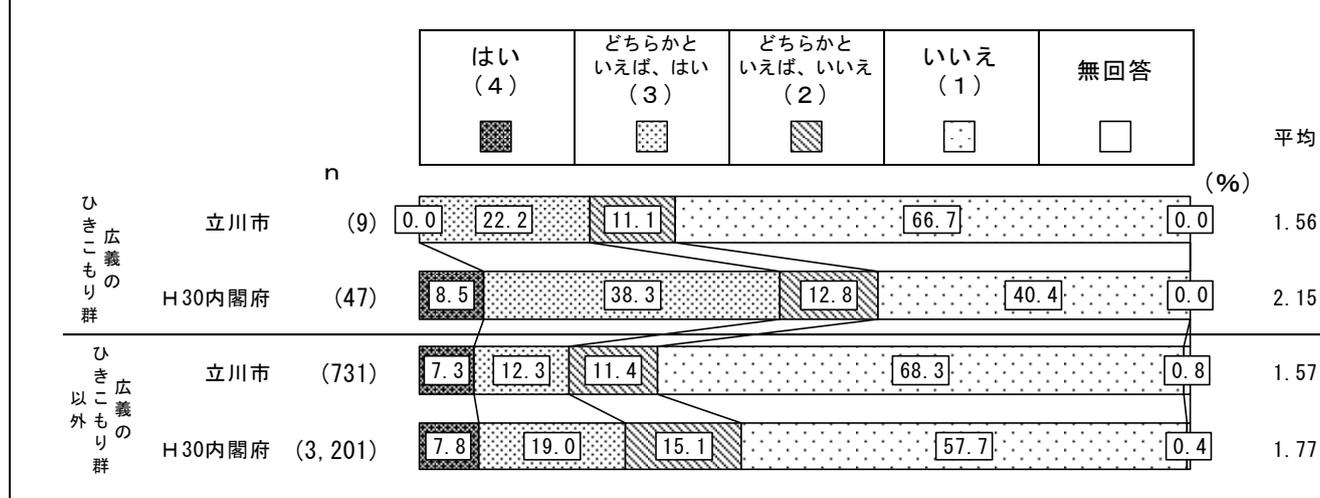
(1) 身の回りのことは家族がしている



『身の回りのことは家族がしている』について、『はい』（「はい」＋「どちらかといえば、はい」）は広義のひきこもり群で52.6%、広義のひきこもり群以外で26.3%と、広義のひきこもり群の方が26.3ポイント高くなっている。

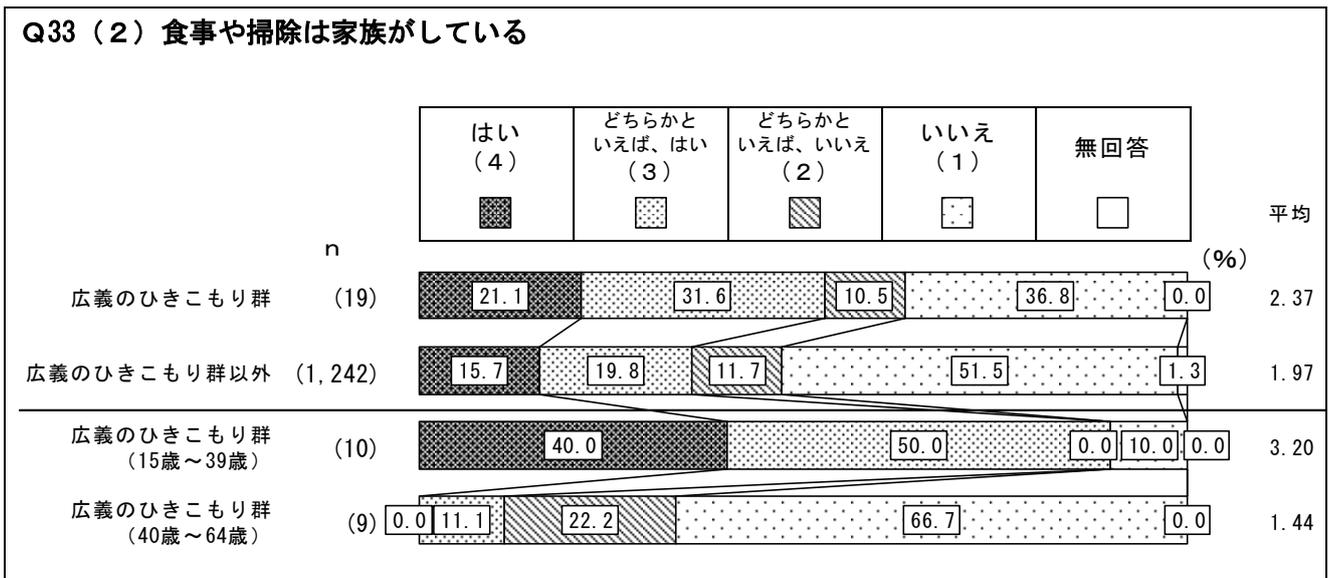
また、広義のひきこもり群について年齢区別にみると、『はい』（「はい」＋「どちらかといえば、はい」）は「15歳～39歳」で80.0%、「40～64歳」で22.2%と、「15歳～39歳」の方が57.8ポイント高くなっている。

●内閣府調査との比較 (40～64歳)



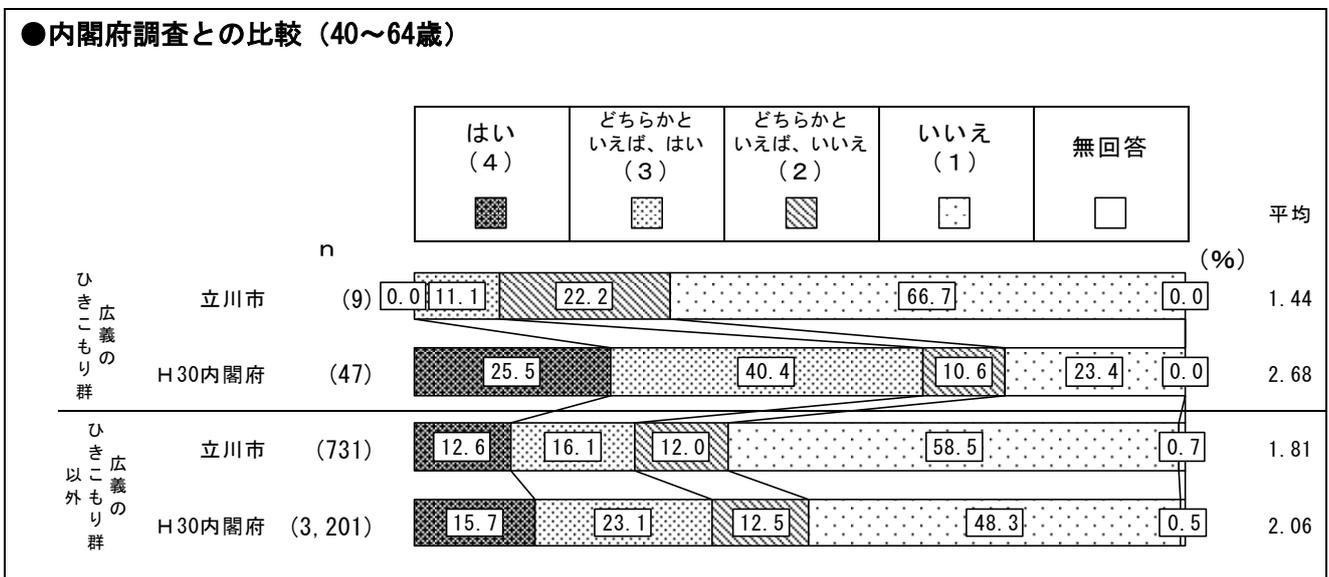
内閣府調査と比較すると、広義のひきこもり群において、『はい』（「はい」＋「どちらかといえば、はい」）は立川市で22.2%、内閣府調査で46.8%と、立川市の方が24.6ポイント低くなっている。

Ⅲ 調査の結果



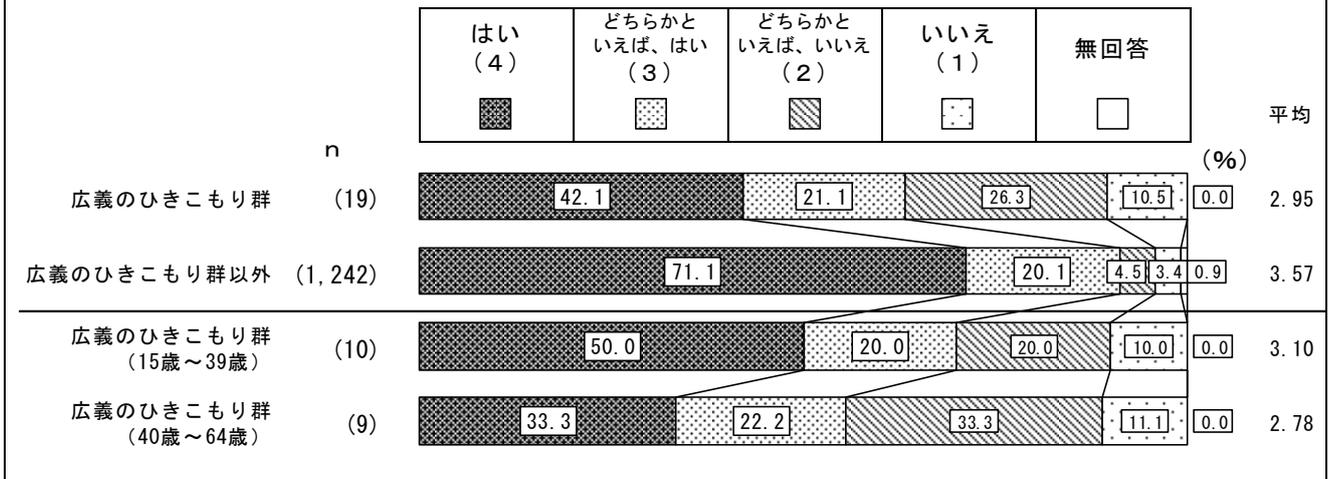
『食事や掃除は家族がしている』について、『はい』（「はい」＋「どちらかといえば、はい」）は広義のひきこもり群で52.6%、広義のひきこもり群以外で35.5%と、広義のひきこもり群の方が17.1ポイント高くなっている。

また、広義のひきこもり群について年齢区別にみると、『はい』（「はい」＋「どちらかといえば、はい」）は「15歳～39歳」で90.0%、「40～64歳」で11.1%と、「15歳～39歳」の方が78.9ポイント高くなっている。



内閣府調査と比較すると、広義のひきこもり群において、『はい』（「はい」＋「どちらかといえば、はい」）は立川市で11.1%、内閣府調査で66.0%と、立川市の方が54.9ポイント低くなっている。

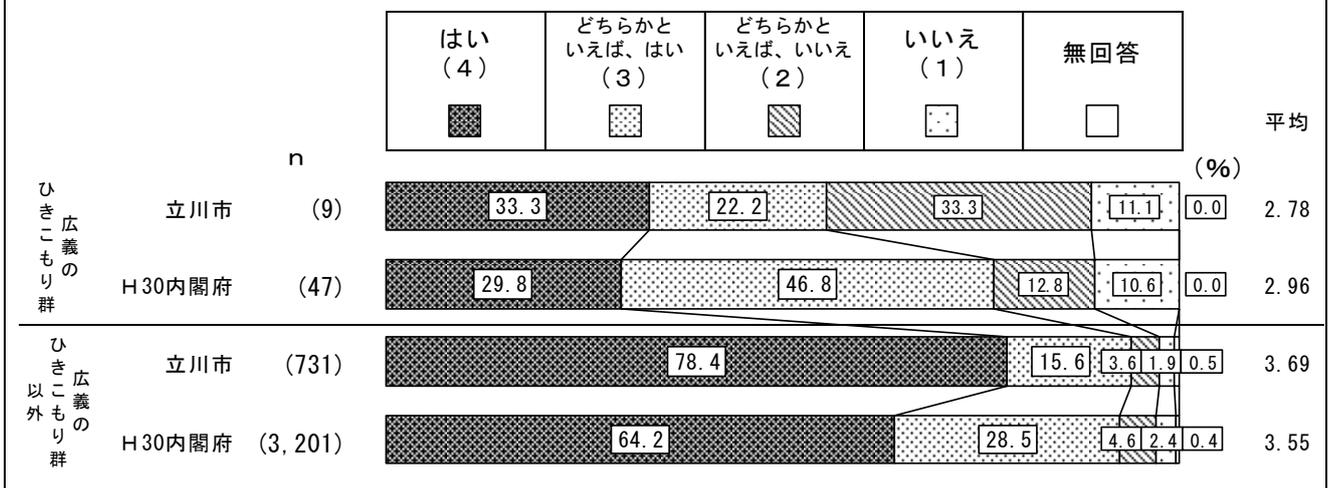
Q33 (3) 朝、決まった時間に起きられる



『朝、決まった時間に起きられる』について、『いいえ』（「いいえ」＋「どちらかといえばいいえ」）は広義のひきこもり群で36.8%、広義のひきこもり群以外で7.9%と、広義のひきこもり群の方が28.9ポイント高くなっている。

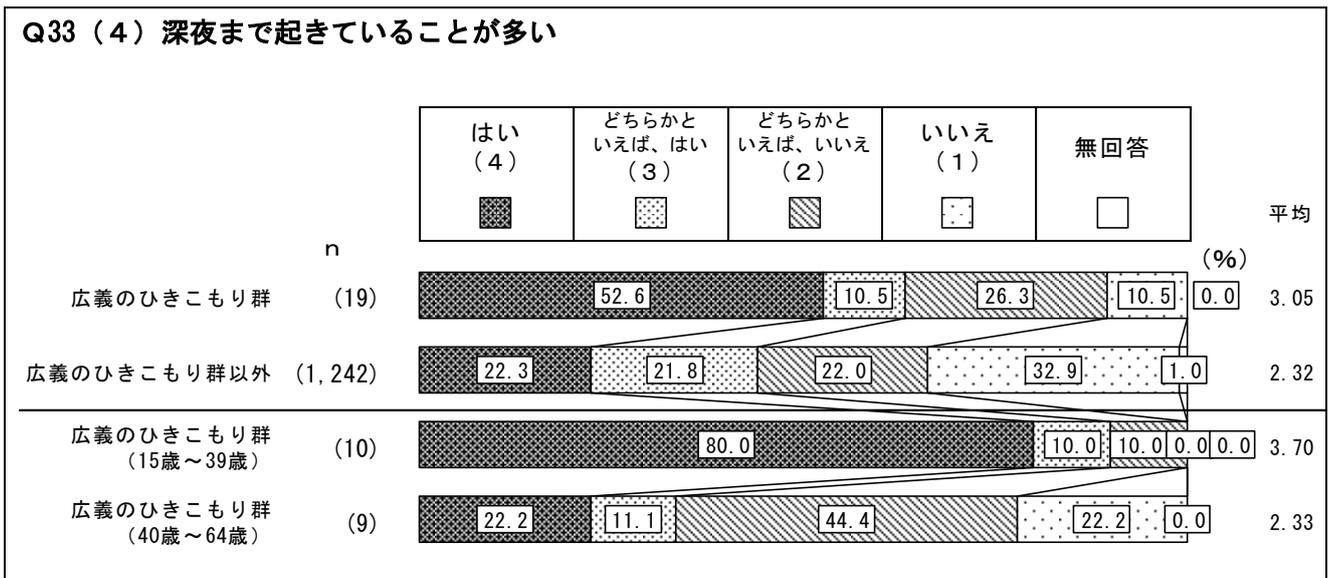
また、広義のひきこもり群について年齢区分別にみると、『いいえ』（「いいえ」＋「どちらかといえばいいえ」）は「15歳～39歳」で30.0%、「40～64歳」で44.4%と、「15歳～39歳」の方が14.4ポイント低くなっている。

●内閣府調査との比較（40～64歳）



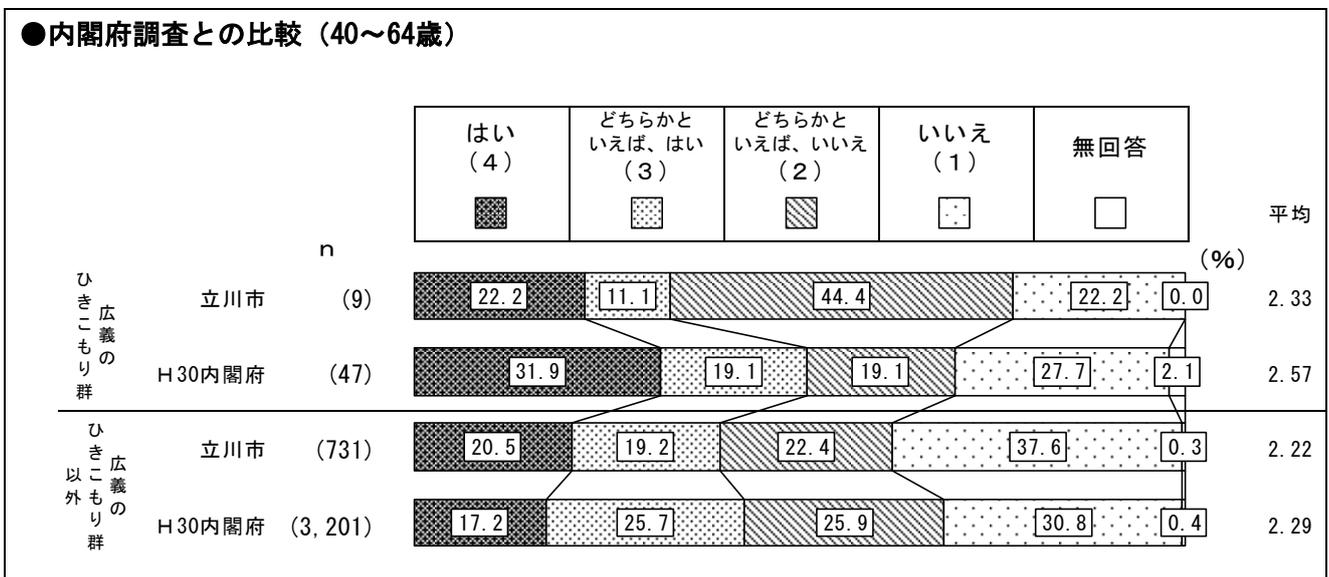
内閣府調査と比較すると、広義のひきこもり群において、『いいえ』（「いいえ」＋「どちらかといえばいいえ」）は立川市で44.4%、内閣府調査で23.4%と、立川市の方が21.0ポイント高くなっている。

Ⅲ 調査の結果



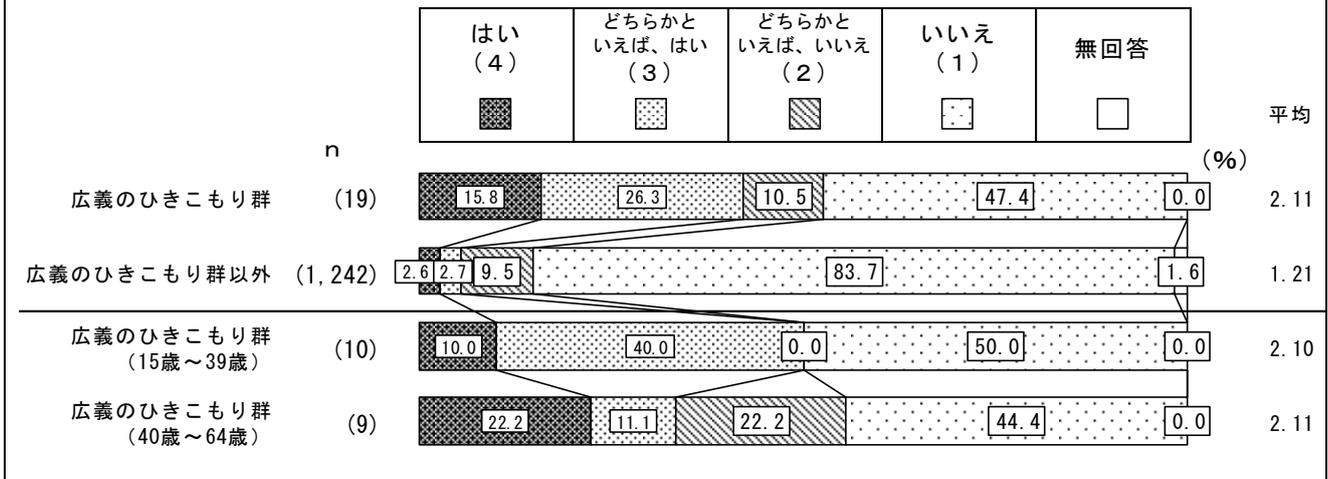
『深夜まで起きていることが多い』について、『はい』（「はい」＋「どちらかといえば、はい」）は広義のひきこもり群で63.2%、広義のひきこもり群以外で44.1%と、広義のひきこもり群の方が19.1ポイント高くなっている。

また、広義のひきこもり群について年齢区別にみると、『はい』（「はい」＋「どちらかといえば、はい」）は「15歳～39歳」で90.0%、「40～64歳」で33.3%と、「15歳～39歳」の方が56.7ポイント高くなっている。



内閣府調査と比較すると、広義のひきこもり群において、『はい』（「はい」＋「どちらかといえば、はい」）は立川市で33.3%、内閣府調査で51.1%と、立川市の方が17.8ポイント低くなっている。

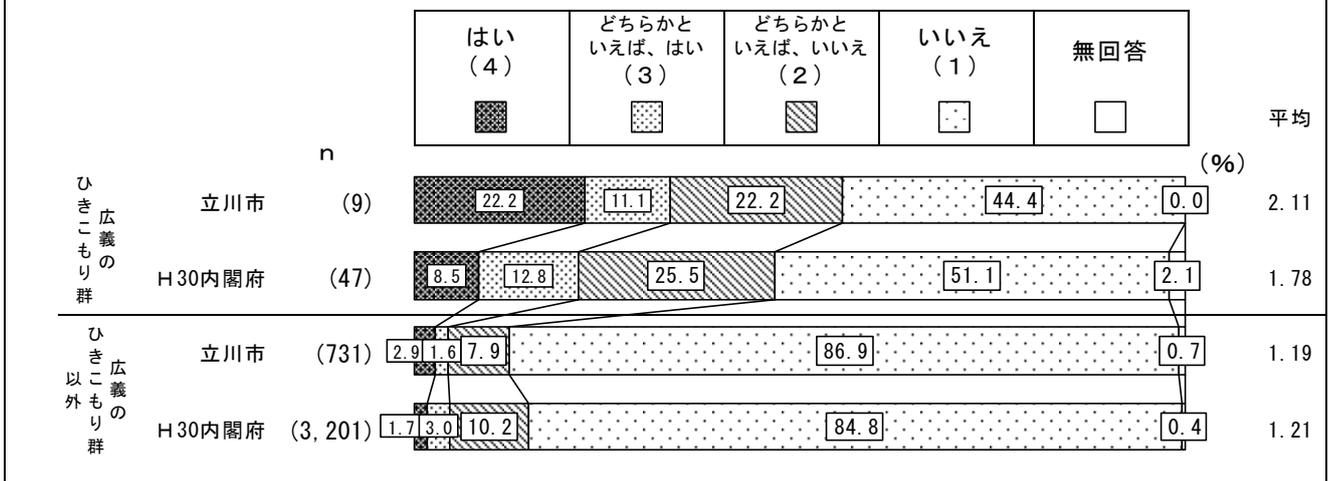
Q33 (5) 昼夜逆転の生活をしている



『昼夜逆転の生活をしている』について、『はい』（「はい」＋「どちらかといえば、はい」）は広義のひきこもり群で42.1%、広義のひきこもり群以外で5.2%と、広義のひきこもり群の方が36.9ポイント高くなっている。

また、広義のひきこもり群について年齢区別にみると、『はい』（「はい」＋「どちらかといえば、はい」）は「15歳～39歳」で50.0%、「40～64歳」で33.3%と、「15歳～39歳」の方が16.7ポイント高くなっている。

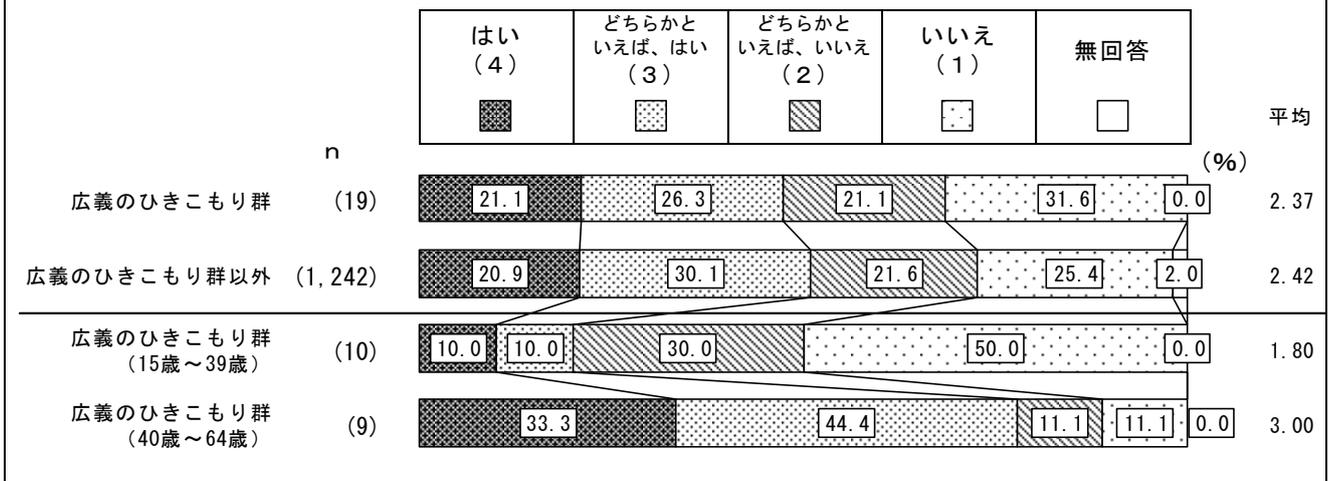
●内閣府調査との比較 (40～64歳)



内閣府調査と比較すると、広義のひきこもり群において、『はい』（「はい」＋「どちらかといえば、はい」）は立川市で33.3%、内閣府調査で21.3%と、立川市の方が12.0ポイント高くなっている。

Ⅲ 調査の結果

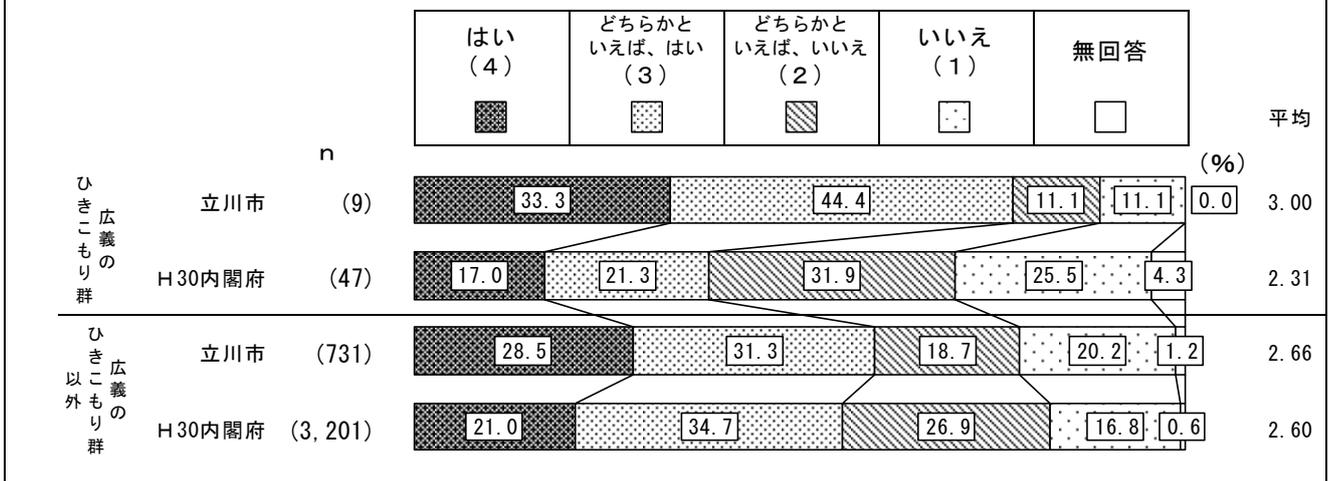
Q33 (6) 新聞の政治や経済・社会報道によく目を通す



『新聞の政治や経済・社会報道によく目を通す』について、『いいえ』（「いいえ」＋「どちらかといえればいいえ」）は広義のひきこもり群で52.6%、広義のひきこもり群以外で47.0%と、広義のひきこもり群の方が5.6ポイント高くなっている。

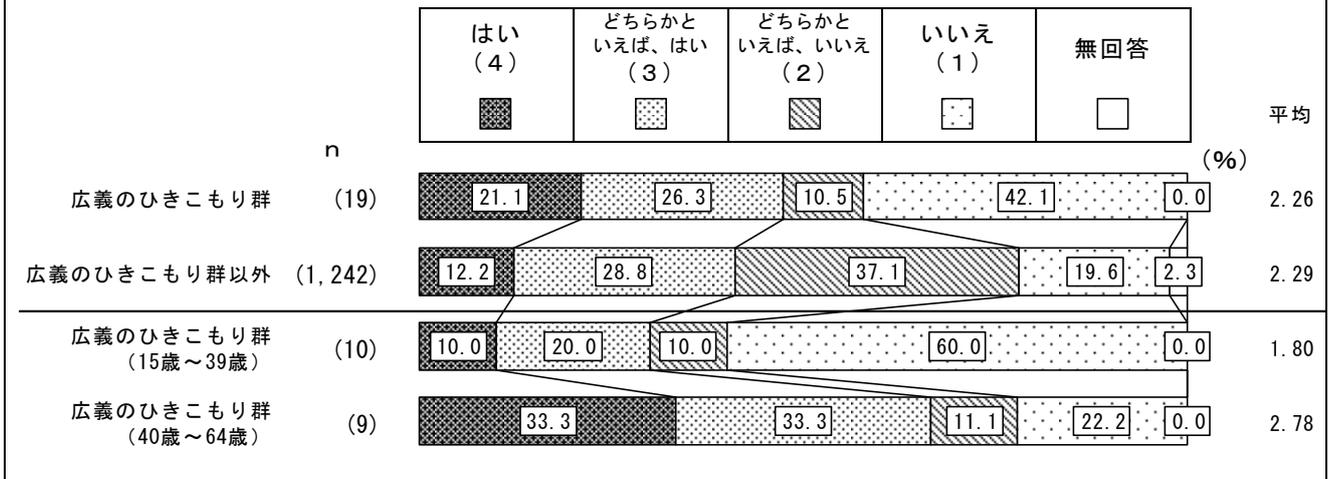
また、広義のひきこもり群について年齢区分別にみると、『いいえ』（「いいえ」＋「どちらかといえればいいえ」）は「15歳～39歳」で80.0%、「40～64歳」で22.2%と、「15歳～39歳」の方が57.8ポイント高くなっている。

●内閣府調査との比較 (40～64歳)



内閣府調査と比較すると、広義のひきこもり群において、『いいえ』（「いいえ」＋「どちらかといえればいいえ」）は立川市で22.2%、内閣府調査で57.4%と、立川市の方が35.2ポイント低くなっている。

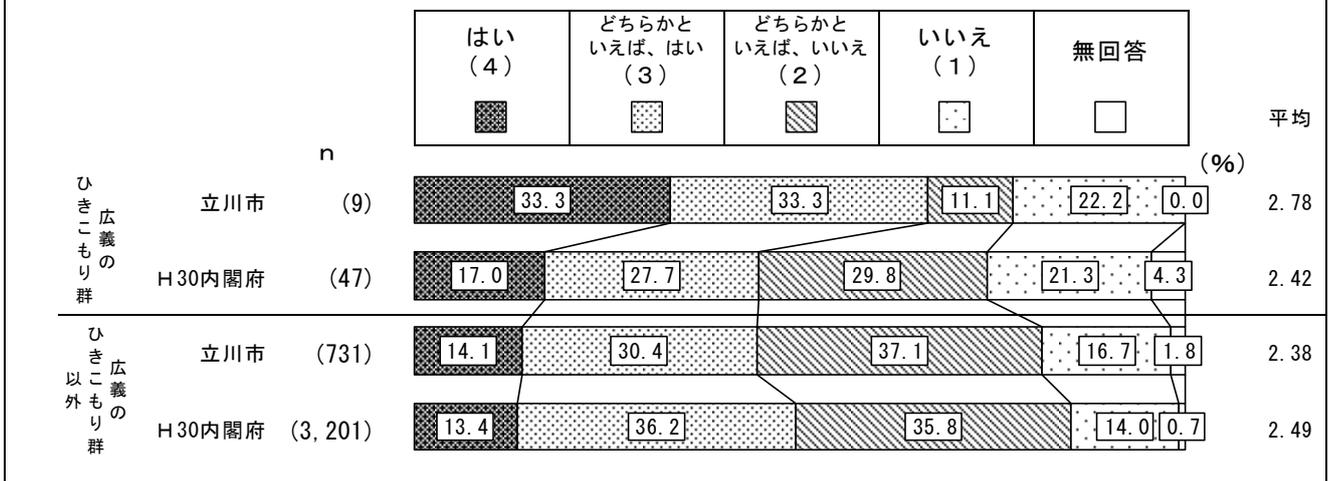
Q33 (7) 自分の周辺には理不尽と思うことがたくさんある



『自分の周辺には理不尽と思うことがたくさんある』について、『はい』（「はい」＋「どちらかといえば、はい」）は広義のひきこもり群で47.4%、広義のひきこもり群以外で41.1%と、広義のひきこもり群の方が6.3ポイント高くなっている。

また、広義のひきこもり群について年齢区別にみると、『はい』（「はい」＋「どちらかといえば、はい」）は「15歳～39歳」で30.0%、「40～64歳」で66.7%と、「15歳～39歳」の方が36.6ポイント低くなっている。

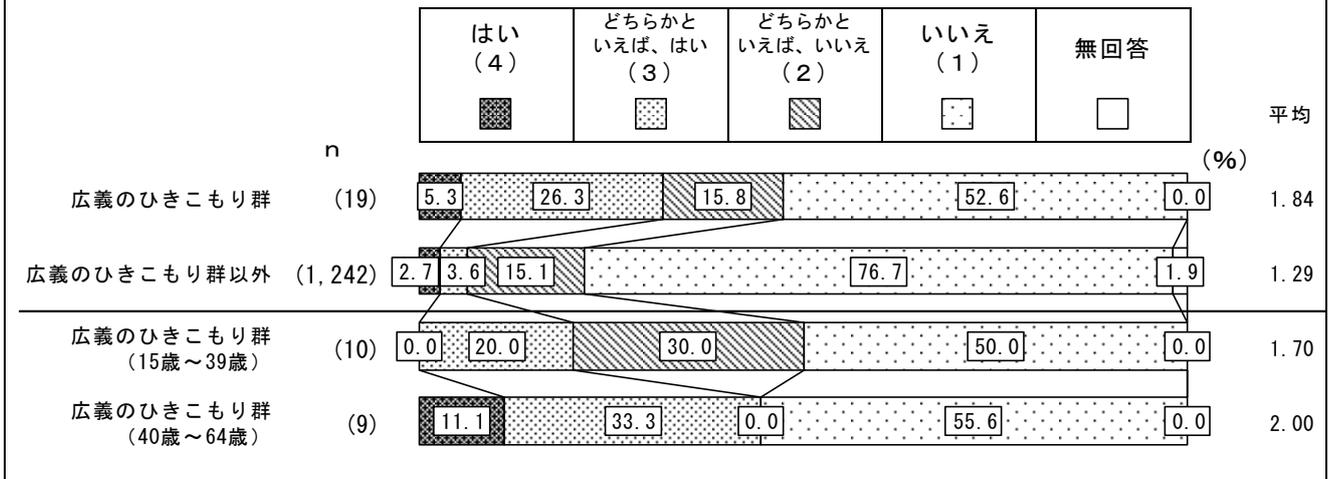
●内閣府調査との比較 (40～64歳)



内閣府調査と比較すると、広義のひきこもり群において、『はい』（「はい」＋「どちらかといえば、はい」）は立川市で66.7%、内閣府調査で44.7%と、立川市の方が22.0ポイント高くなっている。

Ⅲ 調査の結果

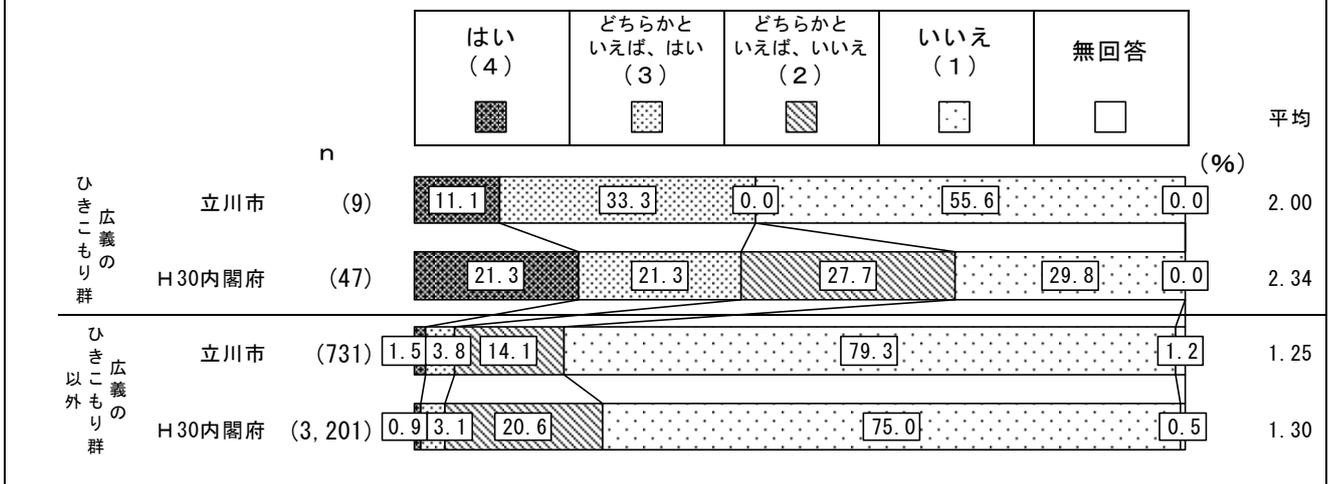
Q33 (8) 誰とも口を利かずに過ごす日が多い



『誰とも口を利かずに過ごす日が多い』について、『はい』（「はい」＋「どちらかといえば、はい」）は広義のひきこもり群で31.6%、広義のひきこもり群以外で6.4%と、広義のひきこもり群の方が25.2ポイント高くなっている。

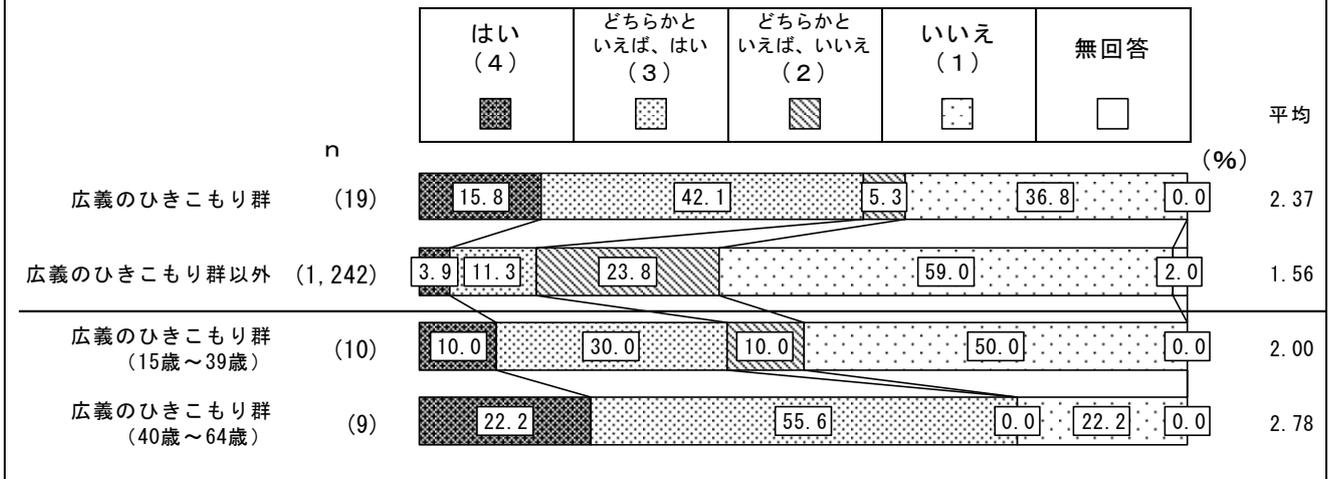
また、広義のひきこもり群について年齢区別にみると、『はい』（「はい」＋「どちらかといえば、はい」）は「15歳～39歳」で20.0%、「40～64歳」で44.4%と、「15歳～39歳」の方が24.4ポイント低くなっている。

●内閣府調査との比較 (40～64歳)



内閣府調査と比較すると、広義のひきこもり群において、『はい』（「はい」＋「どちらかといえば、はい」）は立川市で44.4%、内閣府調査で42.6%と、立川市の方が1.8ポイント高くなっている。

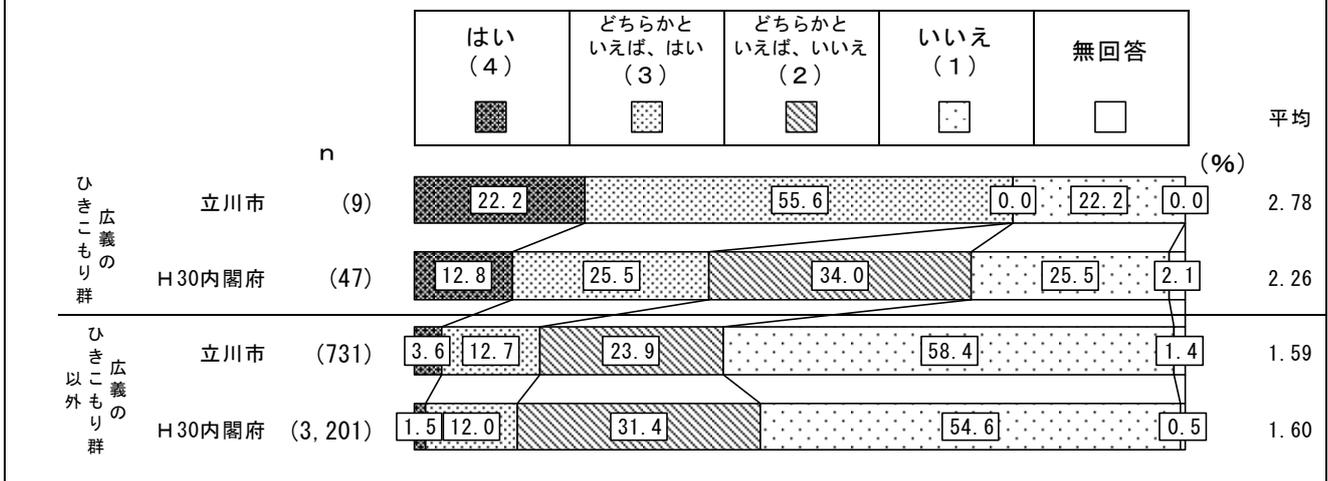
Q33 (9) 人と会話するのはわずらわしい



『人と会話するのはわずらわしい』について、『はい』（「はい」＋「どちらかといえば、はい」）は広義のひきこもり群で57.9%、広義のひきこもり群以外で15.1%と、広義のひきこもり群の方が42.8ポイント高くなっている。

また、広義のひきこもり群について年齢区別にみると、『はい』（「はい」＋「どちらかといえば、はい」）は「15歳～39歳」で40.0%、「40～64歳」で77.8%と、「15歳～39歳」の方が37.8ポイント低くなっている。

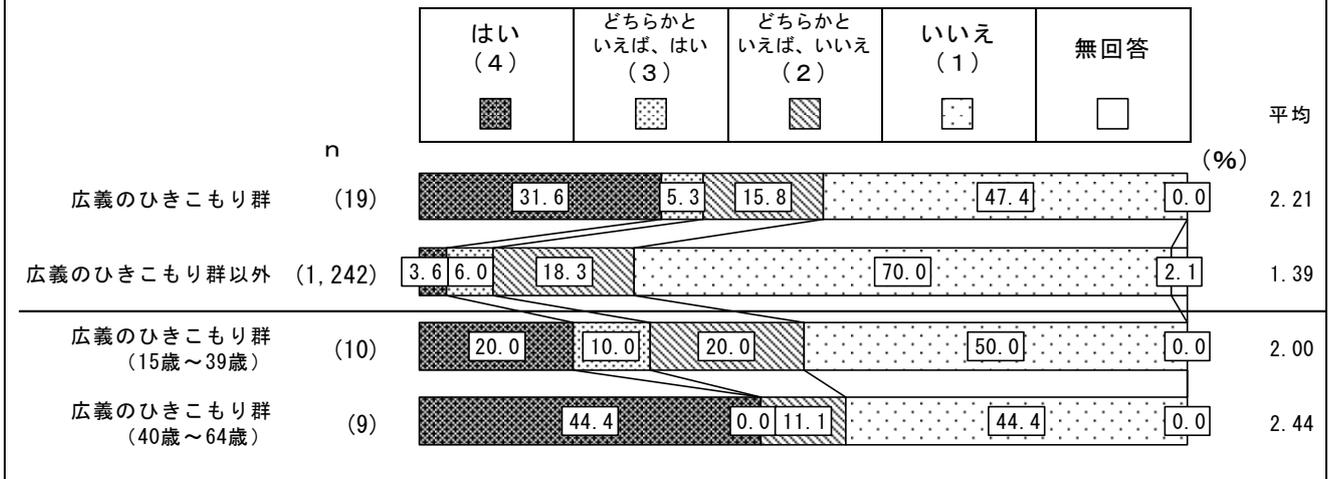
●内閣府調査との比較 (40～64歳)



内閣府調査と比較すると、広義のひきこもり群において、『はい』（「はい」＋「どちらかといえば、はい」）は立川市で77.8%、内閣府調査で38.3%と、立川市の方が39.5ポイント高くなっている。

Ⅲ 調査の結果

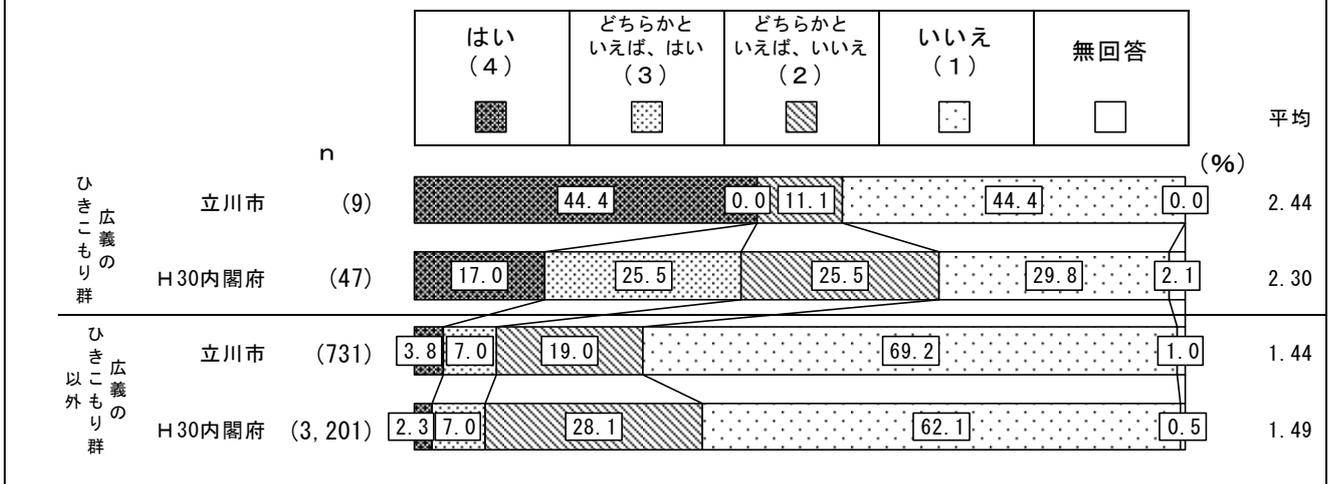
Q33 (10) 過去の知り会いや縁者に信頼できる人はいない



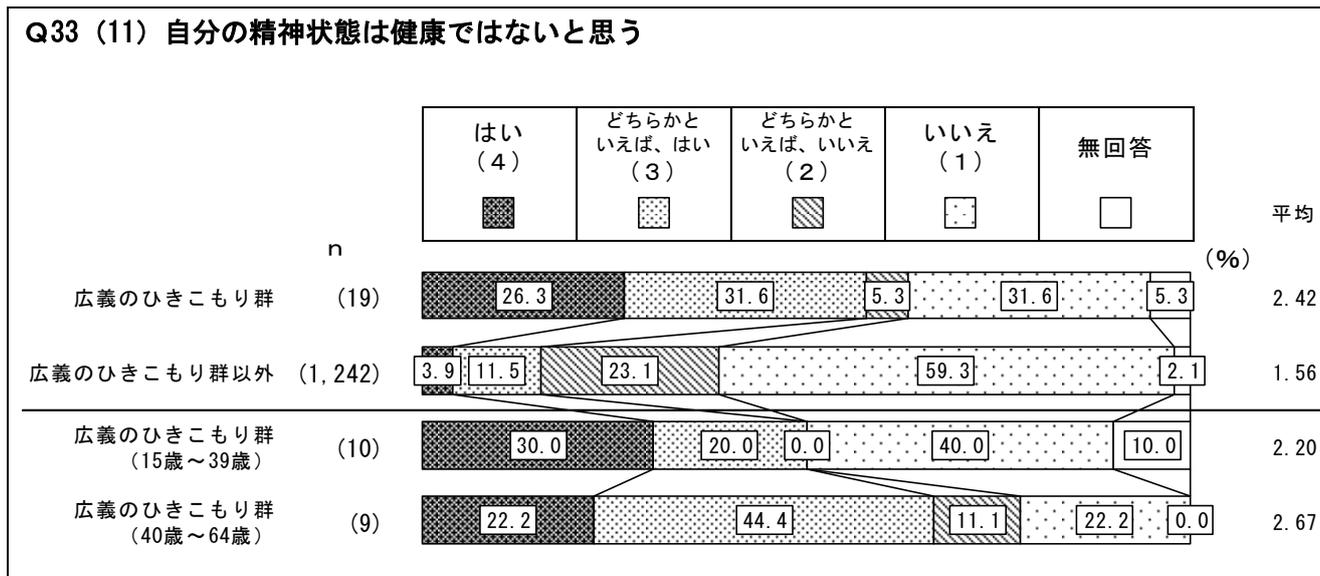
『過去の知り会いや縁者に信頼できる人はいない』について、『はい』（「はい」＋「どちらかといえば、はい」）は広義のひきこもり群で36.8%、広義のひきこもり群以外で9.6%と、広義のひきこもり群の方が27.2ポイント高くなっている。

また、広義のひきこもり群について年齢区別にみると、『はい』（「はい」＋「どちらかといえば、はい」）は「15歳～39歳」で30.0%、「40～64歳」で44.4%と、「15歳～39歳」の方が14.4ポイント低くなっている。

●内閣府調査との比較 (40～64歳)

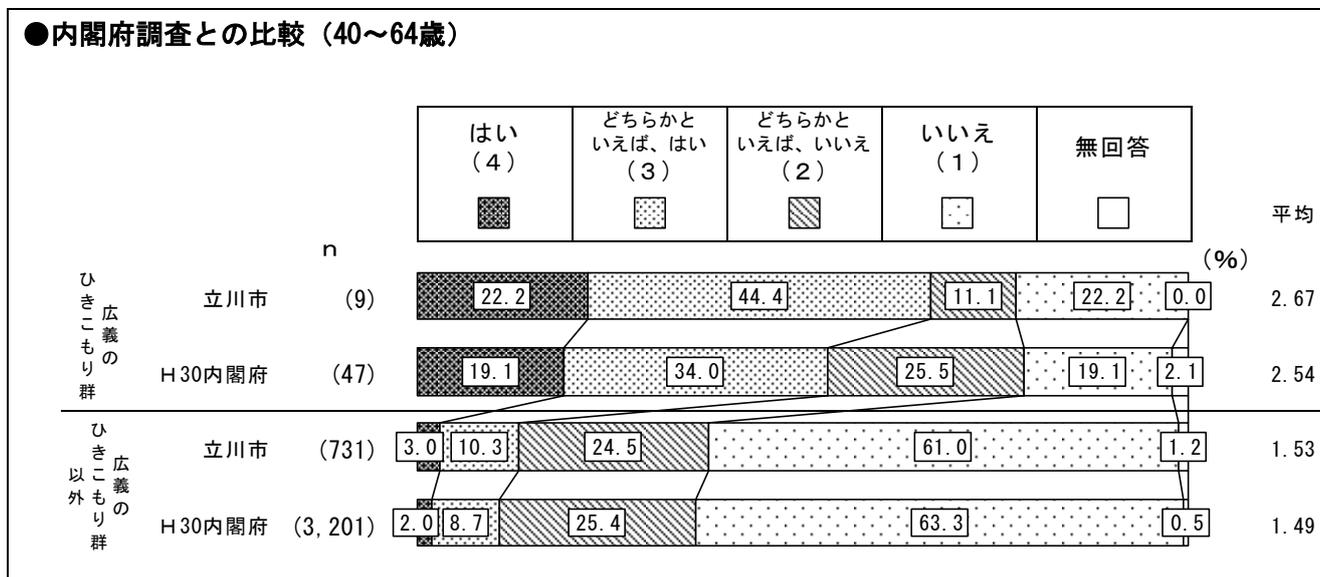


内閣府調査と比較すると、広義のひきこもり群において、『はい』（「はい」＋「どちらかといえば、はい」）は立川市で44.4%、内閣府調査で42.6%と、立川市の方が1.8ポイント高くなっている。



『自分の精神状態は健康ではないと思う』について、『はい』（「はい」＋「どちらかといえば、はい」）は広義のひきこもり群で57.9%、広義のひきこもり群以外で15.5%と、広義のひきこもり群の方が42.4ポイント高くなっている。

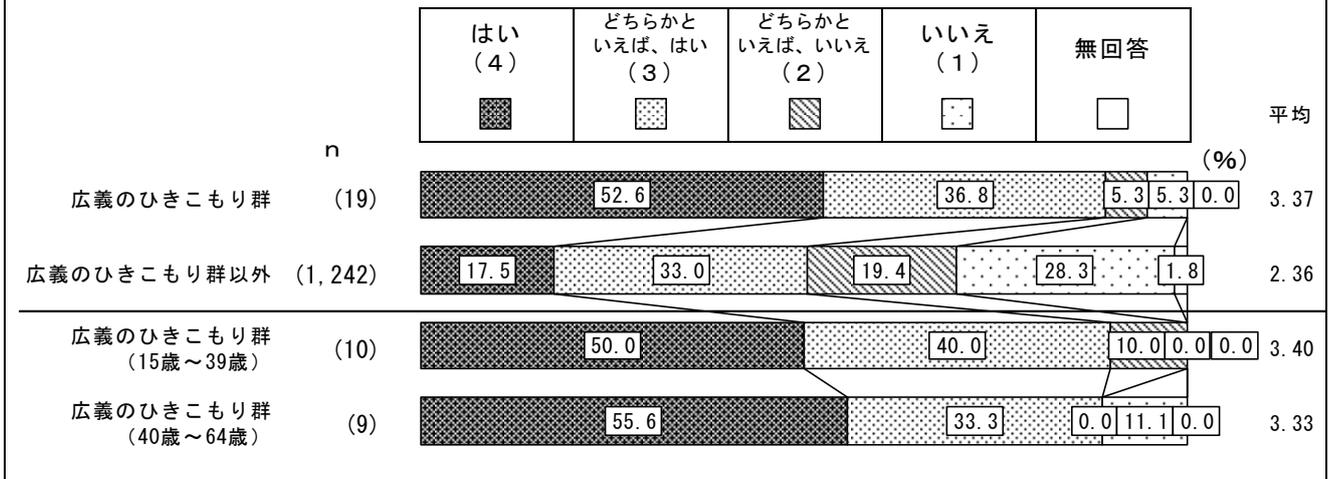
また、広義のひきこもり群について年齢区別にみると、『はい』（「はい」＋「どちらかといえば、はい」）は「15歳～39歳」で50.0%、「40～64歳」で66.7%と、「15歳～39歳」の方が16.7ポイント低くなっている。



内閣府調査と比較すると、広義のひきこもり群において、『はい』（「はい」＋「どちらかといえば、はい」）は立川市で66.7%、内閣府調査で53.2%と、立川市の方が13.5ポイント高くなっている。

Ⅲ 調査の結果

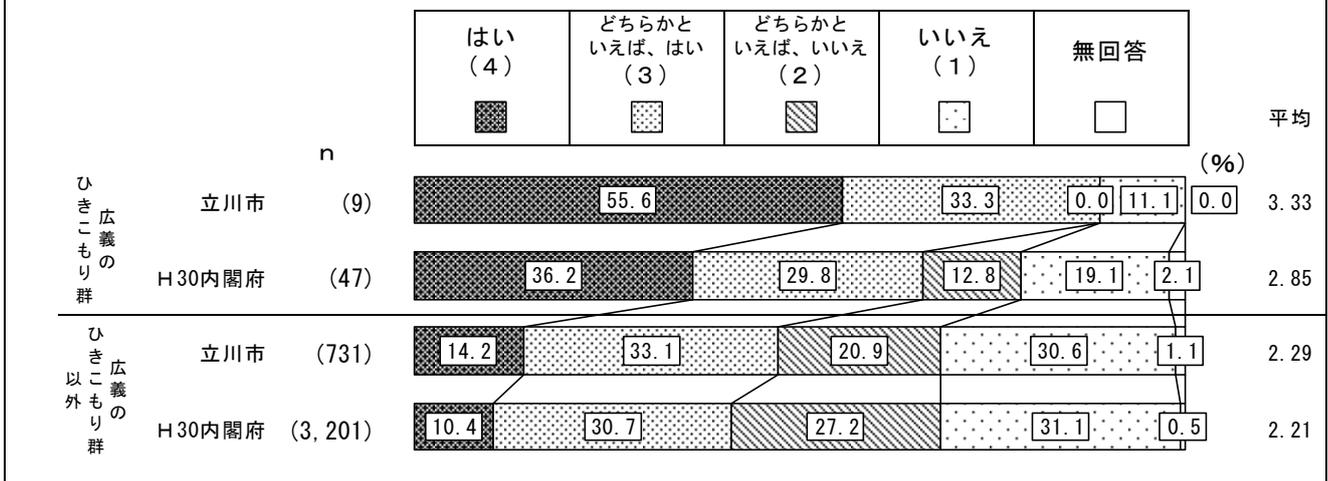
Q33 (12) 自分の今の状態について考えることがよくある



『自分の今の状態について考えることがよくある』について、『はい』（「はい」＋「どちらかといえば、はい」）は広義のひきこもり群で89.5%、広義のひきこもり群以外で50.5%と、広義のひきこもり群の方が39.0ポイント高くなっている。

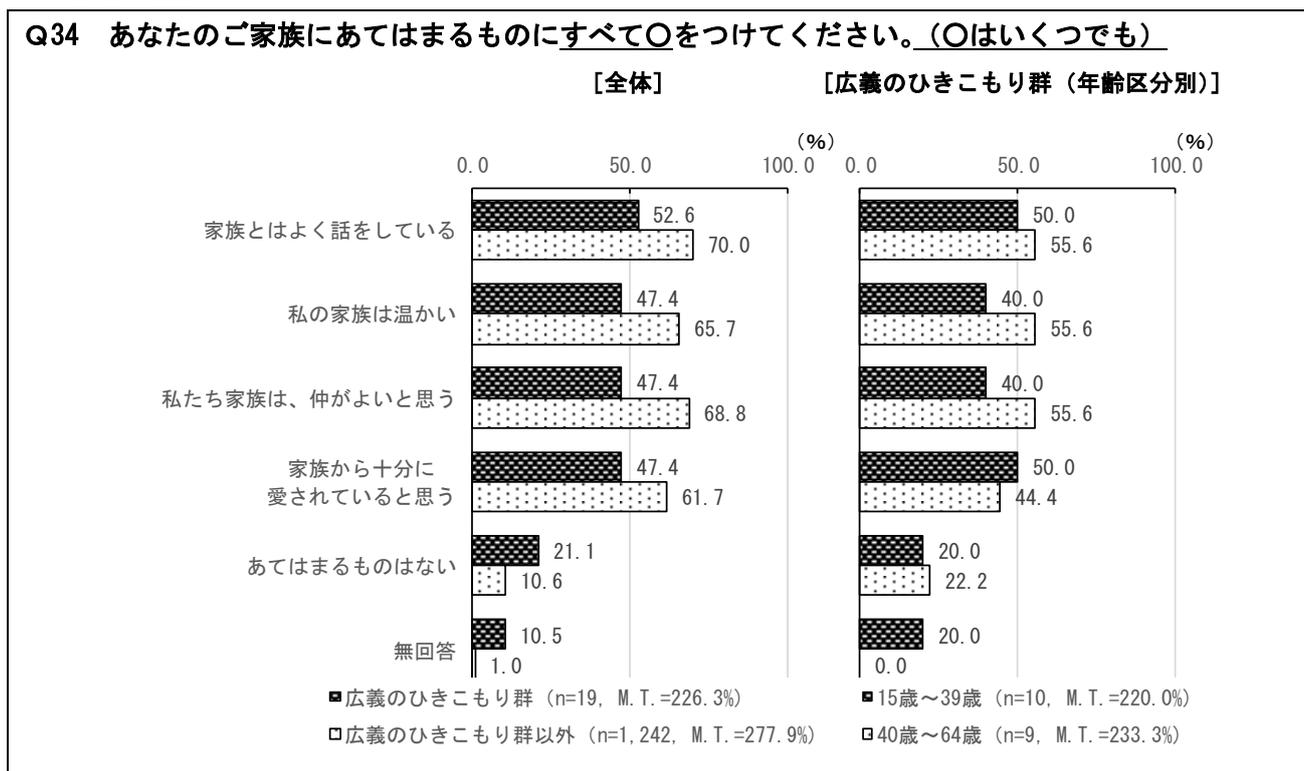
また、広義のひきこもり群について年齢区別にみると、『はい』（「はい」＋「どちらかといえば、はい」）は「15歳～39歳」で90.0%、「40～64歳」で88.9%と、「15歳～39歳」の方が1.1ポイント高くなっている。

●内閣府調査との比較（40～64歳）



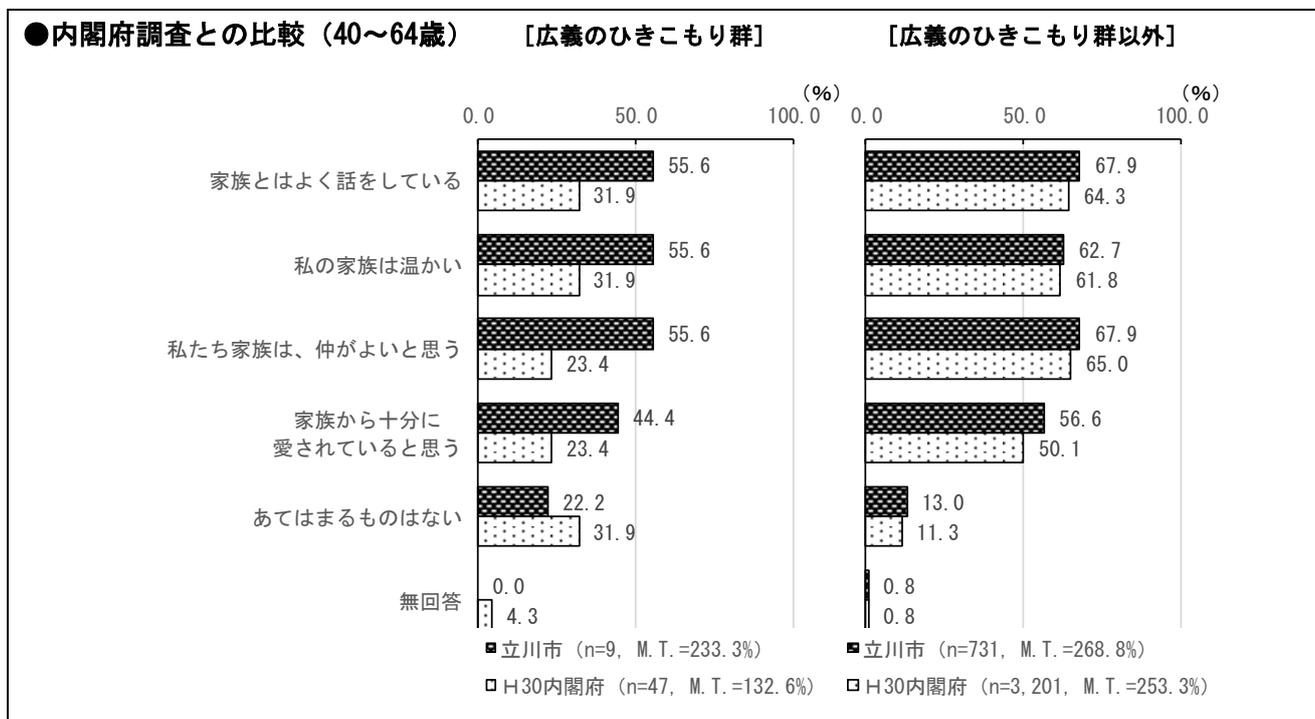
内閣府調査と比較すると、広義のひきこもり群において、『はい』（「はい」＋「どちらかといえば、はい」）は立川市で88.9%、内閣府調査で66.0%と、立川市の方が22.9ポイント高くなっている。

34 家族の状況



家族の状況については、「あてはまるものはない」以外のすべての項目で広義のひきこもり群以外の方が広義のひきこもり群よりも高い割合となっている。

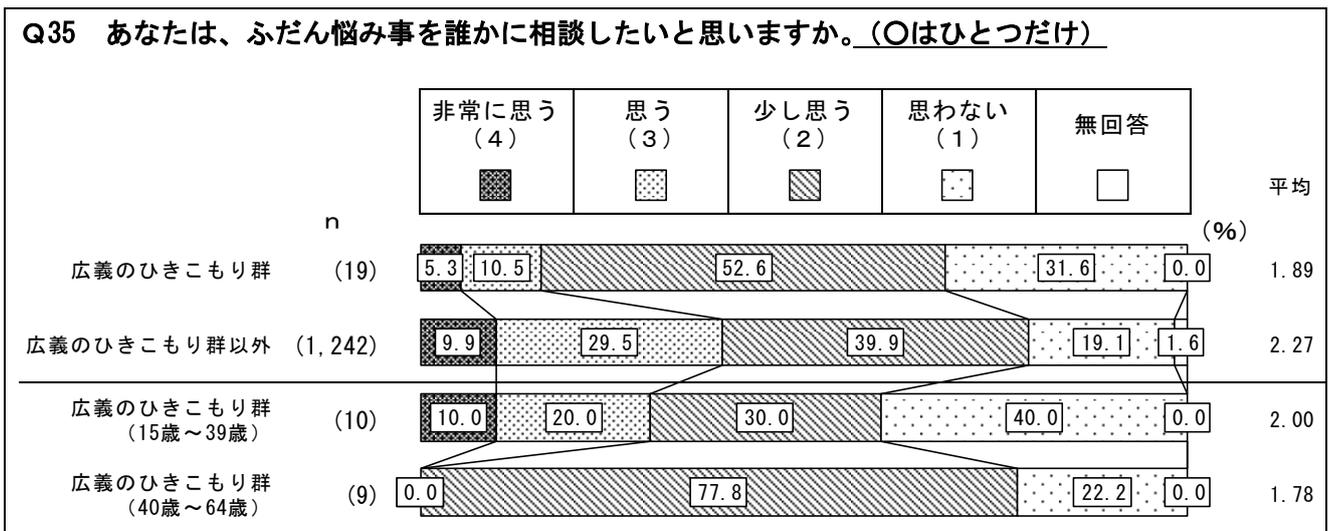
また、広義のひきこもり群について年齢区別にみると、「家族とはよく話をしている」「私の家族は温かい」「私たち家族は、仲がよいと思う」は「40歳~64歳」の方が、家族から十分に愛されていると思うは「15歳~39歳」の方が、それぞれ高い割合になっている。



内閣府調査と比較すると、広義のひきこもり群において、「あてはまるものはない」以外のすべての項目で立川市の方が内閣府調査よりも高い割合となっている。

Ⅲ 調査の結果

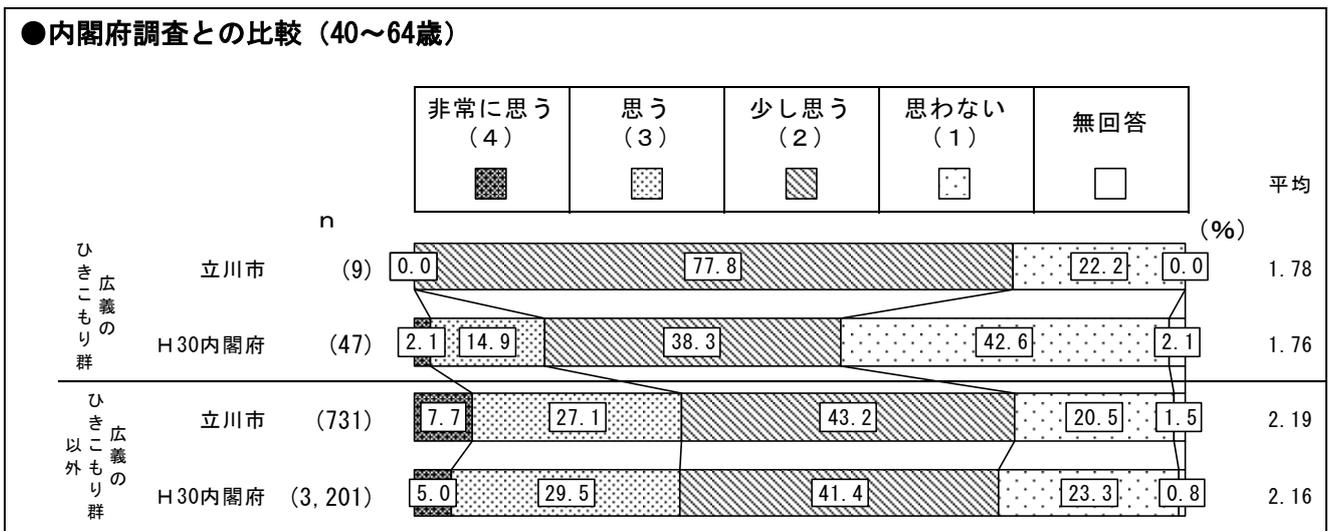
35 悩みを誰かに相談したいか



悩みを誰かに相談したいかについて、「思わない」は広義のひきこもり群で31.6%、広義のひきこもり群以外で19.1%と、広義のひきこもり群の方が12.5ポイント高くなっている。

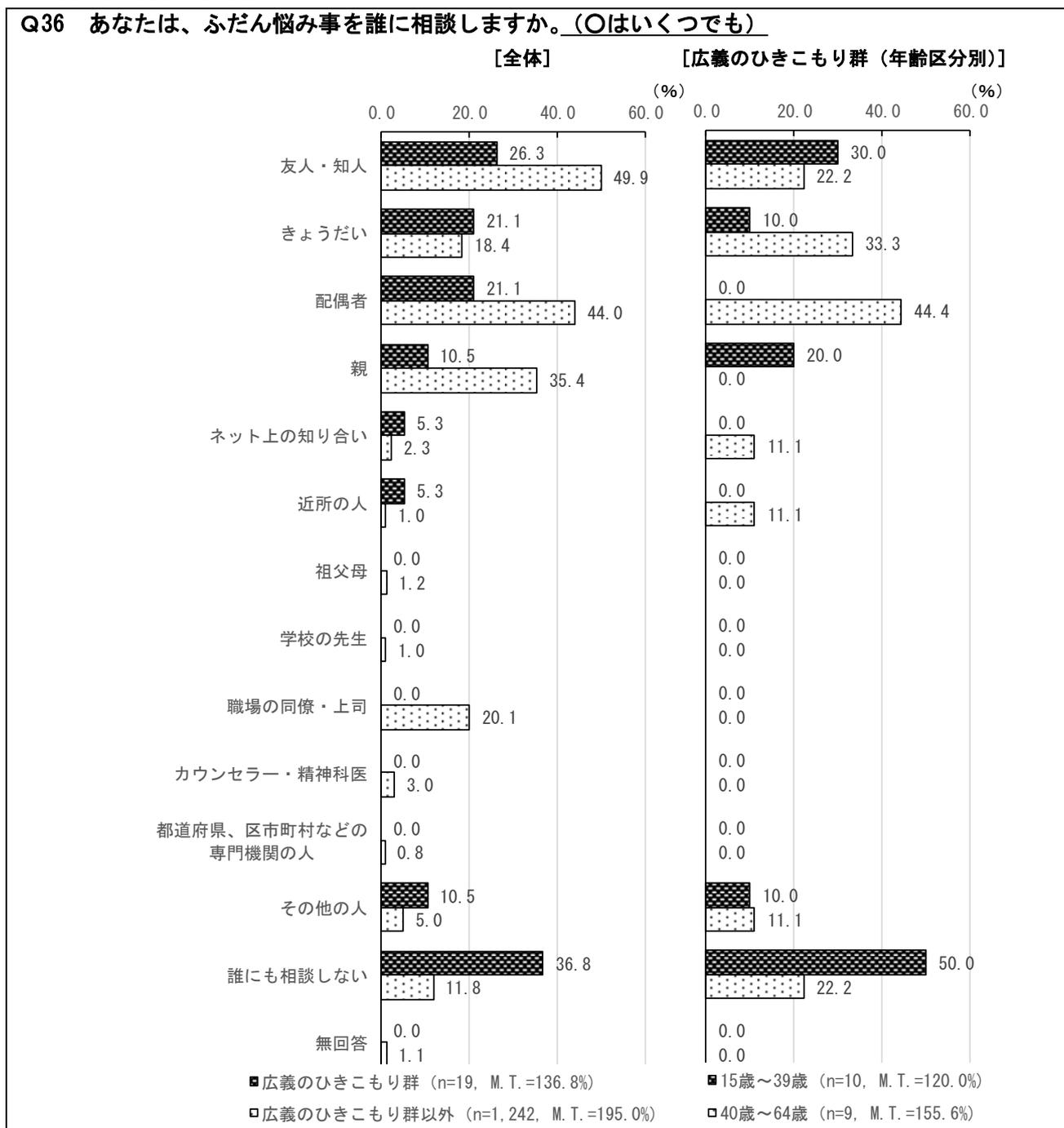
また、広義のひきこもり群について年齢区分別にみると、「思わない」は「15歳～39歳」で40.0%、「40歳～64歳」で22.2%と、「15歳～39歳」の方が17.8ポイント高くなっている。

●内閣府調査との比較 (40～64歳)



内閣府調査と比較すると、広義のひきこもり群において、立川市では「思わない」の割合が内閣府調査よりも20.4ポイント低くなっている。

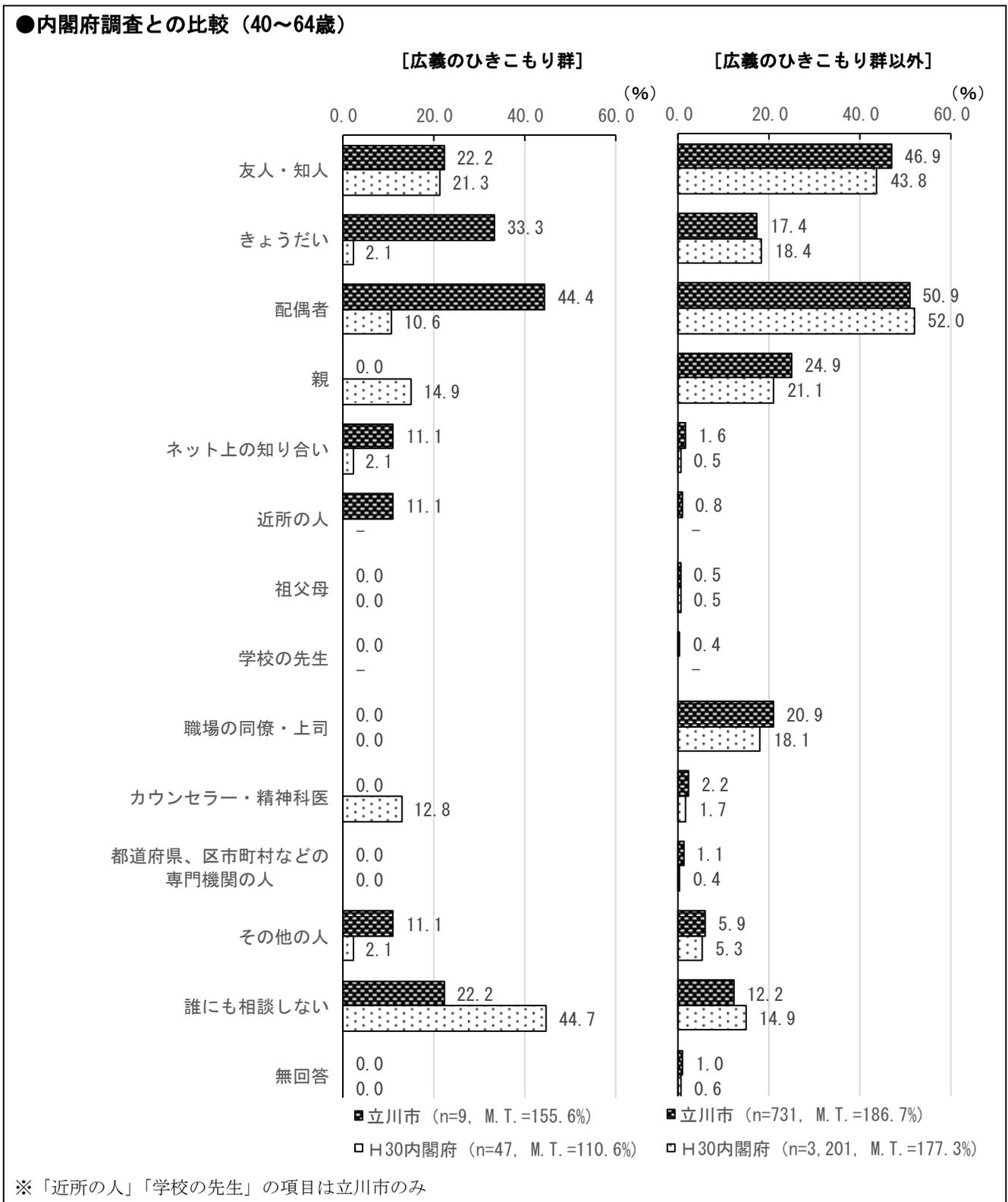
36 悩みを相談する相手



悩みを相談する相手について、「誰にも相談しない」は広義のひきこもり群で36.8%、広義のひきこもり群以外で11.8%と、広義のひきこもり群の方が25.0ポイント高くなっている。その他の項目において、広義のひきこもり群では、「友人・知人」(26.3%)、「きょうだい」「配偶者」(ともに21.1%)、「親」「その他の人」(ともに10.5%)の順になっているのに対して、広義のひきこもり群以外では「友人・知人」(49.9%)、「配偶者」(44.0%)、「親」(35.4%)、「職場の同僚・上司」(20.1%)、「きょうだい」(18.4%)の順になっている。

また、広義のひきこもり群について年齢区分別にみると、「誰にも相談しない」を除いて、「15歳~39歳」では「友人・知人」(30.0%)、「親」(20.0%)、「きょうだい」「その他の人」(ともに10.0%)の順になっているのに対して、「40歳~64歳」では「配偶者」(44.4%)、「きょうだい」(33.3%)、「友人・知人」(22.2%)、「ネット上の知り合い」「近所の人」「その他の人」(すべて11.1%)の順になっている。

Ⅲ 調査の結果



内閣府調査と比較すると、広義のひきこもり群において、「誰にも相談しない」が立川市では22.2%、内閣府調査では44.7%と、立川市の方が22.5ポイント低くなっている。その他の項目について、立川市では「配偶者」(44.4%)、「きょうだい」(33.3%)、「友人・知人」(22.2%)、「ネット上の知り合い」「近所の人」「その他の人」(すべて11.1%)の順になっているのに対して、内閣府調査では「友人・知人」(21.3%)、「親」(14.9%)、「カウンセラー・精神科医」(12.8%)、「配偶者」(10.6%)の順になっている。

37 支援のあり方についての意見

Q37 現在、立川市では、身体の病気以外の理由でふだん外出ができない方たちへの支援のあり方を検討しています。こうした支援のあり方について、ご意見があれば、自由にお書きください。

以下では回答の一部を抜粋し、ひきこもりの経験や内容別に分類した。なお、回答からは個人が特定できないよう加工している。

○広義のひきこもり群

<相談支援>

話し相手がほしいです。【40歳代男性】

<行政サービス・インフラ整備>

立川市内どこでも一律〇〇円で行けるのり合いタクシーみたいなのを希望しましたが……、お金があれば引越したいです。【60歳代女性】

<就労・就学支援>

支援と言うより企業の有り方がなってない。40すぎたら面接で落とすそんな企業の考え方に頭来てます。【40歳代男性】

<その他>

コツコツと自信を、つけられる様な経験をする。基本的に表現するのが苦手。出来ない事を、出来るようにするより、出来る事、得意な事をのぼす。【20歳代女性】

私は外出できない訳ではありませんが、食品や日用品の買い物などの用事がなければ外出する必要性をあまり感じていません。何故外出できないのか、しないのかを分析した上で、当事者の立場に立った支援を期待しています。【50歳代女性】

○過去に広義のひきこもり群であったと思われる人の群

<居場所づくり>

私は今現在自身の学齢期時代の不登校経験を振り返り、こういった支援へのあり方について常に考えています。具体的には、私が代表を務めるNPO法人にて、不登校児童とその保護者に向けた居場所作りを進めていこうと考えています。引きこもりの問題もそうですが、普段外出出来ない子どもたちも多数存在しています。そのような子は、どこにも行きたくないわけではなく、安心出来る居場所さえあれば家から出てみようと思うことも多く、私自身も実際にそうでした。自治体がこういった場所を作ることも、私たちのような民間が作っていくこともそれぞれに意味があると思いますが、私たちには圧倒的に資金力やマンパワーが足りません。ですので、自治体から支援団体のサポートがさらに充実していくことを望んでいます。誰しものが安心して自宅の外に出られる環境作りを目指していけたらいいですね。【20歳代男性】

Ⅲ 調査の結果

似たような境遇の方々との交流【20歳代女性】
わが家の場合は、思春期も重なり、本人にとっては複雑のようです。学校以外の過ごせる場所があったらいいと思います。【40歳代女性】
非常にむずかしい。“きっかけ”として様々なことが挙げられているが集約していえば、対人関係だと思う。つまり、そういう面でのサポートが、すべてに優先されると思う。その人その人個人の経験は語り尽くせるものではないので皆に有効な方法というものないだろう。「こういうことをすればひきこもりの人が社会復帰できる」という方策はないということをもふまえてさらに傷付けるようなことのないようにしてほしい。【40歳代女性】
精神的な病気や不調は外見からは分かりづらく周囲の理解が得にくい場合や本人が言い出しにくい状況もあるので、市の援助やフォロー体制が整っていると孤立してしまう状態が未然に防げて良いと思う。【40歳代女性】

<相談支援>

ほぼ引きこもり状態だった自分を振り返ったときに将来のことをなにもかんがえていなかったの で、特に経済面で将来どういう出費が必要になってくるか、それを支払うためにはどのくらいの 年収が必要かといった具体的な話を早く聞けていれば、動き出すきっかけになっていたと思いま す。（個人によるところが大きいとは思いますが）【20歳代男性】
・食料品の現物支給 ・理由によって変わりますが、仕事に就くためのサポート→通える場所（週数回、予約とかなく ても）、相談相手（会話の出来る人を作る）【30歳代男性】
誰にも話したくない、話せないから心の病になるのです。形式的な支援だけでなく、本質を理解 してくれるサポーターが支援にあたるべきかと思います。【30歳代女性】

<支援内容や相談機関の情報周知>

もっと宣伝した方がいい。【20歳代女性】
自分から調べれば載っているのかも知れませんが、このようなアンケートをする機会があるので であれば、立川市の取組を周知できるパンフレットなどを配布し、市がやっていることを認知し てもらった上で、市民の人達から意見をもらおうと、アドバイスする側も答えやすいし、より必要 な情報が集まり易いと思います。【30歳代男性】
気軽に相談できる様SNSで発信、宣伝する。改善した事例等をSNSで発信する【30歳代男性】

<行政サービス・インフラ整備>

育児でほとんど家にいます。一時保育を利用したくても家の近くには1軒しかなく、そこは予約 がほとんど取れないようです。一時保育のような場所がたくさんあると嬉しいです【20歳代女性】
やりすぎることはないと思う。フリースクールなどを充実すればよい。【50歳代女性】

<ネット活用>

コロナのタイミングなのでリモートで会話したり、チャットで顔を合わせなくても気軽に言いづらいことが言えたり、色々なパターンでの相談方法があるといいのかなと思います。【30歳代女性】

・自分が子どもの頃は、学校の教師自体も、不登校に不寛容な教師が多かった。中学3年時の担任と校長だけが支援してくれた。そういう意味では、教師や学校自体が不登校=悪ではなく、児童生徒自身の成長のための蛹の時期という認識なども必要。今はそういう意識が定着しているのかな？

・ちなみに、母親がどこかの機関に相談に行っていたいたようだが、ここも、当時は「なるべく学校に行かせる」ための対処をしていたのかもしれない。子どもを理解するための助言をちゃんとしていたのか疑問。(不登校当時の自分がすすめた本を読んでくれない、等の態度からも、子どもを理解しようとする態度が見られず、なるべく学校に行ってほしい、というような態度だったため)。これも今は無理に学校に行かせることより、子どもを理解しようとする態度や見守る態度を助言しているのかな？

・コロナ禍によって、リモートでいろいろできることが増えたのであれば、引きこもりの人に、リモートで中学・高校・大学の卒業資格が取得できる学校があることをすすめたり、リモートでできる仕事をあつせんしたりするようにできればいいですね。企業との協働になるとと思いますが。【40歳代女性】

<家族への支援>

家族が心配して声をかけても本人は殻にとじこまっていて会話にならず若者サポートステーションに行きたがらない。家族がどの様に接していけば良いのか、アドバイスがほしい。【30歳代男性】

家族で抱えてしまうケースが多いと思うので行政が関わっていくことは良いと思います。【30歳代女性】

<専門家の力を活用>

カウンセラー・精神科医などが常駐（今は感染症の配慮をしながら）して、本人の閉ざされた心が開けるように諭していくこと（無理はせず）が大事だと思います。【30歳代男性】

<就労・就学支援>

就職or就学支援が必要だと思う。【30歳代男性】

<金銭的・物質的支援>

お金が毎月支給されるとうれしい。(20万前後) 【20歳代女性】

Ⅲ 調査の結果

<地域の力を活用>

民生委員の元にそういう人達が、頻りに訪問して声かけをたくさんして触れ合う機会を多く作っていったらどうでしょうか？【60歳代女性】

<その他>

やりたい事が無く、勇気も無く、毎日つらいと思いつながりながら生きている人が、退屈しなくて済むような仕組みがあると良いですね。【20歳代男性】

インターネットや宅配サービスが発達しているため、しょうがないと思う【20歳代男性】

ぜひ力を入れてほしいと思う。【30歳代女性】

コロナの以前は良くヘルパーさんと出掛けていましたが、コロナでヘルパーさんが仕事が無くなったりして、ヘルパーをやめてしまったりして、今は、ヘルパーを頼んでも居ません。コロナが終息すれば、又徐々に、ヘルパーさんが増えると思いますが。【40歳代女性】

引きこもれる人ってそれだけ許されるからできるのであって恵まれてると思うから、シングルマザーでもなく35才以下でもなく、そういった条件にあてはまらない(援助を受けられる要件から)外れてしまって歯をくいしばって税金を納めている我々にこそ支援してほしい。正社員でも家賃と税金払って介護して、つらいです。【40歳代女性】

誰かに助けてもらうことも良いキッカケになるけれど、やっぱり環境ががらっと変わらないと、自分とちゃんと向き合えないし、自分も変えられない気がする。【40歳代女性】

むずかしい問題だとは思いますがそういう方が社会復帰ができるようになれば素晴らしいと思う。【50歳代男性】

太陽の下で体を動かすと気分がすっきりすると思います。そういう機会をもうけてみてはどうでしょうか。【50歳代男性】

人間の根本の目的、何の為生まれ、何の為生きるのか、内面の生きる目的を知らなければ今の世の中で生きるのは困難だと思う。精神的な病を持っている人が多いと思う。統一原理を学んだら人間の根本問題が解けると思います。【50歳代女性】

○広義のひきこもり群・過去に広義のひきこもり群であったと思われる人の群以外

<居場所づくり>

当事者同士で話し合える機会があるといいと思う。【10歳代男性】

ひきこもりの方だけで集まるサークルやイベントがあつたら、いいなと思いました。外出するきっかけにもなりますし、同じ悩みを共有することによって気持ちがやわらぐのではないかと思います。【20歳代女性】

同じ悩みをもつ人たちの集まり。(オンライン・オフライン)【20歳代女性】

精神面でのサポートが必要な場合かと予想します。時々思うのですが、比較的若年の20~30代くらいの年齢で社会人だと、コロナの影響もあり同年代の友人と話したり対面で会ったりする機会が少なくなってしまうことを実感しています。市内でのサークルや集まりがもっと活発化されれば、家の近くで広く友人や同世代の方と話すことができ、精神面でのサポートがされやすいのではと感じます。【20歳代女性】

<p>精神疾患から社会復帰するのに、ストレスを抱えながら我慢した期間の何倍もの時間がかかると聞いたことがあります。十分な休養期間をとっても安心して生活できるような金銭的ではなくとも物資のサポートがあればいいなと思います。生きてる楽しみが増えるような、同じような境遇の方々が交流できる(年代別でも)イベントがあればなと思った。勉強したくても不登校で学校に通えず十分に勉強できない人がいると思います。自力で受験勉強して高校、大学へ入っても基礎が身につけていないと苦勞することもあると思います。不登校から復帰しやすい勉学のサポートがあると、学力でやりたいことを諦める方を減らせると思いました。【20歳代女性】</p>
<p>以前のような地域での結びつきが希薄になっています。利便性だけでなく、‘立川だから’住みたいという町になっていければ、地域への関心度も高まっていくのではないのでしょうか。また、公園や公民館等、地元の人が集まる場所を増やすことで、マクロな視点から人と人とのつながりが生まれ結果としてマイノリティの人を助けることにつながってくると思います。【30歳代男性】</p>
<p>身体の病気ではなく、精神的な問題で外出ができないまたはしたくないのであれば、人それぞれ理由(原因)が異なるので難しいと思います。でも、同じ境遇のかたなら話しが合い、少しずつ話せて友人となり、外出するきっかけができると思います。まずは、同じ境遇の知り合いを作る事がいいきっかけになるのでは?と考えます。【30歳代女性】</p>
<p>現在の自身の状況を変えたいと思い抱えている人は少なからずいると思うので、そういった方々が気軽に相談できる場所があるといいと思います。【30歳代女性】</p>
<p>インターネットなしで気軽に相談出来るコミュニティサイトなど。【30歳代女性】</p>
<p>非常に難しい問題だと思います。子供にはフリースクールなどありますが、大人はあまり聞いた事ないですね。そういった居場所を作るのもいいかもしれません。徐々に外に慣れていければいいのかな。【30歳代女性】</p>
<p>誰かと話すこと、つながることは、救いになることもあるのでぜひ幅広くお願いします。【30歳代女性】</p>
<p>本人といかにコンタクトがとれるかは重要だと思います。定期的な訪問や周囲の環境(学校、職場など)からも情報交換ができると、何かSOSがあった際に救える可能性が高まるのではないのでしょうか。担当の方と信頼関係の構築ができると理想的なのかなと思います。又、本人が望めばオンライン上での交流会等もよいかもしれません。普段ネット上ではコミュニケーションをとっているかもしれませんがもう少しリアルに近い場を提供でき社会との繋がりを感じられる機会になると思います。【30歳代女性】</p>
<p>ひきこもりに関連したラジオ番組があるので周知して欲しい。【40歳代男性】</p>
<p>社会と接点をいかに持つか? 接点がないと存在すらわからず支援にもつながらない、本当に難しい課題だと思う。【40歳代女性】</p>
<p>話をする事で楽になる事があると思うのでそういう機会を市の方で作るのはとても良いと思います。【40歳代女性】</p>
<p>不登校の子供が学校や社会へ戻りたいと思った時に少しでも戻りやすい環境をサポートしてくれる支援があると親としても安心します。【40歳代女性】</p>

Ⅲ 調査の結果

自由に出入りでき、お茶や、おかしなども自由に食べられ、ボードゲームや、ねっころがれるスペースなどがあると、行ってみようとおもう人もいるかもしれません。円いテーブルをおくとよいと思います。【40歳代女性】
とにかく生活のリズムを整えられるような合宿にいくとか。同じ趣味などの仲間と気軽に話す機会があればいいのではないのでしょうか。【40歳代女性】
ボランティアを募り、一緒に外出したり、気兼ねなく立ち寄れるカフェを作ったり、他者との関わりを持てる場所を提供すると思う。【40歳代女性】
私が通っているカフェは地域の「コミュニティひろば」として、多くの方々が利用しています。このような気軽に立寄れる場所が必要だと思います。【50歳代男性】
包括センターなどを通じて、見守りシステムが充実できると、いいのかもしれません。どんな理由で外出できないのか、社会的に孤立し、孤独になってしまったなど、社会や誰かとの関わりを持てる世の中になっていければ、いいのかと思います。自分のことを理解してくれる社会的な仕組みなどが確立できるといいと思います。【50歳代男性】
精神的な問題でただでさえ人と接触するのが苦手な人は、役所が行う支援にはなおさら接触しにくいと思います。支援の内容はもちろんです、接触のしやすさをよく考えて支援を進めた方が良く思う。【50歳代男性】
・気軽に参加できる手芸などのワークショップを開催し、サークル化していく。・無料でできる体操（ヨガ）やウォーキングマラソン、山登りのグループ作りや企画（50歳前後のグループ） 【50歳代女性】
若者向けのサークルがあると思う（好きなスポーツや趣味を通して）市が多少関わっていれば、家族も安心するのではないか。【50歳代女性】
もっと身近に、相談しやすい場所がたくさん出来たらいいと思いますが、外出できない人は、外部の方から寄っていかないと自分からは、出たり行動をおこさないと思う。【50歳代女性】
長時間他人と関わるのは苦手だと思うし、たまにだと顔を合わせるのも嫌になるので、毎日のちょっとした家事（ゴミ捨て、買い物）など短時間の手伝い支援で外とのつながりを切らないようにする、同時に毎日様子を見ることで次の支援への足掛かりにする【50歳代女性】
敷居の高くない、使いやすい支援があればと思います。外出できない方たちの、個人個人で何か興味があるものや、得意分野等での（まずは）ネット上での集まりを開催。その後徐々に、ネット上から実際に会う機会へとつなげ、就業や社会活動の場へと援助していく。【50歳代その他】
人の事とおもわず自分自身も一人になったとき不安になります。色々な人と、たくさん話す場があったらいいですね。【60歳代女性】
外出できない気持ちであれば何かネットワークでグループを作って話していくようにしないと、気持ちから身体への病気となってしまいそう。昔はラジオのお悩み相談など聞いて自分が楽になったように何か同じようなことを考えて番組を作ってくれとありがたい。【60歳代女性】

<相談支援>

積極的なアウトリーチ【10歳代女性】
支援は金銭的なものではなく、カウンセラーや医師と話せる機会、似た境遇の人と話す機会などを与えるものであれば良いのではないか。【20歳代男性】
支援のあり方をよく知らないので何とも言えないが、もし自分なら「これがいい」、「こうすべき」などの意見の押し付けには、とても強い抵抗がある。強く言われると意味もなく意地になってしまうので、どんな小さなことでも意見を押し付けられない、そのような関係が望ましい。【20歳代男性】
がんばってください。小さな子供たち（小学生～）にも、この支援が伝わるといいと思います。（理由）親が病気以外の理由で外出できないことを誰にも相談できない子供もいると思うので。【20歳代女性】
不登校の時期に感じた事は、学校の心理カウンセラーの方や、親に学校に行けない理由や、何が嫌なのかなどを話すときに、相手の顔色や思うことが気になって悩んでいても話せないことがあったので、顔色などそこまで気にならないけど相談できるような状態があればいいなと思っていました。【20歳代女性】
電話などのカウンセリングが気軽にできたら良いと思う。【20歳代その他】
気軽に相談できるようなしくみがあると良いと思う【30歳代男性】
定期的にこのアンケートのようなものを実施し、外出ができない方たちの発見に努める。1度は戸別訪問を行い、後は継続の必要の有無を検討し、直接又はtelによる意思の疎通を図る。（専門家の成功例等を勉強し、それに則した方法をなるべくとる。）支援についてはトライ&エラーでもいいと思います。良いことだと思うので。【30歳代男性】
外出ができない理由にもよりますが、精神的な理由である場合、第三者の方による支援は一つのきっかけになると思います。【30歳代男性】
自分から助けを求められない人にも支援が行き届くと良いと思う。人から相談された時、どのように答えてあげることが良いのかを教えれくれる場があると嬉しい。【30歳代女性】
家族が該当しており、精神疾患で就労など通常の生活を送れていない。普段病院、散歩、コンビニなど以外は外出などせずに、「引きこもり」という状態ではない人々の支援の場があればとても利用したいと思っておりました。病院の先生方にも自分の気持ちや状態を話せない人達の話を聞いてくれる、話しやすい訪問もしくは施設などあれば少しずつ家族以外との関わりの中で、症状が軽くなるきっかけになるかと思えます。【30歳代女性】
現在、精神疾患を患っておりますが、基本、なるべくそっとしてほしいですが、何か悩み事があった時に気軽に相談に乗ってもらえてアドバイスして下さると良いですね。【30歳代女性】
・何か（何でも可）本人の自信が付くようなカリキュラムを組んであげると良いのでは…【40歳代男性】
専門の方やボランティアなどで悩みの話を聞ける相談窓口はどうでしょうか【40歳代男性】
気軽に相談できるところがあるといい。【40歳代女性】

Ⅲ 調査の結果

人の気持ちや辛い状況に寄り添えない、そんな人がひきこもりの人の支援をやったら、支援どころか、ますますひどくなるので、支援をする人はきちんと選んだ方が良いでしょう。【50歳代男性】
誰にも相談できない、誰も信頼できない、と殻にこもっている方たちへの支援は、とても良いことだと思います。話をきくだけでも又、話をするだけでも少し楽になることもあると思うので。【50歳代女性】
親や身内ではない者が相談にのったり、話を聞くことで心のケアになると思うので大変良いことだと思う。【50歳代女性】
心の不調は各人で状況が違ふと思います。無理な決めつけをせずに、病院や関係機関と協力して対応をしていただきたいと思います。【50歳代女性】
訪問対応が有効であると思います。【60歳代男性】
近場（例、市役所など）で話を聞いて頂ければ。【60歳代男性】
①生活状況については、不安があっても相談したくても、どこに相談したらよいのか、わからない人も多くいると思うので、こういったアンケートは、とても良いと思う。無作為に3千人ということだが、立川市の人口、17万人ということを考えると、今回は基礎資料の調査ということだからでしょうが、多くの人の声を聞くためにも、もっとアンケート対象の人数を増やしてもよいと思う。②もう、何十年も前のことですが、公的な教室に出たり、相談したことがあるのですが、実用的なアドバイスがなく、ちょっとがっかりしたことがあります。（もちろんいい先生もいらしたと思うのですが）相談する場所があるのは良いですが、相談してよかったと思わせてほしいです。【60歳代女性】
相手の方の一番の悩みをきいてあげる。一人ではないよと思わせるのが大切【60歳代女性】
チラシ・ネット・電話相談の他、新聞屋・郵便屋、姿を見ない情報・孤独死・8050問題の近隣情報、福祉とつながっていないしょうがい者、高齢者、母子家庭、貧困家庭コロナになっても途方に暮れることがないように、と思う。発達障害や精神障害の人への対応セミナー等を、支援者研修する【60歳代その他】

<支援内容や相談機関の情報周知>

良いと思う。支援があると知る方法を支援を受けるべき人が気付ける様になればいい【10歳代男性】
支援があることを広報紙、Twitterなどで大々的に伝えてほしい【10歳代女性】
このような情報をどのようにして、入手するのかを知りたいと思う。また、中々入手したものの「行こう」と思うきっかけがつかれないと思う。その場合どのような支援、声かけ、アプローチがあるのかは知りたい。【20歳代男性】
支援があることを知らない人が多いと思うのでもっと認知をひろげるために宣伝した方がもっと救える人が増えると思う。外出ができない人たちのサポートをしている人（例えば両親や同居人など）のケアも必要だと思う。それについても支援が欲しいと思う。【20歳代女性】
取り組みを市民に伝えてほしい【30歳代男性】
そんなのがあるのを知らなかった【30歳代男性】

<p>・ふだん外出できなくなってしまう前に何かサポートを充実してほしい。・そういった方々が「支援してもらえる」ということがもっとわかるようになればいいと思う。難しい問題ではあると思いますが、より良い生活を送ることができるよう、よろしくお願い致します。応援しています。</p> <p>【30歳代女性】</p>
<p>大きな事件や、救急搬送になってはじめて生活実態がわかるケースに仕事上よく当たります。まず第1歩、ここに相談する等の周知が必要です。しかしそこに連絡をしたとしても対応する職員により差があり介入に至らなかったと言う声も聞かれます。【30歳代女性】</p>
<p>さまざまな理由で外出できなかったり、人との関わりを持っていない人は一定数いるかと思います。そんな人たちに向けて、このような支援があるよ、とわかりやすく示していけるようなものになればと思います。【30歳代女性】</p>
<p>そういった支援は必要だと思うが、認知度が低いまま活動しているのはもったいないと思います。ふだん外出ができない、また身寄がない等であると、支援の存在自体を知らない方も多いと思うので、そのような人向けにだけ知らせるのではなく、まわりが知っていければもっと広がるのではないのでしょうか。【30歳代女性】</p>
<p>早くした方がいいし、市報などアピールした方がいい。【40歳代女性】</p>
<p>相談先がはっきりしない。あちこち紹介（たらい回し）にされるが、仕事を休まないといけない。外出できない者は自分で相談にはいけないので、家族が、あちこち回る必要があるが、土、日休みのところが多い。せめて、平日は18時、19時まで電話予約等できれば、家族の予定もたてやすい。【40歳代女性】</p>
<p>情報が入手しやすいことを望む【50歳代男性】</p>
<p>立川市が身体の病気以外の理由でふだん外出ができない方たちへの支援を検討しているとは全然知らなかった。市民の税金を使う支援制度であれば、市の宣伝目的の表向きのパフォーマンスで終わったり、支援制度を立ち上げたものの使い勝手の悪い硬直したしくみの為に途中で支援制度が停滞しないよう監査するしくみも同時に立ち上げて欲しい。【50歳代男性】</p>
<p>○支援を必要とする人が、その制度を知ることができるように媒体の工夫。インターネットの活用</p> <p>○支援を必要とする人がいることが判明した場合の行政への橋渡し役をしやすいようにする。【50歳代女性】</p>
<p>支援がある事、窓口がある事を多くの人に知ってもらうこと。気軽に利用出来れば良いと思います。【50歳代女性】</p>
<p>近所で「あのお宅の人おかしいな…」など、心配なことをどこの誰に相談すればいいのか、わからない人がほとんどではないかと思う。ネットで簡単に相談できるような窓口があるかもしれませんが、市民にわかりやすく情報をおしえてほしい。【50歳代女性】</p>
<p>身近に必要とする者がいないのでどの様な支援があるか分かっていません。具体的な支援等市報などで教えてくれるとありがたいです。【50歳代女性】</p>

Ⅲ 調査の結果

外出できない方たちとそこにご家族に支援の場がある事を知って頂く事がまず大事だと考えます。広報、インターネットを通して、その場がある事をアピールし、相談しやすい環境を作り、一人の方が長く少しずつでもかかわっていく事で、安心を感じられると思います。いろんな機関と連携をとり、長くご家族、ご本人と関わる事で、外の人を信頼できたり、外に目を向けられるのではないかと思います。安心できる地域作りができるといいです。【50歳代女性】
そういう方が相談しやすい環境を周知させないとどうしたらいいのかわからない人が結構いるのではないかと。こういう無作為のアンケートなどはその掘り起しにはなると思う。【50歳代女性】
今の時代は、ネットの時代ですよ。ネットを通して情報（支援）こんな支援がありますよとCMを流すとか、ネットを利用してない方にはチラシ広告などで知らせる？ でも、文字がいっぱい書いてあると読まない事が多いですよ。立川市はどんな支援ができるのでしょうか？【50歳代女性】
支援のあり方について広報などで詳しく知らせてもらえると有難いです。【60歳代女性】

<行政サービス・インフラ整備>

スポーツ活動を市として支援することがよい。例えばスポーツ施設への助成金など、運営の補助に力を入れる。それも幼少期から。【30歳代男性】
公的な支援は必須であるが、外出せず潜在化してしまいがちな部分について、市以外の公的機関との連携も必要だと思う。【30歳代男性】
中学校から不登校となったが、必要な支援は受けられないまま児童福祉の年齢を超え、ひきこもり、精神疾患を抱えるまでに到り、身体的にも健康を害すまで発見されなかったケースを存じております。ひきこもりにも様々な要素があるとは思いますが、こと児童期における家庭環境や学校での困りごとが後々大きく関わってくることは明白であり、ここに是非たくさんの予算をつけ、十分な個別支援ができるような体制を作っていただきたいと思います。また、行政だけで解決しようとせず、民間企業や、地域の医療機関にも協力、連携をしていくことが必要だと思われます。立川市で安心して子どもを生み育てられるよう、包括的な社会が構築されることを切に望みます。【30歳代女性】
駅近など利用しやすく、見かけやすい場所に健康センターをつくる。（北口モノレール下の通りとか、すごく気持ちいいので、あのような雰囲気の方が最適）市報にのっているようなイベントを開催したり、地域の方が利用しやすいフリースペースを設ける。【30歳代女性】
外出ができない方は様々な理由があると思います。どのような理由であっても、長期にその状態が続くとそれを変えるには本人の意志の変化とそれにともなった長期の支援が必要になると思います。現状の制度でそれを担う部署が少ないと思うので、そこに力を入れて欲しいです。まだ若ければ本人の未来もありますし、長期ひきこもりの方は生活習慣病のリスク増加や働けなくなることによって生保受給が増加して税金も圧迫すると思います。近所にそういう方がいるなら、話し相手など手伝えることはやりたいと思います。【30歳代女性】

<p>・土日の庁舎を何らかの目的（支援につながるような）で開放し、外出先の1つとする。・市役所の職場体験（職業訓練含む）を理由に市役所まで行く、人と接する機会を設ける（都の最低賃金以上の報酬を用意し、就業の意欲を高める）①。・国営昭和記念公園など、上記①を含んだ対応で、散歩や清掃、草取りなど、身体を動かす機会を設ける。【40歳代男性】</p>
<p>外出させようではなく、外出しなくても就労できたり、活躍できる分野もあると思う。子どものころからの環境、障害等でも変わってくると思うので支援は多様であるべき。小さいころからの教育、支援がとても大切だと思います。立川市の家庭支援センターは、とても充実していると思います！！【40歳代女性】</p>
<p>予算と人員が十分であるよう願います。【40歳代女性】</p>
<p>学校に行けない子供達（不登校）の行けるフリースクールみたいな所は、とてもお金が高くてそういうことでお金をもうけようとしている人達もいるのはわかりますが、市でもっと充実させてほしい課題だと思います。【40歳代女性】</p>
<p>外に出たくなるようなイベントをきかくするとよいのではないかとおもう。【50歳代男性】</p>
<p>個人のプライバシーを十分に尊重した上で、支援のあり方を行政が検討し、支援の必要がある方へは可及的速やかに支援の手を差し伸べることは大切であると考えます。特にコロナ禍という状況もあり、個人的には地域の高齢者への見守りや独居老人への安否確認などのサービスは必要ではないかと感じています。【50歳代男性】</p>
<p>車いすでも気軽に外出できるように道路、トイレ等の整備をしてほしい。【50歳代男性】</p>
<p>公立の不登校児向けの支援学校の設置を検討してほしい。【50歳代男性】</p>
<p>コロナ禍も加わり、人々のストレスが増え、心やんでる人が人に強いやな事を言ってしまう傷つく人もふえていると思います。どんな人もやさしくすごせる社会になるようにいやされるしせつがあるとうれしいです。グリーンスプリングスの美術館もうれしいです。【50歳代女性】</p>
<p>ヘルパーさんのサービス（無償）依頼を時間制で、条件付きで。など？ 難しい…課題ですね【50歳代女性】</p>
<p>普段看護師として働いている人達にも、登録してもらい、家の近所の10人担当に振り分けて各家庭訪問し情報収集して、それを市役所に報告していくそこから支援センターに繋げる【50歳代女性】</p>
<p>そういった方への援助にも募集するようなら、事前の学習会や講座で学んでみたい。【50歳代女性】</p>
<p>子供の場合、学校とは違う学べる場所を用意する【50歳代女性】</p>
<p>立川市の子ども育成課青少年係がどうの方が在籍されているのかわかりませんが、停年された方等で今迄このような仕事に携わった方がいたら、係ってもらってはどうですか？【60歳代女性】</p>
<p>町のいろいろな所にのんびりできるスペースを作る。カフェとか子供食堂とかフードコートとか遠くから見守る様な感じで。場所とかをインターネットとか市報とかいろいろな方法で告知する【60歳代女性】</p>
<p>グループホームのようなものがあればよいと思う。【60歳代女性】</p>

Ⅲ 調査の結果

<ネット活用>

外出ができない人への支援はもちろん、同居人及び親族へのサポートも必要だと思う。また、そういった情報へのアクセスが身近にできることも必要で、外出できないという問題はセンシティブなものであるため窓口相談だけでなく、チャットやオンライン相談があるといい。【20歳代男性】
インターネットなどを上手く使える形式があると相談などしやすいのではないかと思います。【20歳代女性】
ネットでコミュニティを作る【20歳代女性】
現代のニーズにあうSNS等も活用しながら対応していくと良い?かも(若者)中高年は、イベントを活用しながらなど?【30歳代男性】
SNS等で情報発信【30歳代男性】
人との関わりに嫌気をさしているのであれば無理に人と関わる必要はないと思う。ただ、自分で何とかしたいと思っている人であれば、ネットを利用する、オンラインで面談するなど必ずしも直接会うことに重きを置くことはないとも思う。【30歳代女性】
SNS等を使って気軽に話せたりするものがあるといいのかなと思います。また24時間対応だと夜中にアクセスしやすいと思います。気が落ちている時は夜が動きやすいと思います。【30歳代女性】
対面での会話が難しい(精神的に)方もいると思うので相談する場合はバーチャルチャットのようにアバター等を使用できると話しやすいかもしれません。(アバターくるりと話す、みたいな)【30歳代女性】
オンラインで悩んでいる人達同士のコミュニティがあると孤立しにくいとおもう【30歳代女性】
オンラインでの対話を増やし、気軽にカウンセラーや人と会話ができるようなシステムがあるとよい。自分からはなかなか言い出しにくかったり勇気がでないこともある定期的に郵送かなにかで、アンケートなどを行って見てはどうでしょう。。【30歳代女性】
メールやLINEなどでの相談を出来る様にしてほしい。 同居家族がいる為、相談に赴くことは勿論、電話相談をすることも難しい状況があることを気にかけて欲しい。【30歳代女性】
オンラインなどで相談や面談が出来ると良いと思いました。【40歳代男性】
LINEなどリモートでのコミュニケーション、ゲームなど気軽に参加できるものから、しっかりと話しができる場所をリモートで提供。チャットもいいと思う。【40歳代女性】
ライン等で気軽に相談する事ができる窓口があれば、会話でのやり取りに抵抗感を持つ人も相談する事ができるかもしれない。【40歳代女性】
具体的にどの程度の重篤度か分からないのですが、単純に外出することでやり甲斐や楽しみを見出さずしていただく直接的な手段では厳しいのではと思います。まずは、VRなどを活用して擬似的な体験をして、外に出たい気持ちを作ることが大切ではないでしょうか。【40歳代女性】
人それぞれ、自分に自信がもてる状態に戻れるきっかけは違うと思いますが、引きこもっている人はネットを見ている人が多いと思うので、市のホームページに行きつけになるサイトに出会えば良いと思います。【50歳代女性】

リモートで、会話の方法を学んでから、景色や人物に会いに行けるように段階をふむ。ゲームのキャラクターとの会話を、充実させて外へ少しずつ目を向けさせる。【50歳代女性】
SNSや電話などで話し相手になってあげる仕組みがあると良いかと思います。人とのつながりが大切。【50歳代女性】
TV電話・ネットを通じて相談できるとよいと思う。【60歳代女性】

<家族への支援>

本人もつらいと思うが、家族も大変なのでサポートが必要だと感じる。また高校中退者などは自分からサポートセンターなどに行かないと社会とのつながりが切れてしまうので何とか支援する方法を考えたい。【30歳代女性】
そのご家族の心のケアもお願いしたいです。【30歳代女性】
身近な人、親族の協力があるべき姿だと思います。【40歳代男性】
親族へのケアと引きこもりの人双方にバランスよくフォローしていくために、何ができるかを模索するしかないように思います。【40歳代男性】
悩んでいる家があれば助けになるような支援のしくみは必要であると思う。【40歳代女性】
その本人への支援よりも、まず家族やまわりの人が幸せになることが大切だと思います。何か追いつめることよりも、周りが寄りそえる環境にあれば良いと思います。身近な人から認められることが第1歩へつながるのではないかと思います。【40歳代女性】
外出できない人だけの問題ではなく、一番近くにいる家族も考え方が大事なんだと思います。家族は「何で？」と苦しみます。「どうしていいかわからない」と言葉に出せる場所が必要ではないのでしょうか？【40歳代女性】
介護が必要な家族と同居されていたり、自分でもどうしたらよいかわからなかったり、どうしようもなかったりして人や社会とのつながりをもととしない方もいらっしゃいます。その方だけでなく周りの家族を含めた支援・関わりが求められているケースも少なくないかと思います。【40歳代女性】
友人、家族にも心の病気になっている人、なった人が沢山いますが、これからもっと沢山増えると思います。本人よりも家族の負担はとてつわりにくいものです。（病院に行きたがらない、病気と認めず、コミュニケーションがとれにくい）まずは家族が相談できる、家族の支援を進めてほしいと思います。【40歳代女性】
正直こういった手紙が来て、とても追い詰められたように感じています。一生懸命取り組まれているのにすみません。家族とか身近な人が支援できるかどうかで1つ、道は分けられるのかもしれないです。【40歳代女性】
早く支援を制度にして早く家族の方の精神的、経済的苦痛を和らげて欲しいです【40歳代女性】
本人だけでなく、それを支える家族等のサポートもよく考えてほしい。職場にメンタル不調になりかけている方がいるが、それを支える周囲もかなり負担が大きい。しかし、本人に注目が行き、なかぬか悩みが解決しない。次のメンタル不調に繋げないためにも、何か手を打ってほしい。【40歳代女性】
自分ではなかなか抜けられず、家族もつらいと思うので、支援は大切だと思います【40歳代女性】

Ⅲ 調査の結果

大人の引きこもりは、さまざまな事情があるので、難しい問題である。引きこもっている方やその家族から支援の申し出があれば立川市としては支援に乗り出すべきである。しかし、支援の申し出がないのに、立川市が積極的に介入するのはいかなものだろうか。そっとしておいてほしいと思っている方もいるのではないだろうか。個別の家庭の事情を見極めなければならない。難しい問題である。【50歳代男性】
・生活弱者への支援は大切との認識と一方で弱者という言葉をとてに就労につかない人も多いと思う。支援のあり方も、もう少し厳格化すべきでは？・ひきこもりになる前に家庭や生活環境でコミュニケーションが重要、まずは家庭【50歳代男性】
病気以外の理由とは精神的にという事だと思いますが、そういう方への接し方はかなりむずかしい事だと思われま。支援されるのであれば、外出できない方のみでなく、周りの家族のケアも長い年月をかけて行なう支援でなければ…と思います。【50歳代女性】
よくわかりませんが、本人へのアプローチがむずかしくとも同居されているご家族へのフォローをしていくことで、少しずつ本人へ近づいていけることもあるのかな、と思いました。【50歳代女性】
精神的な病気の方はそれを認めること自体すごく苦痛であり、薬を服用できる状況になるまでの家族の苦労は大きいと感じる。そうした面で保健所orその他ドクターに相談しても「そこまでは家族の仕事」的な言い方をされてきたことがあるのでそうした面でのサポートが大切と思う。精神疾患も他の病気と同じものである、その治療のハードルを下げられるように小さな頃からの教育をお願いします。本人も周囲も同じように【60歳代女性】

< 専門家の力を活用 >

相談セミナーや、カウンセラーの訪問などが、今後多くなるのが、問題の解決へ向かうと思います。【20歳代男性】
障害年金や就学移行支援のことを知り、市役所に電話して病院などの情報をお聞きしたいと思いましたが、回して頂いた課では、東京都の管轄なので書類などはあるが詳しくはわからないと言われたので、外出ができない方や周りの方が支援にたどり着くのは至難の業だと民間の勉強会で教わりました。【30歳代女性】
しっかりとした知識のある人が対応するなら良いと思う。むやみやたらと「外に出るべき」「体を動かすべき」「引きこもりは悪」と善意の押し付けをするようなことはあってはならないので。きちんと予算を立てて、専門家の指導のもと、報酬をしっかり支払って行うべき。ボランティアができることではないので。【30歳代女性】
仕事や学校のなやみで病気などになった場合、弁護士などの第三者を活用しやすい支援を検討して下さい。【40歳代男性】
リトライできる社会の雰囲気醸成したり、ソーシャルワーカーの拡充をすべき。一つの市だけで取り組むのは難しい。【40歳代男性】

<p>社会とのつながりが無くなると、どんどん不満がたまって、攻撃的になると思います。難しいとは思いますが専門の知識を持った人たちに相談できる機会など、積極的に関わってほしいと思います。公報などで周知があっても自ら行動はしにくいのかなと想像するところです。【40歳代女性】</p>
<p>外へ毎日仕事へ行っている、悩み事を相談できるか、孤独でないかと言われたら、そんなことはないです。私は以前、うつで休職していました。ひきこもることもありました。小さい頃から傷つきやすく（心が）、ひきこもり気味だったと思います。私の現在の状況のチェックからは、細かい質問へと行かず、すでにその時点で、調査のモレがあるのではと感じました。今現在の外出度合だけでは、決められないのではと思います。実際、うつになった時、行けなくなるほど直前まで出勤していました。そして、うつ（ひきこもっている）状態の時には、この様なアンケートに記入できる気力がないです。配偶者も毎日仕事へ行きますが、うつ傾向です。困っていても、両親もなく、家庭の悩みを相談できる場所がないです。この調査でも、Q39「同居するご家族等」について、選択肢の「5～8」には該当せず記入できないです。仕事をしていると平日はむずかしく、こどもがいると土日にも相談の場所へは行きにくいです。「身体の病気以外の理由で外出できない方たちへの支援」の回答とズレているのは知っていますが、元当事者として、現状を知って頂きたく記入しました。知り合いのこども（中学生）が不登校です。通いたいと思えるフリースクールも少なく、カウンセリングにも時間がかかるとききました。認知行動療法をうけられる（値段も時間も場所的にもハードル低く）様なシステムがあれば、よいのになと思います。カウンセリング（認知）をしているところは少なく値段も高く、ハードルが高いです。【40歳代女性】</p>
<p>教科書やマニュアルに載っているような支援やアドバイスではないものがあると思う。専門知識を持ちつつ、親身に話をきき、できれば共有できる人たちがいたらいい。【40歳代女性】</p>
<p>「身体の病気以外」とは精神的な病気ということと考えますと、資格のない人にもかかわらず積極的に話をしたいという人がいますが、そのような人は採用しないでもらいたいです。【50歳代男性】</p>
<p>子どもの引き籠もりから大人の方まで、気軽に支援して、それに専門的な見地から対応してくれるような窓口があると良い。引き籠もりの人を抱える家族のための会はとても大切だ。支え合ったり、わかりあえる。情報も得られるし。専門家も、単に臨床心理士ではなく、引き籠もりにかかわったけいけんやノウハウのある人が適任である。【50歳代女性】</p>
<p>立川市の支援の現状を把握していませんが、心理学、臨床心理学等の専門分野に明るい人材が増える事を希望します。【50歳代女性】</p>
<p>家族へのアドバイス等専門家からおしえてもらえると良いと思う。（接し方、初期行動、気付き、など）【50歳代女性】</p>
<p>カウンセラーなどの人が訪問し、話を聞く。心の病というのは、むずかしいので、やたらに、「がんばって」と声をかけるのは、どうかと思う。また、見ている家族の方にもケアが必要かと思えます。【60歳代女性】</p>

Ⅲ 調査の結果

<就労・就学支援>

職を与えるのがよいと思います。お金をあげても養分としてひきこもりを促進させてしまうと思う。カウンセリングを積極的に行い、ひきこもりの心を根本から直すこともできると思います。「自宅訪問」もカウンセリングにとっては、いい取り組みになると思います。【10歳代男性】
ひきこもったまま大人になった人が就職できるよう、受け入れてくれる企業や施設が増えると良い。最初は非正規雇用で勤務を始めて、一定の水準を満たせば正規雇用にする、といったステップを行政が示すことで、民間企業での導入を進め、間接的な支援ができるのではないかと。【30歳代女性】
就職氷河期世代のこころの病の方の支援はとっくに手遅れです。正社員での雇用をすすめて社会的地位を保証して下さい。【40歳代男性】
現在子供がひきこもっています。子供にあった就職先を支援していただけたらと思います。【50歳代男性】
ネットを使つての仕事の紹介をする。【50歳代女性】
子どもが一時期不登校からひきこもり状態になり昼夜逆転した生活をしていました。いろいろな機関に相談に行ったが、役に立ったと思うことはなかった。ようやく3年前に若年向け就職支援を利用して、現在は働いている。【50歳代女性】
仕事のできる環境を作って、就職できる様に考えてあげてほしい。コロナで仕事がない若者が多く若い子達は悩んでいます。【年齢性別無回答】

<金銭的・物質的支援>

精神的な不調により不登校になったときの配慮が手薄いです。(社会人の引きこもりは周囲に居ないので知りません。)学校が原因で病んだのに学校側からはろくに配慮して貰えませんでした。費用を考えると気軽に転校する事もできません。学校が原因で精神的な不調を起し転校する場合、学校または市で転校費用を負担する法制度が欲しいです。【20歳代女性】
気分転換に、季節を感じれるもの(ガラスにはれるジュエルシールとか)が定期的に送られてくると良いなと思います。【30歳代男性】
簡単なことでも成功体験を積み重ねて自信につなげ、ネガティブな事象に対して逃げられるシチュエーションの確保や、そこでの考え方の提案などで切り替えて立ち直れるようサポートできる仕組みがあること、増長しないよう注意を払った、心が折れないバックボーンとなる経済的サポートがあることは助けになるのではないかと。【40歳代男性】
家族と居ても自室から出ているのかどうか? 独居なら見守り体制等も含め難しい点が多々あると思います。お年寄りなら生活支援品(レトルト食品等)を配布するとかもあるけど、ひきこもり等だと、こもりの生活から一歩外に出るきっかけがなかなか見つからないかもしれないし、訪ねて行くのも厳しいのかな。【50歳代男性】
会話や家族のサポートはよくあると思いますが、“食べること”は人と人をつないでくれるような気がしていて、手作りのお弁当の差し入れとかどうですか?【50歳代女性】

<在宅ワーク>

在宅でできる仕事の紹介、在宅でも社会と繋がることのできるきっかけを与えるなど【20歳代女性】
各々の状況によると思いますが、出来るだけ社会との関わりを持つよう、特に生産世代であればテレワークで出来る仕事の紹介などできれば良いと思います。【30歳代男性】
リモートワークが普及し、引きこもりの方でも仕事をしやすくなったと思うので、短時間・低負荷の仕事委託など始めてみるのもよいのでは。RPAの開発とか良い気がする。【30歳代女性】
ひきこもり本人以外に、同居している家族の支援を具体的に何か出来たら良いと思われる。そして、ひきこもり本人に対しては、在宅で出来る仕事を紹介してあげ、まずは、自分で収入を得て、経済的な自立を目指す。【40歳代女性】
ご本人の負担にならないような支援…と思うと、何が良いのか難しくわかりません。無理に外へひっぱり出すというより、内職のような家にいながらできることを紹介するのはどうでしょうか。自分の存在意義を見出せたり、社会とのつながりを感じたりしていただけたら、それが第一歩になりそうな気がします。【50歳代女性】

<地域の力を活用>

画一的な支援のあり方では立ち行かないと思う。その家庭の構成員だけにフォーカスするのではなく、近所や周辺住民へのヒアリングも大切にしてほしい。【30歳代男性】
フォーマル、インフォーマルに限定せず、地域や人とのつながりを一歩ずつすすめられる様、つなぎ役となる機関が見守り寄り添いつづける、家族がいる場合は、家族支援も同時に検討。【40歳代女性】
昔のような近所づきあいがあればと思う。あいさつから始めてもいいと思う【50歳代女性】

<経験者意見の活用>

よくテレビ等で「引きこもりの息子を助けない」というような番組があるが、体育会系の人間がそれこそ「やればできる」と言って無理矢理引きずり出すようなことをすれば更に悪化してしまうため、同じ境遇を経験した者同士にて話し合い、時間をかけてゆっくりと解決していくべきと考える。【20歳代男性】
就職活動がうまくいかず、誰に責められたわけでもないのに、自分で自分を追い込み、気持ちが不安定になった時、すがる思いで心療内科に行きました。さいわい、軽度のうつで、薬の服用であつという間に力がみなぎり、仕事をみつけることができたため、病院や薬の力が大きかったと実感しました。はずかしいことではないと悩んでいる人に教えてあげたいです。もう同じ想いはしたくないと、ためこまないよう、考え方のくせを変えるよう、日々気をつけながら生きている今は、充実していると思います。支援体勢があると心強く思う人もいると思うので、とてもいいと思います。【40歳代女性】

Ⅲ 調査の結果

・訪問、オンライン、電話（8:00～24:00位までが望ましい）カウンセリングのいずれかを相談者に選択してもらい→それでも解決しなかった場合は、市から精神科医を紹介する。・社会に復帰した経験者の体験談等、生の声が大きな励みになると思う。又は、気軽に閲覧できるようなサイトの充実。【50歳代女性】

<その他>

知らない。認知させる努力をした方がいい。自分のような人間はかなり多いと思う。その家族も相当悩んでいると思う。例えば医師に上から何か言われても逆効果だしひきこもりが悪いとか負け組と考えてほしくない。ひきこもりでも出来る仕事や、社会とつながれる事だってあると思う。【10歳代男性】
そういう方々が増えることは防ぐべきであるが、それぞれの人々にはそれぞれの考え方、生き方があるので、行政が過干渉になるべきではなく、それぞれを尊重することも重要だと考える。【10歳代男性】
ぜひ支援してあげてください。太陽光を浴びる、土に触るなど、自然と触れる機会があるといいですね。【20歳代男性】
具体的な検討策はまだまだ先になると思うが、民間の組織ではなく自治体に取り組もうとする姿勢は重要だと感じる。【20歳代男性】
現在、SNSやソシャゲ等も増え、外出しない人も出てきているのが現状だと思うのですがそっとしておくのも一つだと思います。【20歳代男性】
そのままいてほしい【20歳代男性】
ありがたいけど、1人で行かなきゃいけない、時間が決められている等、むずかしい所がある。行きたくても行けない【20歳代女性】
外に出れば楽しい事があるということを伝えていける世の中になってほしい。【20歳代女性】
普段外出が出来ない人は傷付くが故にだとは思いますが、誰もが傷付きながらも前を向いて生きている事を「外出が出来ない人」も理解する必要はあると思う。優しく寄り添う必要があるのは未成年のみで、ニートを選択する人達は一步を踏み出さない甘えがあるのではないかと感じてしまう。年齢によって支援内容は変えるべき。【30歳代男性】
そのような支援に税金を使うことが不満【30歳代男性】
一方的な判断・見解による支援ではなく、その人一人一人がどうしてそうなってしまった背景と環境から捉えて寄り添って行く事から始めて行かなければならないと考えます。【30歳代男性】
しっかりしたニーズの把握と、双方の安全・安心の管理。【30歳代男性】
適切な支援をしていただきたい。これからの教育の中で、学校配布のタブレットなどでネット依存症などになり、社会不適應などになった場合、支援することは、必要なのでしょうかと感じています。本当に必要な人へ、必要な支援をして、多くの人の福祉への税金の使用を希望します。【30歳代男性】
あくまで当人の気持ちを優先すべきなので、積極的な介入は望ましいとは思わない。当人からの申し出があって、行政が動くべきと考える。【30歳代男性】

税金を使っているのが結果が重要かと、日本は優しい国だから生活保護で生活できるし社会復帰は難しいと思う。【30歳代男性】
今まで認識されてこなかった心の病気やひきこもりに対して、ようやく世間が理解を示し始めたと思います。支援活動はあるべきだと思うし、良いことだと思います。【30歳代男性】
本人が一番つらいと思うので、働きたくても働けないなど又、コロナでストレスを感じていると思うので支援はできるだけした方がよい。【30歳代女性】
自己肯定感を高めていただけるような支援ができれば外へ一歩踏み出す勇気、自信がもてるようになる気がします。【30歳代女性】
兄弟がひきこもりだが支援を受けられたらいいが本人が受けたいと思わなければどうにもならない【30歳代女性】
自分は使わないと思うがそういった拠り所は必要だと思う【30歳代女性】
支援が必要な方に、届くと良いと思う。【30歳代女性】
精神的な支援は時間も労力もかかるとは思いますが、そういった支援があるのは心強いのではないかと思います。【30歳代女性】
行政が積極的に関わることは良いと思う【40歳代男性】
北風政策ではなく太陽政策を心掛けられたい。つまり、家から無理矢理引き摺り出すのではなく、自ら家から出たくなるように仕向ける方がよい。【40歳代男性】
積極的にやってもらいたい【40歳代男性】
多様性と言われる今、一般的と思われている内容が決めつけや押し付けにならないようにしたいです。個人のがまや知識の不足との違いをどのように考えてどのように支えるかは、わかりません。試行錯誤しかないと思っています。【40歳代男性】
一人一人に合った支援を模索しながら、あきらめず焦らず根気よく続けていただくしかないと思います。【40歳代男性】
本人が、支援を望んだ時に、数々の選択肢を提案できる形。押しつけられると、本当に嫌だと思う。とくに訪問は、私でも嫌です。知らない人の訪問は、出ません。【40歳代女性】
長い目、大きな視野で考えればそのような方が増えるのは健全な社会を成す上で良くない。その為、そのような方が減るようにとの目的で支援するのなら賛成です。【40歳代女性】
問題を抱えた人がその支援で前に進めるなら良い事だと思う。【40歳代女性】
とても良いと思います。外出できないくらいの精神状態の時は誰とも話ができないと思うのでむずかしいと思いますが、1人でも多くの方が外出できるようになることを願っております。【40歳代女性】
ぜひ充実していただきたい。むりやり引きこもりの方を「引き出し屋」がつかい出すニュースもみました。“引きこもり=悪”のイメージもなくなることを願っています。【40歳代女性】
今の時代の流れに合わせたもの、時代の流れとは違うもの、選択肢がたくさんあり、きっかけをつかめる人がいることをお祈りします。【40歳代女性】
学校など先生達の余裕がなく、定時に上がるなどで部活動が本当に少ない…。もっと外部に頼んで子供達を発散させることにお金をかけてほしいです。交流が少ないから色々なトラブルが起きると思います【40歳代女性】

Ⅲ 調査の結果

私にできることがあるのであればお役に立ちたいです。【40歳代女性】
引き篭もりは精神的な事もあり難しい問題だと思います。私の考えが誤りかもしれませんが、今の状況で引き篭もれる環境があるだけ幸せだと思ってしまいます。支援に良い提案が浮かびません。すみません。【40歳代女性】
とても難しい支援だと思う。本人は症状上、望まない支援であることが多い。ただ、引きこもりの症状がある方の支援は今後必要だと思う。障害者の就労支援をしているが、引きこもりの時期が長くなれば長くなるほど、社会復帰は難しいと感じています。【40歳代女性】
自分を守るためにあえて外出しないことを選ぶ期間もあるので、その時期の人は無理に外に出そうとしないしてほしい。出たいと思っている人だけにしてほしい。トラウマになるだけだから。【40歳代女性】
生活において困り感を抱えている人のフォローは必要なので、取り組んでいただきたいと思います。ただ、市民全員がある出来事を境にこの状態になるかもしれない可能性を秘めていると思います。だからこそ、なってしまった方たちの支援だけでなく、そうならないために予防的に立川市としてどう取り組んでいくかがとても大切な気がしています。そこについても考えていただけたら幸いです。【40歳代女性】
・大いに支援して下さい。その人、一人ひとりにあった支援の仕方があると思います。理由は一人ひとり違います。何をすれば結果がでるはず、べきであるというスタンスでは、支援はできないと思います。福祉ですので、必ずすぐに結果の出るものではありません。お金もかかると思います。でも、誰もがなるかもしれない事ですので、しっかりと支援して欲しいと思います。【40歳代その他】
良い取組だと思います。是非、働き世代、学生を優先して取組んで下さい【50歳代男性】
是非支援を考えて頂きたい【50歳代男性】
税金をくだらない事に使わずこうした支援にお金を使ってほしい。【50歳代男性】
とてもよいことだと思う。自立できる様に支援してほしいです【50歳代男性】
積極的な支援が必要だと思います【50歳代男性】
外出できないことが、必ずしも悪いことではないことが認識される必要がある【50歳代男性】
健全で活力ある社会のために、皆んなが心身ともに健康でいることができるように取り組んでほしい。【50歳代男性】
色々な状況の人がいるので、全ての人を満足させることは無理なので出来ることから少しずつでもサポートしてプライドを持って生きていける事を目標にして取り組んで下さい。よろしく願いします。【50歳代男性】

<p>全国的な流れや価値観の変化によって、社会福祉で支援や援助しようという考えが年々、強くなっているので行政側もそうあるべきだと社会福祉の拡充に努めるが、高齢者や身体障がい者のフォローとは異なり、精神的な疾患で社会生活が出来ない人の場合、本当にそれで困窮しているなら大いに支援し、社会復帰できるような機会や場所を与えるべきだと思う。しかしその反面、残念なことに就労や就学を単に怠けているだけ、具体的にはゲームや好きな事には没頭できるが仕事はしたくない。学校や職場の規則や時間に縛られたくない、従いたくないから就学就業しない。こういう人の方が大多数だと周囲をみて感じる日々です。そんな人たちに税金を投入して、市の職員、ボランティアを使って、何を支援するのか、出来るのか、疑問です。怠けても、逃げてても普通に生活できるのがおかしい。行き過ぎた保護、支援の結果ではないかと思います。必死になる事も自立しなければ立ち行かなくなることも感じなければ永久的にそんな人たちを助けていく事になるでしょう。時間も費用も無意味だと思います。【50歳代男性】</p>
<p>複合的な理由の方が、数多くいらっしゃると思います。生活環境、病気の有無、年齢等を総合的に考慮しなければ支援のあり方を考えるのは、難しいと思います。私自身、原因不明の体調不良（診断の結果、原因不明）に悩まされていますが、このアンケートにも選択肢がありません。もっと大きな視点で問題の洗い出しをし、支援のあり方を検討する必要があると思います。【50歳代男性】</p>
<p>土や自然と触れ合える機会を作るといいと思います。【50歳代男性】</p>
<p>健全者が考えた施策が当事者に通用するのが疑問。LGBT等と同じく理解不可。外出しない事で生産的な生活をしていない事が問題であって引きこもりが出来る余力がその家族にある事で問題が潜在化する様に思える。半ば強制的であってもボランティア活動や動物の飼育員等で社会との絆を実感させるべきでは？【50歳代男性】</p>
<p>身体以外で悩んでいる方も沢山いる方と思うので支援の検討はいいかと思う。本当に助けて欲しい方もいると思う。【50歳代女性】</p>
<p>積極的に立川市が動いてくれるのは素晴らしいと思う。自分もいつか協力できるのであれば協力したい【50歳代女性】</p>
<p>そういった方たちが、安心して過ごせる行政の手厚いサポートがあればよいと思う。【50歳代女性】</p>
<p>他人を思いやれる気持ちがおありなら、今回差し出し人名を検討するべきだったと、強く感じました。“ひきこもり”という名称を入れる無神経さ。現在本当にひきこもりで悩んでいるご家族に届いたら、ご近所から通報があったかと悩むと思いますよ。【50歳代女性】</p>
<p>支援するにしても、社会そのものの在り方が問われていると思います。誰にでも優しい社会であることが大事であると言いますが、程遠い課題だと思います。【50歳代女性】</p>
<p>昭和の時代は、今の様に心療内科はありませんでした。当時は精神病院しかなく、精神病院に対する偏見もあり、心の病をかくして、自分を押し殺しながら、健全な人間をよそおって社会の中で生きてきました。幸せを感じるだけの心の余裕がありませんでした。これからは、心の病の研究が、もっと進んで、色々なことが解明されて、普通に治療できるようになれば良いと思います。【50歳代女性】</p>

Ⅲ 調査の結果

知識がないので、何ともお伝えできる事がなくて申し訳ないです。とても根気のいることだと思いますが、1人でも多くの方が外への1歩を踏み出せる日が来ることを願っています。【50歳代女性】
不登校などを克服できた時の支援に取り組んだ方がいいと思います。行かなくなって（行けなくなって）しまうより、復活するのが大変つらいのではと思います。【50歳代女性】
どういう支援なのかわからないが、その方たちのためになっているなら良いと思う。が、そうでないこともあるなら無駄だと思う。見極めてほしい。【50歳代女性】
例え、一方的だとしても、常に声かけが必要だと思います。いつか、心を開いてくれる日が来ると思います。【50歳代女性】
なぜ外出できなくなってしまったのかを傾聴して、自身（信）をなくしているなら自信を持てるような何かを、不安を抱えているなら、不安を取り去る（やわらげる）ことができるような支援をしてあげるようにしたらよいと思う。まずは、常日頃からの声掛け（あいさつ、たわいもない話）や、食料品等の買い出し等試してみてもいいでしょう。【50歳代女性】
少しづれですが私も仕事以外では外出がおっくうです。冷蔵庫が空っぽになっても買い物に行きたくないです。この様な普段は仕事をしていてもひきこもりの人の支援も考えていただけると助かります。【50歳代女性】
家族以外が介入するのは難しいのではないかと思います【50歳代女性】
一度社会のルールからはずれてしまうと、なかなか居場所がみつからないような気がします。本当は誰かに話を聴いてもらいたいくても、どうしたらいいか分からなかったりするのではないのでしょうか。あと、外出できない人が一歩進むためには、相当なエネルギーが必要だと思います。【50歳代女性】
こうした支援があることは知らなかったですが、いざという時に支援があるのは安心できると思います。【50歳代女性】
大変な取り組みだと思いますが必要と感じますのでぜひ続けていって欲しいです【50歳代女性】
本来は自身で何とかするものだと大体の方々は承知のうえで外出出来ていないと思われるので、行政の支援は難しいと思います。【50歳代女性】
本人の気持ちを尊重すべきなのは最もですが、全く努力しなくても良い方向に向かっているのはどうなのかと思います。【50歳代女性】
意見 我が家はひきこもりとは全く関係がなく、ただコロナで在宅業務が多くなっているだけです。本アンケートは、現在の多くの在宅業務者にはマッチしていないと思います。【60歳代男性】
家庭という小さな社会の機能がちゃんとしていなければおたがいさま、やらちょっとしたがまん、おもしろいという部分が育たないのでは？ 自由なのか勝手なのか？【60歳代男性】
くわしい事は分かりませんが、自治体による支援はとても重要だと思います。支援が必要な人が支援を受け易くする工夫は大切だと思います。【60歳代男性】
社会と接してこそ生活が安定するのでこうした取り組みは良いと思います。【60歳代男性】
この様な人は余りケアし過ぎるとかえって気を使い、逆にこもってしまうので、十分に理解し接してあげた方が良く思う。【60歳代男性】

手を差し伸べているが、それが表には見えない人もいるだろうし、誰とも関わりたくない人もいるでしょう。どこまで踏み込んでいいものなのかとても難しいと思います。縛る法律ではなく護る法律ができれば、例えば虐待や孤独死が減るのではないのでしょうか。【60歳代男性】

そういう活動が有るとはじめて知りました。【60歳代女性】

責任ある対応をお願い致します。【60歳代女性】

大変むずかしいと思いますが、支援出来る方法を見つけていただきたいと思います【60歳代女性】

・子どもが居る人しか、救いの手を差しのべられないのか？ ・一人住まいの大人でも、生活がギリギリです。辛いと思いつつも、声を上げられない大人もいるのです。一人住まいの大人も、救ってほしいです。よろしくお願ひします。【年齢性別無回答】

Ⅲ 調査の結果

38 現在や将来の不安

Q38 現在や将来のことについて、不安に思うことはありますか。ご自由にお書きください。

以下では回答の一部を抜粋し、ひきこもりの経験や内容別に分類した。なお、回答からは個人が特定できないよう加工している。

○広義のひきこもり群

<老後>

多分、私が一人になってしまったら、身の回りを片付けて回りに迷惑かからないように消えたいと思います。【60歳代女性】

<生活>

父と離れて暮らしたいが病気治療で無職、どうしたらいいのか。【30歳代女性】

いつ生活保護が切られるか不安になります。【40歳代男性】

防犯面から地域の周りの人に相談事を話せません。孤独死して親やきょうだいに迷惑かけたくない、とは思っていますが、何の目標、目的もなく何十年も生きるのかと…。絶望、孤独感の毎日です。【50歳代女性】

<金銭管理>

就職・貯金【20歳代男性】

<出産・育児・子ども>

コロナで勤め先がなくなって新しいパート先が見つからないので娘たちの塾費用が心配。とにかく教育にお金がかかりすぎる。【40歳代女性】

<仕事>

あまり転職しないで、続けられる、仕事につきたい【20歳代女性】

仕事が決まらないのに将来もない。就職の面接は本当にひどすぎる【40歳代男性】

○過去に広義のひきこもり群であったと思われる人の群

<老後>

定年退職した後の年金生活【50歳代女性】

老後のこと【50歳代女性】

<健康維持・病気>

配偶者が大人の発達障害の傾向があるので、将来のことが漠然と不安。【40歳代女性】
年をとり一人となり、体の自由がきかなくなった時どう生活してけばという不安があります。【50歳代男性】
両親兄弟以外に頼る人がいないので老いて体が動かなくなったら困る。【50歳代女性】

<介護>

現在、祖母の介護をしています。介護制度が実際の介護生活の負担や欲するものに追いついていけないと強く感じているので、若者・高齢者のどちらの視点でも、どうにかして欲しいと思っています。【30歳代男性】
以前のヘルパーさんに、又ヘルパーしてもらえると聞いたが他の仕事に就いたので、もうヘルパーはしないとされました。以前は遊びもたまに有りましたが、病院等の付き添いも現在では、無理の様です。その内ヘルパーさんも増えると良いのですが。【40歳代女性】
障害者、高齢者に対応出来る公共機関が少ない。そのため、優生思想が強い。【50歳代男性】

<生活>

親からのお金を返す為にアルバイトはしているが、自分が社会に適合できる気がしない【20歳代女性】
歳をとって身体の自由がきかなくなっても周囲に家族も知人も居ない【40歳代男性】
将来もらえる見込みの年金額では生活できない。私の年代で、そういう人が大勢出てしまうと思う。自分個人の不安と、社会全体が機能するのかという不安の両方がある。また、自己責任論が世を席卷し、他者への攻撃性が増してきていると感じる。身体的、精神的、経済的、社会的と、様々に問題を抱える人はいつの世もいるが、それを助けようとする人達がいなくなるのではないかということが最大の不安要素。【40歳代女性】
いつまで働けるか、いつまで生きられるか、収入源はどうするのか【60歳代男性】

<金銭管理>

金銭の不足【20歳代男性】
金銭面で不安になる事はあります。【30歳代男性】
給料は上がらないのに物価や光熱費が上がることに不安を感じます。また、一人暮らしでマンションでは没コミュニケーションのため何かあったときに助けてもらえないかとも思います。【30歳代女性】
金銭面【40歳代女性】
自分は独身で、親は高齢。という家庭。さらに一戸建てだが、親が亡くなった後、家を維持できるか心配。現在の収入で、相続税や固定資産税を払えるのか等。【40歳代女性】
貯金が残りに少ない【60歳代男性】
娘、孫と一緒に生活していますが、金銭的に将来このまま生活していけるか心配です。【60歳代女性】

Ⅲ 調査の結果

<受験・学業・就職活動>

就活で疲れる【20歳代女性】

<結婚>

結婚【20歳代女性】

結婚して子供を作りたいと思いますが、自分にそれが務まるか。【20歳代女性】

給料が安くこれから先もあまり上がらないと思うので結婚できるか不安【30歳代男性】

生涯独身かどうか。友人も居ないので、今後、相談出来る人が出来るかどうか。兄弟とも不仲なため。老後資金。【30歳代女性】

<出産・育児・子ども>

育児【20歳代男性】

<仕事>

今の仕事を将来続けられるか、と思うことはある。【30歳代男性】

いずれは雇用形態を【正社員】で就業できるような支援を、出来れば地元（立川）や多摩地域で働けるような環境があればとも思います。2時間以上の出社（通勤）は割に合わないと思います。【30歳代男性】

勤めている会社の状況が余り良くなく給料、ボーナスも少ない。何も出来ない自分では正社員になってもやっていく自信がない【30歳代男性】

ずっとこのままでいいのか…とよく思う。一生懸命仕事をしていても成果（給料）が見えない。【40歳代女性】

<その他>

NPO法人活動をしております。自らの経験を活かし、団体メンバーと共に「不登校」という課題へ取り組んでおります。非常にやりがいのある、大切な仕事だと思っておりますが、それだけでは将来の生活に不安があることも確かです。実際に今も団体での活動以外にアルバイトもしていて、生活に必要なお金はそちらがメインとなっています。これから団体での活動を発展させ、より多くの方に自分たちの活動を伝えていけば、状況は好転すると思っておりますが、それでも同世代の友人などと比べた時、満足する収入を得られるのかという不安はあります。【20歳代男性】

不安しかありません。【20歳代女性】

政治、経済、安全保障、災害、不寛容な社会、閉塞感【40歳代女性】

不安だらけ。【40歳代女性】

子供のことや健康のこと、老後のことや人間関係など不安や悩みがあります。けれど、人に相談したり、美味しいものを食べたり、外出したり、家でのんびりしたりして、気分転換をすることで心の安定を保っています。あとは誰でも悩みはあるものと割り切っています。【40歳代女性】

○広義のひきこもり群・過去に広義のひきこもり群であったと思われる人の群以外

<老後>

老後のお金。【10歳代女性】
将来の年金などの老後のことについて。【20歳代男性】
定年退職後は不安です。結婚もしたくないので、長生きもしたくなくて、とりあえず生きている状態です。（リアルは充実していますが…今のところ）【20歳代女性】
老後資金、子供がいないので自分が死んだ後の配偶者の処遇、逆に自分が孤独死にならないか。【30歳代男性】
定年後の生活【30歳代男性】
老後資金の用意【30歳代男性】
老後の資金が心配です。年金もらえるかな。【30歳代男性】
子どもが一人なので、老後金銭的に身体的に負担を重ねないか不安に思います。【30歳代女性】
老後の生活。主に資金や仕事について。【40歳代男性】
年金だけでは生活できないと思うので、老後の資産形成について、不安に思っています。【40歳代男性】
老後の生活（年金等）【40歳代男性】
単身のため、退職後孤独になってしまうのではないかと不安に思っている。【40歳代男性】
老後【40歳代男性】
老後の生活、年金などの不安【40歳代男性】
未だ子供ができず、もしこのまま子供ができなかったら、老後、誰が自分たち夫婦の面倒を見てくれるのか。【40歳代男性】
老後の生活には不安は多少なりともあります。【40歳代男性】
自分自身や周囲の高齢化【40歳代男性】
老後の経済的不安がある。国民年金は仕組みがねずみ溝と化して破綻してしまっているの、早急な改革が必須だと思います。【40歳代男性】
定年後のに安定した生活が送れるか【40歳代男性】
孤独死【40歳代女性】
老後生活【40歳代女性】
一人暮らしで子供もいないので孤独死について考えてしまう【40歳代女性】
教育費を希望する人に、主たる年収者（所得制限）等に決めて国や市から出して欲しい。60才以上時の生活は不安…働き続けられるか。【40歳代女性】
定年後の生活、金銭面、住居については今も安定してないので不安はあります。【40歳代女性】
老後について【40歳代女性】
老後問題。独居の賃貸物件探しなど。【40歳代女性】
老後には不安があります。先のことなんてわからないものですし、今の日本は恵まれていると思うけれど、平等ではないし、年金も本当にもらえるのか、長生きが幸せとは思えないです。【40歳代女性】

Ⅲ 調査の結果

更年期、老後、子どもの進学、金銭面など【40歳代女性】
・年金。・老人ホームあるかな。・墓。・社会福祉、受けられるかな。【40歳代その他】
子供が居ないので先々どうするかな？とか実家の墓守りや自分に子供が居ない為、寺の檀家には入れない等の問題あり。夫婦が入る墓をどうするか？年金にも不安がある。【50歳代男性】
老後の生活はどうなるのか？【50歳代男性】
老後の資金、健康【50歳代男性】
定年退職後の暮らし方について考えることはあります。【50歳代男性】
定年後の生活【50歳代男性】
老後が少し不安です。【50歳代男性】
定年退職前後が心配（なんとなく）【50歳代男性】
老後の生活に漠然とした不安がある。【50歳代男性】
仕事を退職したら金銭面や時間の使い方で、どうなるか不安【50歳代男性】
老後【50歳代男性】
定年後の生活維持がとても不安で仕方が無いです。【50歳代男性】
将来、仕事をやめて夫婦2人の生活になった時に、つまらないと感じるようになるのではないかと不安になります。今はご近所づきあいもほとんどしていないので、将来ひまになったときに良い関係を築けるかも不安です。【50歳代女性】
子供がいないので老後の事【50歳代女性】
老後の健康サポートが心配【50歳代女性】
老後の生活です。【50歳代女性】
老後の心配。未来を担う子供、孫達が安心してこの地球に暮らしていけるのか？【50歳代女性】
定年後について不安になる【50歳代女性】
老後の資金や、介護。【50歳代女性】
子供がいないので老後が多少は心配【50歳代女性】
老後について【50歳代女性】
親せきづき合いもないし子供もないので将来1人になりそうで不安に思う。【50歳代女性】
老後のこと（年金について）【50歳代女性】
老後の事や、働けなくなったら、会社に解雇されたら、等々キリがない。【50歳代女性】
子供がいないので老後が不安【50歳代女性】
・年金生活になり介護が必要になった際に施設入所した場合お金が足りるのか心配です。【50歳代女性】
今は特にありませんが、やはり歳をとった時にこどくにならない様に心がけなければと想ったりします。いずれ子どもは離れていきますから、一人になった時の不安はあります。【50歳代女性】
いつまで元気で自分の身の回りのことができるのかとか不安はあります。いずれ一人になった時が不安です。【50歳代女性】
将来、独居になった時の身の振り方は不安になる事がある。【50歳代女性】
貯金ができず老後が心配【50歳代女性】

老後のお金のこと。情勢や政情により変化するので、現時点で大丈夫と思ってもその時になったら…と不安に思うこともあります。【50歳代女性】
子供がいないので自身の死後の諸手続きなど【50歳代女性】
老後について不安があります。【50歳代女性】
老後の生活【50歳代女性】
老後の生活。貯蓄がない今の状態で、年金だけで生活できるわけもなく、10年後どう暮らしていたらいいのか不安【50歳代女性】
子供がいないので、死んだ後の事が心配【50歳代女性】
配偶者を残して死亡すること。【60歳代男性】
自分の最後【60歳代男性】
老後の生活【60歳代男性】
年金だけでは生活できない。働けなくなったときの生活が不安【60歳代男性】
老後の生活のための貯金がなく、年金だけで生計が成り立つか不安に思う。【60歳代男性】
日本は主要な先進国の中では税金が高い割には、国や公共団体からの福祉やサービスは充分では無いと思う。その結果、歳を重ねるにつれ生活不安は募る。【60歳代男性】
独りになった時の身の回りの世話。【60歳代男性】
子供がいないので、老後、どうなるかと考えることはある。それなりに、なんとかなっていくと思っています。【60歳代女性】
国民年金を受給しているが、それだけでは生活が出来ない。今は主人が仕事しているからいいが、仕事が出来なくなったらどうなるのか将来が不安。子供にはあまり頼れないし…。【60歳代女性】
賃貸マンションなので年金をもらう様になって年金だけで生活できるのか不安です。【60歳代女性】
年を取って、働けなくなった時、年金で生きていけるのかが不安です。【60歳代女性】
二世帯だけど生活も食事も別。主人もほとんど居ないので1人。今は仕事しているが、やめたら1日中ひとり。不安になる！！【60歳代女性】
自分の老後については世の中の変化を含めて異常気象等漠然と心配している。【60歳代女性】
年金だけで生活できるか【60歳代性別無回答】

<年金問題>

年金が支払われるかどうか【20歳代男性】
年金が少なくなる【20歳代男性】
お金… 年金もらえるのかな…【30歳代女性】
年金を何の為に払っているのかわかりません。将来もらえないお金なのだとしたら、何の為に制度なんのでしょうか。バブルのつけは払いたくありません。【30歳代女性】
年金などもらえないと思うと将来暮らしていけるのか不安。(正規職員として働いた事がなく同じ職場で長期のアルバイト)【30歳代女性】
老後に年金がもらえるのか、病気になってしまった時が今不安に思うことです。【30歳代女性】

Ⅲ 調査の結果

年金がもらえないかもしれない【40歳代男性】
年金・税金【40歳代男性】
支払った分だけ、本当に年金が受け取れるのか？【40歳代女性】
年金がもらえるのか不安。【40歳代女性】
年金問題【50歳代男性】
年金とか足りないんじゃないかと不安になります【50歳代男性】
生活できるだけの年金を受給できるのか、そのことにより、老後は生活していけるのか、等です。【50歳代男性】
年金が保障されるか不安です。【50歳代女性】
年金【50歳代女性】
退職後、最低限暮らせる年金が支給されるか？【50歳代女性】
年金額が下がっていくのではないかと【60歳代男性】
年金【年齢性別無回答】
年金もらえるか不安【年齢無回答女性】

<健康維持・病気>

仕事によるメンタル不調や突然の病気、怪我で働けなくなり収入がなくなった場合の生活について不安に思う。今後、子供など家族が増えた場合にはさらにそういったことが不安になると思う。【20歳代男性】
・健康でいつづけられるか・自然災害【20歳代女性】
病気の関係で仕事の幅が減って困っている【30歳代男性】
自身に身体障害があるため家族が病気などになった場合に今の生活が維持できるかどうか【30歳代男性】
大きなケガや病気で働けなくなったらとはおもう【30歳代女性】
両親が大病をしていて高齢の為、先行が不安である。自分で両親のように立派になれるか不安。自身も心臓病なので更に心配です。【40歳代男性】
父子家庭なので子供たちが成人するまでは健康でいたい。【40歳代男性】
単身者のため、病気や老後などに不安を感じます。【40歳代男性】
あまり健康的でないので考えると不安になる事がある【40歳代男性】
長引く病気になって体に不自由が生じ、子どもや家族に精神的、経済的な迷惑をかけることになったらどうしようとは思っている。【40歳代女性】
いつまで健康で働けるか…と思うことはあります。【40歳代女性】
※70才以上になったら、認知症とかの検査等を割引とかで受けられるようにしてほしい。本人がなかなかみとめないから、市とかから通知きたりすれば、家族も言いやすいと個人的に提案したい。【40歳代女性】
家族に迷惑をかけないか。友達含め、人間関係ができるか。飲みつつける薬での体調変化。治らない病気だが、どこまでよくなるか。など【40歳代女性】

<p>病院はお金が掛かるし、行きたくても行くこと自体本当に頑張らないと気持ちがとても辛いので本当に本当に辛い時にしか行くことが出来ません。次の診察の約束を守れないことも多いです。知らない人に話すのは緊張して頭が真っ白になってしまって手が震えたり声が出なくなったりしてしまいます。だから知らない人に会ったり電話したりはちょっと頑張れません…。自分の現状をわかってもらうには沢山説明しないとイケない。でも、説明しても普通に生活出来る人には理解して貰えないことばかりです。自分でも何で、と毎日365日思っていますから…。だからとても疲れてしまいがちです。私は引きこもりというより鬱寄りでの現状なのかも知れません。こんな風に少しずつ自分をみれるようになったのもここ数年です。将来のことは今は考えられないです。毎日出来ることをこなす事で精一杯といった感じです。【40歳代女性】</p>
<p>不安なことは…①リハビリは頑張っているが、体が徐々に動かなくなっていること。②物忘れが多くなったこと。③金銭的に生活が苦しいこと。等です。【50歳代男性】</p>
<p>健康【50歳代男性】</p>
<p>家族に迷惑を掛けず、いかに健やかに余主に過ごすか認知症や大病に掛からない様にとしたところ【50歳代男性】</p>
<p>自分の病気の再発です。食事、生活に気をつけていますが、気がつかないうちに自分の体の状態が悪くなった経験があるので。【50歳代女性】</p>
<p>・認知症の症状がでてきたりした時に、誰の助言（自覚ない時）を信じれば、治療介護につながるのか…不安である。【50歳代女性】</p>
<p>認知症についての不安【50歳代女性】</p>
<p>年金、体力【50歳代女性】</p>
<p>離婚をしていて子供の事が常に心配。また、病気気味なので仕事はいつまで続けられるか生活面も心配。【60歳代男性】</p>
<p>病気の事、年金の事、住居の事（1人ぐらしの不安）【60歳代女性】</p>
<p>体力の衰え。市、主催の講座に申し込んでもハズレたりで継続して運動が出来ない。自分一人ではなかなかやらない。週2回位運動できる環境がほしい【60歳代女性】</p>
<p>◎将来、もっと年をとった時に、できるだけ子どもの世話にならずに健康で（←重要）生活できるのか、考えてみると、不安になる。【60歳代女性】</p>
<p>健康について【60歳代女性】</p>
<p>痴呆になったとき、子供に迷惑をかけないか心配です。【60歳代女性】</p>

<介護>

<p>義両親が健在な今の内に、病気を抱えた義理のきょうだいとの関わりで、少しでも症状が軽くなるもしくは、身の回りの事が出来るようになったり社会との関わりが増えて欲しいと考えています。将来、きょうだいの面倒を見ることになるので、きょうだいの負担にならない程度、デイケアのような集まりやイベントなど少しずつ参加など出来たら、きょうだいを含め、私達夫婦家族も相談や心の寄り所にさせて頂きたいです。子供の負担にだけはしたくないと思っています。【30歳代女性】</p>

Ⅲ 調査の結果

現在30代でまだ身体が自由がきくが、将来、人の手が必要になった時に受けられる介護サービスがある時代になるのか、少子高齢化社会がとても心配です。ある程度の収入があがっても、晩婚化が出生率を下げてしまうと思いい対策が打てないものかとよく考えています。【30歳代女性】
老後について夫の健康 私が出たあと、親戚の面倒。（両親も高齢なので、身体障害者の親戚をどうするのか、心配）【40歳代女性】
両親の介護が必要となった時、自分にできることは何か、仕事は辞めないといけないか。コロナ禍がいつ終わるのか。【40歳代女性】
遠方に住む親のこと。今後もし介護等が必要な状況になった時、離れているのでどう対応していくのが良いのかと思います。【40歳代女性】
配偶者が介護をしてくれているので、健康面が気がかり。【50歳代男性】
主人がなくなっているので今後将来の介ごしてもら側になった時の不安はある。子どもに負担をかけたくない。【50歳代女性】
<ul style="list-style-type: none"> ・老後の資金不足。 ・仕事いつまで働けるのか不安。 ・親の介護資金不足【50歳代女性】
子どもの在宅介護生活（重心）で20年以上なのです。いろんな機関と連携して生活しています。私の年も還暦をむかえるころに。いつまでも元気で介護できるか…災害のこと…いつも不安に思っています。【50歳代女性】
高齢になった時の生活について（人の手助けが必要となった時）【50歳代女性】
今親類の介護をしていて、別の自治体での介護認定医が長期待ちな状態。自分の老後が心配【50歳代女性】
介護や老人になることについて。【60歳代男性】

<生活>

充実した社会人生活ができるか【10歳代男性】
ケガや病気によって働けなくなり金銭的に厳しくならないか。独身のままで、家族と死別した後どうなるのか。老後に金銭的に余裕がある状態で暮らしていけるのか【20歳代男性】
自分が何をしたいかわからない。【20歳代男性】
将来のことについて、就職や結婚にぼんやりとした不安があります。もし何もかも上手くいかず、一人で生きることになったときにはたして生きのびることができるか時々考えては心配になります。一人っ子なのでその思いは強いです。【20歳代女性】
自分の意見がない、仕事がない、身の周りの事ができない、常に体調不良【20歳代女性】
片親で、将来の生計や母がいなくなった時、頼れる人がいなくて不安。【20歳代女性】
20代のうちに結婚できるか、将来子供ができたとして不自由なく育てられるか、両親の介護が必要になったときどうするか【20歳代女性】
結婚・出産・お金・家族の健康【20歳代女性】

引越しをしてきて、数年が経ちますが、病状が悪化してしまい思うように働くことが出来なくなっていました。何とか在宅での仕事を、とは思うものの、なかなか見つからず、現在は両親に迷惑を掛けてしまっている状態で、大変心苦しいです。世間一般的には自身の年齢であれば、もう十分に自立出来ているはずであると考えれば考えるほど、自分が情けなく、生きていても仕方が無いと思ってしまう毎日です。【20歳代女性】
将来の自分がどうなっているか。【30歳代男性】
隣の人が誰か、何れの国の人かもわからないと、余計な不安を生んでしまいます。共同での地域の防災訓練など、半強制的な形ですが顔を合わせて1つのことに取り組むことで、連帯感のようなものも芽ばえてくるのではと思います。【30歳代男性】
自分の生活が安定していないので、金銭的、健康的に日々不安を抱いている。【30歳代男性】
生活は守られるのか【30歳代男性】
現在、母子家庭で毎日仕事や家事に追われ、体調が優れない日も多く不安です。また、金銭面でも悩み事が多い状態で、この先幸せを感じる日が来るのだろうか不安でたまりません。【30歳代女性】
<ul style="list-style-type: none"> ・年令的に、少しずつ体の不調が出てくるようになった。 ・年老いた時の孤独感や孤独死について、お金について ・ものすごい勢いで戸建てや集合住宅が出来ていくので、暮らしにくくなりそうな圧迫感【30歳代女性】
パートナーがいないことについて、収入がないことについて不安に思うことがある。【30歳代女性】
仕事のこと、家庭のことなど、小さいことがいくつもあります【30歳代女性】
転職や親の介護などが重なるので少し不安です。今後、生活していけるのか、不安です。【30歳代女性】
家族のこと、子供のこと【30歳代女性】
同居ではないが義理のきょうだいが2人もひきこもりで大変、今後が不安。【30歳代女性】
給料は下がる一方なのに、税金があがり、おかしなことに社会保障もあがり、子育て世帯に限らず、昨今のコロナ化で生活苦な国民が多く、将来生きていけるか不安。子供は欲しいけど稼ぎが少ないがゆえ子供を産むのを控えたほうがいいのかと悩むこともあります。【30歳代女性】
やはり、長期間の就労ブランク、女性、精神疾患、現在の年齢、という条件下で生活保護を受給しながら、これからどう自立して行ったら良いのか？ 毎日大変苦しい思いをしながら過ごしています。【30歳代女性】
海外在住のため、文化や価値観の違いに戸惑うことが度々ある【30歳代女性】
何のために仕事をして、何のために貯蓄しているか分からない。【40歳代男性】
<ul style="list-style-type: none"> ・市内に住むための助成金（購入、定住）。 ・空き家のあっせん。リノベーション、リフォームなどの助成。【40歳代男性】
本当にやりたい事ができず、日々の仕事に忙殺している。時間が作れない。【40歳代男性】

Ⅲ 調査の結果

<p>世帯年収の基準値を少し越える世帯は、ギリギリ越えない世帯よりも我慢を強いられる状況に疑問と不安を感じます。社会に対する貢献や奉仕はできても、個人の努力が報われているとは言えない気がしています。【40歳代男性】</p>
<p>一時的に仕事や家族のことで、いつもと違うことが起きてストレスになるときに、仕事の負担や、家族の負担が減ればと考える時がある。一時的なものなので、このような状態がずーっとつづいたらと思うと、不安になるときがある。なるべくするようにしかならないと考えるようにしています【40歳代女性】</p>
<p>いつまで働けるか。老後（退職後）暮らしていけるのか。子供に税金など負担が増えるのではないか。住みやすい日本になるのだろうか。【40歳代女性】</p>
<p>親以外の人とはかかわりが無いのでひとりになった時の身のふりかた。【40歳代女性】</p>
<p>夫婦仲が良くないのでこの先不安。老後の生活、介護等【40歳代女性】</p>
<p>老後の資金が足りるか。【40歳代女性】</p>
<p>もうすぐ50才になり、子供はおらず、夫婦2人の生活なので、どちらかが病気になったり、働けなくなったりしたら大変だなとは思ったりします。【40歳代女性】</p>
<p>老後の生活。これからの仕事。子供の学費。【40歳代女性】</p>
<p>万が一、夫が死んでしまったらどうやって生活をすればいいか不安に思う時はある。【40歳代女性】</p>
<p>自分のきょうだいはずっと引きこもりです。実家で高れいの親と住んでいますが、親が亡くなった後どうするのかずっと心配です。【40歳代女性】</p>
<p>高齢出産したので子どもとの今後について不安がある。また、夫との関係性にも不安がある。【40歳代女性】</p>
<p>仕事から引退した後の社会とのつながり。【40歳代女性】</p>
<p>遠方で一人暮らしをしている実母のこと、親戚（独身）のこと、介護、相続関連【40歳代女性】</p>
<p>金が無くなった時【40歳代その他】</p>
<p>家族なんて、いつバラバラになるかわからない。いつかみんなバラバラになるんじゃないかと言う漠然とした不安ばかり考えるようになってしまった。【40歳代性別無回答】</p>
<p>賃貸で住んでいるが、戸建て、分譲の価格が高く、購入できない。定年後、賃貸で住み続けられるか不安。【50歳代男性】</p>
<p>子供がいないため、将来1人身になった時の生活にとっても不安を感じます。入院時の家やいろいろな支払い、亡くなった時の手続き、財産や、預金の手続きなどの不安が大きいです。また、年金の受け取り額も減少していく傾向のため、生活が本当にできるのかなどの不安も大きいです。【50歳代男性】</p>
<p>現在、資格試験の合格を目指して勉強しており、定職には就いていない。定職に就きながらの合格は難しいため、専業受験生を選択した。精神的・金銭的にいつまでこの生活を続けられるのか、将来合格できなかったらどうなるのか、ということ考えると不安である。【50歳代男性】</p>
<p>居住費用の高騰くらいです。【50歳代男性】</p>
<p>自分や家族、病気やケガ、失業などで、経済的に困窮するのではないかと不安に思う。【50歳代女性】</p>

あらゆる差が生じてきて、住みにくい日本になるかとは思っています。【50歳代女性】
自分が誰にも必要とされていないと思うことが多い。【50歳代女性】
移住してきてから近隣とのつきあいはあまりなく、あったとしてもその方々は高齢の為、自分が将来、1人になった時、認知症などになり始めた時など、不安です。【50歳代女性】
母が亡くなり、自身も独身の為今後の生活に対し本当に不安である。きょうだいも結婚し自身の家庭があり、協力は得られない。いつまでも元気であるはずもなく、誰に相談して良いかわからない。【50歳代女性】
年令的に「住」が心配【50歳代女性】
昨年主人を亡くし、独居になり、精神的に不安。【50歳代女性】
・核家族の多い人達・独立してしまう可能性、どう書いていいのかわかりません【50歳代女性】
両親も他界し、子供もいないので、この先が不安です。【50歳代女性】
実家問題【50歳代女性】
住まいのこと、(将来)病気やケガなどで就労できなくなったらたちまち困ると思いますので他人事とは思えないです(このアンケートの内容も)【50歳代女性】
昨年主人が突然他界し一人暮らしになってしまった。まだまだ働かなくては生きていけないと思うとこの年令を考えると不安になる。【50歳代女性】
一人暮らしの実父への対応について【50歳代女性】
派遣社員としての就業期間の延長が可能なのか、3年間の縛りによって就業先が変わり、新たな環境と業務内容への適応がうまくいくのか。子の大学進学にかかる費用が家計を圧迫しないか。収入制限ギリギリで児童手当や就学支援金・次の補助金も対象外になるので、夫の定年後の生活にどう影響が出るのか。今まで払ってきた年金や保険料が、自分自身にとって無駄に終わらないか。【50歳代女性】
配偶者との関係【50歳代女性】
離れて暮らす両親のためにどうしたら良いか。【50歳代女性】
母の介護看護取りを体験し、残された父の今後、独り身のきょうだいと実家の家の事、自分の老後等。お金の事も含めて心配しかない【50歳代女性】
夫がいる時は好きなテレビも見れない。きっと離婚すると思うが資金が全くない。今は我慢して住んでいる。【50歳代女性】
収入が大幅に減り経済的に余裕がなくなってきた事が一番不安です。夫婦仲も良くない事も悩んでいます。【50歳代女性】
仕事を失い、所持金がなくなり、住む場所も失ってしまった場合、どうすれば良いか、何か有効な救済制度はあるのかも知りたいです。【50歳代その他】
公団が古く、実際入居したいと思えない。【60歳代女性】
不安は沢山あります。老後の生活など、主人が病気の為、入院や手術など。借家の為、この先市営や都営に入りたいが…年金が本当に出るのか出ても生活は出来ず今までの年金料はどこに…ですね。不安を考えれば本当に沢山出ます(主人は、サラリーマンでなく、職人なのでこの先が心配、今も仕事は出来ません)【60歳代女性】
母親の介護と娘の妊娠やこそだてがかぶったらと困るなあ。自分の病気!【60歳代女性】

Ⅲ 調査の結果

<金銭管理>

給料低い【20歳代男性】
収入について不安です。【20歳代女性】
政治や社会人になってからの税金など金銭面で不安なところがある。保険など社会人になってから必要なことを知りたい。【20歳代女性】
税金の支払いが多く中々、貯金ができない。お金を貯めづらい。【20歳代女性】
貯金のこと【20歳代女性】
収入が少なく、一人暮らしができない【20歳代女性】
今は実家暮らしですが、いずれ一人暮らししてからのお金の管理が不安です。【20歳代女性】
金【20歳代性別無回答】
老後（会社を退職後）お金に困る事なくすごせるか、不安になります。お金もいくらためればよいかわからないし。現在賃貸なので、このままで良いのかなど。【30歳代男性】
学費、金銭面【30歳代男性】
日本経済低迷による金銭面での不安をかんじる。【30歳代男性】
お金の事は少し不安に思う、マンション購入するときに不安を感じる、高いから。【30歳代男性】
育児や退職後に必要とされている貯蓄を確保できるのか心配です。【30歳代男性】
子供の教育資金や老後の資金などお金の不安がある。【30歳代女性】
老後の経済状況【30歳代女性】
お金の問題。精神的病気で今現在働いていない。子どもたちの子育てと夫への対応だけで精一杯。学生時代の奨学金の返済があり、貯金が残り少なく、不安がつる。夫の給与だけではギリギリ。お金の問題が更に気持ちを暗くする。【30歳代女性】
経済的なこと【30歳代女性】
お金のことは常に不安です。【30歳代女性】
収入が少ない。【40歳代男性】
子供達の教育資金、老後の資金が足りるのか心配。【40歳代男性】
物価の上昇と所得がおいついていない。年金受給時の生活不安。【40歳代男性】
給料は上がらないのにインフレが進んで、経済面で将来が不安 年金のみで、老後、生活ができるだろうか？【40歳代女性】
老後のお金のやりくり【40歳代女性】
死ぬまで働き続けられないといけないのかと貯金無しの為将来の生活費が不安になる【40歳代女性】
老後のこと、特にお金のこと。【40歳代女性】
子供（大学）の学費、ローン出費が多く不安【40歳代女性】
高齢になっても安定した収入を得ることが出来るのか不安になる時がある。【40歳代女性】
老後の資金や、もしもの時の金銭的不安【40歳代女性】
母子家庭だが、所得制限にギリギリ引っ掛かり支援が受けられず、生活に金銭的な余裕がない。【40歳代女性】
老後の資金【40歳代女性】

金銭的なこと。外に働きに出ることは、お金がかかる。でも、それ以上の収入が得られず、働くことが貧乏になる原因のこともある。働くと、障害年金がもらえなくなるけど、お給料はそれ以下だったり。【40歳代女性】
老後の生活（金銭面等）に若干の不安はある。【50歳代男性】
老後の生活資金【50歳代男性】
年金がもらえるかどうか。借金が払えるか【50歳代男性】
金銭面【50歳代男性】
定年後の生活費用【50歳代男性】
心身および経済的に、不安に思う【50歳代男性】
金銭的に大変不安。子供のためだと思っていますが子供の学費の借金が莫大すぎて一生の返済が不安。親の事や自分の体もあるので…【50歳代女性】
主人の定年退職後の現在の仕事のお給料が以前とくらべ激減したので今後の生活に大いに不安をもっている。【50歳代女性】
主人と年がはなれていて主人はもう年金ぐらしでその年金だけでやりくりをしています。ちょ金はいっさいありません。主人が亡くなった後の事を考える事は多々あります。【50歳代女性】
現在の預金額で老後過ごしていけるのか不安に思う日々です【50歳代女性】
税金が上がり続けるのではないかという不安。年金が減らされ、定年が70になることがあればさらに不安。（体力的、経済的に）大学の資金が不安。【50歳代女性】
経済と健康 年金だけでは生活が成り立たない【50歳代女性】
老後。あと数年で定年を迎える夫。自分も蓄えがないため非常に不安になる。金銭面での不安は年と共に増していく。生活していけるのだろうかと考えれば考える程、不安が強くなる。【50歳代女性】
将来の経済力など。国や行政はバラまきなどをやめて老人ホームなどの充実に充ててほしいです。【50歳代女性】
収入が少ないので子供の大学費用や老後の資金がすごく心配。【50歳代女性】
経済的に不安。給付金など非課税までにならないが、それに近い状態で給付が認められず、家計が困難。【50歳代女性】
将来のお金のこと【50歳代女性】
後期高齢者の保険料が高いので今後支払いができるのか心配しています。【50歳代女性】
収入減につき、今後の生活、仕事について、不安に思います。【50歳代女性】
仕事につけなくなった時の生活費のこと。中小企業で働いている息子の収入が少なく、将来が心配。【50歳代女性】
老後の蓄えがないのでいざという時どうしたらいいか不安です。【50歳代女性】
生活費が十分であるか。【50歳代女性】
家計のやりくり【50歳代女性】
経済面。年金だけでは老後は暮らしていけないことは明白な点。介ゴが必要になった時に、いつまで生きているのか、長生きはしたくない【60歳代女性】
単身、国民年金、ぎりぎりの生活で貯蓄なし。仕事が出来なくなった将来が不安。【60歳代女性】

Ⅲ 調査の結果

- | |
|---|
| ・不安は老後、やはりお金の問題でしょうか。ローンがまだあるので払い終るのが心配です。
・子どもがゲームに熱中しているのが心配です【60歳代女性】 |
|---|

<受験・学業・就職活動>

希望するところに就職できるか不安。就職氷河期でなくなることを切に願う【10歳代男性】
コロナで経済が冷え込み、就職先が見つかるかどうか心配。【10歳代男性】
大学受験、就職【10歳代男性】
大学生になったり、社会人になったりする自分の姿が全く想像できない【10歳代女性】
将来の夢が叶うか心配。【10歳代女性】
目指している職業が無くならないか心配【10歳代女性】
就職のことなど【10歳代女性】
進路のこと、大学受験のこと。【10歳代女性】
就職・部活の今後【20歳代男性】
知人・友人がいない研究室に所属する予定のため、人間関係の再構築に不安がある。【20歳代男性】
就活【20歳代女性】
就職が怖くてできていないです。それが不安かなと…。【20歳代女性】

<結婚>

結婚できるか心配。給料が低い為 税金などの負担が多く手取りが少ない。【20歳代女性】
就職後同じ会社でずっと仕事を続けていけるのか。結婚適齢期までに結婚できるのか。【20歳代女性】
結婚。【30歳代女性】
未婚継続の不安【50歳代男性】

<出産・育児・子ども>

少子化【20歳代男性】
金銭的な不安に加え、社会的に子供を産んでも満足に子育てする環境かわからないことがあります。また、老人に対する施策ばかりで今社会人として働いている若い人たちへの支援が不足していると感じます【20歳代男性】
来年あたり子供が欲しいと思いますが市区町村での支援は十分にありますか？【20歳代女性】
子育て費用について不安に思うことがある【20歳代女性】
子どもの教育費や養育費など金銭面【20歳代女性】
子供の教育費が足りるかが不安です【20歳代女性】
共働きだから育児が不安（今後）【30歳代男性】
お金や子供の将来について不安に思うことはあります。【30歳代男性】
所得制限により児童手当がもらえないこと。子育てに対して不安【30歳代男性】

<p>・育児と教育費について</p> <p>・自身の健康（働けなくなった場合への不要）【30歳代男性】</p>
<p>保育園の待機問題について。【30歳代男性】</p>
<p>子供の養育と年金【30歳代男性】</p>
<p>子供達の学校での様子などを見ていると、不登校に至るまでは長い間の悩みを相談する相手がいない事によるものが多いのでは？と感じます。「いじめ」など表に出る問題ではなく、不登校の子は親も発達障害があり、それを隠して生きてきたから子にもあたりまえの我慢とさせる親。親も子も発達障害を認めない親。その家庭での辛さプラス（発達障害からくる）いじめに耐えられる人は少ないと思います。（母）親を通して支援にたどりつくのではなく、本人が（辛いと感じている）直接すぐ繋がる相談電話などから次へ繋がる精神科で無料カウンセリング。せめてプロに相談して大丈夫。と言ってもらえたら救われる人は多いと思います。【30歳代女性】</p>
<p>私達の時代とは違い、子供達の小学校で遊ぶ事がしぼられていて、それが運動能力の低下につながっているのではないかと不安になります。【30歳代女性】</p>
<p>子供が健康に元気に大人になれるのかどうか心配。【30歳代女性】</p>
<p>出産や育児など【30歳代女性】</p>
<p>子供がたくさんいるので教育費などが不安に思う事がたまにある【30歳代女性】</p>
<p>子どもにお金を残せるかどうか不安【30歳代女性】</p>
<p>子どもにお金がかかっていくが、シングルマザーなので金銭面で不安に思う時がある。【30歳代女性】</p>
<p>子どもが大勢いるので、毎日がとても大変。金銭的にも大変だが、補助金は収入制限があり、収入制限ギリギリ上で利用できない。こどもの人数も補助金の対象にしてもらえたらとても助かる。【30歳代女性】</p>
<p>子供の障害がある為、現在のことだけでも精一杯なのに、将来のことはどうしたらいいのかわからない。【30歳代女性】</p>
<p>現在、1歳の子を育児中です。私自身は引きこもりを経験することはありませんでしたが子どもが、と考えると全く知識がないので不安に思ったりします。ですが、その中でも地域のつながりはとても大切感じていて立川市は何かあれば相談できる環境が整っていると思うので安心です。【30歳代女性】</p>
<p>年金、子供の将来【40歳代男性】</p>
<p>少子化対策の遅れが心配だ。もっと多子世帯への支援を拡充してほしい。特に教育や医療では立川市が独自の支援策をもっと考えて実施してほしい。周りの親達はもっと子供が産める環境を望んでいる声が多いが経済的な理由で諦めている。皆んな子供は1人、頑張っても2人までで諦めている。【40歳代男性】</p>
<p>高齢者に対する政策ばかりでこの国の少子化が心配【40歳代男性】</p>
<p>子育てをする中で、不審者や、学校にのりこんでくるような地域の方が怖いです。学童が小学3年生までというのも不安です。【40歳代女性】</p>
<p>私のもとで、子供が健やかに育ってくれるのか不安。夫とも上手くやっていけるのか不安。【40歳代女性】</p>

Ⅲ 調査の結果

<p>子どもにかかる教育費と税金とで、家計はいつもいっぱい입니다。もっと勉強がしたい、と思う子ども達について、行政は応援するべきだと思います。底上げばかりしていても、豊かにはなれません。【40歳代女性】</p>
<p>子供の養育費、学費を払っていけるか、今後のお金の心配【40歳代女性】</p>
<p>小学校中学年でも（授業中に）立ち歩き、悪口を日常的に言っている現状におそろしさを感じます。先生方もその方のフォローだけで授業はできないのでしょうか。大人になってからの支援でなく、キラリを越えてもっと外部の方に学校に出入りしてほしいです。これは、市内の学校複数に共通しています。【40歳代女性】</p>
<p>老後の生活に不安がないといえは嘘になります。子供への投資もできうる限りしてあげたい。【40歳代女性】</p>
<p>生後間もない息子の将来【40歳代女性】</p>
<p>転入して来て子育て制度が少なすぎて子育てするのにここでいいのか悩みます。【40歳代女性】</p>
<p>発達障害のある子供の将来【40歳代女性】</p>
<p>子どもが自立できるか心配に思います。【50歳代男性】</p>
<p>教育費の高負担状況【50歳代男性】</p>
<p>子供の自立と高齢になったときの生活【50歳代男性】</p>
<p>中学生が卒業研究で「同居家族と核家族」をテーマに書いたレポートです。「家庭は最も小さな社会である。子供の頃から、その社会で様々な事を学び、考え育ち社会に出ていくのが少し前までは当たり前だった。しかしながら、核家族化が進み、今は家族という考え方自体が崩れてきている。だから、行政や学校に躰や社会ルールを教えるように求めるが学校で教えられるようなことではない。今の若者は社会性、人間性が非常に未熟なまま社会人になるうえ、個人の主義主張を最優先するので協調性に欠ける。他者への配慮がない。彼らが作る家庭、育てる子供達も同じになる。」この指摘の通りだと思います。社会に適應できない大人が増え、働かず、自立しない人間が増え続けるのをこれから、真面目に頑張る者たちが支えていく困難さが目に見える気がします。そんな社会に出る自分の子供達が心配です【50歳代男性】</p>
<p>子供がまだこれから進学等を控えているなかで、先に自分が定年を迎えることによる、その後の教育資金はどうするか、自分の老後資金も含めて不安です。【50歳代男性】</p>
<p>子供の進学時の学費や、その他にかかる費用に不安あり。【50歳代女性】</p>
<p>未来の子供達に、国の借金を背負わせて良いのか不安になります。コロナ禍で、仕事が無いという方が多くおられますが、介護の仕事はいくらでもあるのに人手不足な状況は何なのかと思います【50歳代女性】</p>
<p>子どもが障害者のため、親なき後のことが心配です。【50歳代女性】</p>
<p>自身の子供たちを含む若者の仕事環境や生活環境が、過去と比べて非常に良くなっていると思います。</p> <p>これからの日本は彼らが将来に希望を持てるような社会環境や経済環境になっていくのか不安に感じています。【60歳代男性】</p>
<p>同居の息子の将来は心配。現在無職のため【60歳代女性】</p>
<p>自分達夫婦が死んだ時息子に相続税が払えるか。【60歳代女性】</p>

障害のある子供（重度）を入れるグループホームがない。また、その情報がどこにあつて、どう調べるのか分からない。相談支援の人があまり詳しくない。【60歳代その他】
自分自身の事より、難病の娘の将来の事をととても心配している。【60歳代性別無回答】

<仕事>

私たちが社会人になったときにA Iに仕事を全て奪われてしまうのではないかと不安です。給料も貰えず、飢え死にするのではないのでしょうか。【10歳代女性】
契約社員で再来年の契約満了が決まっています。正社員で今の生活リズムが崩れなく、健康に過ごせる将来を望んでいます。これから転職先が決まるのか不安です。【20歳代男性】
将来の生活や職場でやっていけるか不安。【20歳代男性】
転職しようか迷ってる。【20歳代女性】
出産、育児などのライフステージの変化を経た際に、正社員として勤務を継続することができるか心配しています。【20歳代女性】
本人がアンケートに答えられないので、母が書いています。精神的には明るく、前向きに、就労を考えています。訓練スクールに通っています、就労させてくれる会社があるか、どうか、…不安です。【30歳代男性】
将来も今勤めている会社があるか。このまま同じ会社に勤め続けることがいいのか不安に思うことがある。【30歳代男性】
いくつまで働くか。老後、年金と貯蓄だけで生活できるか不安。【30歳代男性】
子育てがちょっとおちついて、次の転職先が見つかるか不安。【30歳代女性】
妊娠・出産後、突然仕事のキャリアが築けなくなるのでは、と男女の性差を働き続けることができなくなる中で、非常に辛く感じる。【30歳代女性】
子育てで社会から離れているので、再就職をする時に不利だろうと不安です。【30歳代女性】
子育てをしながらの仕事がむずかしいこと。思ったより給与所得が低いこと。【30歳代女性】
育児の為、離職して数年経った為、元の職へはブランクがありすぎて難しいと考えて少し不安です。子供が小さすぎて新しい仕事を探すのも大変と感じてます。【30歳代女性】
雇われの仕事に従事していますが、不安になることあり。自身で仕事を始めようと思っています。【30歳代女性】
年金受給年齢が90歳になりそうで不安です。定年70歳といわれていますが、70歳までは営業職・現場職人は無理です。その前に会社をクビになりそうで不安です。【40歳代男性】
子育てが落ち着いた後の就職【40歳代女性】
上司がメンタル不調になりかけており、負担が大きい。【40歳代女性】
地方に居る両親の介護の為に将来帰らなければならないので、仕事の子供が育ちきるまでであるか心配。【40歳代女性】
定年60歳を早くのばしてほしい【50歳代男性】
仕事はつらいが、将来（老後）が不安でやめられない【50歳代女性】
今のところ健康なので継続して働きたいと思っているが、仕事があるのか不安に思う。【60歳代男性】

Ⅲ 調査の結果

独身なのでなるべく長く働いていたいけどいつまで働けるか不安に思うことがあります。【60歳代女性】

<災害・コロナ禍>

コロナがやはり怖いです。【10歳代女性】

将来について不安に思うことは特にないがコロナ禍で人とのつながりがへり孤独を感じることは増えたし、周りに精神的ダメージを抱える人が増えた。【30歳代女性】

コロナ禍で先の見通しが立たないこと【40歳代女性】

コロナがいつまで続くのか。【40歳代性別無回答】

年金問題や、新型コロナウイルスによって、往來の生活様式が変わってしまった事。【50歳代男性】

地球温暖化による次世代、子供たちの時代に起こる災害が心配。【50歳代女性】

人口減少、災害（自然）、気候変動。【60歳代男性】

<その他>

考えると不安しかないので考えていない。【10歳代男性】

いつか自分が死んでしまうことについて、不満を感じる。かと言って、生きていかなければいけない、という考えも不自由さを感じて嫌だ。どうしたらいいか決めかねている。【20歳代男性】

○将来自分の会社が安定しているか、キャリアを形成できるかが不安です。資産形成について学びたいです。

○将来立川市で結婚・出産したとすれば、受動喫煙の影響が不安かなと思います。路上で喫煙している人が多く、市の職員の方がパトロールしているようですが喫煙（歩きタバコ）している人がいつもいる場所ではパトロールして下さっていないようです。

○立川に引越してきて、ゴミの分別の細かさにおどろきました。分別がすごく大変なのですが市民にもたらされるベネフィットを知りたいです。【20歳代女性】

・年金や社会の仕組みについて何も知らないで親が亡くなった後自分はどのように生きていけばいいのかが全く分らない。

・自立というものをしたいが具体的に“自立”とはなんなのかが分らない。

・将来（未来）が見えなすぎて怖い。【20歳代女性】

いわゆる「無職の人」が身近に表れないかどうか。【30歳代男性】

ある。より時間的な余裕がほしい。もっとお金を稼ぎたい【30歳代男性】

政治の暴走、国民からの信頼低下【30歳代男性】

誰もが感じている事だと思う。しかしながら、当事者が思っている程、現実はそのままで不安に感じる事は実現する訳ではないと思う。【30歳代男性】

不安は多々ありますが「その時」、「その時」で「仕事」においても、方々との「関係」の中においても自分自身に何が求められているのか？又何が出来るのかを問うて行く日々です。【30歳代男性】

保育・介護職の賃金について。待機児童のゼロは可能なのか。年金は定年後にもらえるのか。【30歳代男性】
人生設計【30歳代男性】
何歳まで働けば良いのか、また貯蓄について。他自治体のように、水道の民営化がされないか（水道民営化には反対です）。【30歳代男性】
政権への不信感。息子が大人になるころにどんな国になっているのか不安。【30歳代女性】
将来のこと（お金、親の老後のことなど）は考えなければと思うが、何から始めればよいのか、何を考えておかなければならないのか、漠然としていて具体的にイメージできない。【30歳代女性】
親の死。葬式がゆううつ。親戚恐怖症のため。【40歳代男性】
金、年金、景気、病気など尽きない【40歳代男性】
国が税金の使い方を、ムダ使いしている様を感じる。マイナポイントとかの話。【40歳代男性】
老後について、実家の親の介護、障がい者の子の介護、生活、収入面で漠然とした不安はある。【40歳代男性】
図書館やコンビニ行くだけでも対応のしかたが上からだったり圧力を感じてストレスが多い人がコロナもあってか増えたと思う。市が弱者によりそえる市であれば住み続けたい市として優しさをアピールされたら怖い人達も減っていくのではないのだろうか？【40歳代女性】
子が病気（精神面ではない）により、大学をやめました。結果精神的にも影響がでて、しばらく、自宅療養しましたが、現在、就職できていない状態。年金についても市に相談したが、親が払う免除の申請をと言われ、現在免除期間中だが、もうじき、期限がくる。医療費、生活費に加え娘の年金を払うのは、苦しいが、相談先がわからない。【40歳代女性】
老後が心配。年齢にかんげいなく、かかわれるスペースしせつがほしい。（例→教えたい大人⇔学びたい子ども、大人。交流できるスペース）【40歳代女性】
明日、どうなるか？ コロナがいつ終息するのか？ 誰もわからない現状で、期待や希望よりも不安の方が勝つと思います。【40歳代女性】
不安しかない。でもだからと言って引きこもったりしていても何も始まらないのでやるべき事を毎日こなしている。【40歳代女性】
行政は経済優先で、弱い立場の人より、地元のお金持ちの人を優先しているので、不安しかありません。福祉は職員の意識が低いので、期待している人はいないのではないかと思います。昔は骨のある職員がいたのに残念です。【50歳代男性】
あまり身内に相談できない不安があります。そのような事象への取組も積極的にお願いします。【50歳代男性】
この日本に、不安以外何があるのでしょうか。このままでは日本の福祉制度は崩壊すると思います。それが不安です。【50歳代男性】
ベーシックインカムになったら困る。【50歳代男性】
持ち家が無い人への、住宅の提供について。（高齢になり、年金暮らしになった時）【50歳代女性】

Ⅲ 調査の結果

<p>成年後見制度の仕事をしていて思うのだが引き籠もりにも、知的障害、心の病気、発達障害やぎゃくたいの被害者、性格の偏りなど、色々あって、ふつうの人はなぜ家族が引き籠もっているのか全くわからないでどこに相談して良いのか困っているようである。親なき後の、後見人選任なども、引きこもってる人をどうやって裁判所の人との面談をさせるのか?とか色々な分野のちしきのある人と、協力していく必要があると思う。【50歳代女性】</p>
<p>○健康はあたりまえではないこと。○自宅の老朽化。○空家になった、自分の実家(土地)の買い手が見つかるか。【50歳代女性】</p>
<p>・退職後の年金生活・消費税・医療費・地震等の災害・高齢者ドライバーの多発事故・高齢者施設の現状・子どもたちの就職・自分たちの老後・実家の跡継ぎの為、田舎暮らしに対する不安。 【50歳代女性】</p>
<p>高齢の親と同居をすることになった時、新しいこの地域に高齢者が馴染めるか心配です。一見さんでもOKのような気軽に行ける場などがあるとよいかと思います。また、ほかの地域でうけている介護サービスの移行がスムーズにできるのかなども気になっています。【50歳代女性】</p>
<p>ありすぎて何を書いてよいか分からない。【50歳代女性】</p>
<p>税や介護などについて将来は今のやり方では無理があると思うので、早く考えて欲しいです。【50歳代女性】</p>
<p>不安に感じないように常に意識しているので、それが正しくない心の在り方だと自覚してしまい、不安というより虚しさを痛感します。50代で無職(専業主婦)というのが理由だと思いますが、精神的に病んでいく過程にあると受け止めています。しかしながら、改善すべく自分に出来ることは考えないようにするだけしか思い浮かべず、少し辛いです。そして、辛いと感じることに大層罪悪感があります。【50歳代女性】</p>
<p>働かなくても生きていける世の中にしてほしい。心の病いは根深く子どもが精神的に病んでいると、親が亡くなったあとの心配が付きない。生活保護の手続きなどは本人が手続きしないとけないので、できるとは思えない。それなりの財産を残すこと難しい。【50歳代女性】</p>
<p>夫は単身赴任中で、息子は、遠方で結婚し子供もいるので、普通の心配事はありますが、特に不安はありません。【60歳代女性】</p>

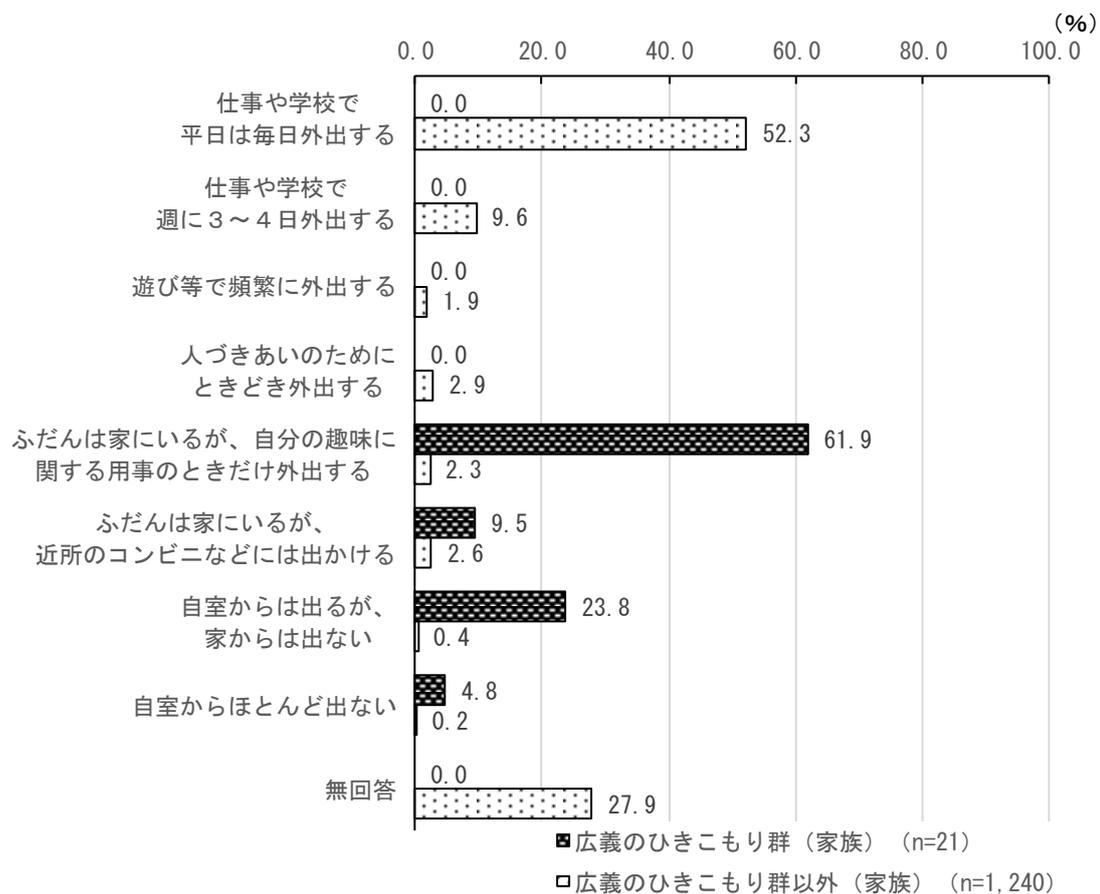
※Q39の設問は、家族が広義のひきこもり群であると思われる人を定義するために使用した。

39 家族のふだんの外出頻度

Q39 同居するご家族等についてお聞きします。その方は、ふだんどのくらい外出しますか。

(○はひとつだけ)

※同居するご家族等：父、母、きょうだい、祖父母、配偶者、子、その他の人



Ⅲ 調査の結果

※Q40～Q55は、Q39において家族の外出頻度が低かった人（Q19において5～8を選択した人）のみが回答する項目となっている。

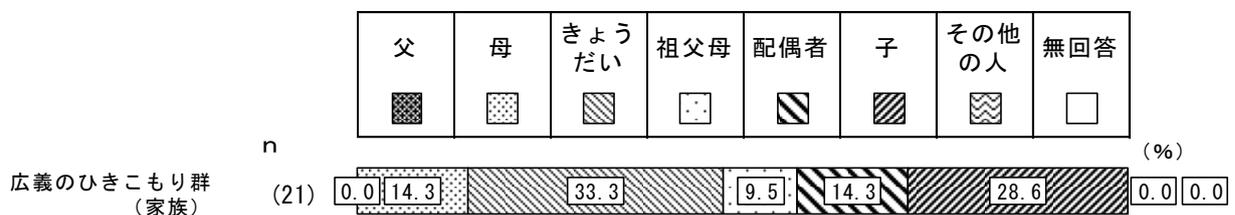
本報告書では、その中でも家族が広義のひきこもり群に該当する人の結果について記載する。

ここからはQ39の「5～8」のいずれかに該当する同居のご家族等（以下、その方）についてお答えください。

※該当する方が2人以上いる場合は、その状態が一番長く続いている方についてお答えください。

40 家族の続柄

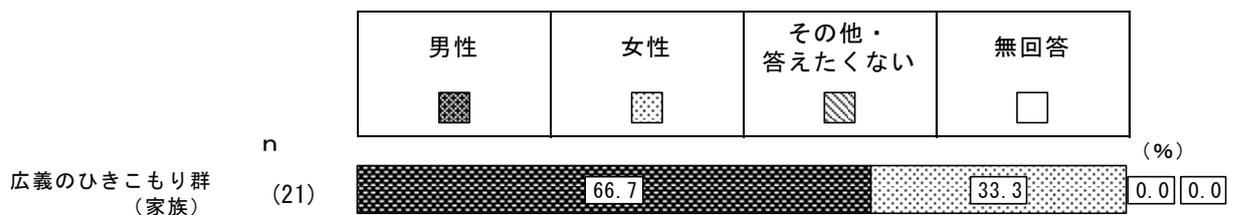
Q40 あなたから見たその方との続柄（○はひとつだけ）



家族の続柄については、「きょうだい」（33.3%）、「子」（28.6%）、「母」「配偶者」（ともに14.3%）、「祖父母」（9.5%）の順になっている。

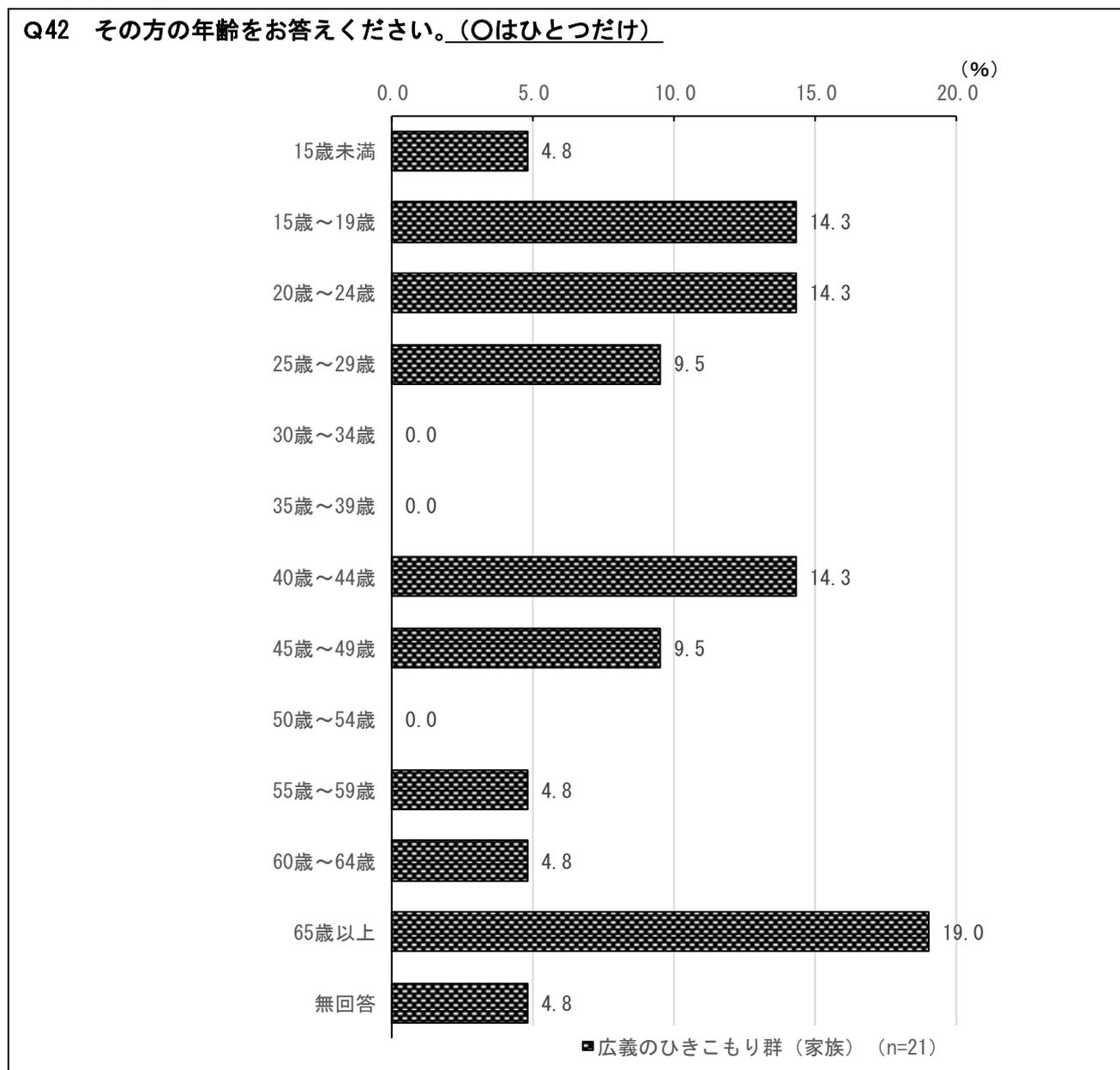
41 家族の性別

Q41 その方の性別をお答えください。（○はひとつだけ）



家族の性別については、「男性」が66.7%で「女性」が33.3%と男性の方が高い割合となっている。

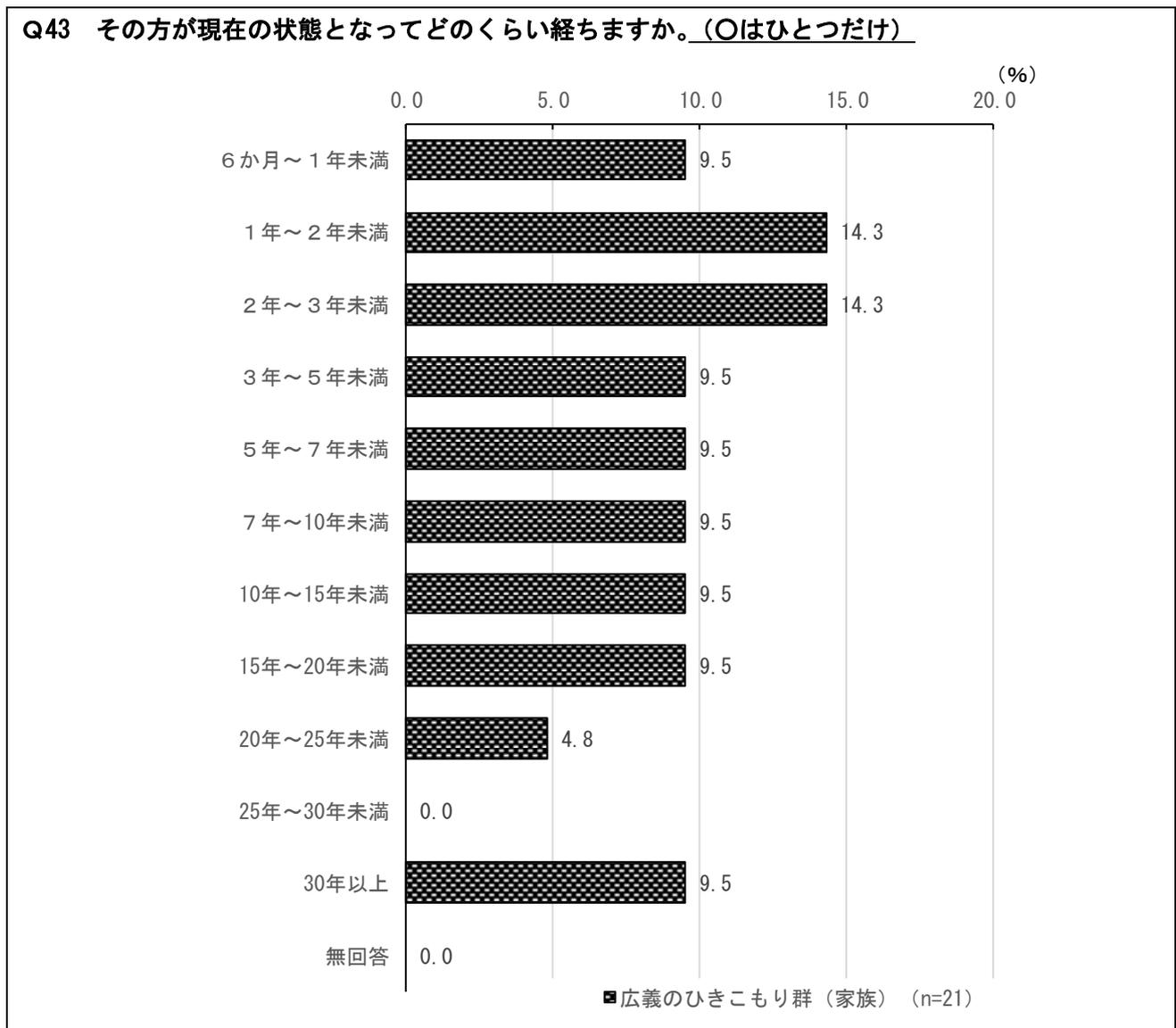
42 家族の年齢



家族の年齢については、「65歳以上」が19.0%と最も高くなっている。『10歳代』（「15歳未満」＋「15歳～19歳」）は19.1%、『20歳代』（「20歳～24歳」＋「25歳～29歳」）は23.8%、『30歳代』（「30歳～34歳」＋「35歳～39歳」）は該当なし、『40歳代』（「40歳～44歳」＋「45歳～49歳」）は23.8%、『50歳代』（「50歳～54歳」＋「55歳～59歳」）は4.8%、『60歳代以上』（「60歳～64歳」＋「65歳以上」）は23.8%となっており、29歳以下の年代・『40歳代』・55歳以上の年代と3つの群で高い割合となっている。

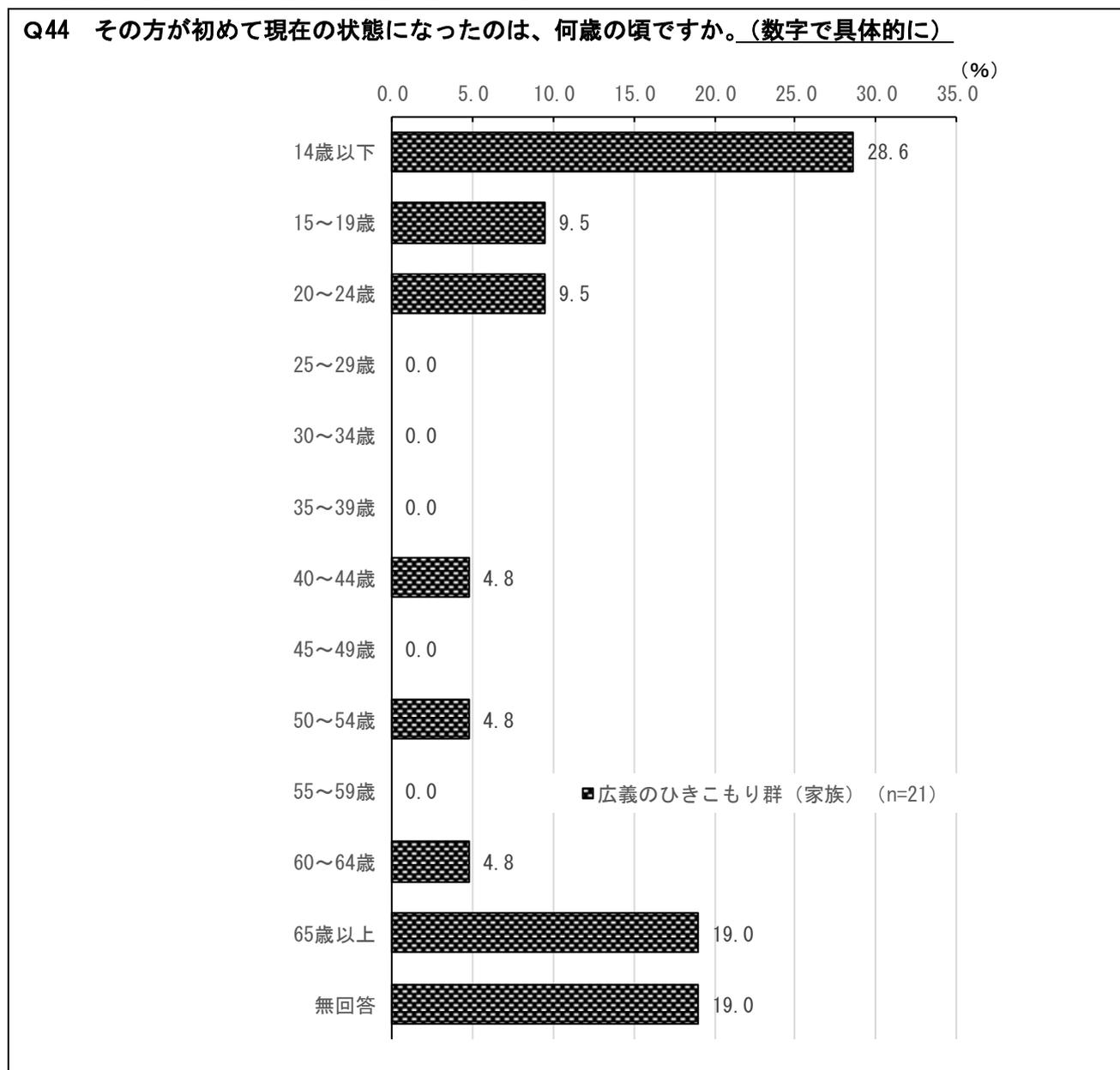
Ⅲ 調査の結果

43 家族がひきこもりの状態になってからの期間



家族がひきこもりの状態になってからの期間については、「1年～2年未満」「2年～3年未満」（ともに14.3%）、「6か月～1年未満」「3年～5年未満」「5年～7年未満」「7年～10年未満」「10年～15年未満」（すべて9.5%）と、幅広い区分に分布している。

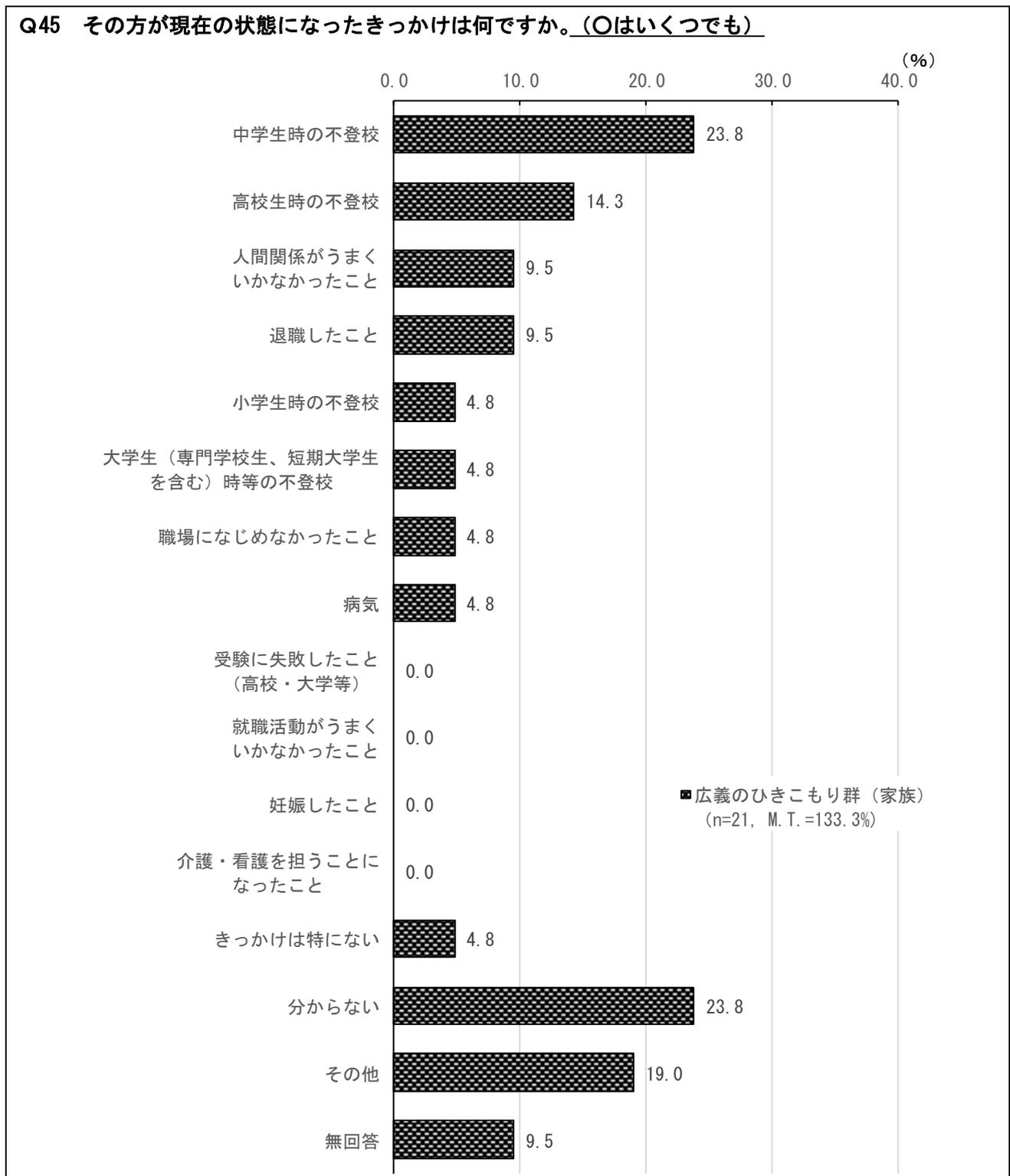
44 家族が初めてひきこもりの状態になった年齢



家族が初めてひきこもりの状態になった年齢については、「14歳以下」が28.6%と最も高く、次いで「65歳以上」(19.0%)、「15～19歳」「20～24歳」(ともに9.5%)の順になっている。

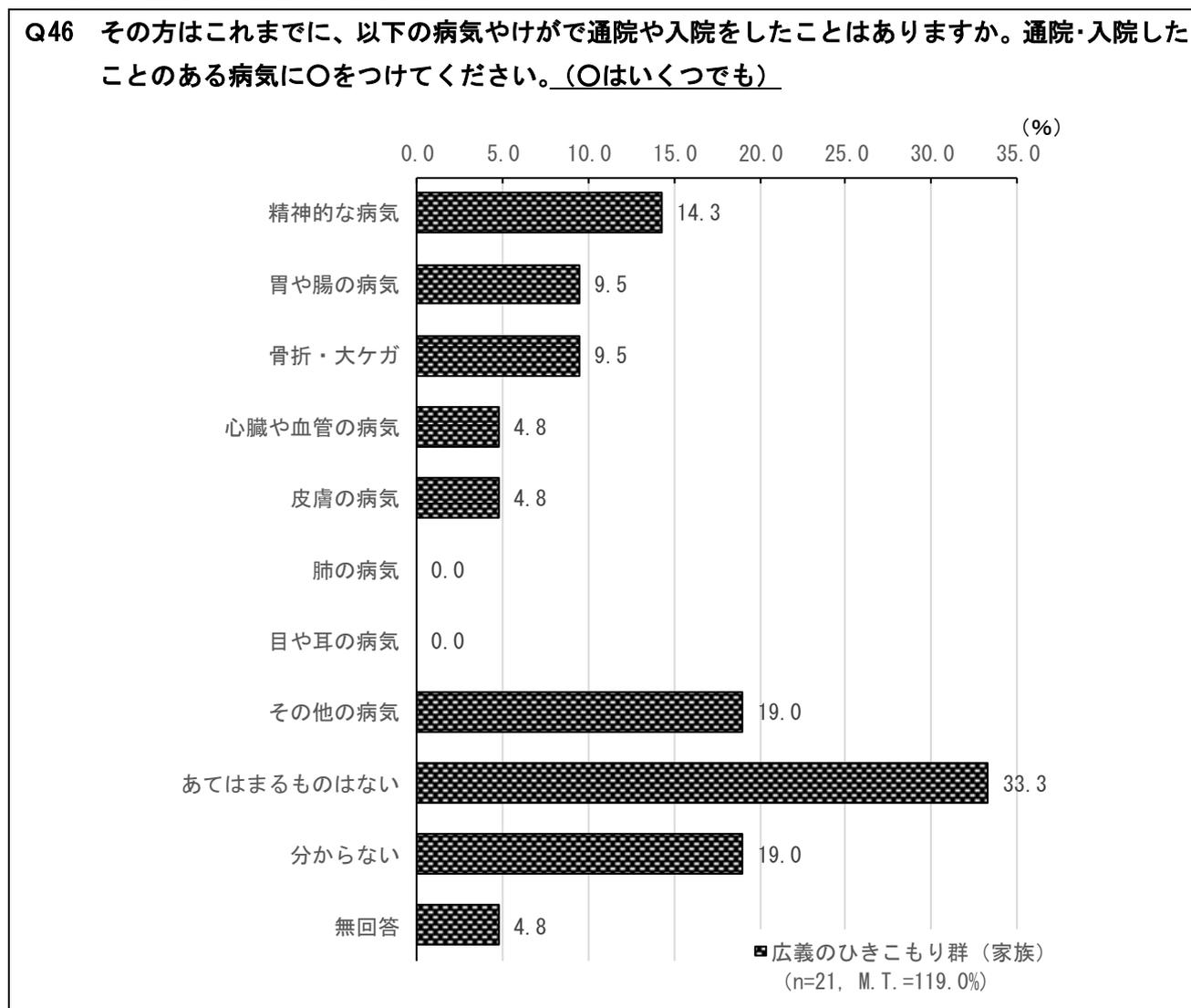
Ⅲ 調査の結果

45 家族がひきこもりの状態になったきっかけ



家族がひきこもりの状態になったきっかけについては、「中学生時の不登校」「分からない」（ともに23.8%）、「その他」（19.0%）、「高校生時の不登校」（14.3%）、「人間関係がうまくいかなかったこと」「退職したこと」（ともに9.5%）の順になっている。

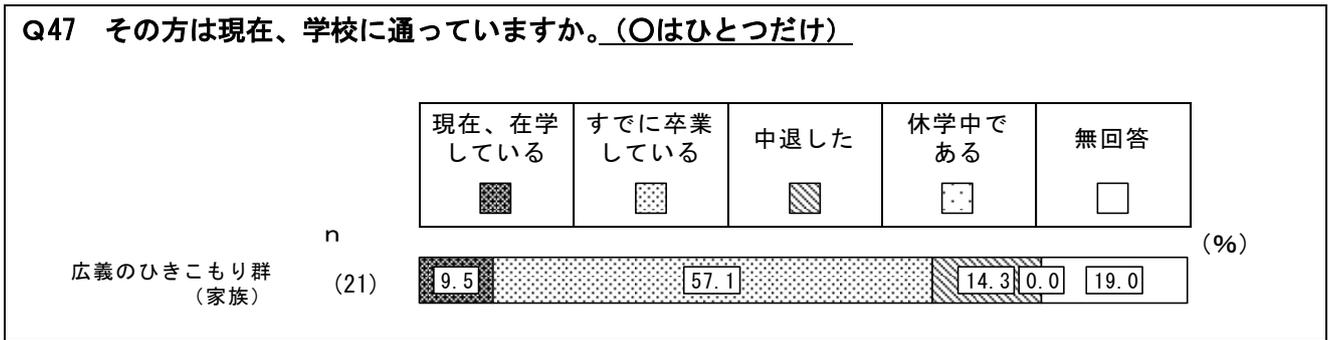
46 家族の通院・入院経験のある病気やけが



家族の通院・入院経験のある病気やけがについては、「あてはまるものはない」(33.3%)と「分からない」(19.0%)を除くと、「その他の病気」(19.0%)、「精神的な病気」(14.3%)、「胃や腸の病気」「骨折・大ケガ」(ともに9.5%)の順になっている。

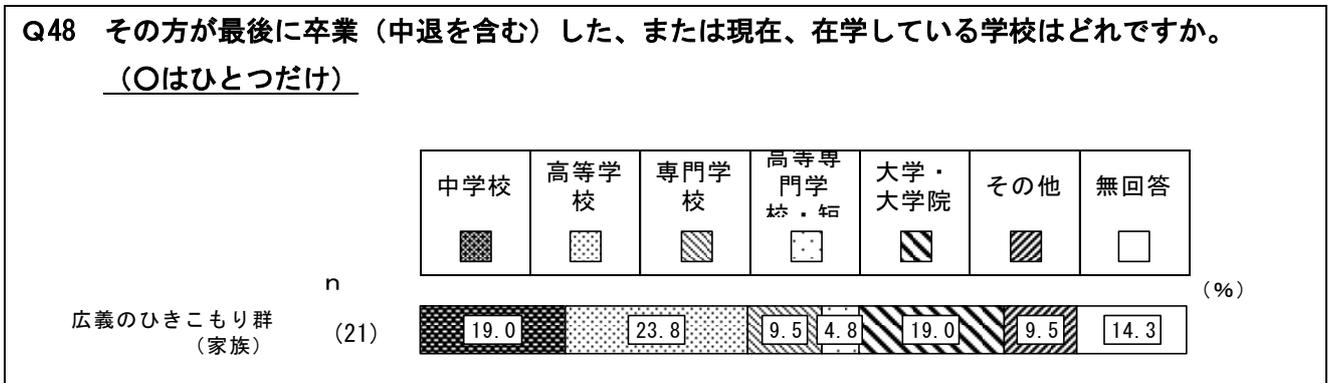
Ⅲ 調査の結果

47 家族の通学状況



家族の通学状況については、「すでに卒業している」(57.1%)、「中退した」(14.3%)、「現在、在学している」(9.5%)の順になっている。

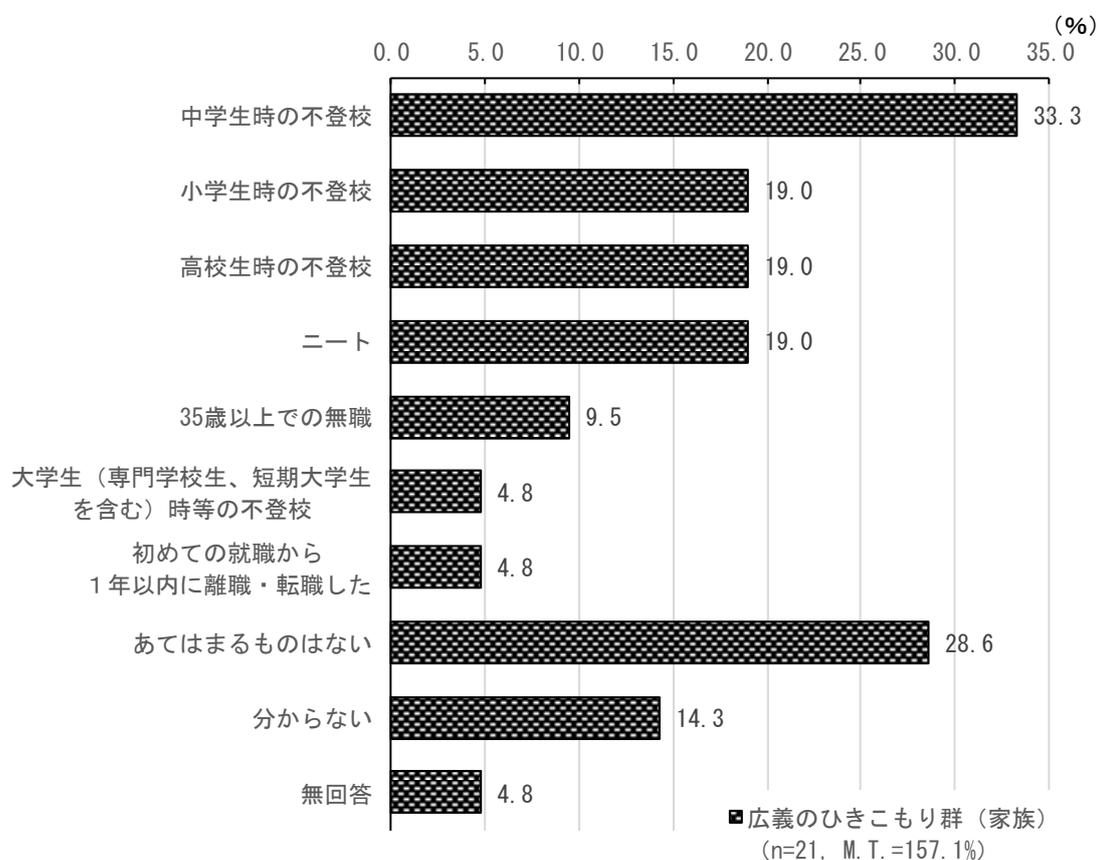
48 家族の卒業・在学中の学校



家族の卒業・在学中の学校については、「高等学校」(23.8%)、「中学校」「大学・大学院」(ともに19.0%)、「専門学校」「その他」(ともに9.5%)の順になっている。

49 家族のこれまでの経験

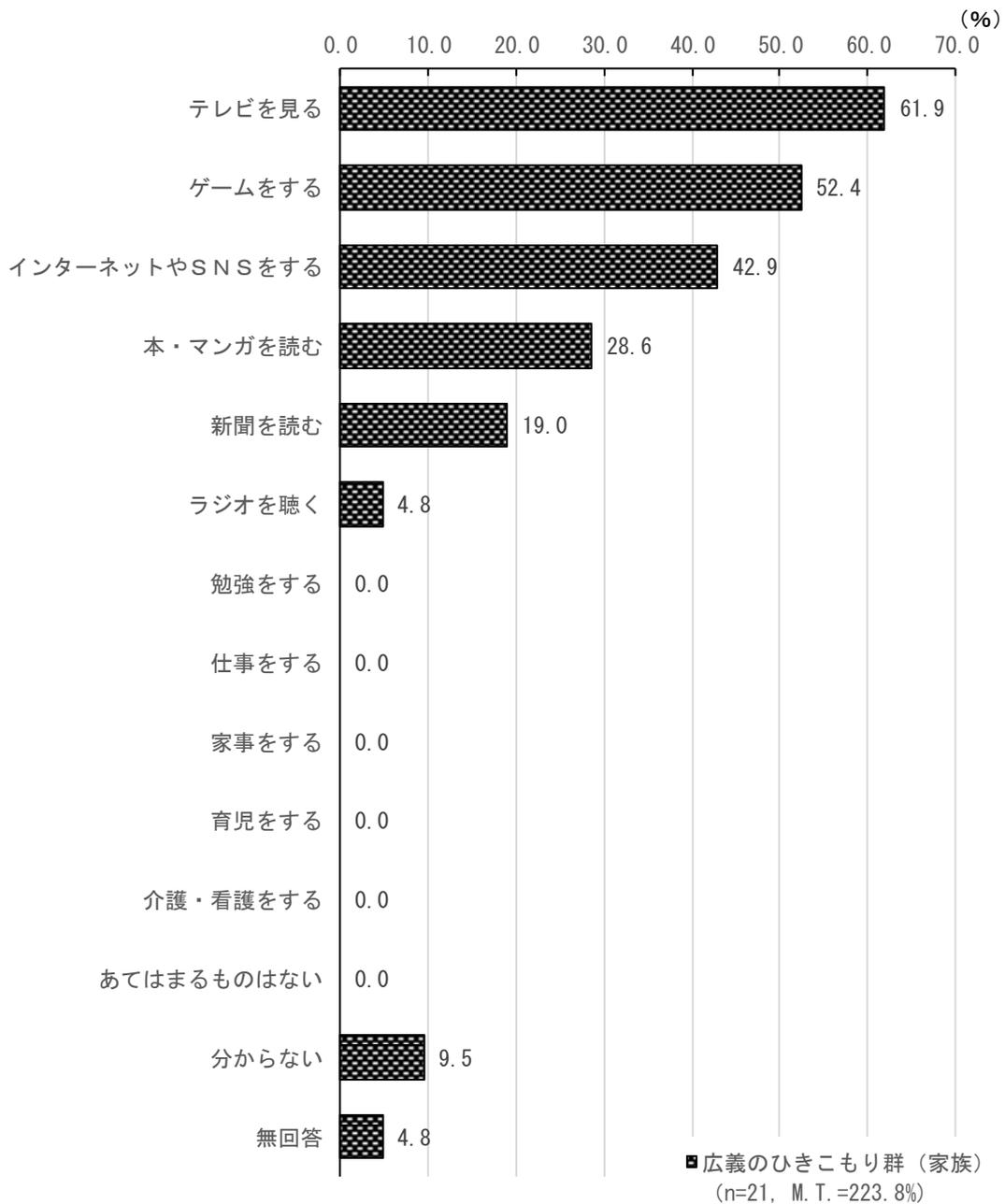
Q49 その方はこれまでに、以下のようなことを経験したことがありますか。あてはまるものにすべて○をつけてください。(○はいくつでも)



家族のこれまでの経験については、「あてはまるものはない」(28.6%)と「わからない」(14.3%)を除くと、「中学生時の不登校」(33.3%)、「小学生時の不登校」「高校生時の不登校」「ニート」(すべて19.0%)の順になっており、就職関係よりも不登校関係の方が高い割合となっている。

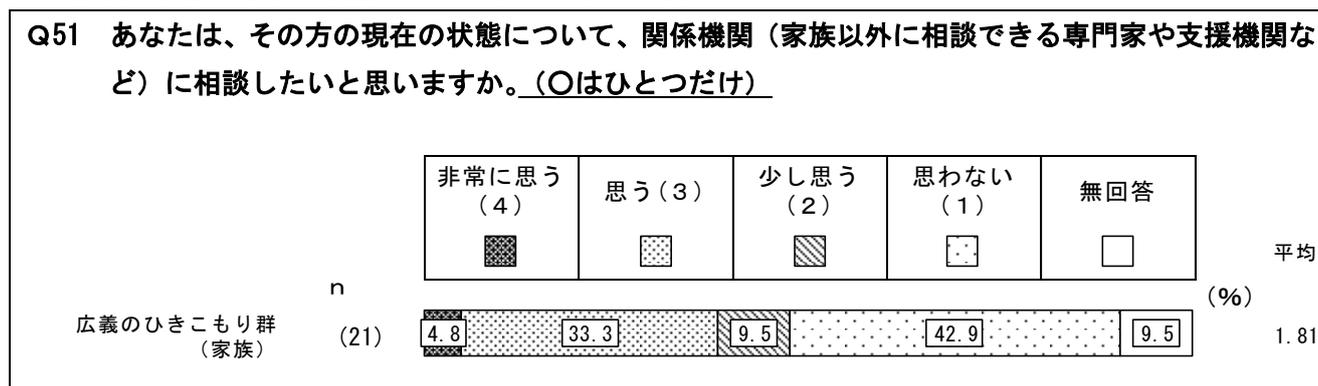
50 家族がふだん自宅をよくしていること

Q50 その方がふだんご自宅にいるときに、よくしていることすべてに○をつけてください。
 (○はいくつでも)



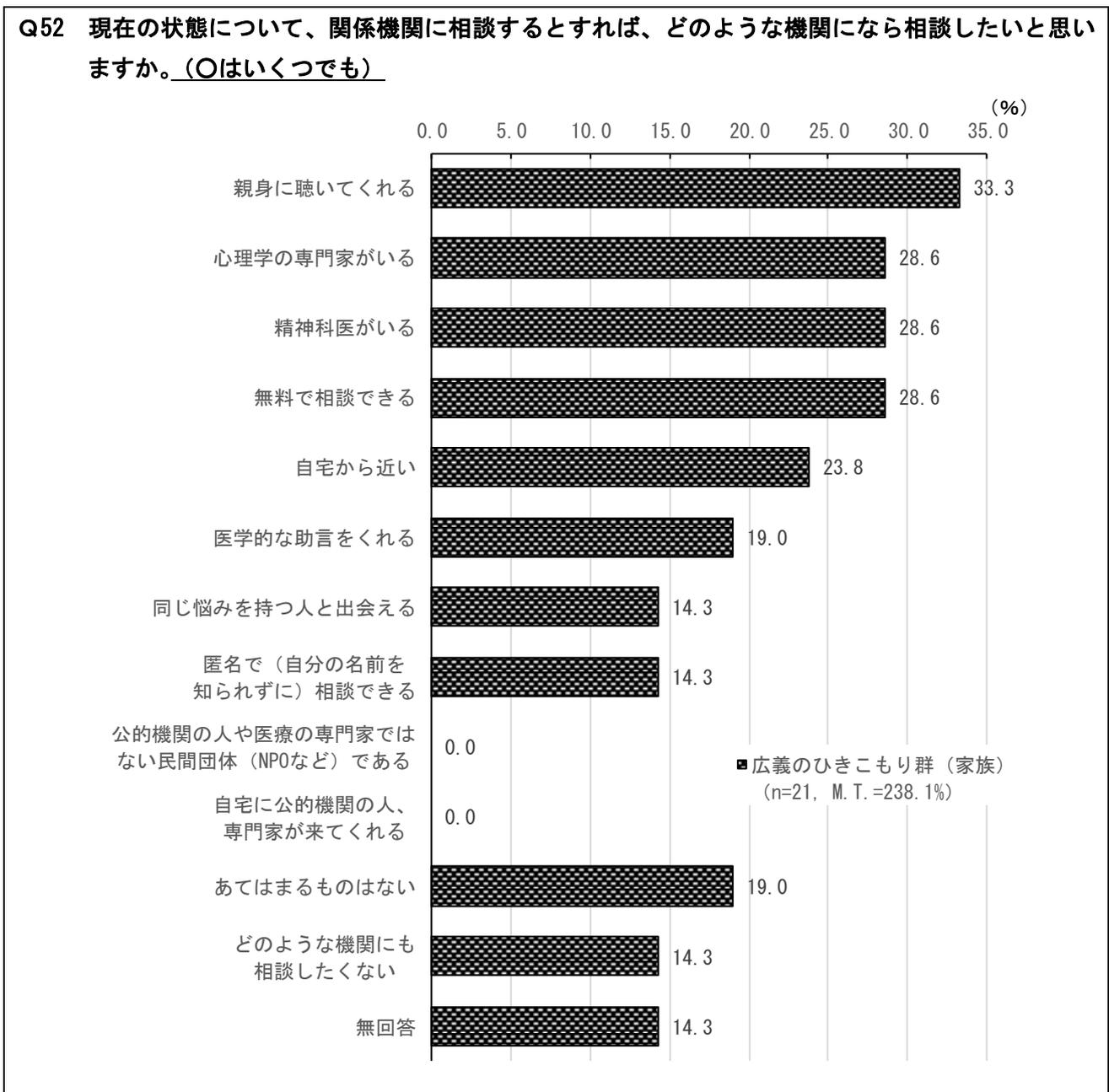
家族がふだん自宅をよくしていることについては、「テレビを見る」(61.9%)、「ゲームをする」(52.4%)、「インターネットやSNSをする」(42.9%)、「本・マンガを読む」(28.6%)、「新聞を読む」(19.0%)の順になっている。

51 家族のひきこもりの状態について関係機関に相談したいか



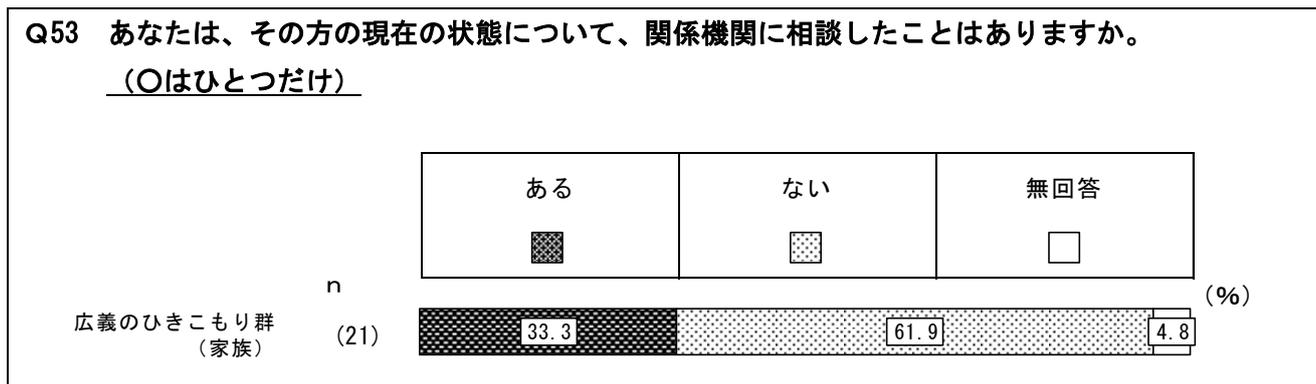
家族のひきこもりの状態について関係機関に相談したいかについては、『思う』（「非常に思う」＋「思う」＋「少し思う」）が47.6%と、「思わない」（42.9%）よりも4.7ポイント高い割合となっている。

52 家族のひきこもりの状態をどのような機関なら相談したいか



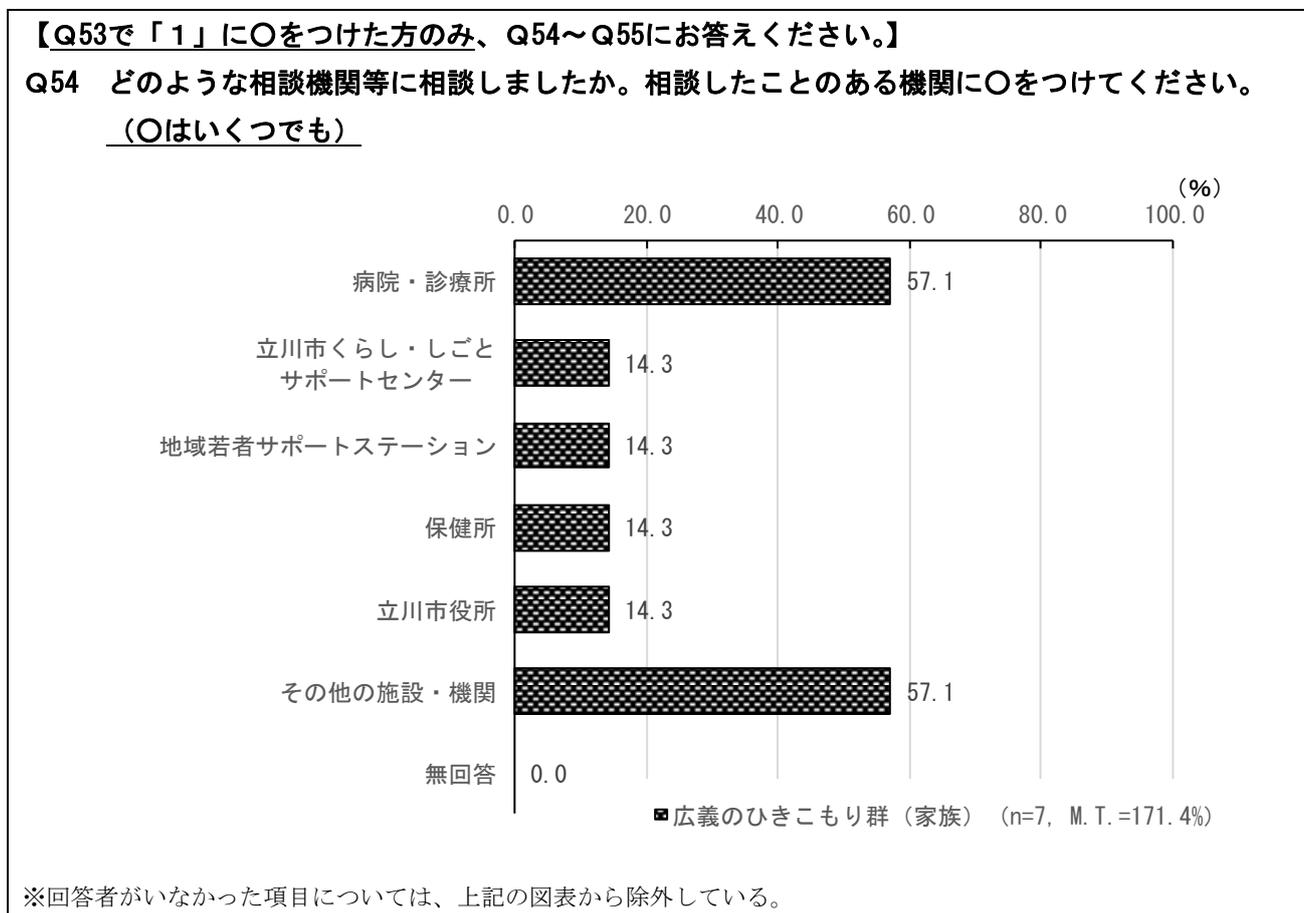
家族のひきこもりの状態をどのような機関なら相談したいかについては、「親身に聴いてくれる」が33.3%と最も高く、次いで「心理学の専門家がいる」「精神科医がいる」「無料で相談できる」（すべて28.6%）、「自宅から近い」（23.8%）の順になっている。

53 家族について関係機関に相談した経験



家族について関係機関に相談した経験については、「ある」が33.3%となっている。

54 家族について相談した機関



家族について相談した機関については、「病院・診療所」「その他の施設・機関」(ともに57.1%)、「立川市暮らし・しごとサポートセンター」「地域若者サポートステーション」「保健所」「立川市役所」(すべて14.3%)の順になっている。

Ⅲ 調査の結果

55 家族について相談した結果

Q55 相談機関に相談した結果について、どのようにお考えですか。ご自由にお書きください。

以下では回答の一部を抜粋した。なお、回答からは個人が特定できないよう加工している。

心が回復するまでは何もせず見守ることにした。本人が動き出すまでは親のみ相談機関等に行き、相談する。

現在、本人が若者サポートステーションと精神科に通っているので、様子を見ています。

両親よりも医師やカウンセラーの方に本音を話せたようだ。

1人で悩んでいる期間が長いと、予約して相談へ行くのはハードルが高い。

Q 7 あなたはこれまでに、以下の病気やけがで通院や入院をしたことはありますか。通院・入院したことがある病気に○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|------------|--------------|
| 1 心臓や血管の病気 | 6 皮膚の病気 |
| 2 肺の病気 | 7 骨折・大ケガ |
| 3 胃や腸の病気 | 8 その他の病気 |
| 4 精神的な病気 | 9 あてはまるものはない |
| 5 目や耳の病気 | |

Q 8 あなたは現在、学校に通っていますか。(○はひとつだけ)

- | | |
|-------------|----------|
| 1 現在、在学している | 3 中退した |
| 2 すでに卒業している | 4 休学中である |

Q 9 あなたが最後に卒業(中退を含む)した、または現在、在学している学校はどれですか。

(○はひとつだけ)

- | | |
|--------|---------------|
| 1 中学校 | 4 高等専門学校・短期大学 |
| 2 高等学校 | 5 大学・大学院 |
| 3 専門学校 | 6 その他 |

Q 10 あなたはこれまでに、以下のようなことを経験したことがありますか。あてはまるものすべて○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|---|------------------------|
| 1 小学生時の不登校 | 6 初めての就職から1年以内に離職・転職した |
| 2 中学生時の不登校 | 7 35歳以上の無職 |
| 3 高校生時の不登校 | 8 あてはまるものはない |
| 4 大学生(専門学校生、短期大学生を含む)時等の不登校 | |
| 5 ニート(15歳から34歳までの間に就学、就労、職業訓練のいずれも行っていない状態があった) | |

Q 11 あなたの現在の就労・就学等の状況についてお答えください。(○はひとつだけ)

- | | |
|--|----------------------------|
| 1 勤めている(正社員) | 5 派遣会社などに登録しているが、現在は働いていない |
| 2 勤めている(契約社員、派遣社員又はパート・アルバイト(学生のアルバイトは除く)) | 6 専業主婦・主夫 |
| 3 自営業・自由業 | 7 家事手伝い |
| 4 学生(予備校生を含む) | 8 無職 |
| | 9 その他
具体的に: |

[Q11で「5~8」に○をつけた方のみ、Q12~Q14にお答えください。]

Q 12 あなたは今までに働いていたことはありますか。(○はいくつでも)

- | | |
|--|----------------------------|
| 1 正社員として働いたことがある | 3 自営業・自由業をしたことがある |
| 2 契約社員、派遣社員又はパート・アルバイトとして働いたことがある(学生時代の経験は含めません) | 4 その他の形態で働いたことがある
具体的に: |
| | 5 いままで働いたことはない |

Q 13 あなたは現在、就職または進学を希望していますか。(○はひとつだけ)

- | | | |
|--------|--------|---------------|
| 1 就職希望 | 2 進学希望 | 3 どちらも希望していない |
|--------|--------|---------------|

Q 14 あなたは現在、就職活動をしていますか。(○はひとつだけ)

- | | |
|--------|---------|
| 1 している | 2 していない |
|--------|---------|

[Q15~Q17はすべての方がお答えください。]

Q 15 あなたがだんだん自宅にいるときに、よくしていることすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------|---------------|
| 1 テレビを見る | 7 勉強をする |
| 2 ラジオを聴く | 8 仕事をする |
| 3 本・マンガを読む | 9 家事をする |
| 4 新聞を読む | 10 育児をする |
| 5 インターネットやSNSをする | 11 介護・看護をする |
| 6 ゲームをする | 12 あてはまるものはない |

Q16 あなたが、以下にあげられた通信手段の中で、ふだん利用しているものすべてに○をつけ
てください。(○はいくつでも)

- | | |
|---|---|
| 1 固定電話 | 7 ウェブサイト (電子掲示板、ウェブログを含む) の閲覧・書き込み |
| 2 ファックス | 8 ソーシャル・ネットワーキング・サービス (Facebook、Twitterなど) の閲覧・書き込み |
| 3 携帯電話・スマートフォンでの通話 (LINEなどのアプリによる通話を含む) | 9 オンライン・ゲーム |
| 4 携帯電話・スマートフォンでのメール | 10 あてはまるものはない |
| 5 パソコンでのメール | |
| 6 チャット (LINEなどのアプリによるものを含む) またはメッセージャー | |

Q17 あなたは、ふだんどのくらい外出しますか。(○はひとつだけ)

- | | |
|---------------------|----------------------------------|
| 1 仕事や学校で平日は毎日外出する | 5 ふだんは家にいるが、自分の趣味に興ずる用事のとさだけ外出する |
| 2 仕事や学校で週に3~4日外出する | 6 ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける |
| 3 遊び等で頻繁に外出する | 7 自宅からは出るが、家からは出ない |
| 4 人づきあいのためにとさだけ外出する | 8 自宅からはほとんど出ない |

(8ページのQ28にお進みください。)

139

【Q17で「5~8」に○をつけた方のみ、Q18~Q27にお答えください。】

Q18 現在の状態となつてどのくらい経ちますか。(○はひとつだけ)

- | | | |
|------------|-------------|--------------|
| 1 6か月未満 | 5 3年~5年未満 | 9 15年~20年未満 |
| 2 6か月~1年未満 | 6 5年~7年未満 | 10 20年~25年未満 |
| 3 1年~2年未満 | 7 7年~10年未満 | 11 25年~30年未満 |
| 4 2年~3年未満 | 8 10年~15年未満 | 12 30年以上 |

Q19 あなたが初めて現在の状態になつたのは、何歳の頃ですか。(数字で具体的に)

□ □ 歳

Q20 あなたが現在の状態になつたきっかけは何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------------|---------------------|
| 1 小学生時の不登校 | 9 病氣 |
| 2 中学生時の不登校 | 病名: [] |
| 3 高校生時の不登校 | |
| 4 大学生 (専門学校生、短期大学生を含む) 時等の不登校 | 10 妊娠したこと |
| 5 受験に失敗したこと (高校・大学等) | 11 退職したこと |
| 6 就職活動がうまくいかなかったこと | 12 介護・看護を担うことになつたこと |
| 7 職場になじめなかったこと | 13 きっかけは特にない |
| 8 人間関係がうまくいかなかったこと | 14 分からない |
| | 15 その他 |
| | 具体的な: [] |

5

Q21 最近6か月間に家族以外の人と会話をしましたか。(○はひとつだけ)

- | | |
|-----------|---------------|
| 1 よく会話し | 3 ほとんど会話しなかった |
| 2 とさとき会話し | 4 まったく会話しなかった |

Q22 現在の状態について、関係機関 (家族以外に相談できる専門家や支援機関など) に相談したいと思いませんか。(○はひとつだけ)

- | | | | |
|---------|------|--------|--------|
| 1 非常に思う | 2 思う | 3 少し思う | 4 思わない |
|---------|------|--------|--------|

Q23 現在の状態について、関係機関に相談するとすれば、どのような機関なら、相談したいと思いませんか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------------|-------------------------------------|
| 1 親身に聴いてくれる | 7 無料で相談できる |
| 2 医学的な助言をくれる | 8 公的機関の人や医療の専門家ではない民間団体 (NPOなど) である |
| 3 心理学の専門家がいる | 9 自宅に公的機関の人、専門家が来てくれる |
| 4 精神科医がいる | 10 自宅から近い |
| 5 同じ悩みを持つ人と出会える | 11 あてはまるものはない |
| 6 匿名で (自分の名前を知られずに) 相談できる | |
| | 12 どのような機関にも相談したくない |

(次ページのQ25にお進みください。)

【Q23で「12」に○をつけた方のみ、Q24にお答えください。】

Q24 相談したくないと思う理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|--------------|
| 1 自分のことを知られたくない | 7 相談機関が近くにない |
| 2 行っても解決できないと思う | 8 特に理由はない |
| 3 何を聞かれるか不安に思う | 9 その他 |
| 4 相手にうまく話せないと思う | 具体的な: [] |
| 5 行ったことを人に知られられたくない | |
| 6 お金がかかると思う | |

(→次ページのQ25にお進みください。)

6

Q25 現在の状態について、関係機関に相談した結果については、どのような状態になりましたか。(○はひとつだけ)

1 ある 2 ない

(次ページのQ28にお進みください。)

【Q25で「1」に○をつけた方のみ、Q26～Q27にお答えください。】

Q26 どのような相談機関等に相談しましたか。相談したところのある機関に○をつけてください。(○はいくつでも)

1 立川市くらし・しごとサポートセンター	9 保健所
2 東京新ひまきもりサポートネット	10 病院・診療所
3 地域包括支援センター	11 立川市役所
4 社会福祉協議会	12 福祉事務所
5 民生委員・児童委員	13 立川市内の当事者の会・家族会
6 地域若者サポートステーション	14 立川市以外の当事者の会・家族会
7 職業安定所（ハローワーク）	15 1～14以外の民間の相談機関・支援機関（NPO等）
8 精神保健福祉センター	16 その他の施設・機関

（具体的に： _____）

Q27 相談機関に相談した結果について、どのようにお考えですか。ご自由にお書きください。

(→9ページのQ33にお進みください。)

【Q17で「1～4」に○をつけた方のみ、Q28にお答えください。】

Q28 あなたは、過去に6か月以上連続して、以下のような状態になったことはありませんか。(○はひとつだけ)

1 ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する	5 1～4のような状態に6か月以上連続してならない
2 ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	
3 自宅からは出るが、家からは出ない	
4 自宅からほとんど出ない	

(次ページのQ33にお進みください。)

【Q28で「1～4」に○をつけた方のみ、Q29～Q32にお答えください。】

Q29 あなたのその状態はどれくらい続きましたか。(○はひとつだけ)

1 6か月～1年未満	5 5年～7年未満	9 20年～25年未満
2 1年～2年未満	6 7年～10年未満	10 25年～30年未満
3 2年～3年未満	7 10年～15年未満	11 30年以上
4 3年～5年未満	8 15年～20年未満	

Q30 あなたが初めてその状態になったのは、何歳の頃ですか。

(数字で具体的に)

_____ 歳

Q31 あなたがその状態になったきっかけは何でしたか。(○はいくつでも)

1 小学生時の不登校	9 病気
2 中学生時の不登校	（病名： _____）
3 高校生時の不登校	
4 大学生（専門学校生、短期大学生を含む）時等の不登校	10 妊娠したこと
5 受験に失敗したこと（高校・大学等）	11 退職したこと
6 就職活動がうまくいかなかったこと	12 介護・看護を担うことになったこと
7 職場になじめなかったこと	13 きっかけは時はない
8 人間関係がうまくいかなかったこと	14 分からない
	15 その他
	（具体的に： _____）

Q32 あなたが、その状態から、Q17で回答した現在の状態になったきっかけや役立ったことは何だと思えますか。ご自由にお書きください。

(→次ページのQ33にお進みください。)

【Q33～Q39はすべての方がお答えください。】

Q33 次にあげられたことについて、あなた自身にあてはまるものに○をつけてください。
 (○は各項目につき、ひとつ)

(1) 身の回りのことは家族がしている

1 はい 2 どちらかといえば、はい 3 どちらかといえば、いいえ 4 いいえ

(2) 食事や掃除は家族がしている

1 はい 2 どちらかといえば、はい 3 どちらかといえば、いいえ 4 いいえ

(3) 朝、決まった時間に起きられる

1 はい 2 どちらかといえば、はい 3 どちらかといえば、いいえ 4 いいえ

(4) 深夜まで起きていることが多い

1 はい 2 どちらかといえば、はい 3 どちらかといえば、いいえ 4 いいえ

(5) 昼夜逆転の生活をしている

1 はい 2 どちらかといえば、はい 3 どちらかといえば、いいえ 4 いいえ

(6) 新聞の政治や経済・社会報道によく目を通す

1 はい 2 どちらかといえば、はい 3 どちらかといえば、いいえ 4 いいえ

(7) 自分の周辺には理不尽と思うことがたくさんある

1 はい 2 どちらかといえば、はい 3 どちらかといえば、いいえ 4 いいえ

(8) 誰とも口を利かずに過ごす日が多い

1 はい 2 どちらかといえば、はい 3 どちらかといえば、いいえ 4 いいえ

(9) 人と会話をするのはわずらわしい

1 はい 2 どちらかといえば、はい 3 どちらかといえば、いいえ 4 いいえ

(10) 過去の知り合いや縁者に信頼できる人はいない

1 はい 2 どちらかといえば、はい 3 どちらかといえば、いいえ 4 いいえ

(11) 自分の精神状態は健康ではないと思う

1 はい 2 どちらかといえば、はい 3 どちらかといえば、いいえ 4 いいえ

(12) 自分の今の状態について考えることがよくある

1 はい 2 どちらかといえば、はい 3 どちらかといえば、いいえ 4 いいえ

Q34 あなたのご家族にあてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

1 私の家族は温かい 4 家族から十分に愛されていると思う
 2 家族とはよく話している 5 あてはまるものはない
 3 私たち家族は、仲がよいと思う

Q35 あなたは、ふだん悩み事を誰かに相談したいと思いませんか。(○はひとつだけ)

1 非常に思う 2 思う 3 少し思う 4 思わない

Q36 あなたは、ふだん悩み事を誰に相談しますか。(○はいくつでも)

1 親 9 都道府県、区市町村などの専門機関の人
 2 きょうだい 10 ネット上の知り合い
 3 友人・知人 11 近所の人
 4 配偶者 12 その他の人 ()
 5 祖父母 [具体的に:]
 6 学校の先生 13 誰にも相談しない
 7 職場の同僚・上司
 8 カウンセラー・精神科医

Q37 現在、立川市では、身体の病気以外の理由でふだん外出ができない方たちへの支援のあり方を検討しています。こうした支援のあり方について、ご意見があれば、自由にお書きください。

Q38 現在や将来のことについて、不安に思うことはありませんか。ご自由にお書きください。

Q39 同居するご家族等についてお聞きします。その方は、ふだんどのくらい外出しますか。

(○はひとつだけ)

※同居するご家族等：父、母、きょうだい、祖父母、配偶者、子、その他の人

1	仕事や学校で平日は毎日外出する	5	ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のみだけ外出する
2	仕事や学校で週に3～4日外出する	6	ふだんは家にいるが、近所のコンビニ遊び等で頻繁に外出する
3	遊び等で頻繁に外出する	7	などには出かける
4	人づきあいのためにときどき外出する	8	自宅からは出るが、家からは出ない
			自宅からほとんど出ない

【質問は以上で終了です。ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。】

【(次のページにお進みください。)

ここからはQ39の「5～8」のいずれかに該当する同居のご家族等（以下、その方）についてお答えください。
 ※該当する方が2人以上いる場合は、その状態が一番長く続いている方についてお答えください。

Q40 あなたから見たその方との続柄（○はひとつだけ）

1 父	4 相父母	7 その他の人
2 母	5 配偶者	
3 きょうだい	6 子	

Q41 その方の性別をお答えください。（○はひとつだけ）

1 男性	2 女性	3 その他・答えたくない
------	------	--------------

Q42 その方の年齢をお答えください。（○はひとつだけ）

1 15歳未満	5 30歳～34歳	9 50歳～54歳
2 15歳～19歳	6 35歳～39歳	10 55歳～59歳
3 20歳～24歳	7 40歳～44歳	11 60歳～64歳
4 25歳～29歳	8 45歳～49歳	12 65歳以上

Q43 その方が現在の状態となつてどのくらい経ちますか。（○はひとつだけ）

1 6か月未満	5 3年～5年未満	9 15年～20年未満
2 6か月～1年未満	6 5年～7年未満	10 20年～25年未満
3 1年～2年未満	7 7年～10年未満	11 25年～30年未満
4 2年～3年未満	8 10年～15年未満	12 30年以上

Q44 その方が初めて現在の状態になつたのは、何歳の頃ですか。（数字で具体的に）

□ 歳

Q45 その方が現在の状態になつたきっかけは何ですか。（○はいくつでも）

1 小学生時の不登校	9 病気
2 中学生時の不登校	病名： []
3 高校生時の不登校	
4 大学生（専門学校生、短期大学生を含む）時等の不登校	10 妊娠したこと
5 受験に失敗したこと（高校・大学等）	11 退職したこと
6 就職活動がうまくいかなかったこと	12 介護・看護を担うことになったこと
7 職場になじめなかったこと	13 きっかけは特にない
8 人間関係がうまくいかなかったこと	14 分からない
	15 その他 []
	具体的に：

Q46 その方はこれまでに、以下の病気やけがで通院や入院をしたことはありますか。通院・入院したことのある病気に○をつけてください。（○はいくつでも）

1 心臓や血管の病気	6 皮膚の病気
2 肺の病気	7 骨折・大ケガ
3 胃や腸の病気	8 その他の病気
4 精神的な病気	9 あてはまるものはない
5 目や耳の病気	10 分からない

Q47 その方は現在、学校に通っていますか。（○はひとつだけ）

1 現在、在学している	3 中退した
2 すでに卒業している	4 休学中である

Q48 その方が最後に卒業（中退を含む）した、または現在、在学している学校はどれですか。（○はひとつだけ）

1 中学校	4 高等専門学校・短期大学
2 高等学校	5 大学・大学院
3 専門学校	6 その他

Q49 その方はこれまでに、以下のようなことを経験したことがありますか。あてはまるものすべて○をつけてください。（○はいくつでも）

1 小学生時の不登校	6 初めての就職から1年以内に離職・転職した
2 中学生時の不登校	7 35歳以上の無職
3 高校生時の不登校	8 あてはまるものはない
4 大学生（専門学校生、短期大学生を含む）時等の不登校	9 分からない
5 ニート（15歳から34歳までの間に就学、就労、職業訓練のいずれも行っていない状態があった）	

Q50 その方がふだんご自宅にいるときに、よくしていることすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

1 テレビを見る	8 仕事をする
2 ラジオを聴く	9 家事をする
3 本・マンガを読む	10 育児をする
4 新聞を読む	11 介護・看護をする
5 インターネットやSNSをする	12 あてはまるものはない
6 ゲームをする	13 分からない
7 勉強をする	

Q51 あなたは、その方の現在の状態について、関係機関（家族以外に相談できる専門家や支援機関など）に相談したいと思えますか。(○はひとつだけ)

- 1 非常に思う 2 思う 3 少し思う 4 思わない

Q52 現在の状態について、関係機関に相談するとすれば、どのような機関に相談したいと思えますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|-----------------------------------|
| 1 親身に聞いてくれる | 7 無料で相談できる |
| 2 医学的な助言をくれる | 8 公的機関の人や医療の専門家ではない民間団体（NPOなど）である |
| 3 心理学の専門家がいます | 9 自宅に公的機関の人、専門家が来てくれる |
| 4 精神科医がいます | 10 自宅から近い |
| 5 同じ悩みを持つ人と出会える | 11 あてはまるものはない |
| 6 匿名で（自分の名前を知られずに）相談できる | 12 どのような機関にも相談したくない |

Q53 あなたは、その方の現在の状態について、関係機関に相談したことはありますか。

- (○はひとつだけ)
- 1 ある 2 ない

【質問は以上で終了です。

ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。】

【Q53で「1」に○をつけた方のみ、Q54～Q55にお答えください。】

Q54 どのような相談機関等に相談しましたか。相談したところのある機関に○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------|------------------------------|
| 1 立川市くらし・しごとサポートセンター | 10 病院・診療所 |
| 2 東京都ひきこもりサポートネット | 11 立川市役所 |
| 3 地域包括支援センター | 12 福祉事務所 |
| 4 社会福祉協議会 | 13 立川市内の当事者の会・家族会 |
| 5 民生委員・児童委員 | 14 立川市以外の当事者の会・家族会 |
| 6 地域若者サポートステーション | 15 1～14以外の民間の相談機関・支援機関（NPO等） |
| 7 職業安定所（ハローワーク） | 16 その他の施設・機関 |
| 8 精神保健福祉センター | 【具体的に： |
| 9 保健所 | |

Q55 相談機関に相談した結果について、どのようにお考えですか。ご自由にお書きください。

【質問は以上で終了です。ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。】

市民の生活状況に関する調査（ひきこもりに関する実態調査）
報告書

□発行日 / 令和4年3月

□発行 / 立川市

〒190-8666 東京都立川市泉町1156-9

電話 042-523-2111（代表）内線1306

□集計・分析 / 株式会社CCNグループ

〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町3-7-4 7F